

平成 **23** 年度

こどもの城

事業年報

公益財団法人 児童育成協会

平成 **23** 年度

**こどもの城**

**事業年報**

# 平成 23 年度 こどもの城 事業年報

## 1 事業の概要

- 7 平成 23 年度の活動 … … …… はしめに／一般事業活動／その他の活動／  
国庫補助による事業活動／  
開館時間・入館料(こども活動エリア)／  
施設・組織機構など
- 18 平成 23 年度活動一覧表 … … …… 来館児・者数／グループ活動実施状況／  
講座・クラブなど／視察・見学実績
- 23 1 年の歩み

## 事業企画部

- 27 平成 23 年度の活動 …… はしめに／企画／研修／広報／総合案内／まとめ
- 34 平成 23 年度活動一覧表 …… 一般利用／ボランティアの活動／広報活動／  
講座・クラブなど

## 体育事業部

- 43 平成 23 年度の活動 …… はしめに／スポーツ遊びプログラム／まとめ
- 46 平成 23 年度活動一覧表 …… 一般利用／講座・クラブなど

## プレイ事業部

- 51 平成 23 年度の活動 …… はしめに／プログラム活動／  
家族を楽しむプログラム／まとめ
- 55 平成 23 年度活動一覧表 …… 一般利用／講座・クラブなど

## 造形事業部

- 61 平成 23 年度の活動 …… はしめに／造形発見展～道と造形～／まとめ
- 64 平成 23 年度活動一覧表 …… 一般利用／講座・クラブなど／プログラム一覧

## 音楽事業部

- 69 平成 23 年度の活動 …… はしめに／音楽ロビーの活動から／まとめ
- 72 平成 23 年度活動一覧表 …… 一般利用／講座・クラブなど／その他

## 2 各部の事業

## 平成 23 年度 こどもの城 事業年報

### 2 各部の事業

#### AV 事業部

- 79 平成 23 年度の活動 . . . . . はしめに／科学遊びプログラムの充実／  
居場所としての機能の充実／その他／まとめ
- 84 平成 23 年度活動一覧表 . . . . . 一般利用／講座・クラブなど／その他

#### 保育研究開発部

- 87 平成 23 年度の活動 . . . . . はしめに／保育事業の活動から／まとめ
- 93 平成 23 年度活動一覧表 . . . . . 一般利用／講座・クラブなど／その他

#### 小児保健部

- 95 平成 23 年度の活動 . . . . . はしめに／診療・相談活動／  
子育て支援者向け講習会／まとめ
- 99 平成 23 年度活動一覧表 . . . . . 一般利用／講座・クラブなど

#### 劇場事業本部

- 103 平成 23 年度の活動 . . . . . はしめに／主な自主・提携公演／まとめ
- 111 平成 23 年度公演演目一覧表 . . . . . 青山劇場／青山円形劇場／その他

#### 経営情報企画部

- 115 平成 23 年度の活動 . . . . . はしめに／経営全般の効率化を推進／まとめ

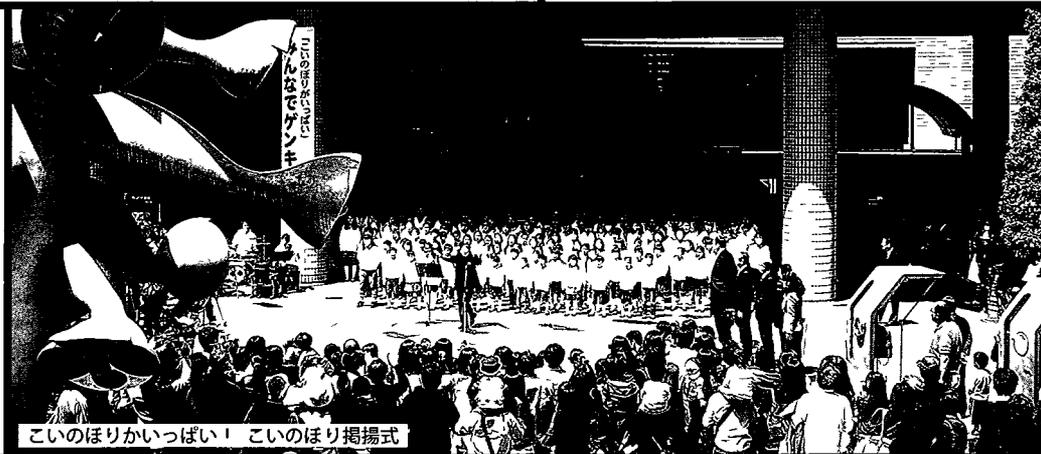
### 3 こどもの城から全国へ

#### こどもの城から全国へ

- 119 平成 23 年度の活動 . . . . . はしめに／〈遊びのプログラム〉を伝える／  
国庫補助金による事業／まとめ
- 123 平成 23 年度活動一覧表 . . . . . 講座・クラブなど／  
〈動くこどもの城〉(派遣プログラム) ほか
- 127 東日本大震災支援活動ほか

# 1 事業の概要


# 事業の概要



このほりがいっぱい！このほり掲揚式

## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

財団法人児童育成協会は、「こどもの城」の運営などをとおして、児童の健全育成、資質の向上に資するための各種事業を推進している。本年度は、今までの各専門事業部の独立性の高い事業運営傾向を見直し、組織を改編した。事業全体の調整機能をより強化するために、企画研修部、総合案内課、広報部を統合して事業企画部とした。この組織改編により、それぞれの専門性の高い事業が総合的な連携をとる体制を整え、「こどもの城」の独自性の高い事業活動の展開をめざした。

年度当初に、「こどもの城」の全事業部門の事業を網羅したプログラム展開計画を作成、それに沿って事業を実施した。特に、年間をとおした重点目標を設定することで、各事業のねらいを明確化し、実施後の効果の検証と課題の発見に取り組むようにした。その結果、本年度は総合的、連続的な事業展開が可能になった。

同時に、「こどもの城」の来館児・者に向けた事業の充実だけでなく、子どもにとっての遊びの重要性、児童館や「こどもの城」の存在意義などを、保護者や社会に向けて発信する取り組みも強化した。また、経営情報企画部を新設し、経営企画と営業機能の強化をはかった。全館のマネジメントを推進するため、その基本となる来館児・者動向の把握と変化に対する迅速な対応を行った。さらに、企業や団体との協賛・協力事業の推進、ホテル・飲食などの利用者サービス部門についても経営の充実に努めた。

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災で被災した子どもやその保護者に向けて、遊びをとおした支援活動も積極的に展開した。一方、当協会をはじめ、児童健全育成関係団体の補助金削減など、児童健全育成事業を取り巻く環境がますます厳しくなることが明らかになってきたことから、今後の児童育成協会の新しい方向性を模索する事業改革会議に職員全体で取り組んだ。

### □□□ 一般事業活動 □□□

#### ■■■■ 来館児・者数 ■■■■

本年度の「こども活動エリア」の来館児・者は 326,221 人、劇場入場者 336,034 人、保育、小児保健、講座・クラブ関係の利用者および研修・会議室や宿泊施設関係の利用者を加えた総推計は、

851,274 人て、前年度比 54,148 人増となった。

「こども活動エリア」の来館児・者は、48,874 人増になっている。これはプログラム展開計画にしたがい、月ごとの目標来館児・者数を設定し、それを達成するために新規プログラムの開発、効果的、効果率的、戦略的な事業運

営に職員が一丸となって取り組んだ成果だと考えている。劇場の入場者数は 9,545 人の減少になったか、これは平成 24 年 2 月から 3 月にかけて、改修工事のため例年より多い日数を休業した影響と考えられる。

**【来館児・者数（対前年度比較）】**

(人)

来館児・者区分	平成 23 年度実績①	平成 22 年度実績②	差し引き増減①-②
有料来館者（大人）	125,052	100,816	24,236
有料来館児（子ども）	95,549	77,159	18,390
有料来館児・者（団体）	12,547	19,409	▲ 6,862
小計（有料来館児・者）	233,148	197,384	35,764
3 歳 未 満 児 推 計 招 待 者 ・ 児	62,610	50,480	12,130
「こども活動エリア」来館児・者	326,221	277,347	48,874
劇 場 入 場 者	336,034	345,579	▲ 9,545
講 座 ・ ク ラ ブ 受 講 生	80,177	72,024	8,153
そ の 他	108,842	102,176	6,666
合 計	851,274	797,126	54,148

**■■■ 一般来館児・者のための活動 ■■■**

本年度の一般来館児・者数は、30 万人を超える数を記録した。東日本大震災の影響で放射能や地震に対する不安があるなか、多くの親子に安心して遊べる場所を年間をとおして提供できたことは、意義あることと考える。また、多くの保護者にさまざまなプログラム活動をとおして、子どもの発達に欠かせない遊びの大切さを伝える機会にもなった。こうした活動が〔こどもの城〕のみならず、全国の児童館の存在意義や児童健全育成活動の重要性を正しく伝えることにもつながることと考えている。

**【特別期間の戦略の設定と実施後の反省】**

コールデンウイーク（児童福祉週間）、夏休み、冬休み、春休みなどの、学校の長期休み期間を特別期間と位置づけ、事前に来館児・者増のための具体的な取り組みと、健全育成事業としてより効果的な事業が展開できるよう、特別期間ごとに重点目標を設定して事業を展開した。

特別期間終了後は、目標来館児・者数の達成度とその要因の分析、重点目標に対する各部の取り組みの総括を行い、課題や新たな目標の設定に努めた。特別期間に実施した各部の新しいプログラムは、共通の記録シートを作成し、各プログラムごとにその内容と、実施の成果、課題などを記入することにより、個別に検証を可能にした。

**【重点目標の設定とそれに沿った各部協力事業の実施】**

年間をとおした事業の企画 調整・推進機能の強化をはかるために、5 つの「こども活動エリア」の重点目標を設定した。社会的なニーズ、児童健全育成事業の使命や課題を考慮した〈乳幼児と親の支援〉〈父親の子育て参画〉〈子どもの参画〉〈社会資源の活用〉〈科学、野外、伝承に着目したプログラム〉の 5 つである。

重点目標のうち〈乳幼児と親の支援〉〈父親の子育て参画〉〈子どもの参画〉の 3 つは、その強化充実と効率のよい運営形態をめさし、各部協力して実施する新規事業を展開した。特に〈父親の子育て参画〉事業は、地域で活動する NPO などの団体に呼びかけ、「おとうさんのあそび市」を共同で実施した。この事業は単に〔こどもの城〕の来館児・者へのアピールにととまらず、NPO 団体などを通して、〈父親の子育て参画〉の意義を社会へ広く発信する機会となった。

「おとうさんのあそび市」協力団体 おやしの部屋、みたか組、練馬イクメンプロジェクト、柏市児童センター 柏パパ's、NPO ファザーリングジャパン、NPO 法人新座子育てネットワークおとうさん盛り上げ隊、子育て主夫ネットワークレノンパパ。

**【外部団体・企業との協賛・連携事業の積極的導入】**

児童健全育成事業の社会啓発活動の一環として、また外部団体・企業との良好な関係を築き、開かれた施設運営をめさすために、外部団体・企業との協賛・連携事業を積極的に導入した。

本年度は 32 の主催事業で外部団体・企業との連携事業を実施した。〔こどもの城〕と外部団体・企業の双方にメリットがあることか望ましく、社会に貢献するという接点を事業実施までのプロセスのなかで明確にしていく、コーディネート機能のさらなる強化が今後必要である。

連携事業（抜粋）「こいのほりかいっぱい！」（日本鯉のほり協会）、「赤ちゃん大集合」（ケイジェイシー、和光堂、ヘビーリース、大島椿、赤ちゃんとママ社、ピジョン、ビーンスターク、持田ヘルスケア、プラントイ、江崎クリコ、アイクレオ）、「ガドガドスーパーライフ」（インフィニトラヘルインフォメーション）、「ふねはすこい」（日本郵船）、「TOYOTA 科学のヒックリ箱」（トヨタ自動車）、「ニッサンゆかいな絵本と童話展」（日産自動車）、「フリチストーンエコ絵画コンクール」（フリチストーン）

### 【社会への発信】

本年度は、〔こどもの城〕の来館児・者に向けた事業展開の充実のみならず、子どもにとっての遊びの重要性、児童館や〔こどもの城〕の存在意義を、保護者や社会に向けて発信していく取り組みを強化した。

社会へ向けての発信は、児童健全育成事業の基盤となる「子どもを取り巻く環境の整備・改善」にあたる取り組みであり、国立総合児童センターとして今後ますます重要であると考えている。

### 【ピロティの継続的活用】

青山通りに面した〔こどもの城〕の前庭「ピロティ」で継続的に事業を実施し、〔こどもの城〕の存在を社会へ訴えた。

こどもの城合唱団によるクリスマスコンサート、和太鼓クラブによる新春演奏会、こどもの城ボランティアによる「昔遊び大会」「ダンホールの口ホットづくり」などの遊びプログラムの展開、企業・外部団体との協力事業「カリハー旅行記～小人国探検ツアー～」(20 世紀 FOX 映画)、「こどもの城にレーシングカーがやってくる！」(富士スピードウェイ)、「みんなおいてよ木曾の森へ」(長野県木曾地方事務所ほか)などを行った。

### 【館外でのプログラム展開】

国立総合児童センターとして、国庫補助事業による事業実施にとどまらず、〔こどもの城〕館外でプログラムを展開し、〈センター機能〉の発信に努めた。館外で以下の活動に参加した。

「子供みらい東京メッセ 2011」(子育て応援とうきょう会議主催／11 月 25 日、東京国際フォーラム／〔こどもの城〕紹介ブース設置、造形部門のワークショップ実施)、「共育まつり」(赤坂・青山共育情報局主催／11 月 3 日、桧町公園／プレイ部門のワークショップ実施)、「第 20 回全国ボランティアフェスティバル」(全国社会福祉協議会ほか主催／11 月 13 日、青山学院大学／こどもの城児童合唱団のコンサート)、「世界タウン症の日 国連認定記念イベント」(財団法人日本タウン症協会主催／3 月 20 日、聖路加看護大学／こどもの城児童合唱団のコンサート)、「辰巳大会」(東京辰巳国際水泳場ほか主催／9 月 25 日、東京辰巳国際水泳場／水泳講座受講生か競技会へ参加)、「Co Co Festa」(Co Co 新体操協会主催／12 月 10・11 日、板橋区小豆沢体育館アリーナ／新体操講座受講生か競技会へ参加)。

### 【インターネットを活用した発信機能の強化】

事業内容を告知するために、web による発信を強化した。〔こどもの城〕ホームページ上に「プログラムレポート」を開設し、各事業の目的、内容、実施状況とスタッフの所感を掲載した。フェイスブックも活用し、より即時性があり親しみやすい情報発信に努めた。利用者からも多くの反響があり、今後ますます重要な取り組みであると考えている。

### 【利用者ニーズの調査】

各事業を実施するにあたり、利用者や社会のニーズを的確に把握し、かつ先駆的、実験的、戦略的な展開を可能にするために、利用者アンケートを実施し、ベースとなるデータを収集した。

8 月に、〔こどもの城〕来館児・者の年齢層、居住地域、情報源などを把握する調査を 2 回実施した。また、春休み特別期間に実施する野外活動事業のために、保護者の地震、放射能に対する意識、野外活動に対するニーズを把握するアンケート調査を行った。来館児・者調査では 3 歳未満の子どもが来館者総数の約 1 割をしめていること、また野外活動調査では地震や放射能の不安はあるものの、子どもにとって野外活動は必要な体験だと考えている親が多いことなどかわかった。社会環境の変化が激しい現代では、こうした調査を継続的に行い、比較データを基にした事業計画が必要になってくる。

## ■■■ 東日本大震災被災地の子どもたちへの遊びを通じた支援事業 ■■■

東日本大震災の発生に伴い、本年度は被災地の子どもたちやその保護者を対象にした支援事業に

精力的に取り組んだ。

平成 23 年 3 月 11 日の地震発生時は、帰宅困難になった来館児・者 48 組、92 人の親子に対して炊き出しを行い、毛布などを提供して館内で一晩を過ごしてもらった。また年度末には「東日本大震災 中央子どもセンター 関係職能・学術団体等による協議会」に加盟。平成 24 年度に向けて継続的、長期的な視点で被災地の子どもたちへの遊びをとおした支援事業に取り組む準備を始めた。

**【鯉のぼり掲揚式、被災者招待】**

東日本大震災の発生から約 1 か月後の 4 月 17 日に、厚生労働省、こども未来財団の共催で、100 匹の鯉のぼりを掲揚する式典「こいのぼりかっぱい～みんなケンキに～」を実施。当日は福島県から関東近郊へ避難している子どもとその家族を〔こどもの城〕へ招待した。4 月 17 日～5 月 29 日は、被災者が〔こどもの城〕を利用する場合に、入館料とプール利用を無料にした。

**【平成 23 年度こどもの城東日本大震災復興支援事業】**

内 容	実 施 日	概 要
こいのぼりかっぱい～みんなケンキに～	4 17～5 31	鯉のぼりに、被災者支援のメッセージを託して、100 匹の鯉のぼりを掲揚する式典を実施。5 月 31 日まで掲揚した。共催 厚生労働省 こども未来財団。
被災者招待	4 17～5 29	〔こどもの城〕の入館料、プール利用を無料とする。期間中、大人 47 人、こども 27 人か利用する。
スタッフの被災地派遣①	4 2 3	福島県 国立那須甲子青少年自然の家に避難している、被災者約 360 人のうち約 50 人の子どもたちに、遊びをとおした支援活動を実施。職員 1 人、こどもの城ボランティア 3 人を派遣。
スタッフの被災地派遣②	7 4～11、9 10、17、10 20、10 24、11 20、21	岩手県 洋野町種市放課後児童クラブ、(公財) 仙台ひと まち交流財団、会津美里町幼児教育ヒション、相馬市中央児童センター、二本松市健康増進課の依頼を受け、〈動くこどもの城〉を実施した。
義援金の募集	3 19～8 31	館内に募金箱を設置し、義援金を集め、日本赤十字社をとおして寄付。
支援物資の提供	3 31、4 10、4 17、6 24	〔こどもの城〕の合唱講座の子どもたちや職員、ボランティアに呼びかけ、文具、遊具、衣類などを、宮城県、岩手県の小学校や児童館に送付。
チャリティーコンサートの開催	4 10	こどもの城児童合唱団が震災支援のチャリティーコンサート「子どもたちのサウントメッセージ」を青山劇場で開催。

**【スタッフの被災地派遣】**

福島県・国立那須甲子青少年自然の家からの依頼を受け、4 月 2・3 日にスタッフとこどもの城ボランティアを派遣し、施設に避難している福島県の被災者のみなさんに遊びをとおした支援活動を行った。また、国庫補助事業〈動くこどもの城〉では、岩手県、宮城県、福島県の児童館など、子どもとその保護者および児童館スタッフやボランティアを対象にした支援事業を実施した。

**【義援金、物資の提供】**

〔こどもの城〕館内に義援金箱を設置し（3 月 19 日～8 月 31 日）、来館児・者に寄付を呼びかけた。集まった義援金は、日本赤十字社をとおして被災地へ届けられた。また、こどもの城合唱団によるチャリティーコンサートを開催。文具、遊具、衣類などの物資を集め被災地に送付した。

**■■■ 講座・クラブ活動の活性化 ■■■**

児童の知的・社会的能力を高めるとともに、継続的、体系的に〔こどもの城〕を利用してもらうため、講座・クラブ活動を実施した。本年度は、充足率の低調な講座を廃止し、年間をとおして効果的、効率的な運営をめざした。特に、夏休み特別期間を中心にした短期集中講習会の充足率を向上させるため、内容、時期の見直しを行った。その結果、前年度の充足率 74.4%に対し、本年度は 84.6%と成果をあげることができた。

全体としては充足率が低下傾向にあるため、今後も、講座・クラブ活動のさらなる見直しを行い、効果的、効率的な運営をめざしたい。

- 講座および短期講習会 31 種、63 コース、受講者数 1,316 人 ×短期講習会受講者数は期ごとの平均（前年度 38 種、72 コース、受講者数 1,485 人）
- クラブ 6 種、6 コース、受講者数 681 人（前年度 6 種、6 コース、受講者数 746 人）
- 講習会 7 種、19 コース、受講者数 483 人（前年度 7 種、19 コース、受講者数 480 人）
- 短期集中講習会 14 種、95 コース、受講者数 1,308 人（前年度 14 種、103 コース、受講者数 1,283 人）

○専門指導者向け講習会 14 種、19 コース、受講者数 693 人  
 （前年度 13 種、18 コース、受講者数 721 人）

### ■■■ グループ活動と職場体験事業 ■■■

#### 【グループ活動】

平日の〔こどもの城〕開館前の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、特別プログラムを提供する「グループ活動」は、一般来館児対象のプログラムに比べ、集団であることを生かしたプログラム内容を実施できることや、ハンディキャップを持つ児童など、より個別に配慮した展開が必要な場合に対応できるため、特別支援学校（学級）、インターナショナルスクール、自主保育グループなどの施設、団体からの申し込みがある。

本年度は前年度より利用件数が低下しているが、東日本大震災の影響で学校・団体などが校外活動を中止にしたことか要因になっている。しかし PR 不足、新しいプログラムの開発がここ数年行われていないこと、費用対効果の側面からも課題が多いため、今後抜本的な見直しが必要だと考える。本年度 129 グループ、2,789 人（前年度 152 グループ、3,055 人）を受け入れた。

#### 【職場体験事業】

高学年児童の社会参加への有効な方法と評価されている職場体験事業は、件数こそ前年度より低下したものの、東京都の中学校を中心に本年度も 25 人の生徒を受け入れた。平成 24 年 1 月 21 日には、その取り組みに対して東京都教育委員会から感謝状が授与された。

### ■■■ 保育研究開発部・小児保健部 ■■■

#### 【保育研究開発部】

家庭で身につけることと集団保育で身につけることを、利用時間や回数、就労の有無などが異なる家庭（400 家族）に対して、きめ細やかにかかわり、子ども自身の育ちと家庭の子育て力が向上するように保育事業「幼児グループ」「保育クラブ」を実施。前年度同様、クラスや定員を増して対応した。講習会「おやこクラブ」では、母親のみならず父親が参加しやすいようにプログラム内容の工夫をした結果、父親の参加も増えてきた。

指導者向けの講習会は、本年度から保育研究開発部で実施したプログラムと造形事業部で実施したプログラムの実技を中心にした内容に変更した。前年度までの家庭支援の理論と実践を中心にした内容から、保育内容を中心とした内容に企画を変更したことは好評だった。またさまざまな子育て支援の情報を掲載した「子育て支援のニュースレター」は前年度同様、3 つの部（小児保健部、事業企画部、保育研究開発部）で協力して編集・発行した。

#### 【小児保健部】

小児保健クリニックでは、子どもの心身の成長・発達の心配ごとへのていねいな対応を心がけている。小児科診療・心理相談は総件数は 2,429 件と若干増加した（前年度 2,409 件）。土曜日にも診療・相談かてき、両親が仕事を持っている場合も受診しやすい。特に、子育て相談の場にもなっている乳幼児健康診査や遊戯療法を中心に行っている心理相談の件数が増えている。

子育て支援関係者のための講習会は、特に保育所や児童館の現場で対応に困ることの多いテーマを取り上げるようにし、「最新の医療から～食物アレルギーへの対応」「子どもの虐待への対応」「遊びから理解するところの発達」の 3 種を新たに設けて、計 7 種実施した。計 348 人が参加し、今後も継続してこのテーマを取り上げていく必要性が感しられた。

### ■■■ 劇場事業の改革 ■■■

児童健全育成施設の劇場としての意義を認識し、新たに策定した「自主・提携公演の実施方針」にのっとり、子ども文化のすぐれた発信場所としての地位を保つよう努力するとともに、〔こどもの城〕

#### 【青山劇場・青山円形劇場の稼働状況】

	使用可能日数(日)	使用日数(日)	稼働率(%)	前年度稼働率(%)
青山劇場	331	293	88.5	88.2
青山円形劇場	311	300	96.5	87.8
計	642	593	92.4	88.0

全体の維持のための経済的側面にも意識した事業運営を行った。自主・共催公演は、青山劇場で 1 公演、青山円形劇場で 11 公演、提携公演は青山劇場で 1 公演、青山円形劇場で 6 公演を実施した。このうち『DANCE -X11』と『シーク・シーク・シーキングストーリー I』は、芸術文化振興基金

の現代舞台芸術創造普及活動に、『青山太鼓見聞録』『TOKYO DANCE TODAY#7』『クラウド』は、文化庁の芸術創造活動特別推進事業に選ばれた。

劇場貸与については青山劇場が 18 件、青山円形劇場が 20 件で、国費による工事期間などを除いた稼動状況は前ページの表のとおり。

劇場公演のほかに、若手舞台芸術化の育成を図るためのセミナー「APAS」(Aoyama Performing Arts Seminar) を 15 件実施した。

×公演演目一覧表（111 ページ）参照

### 利用者サービス事業の向上

平成 21 年度は新型インフルエンザ、平成 22 年度は東日本大震災の影響を受けて、来館児・者が低迷した。本年度の始めも東日本大震災の影響が強く残っていたか、前年度および前々年度と比較して、それぞれ 4 万～5 万人増の来館児・者があり、回復基調を示した 1 年だった。

新たな収入源の確保をめざし、企業との提携事業誘致に取り組んだ。本年度から企業色の露出度を大幅に容認して誘致したか、結果は 12 事業の実施にとどまった。今後は、提携基準緩和についての周知活動を地道に行う必要がある。

来館児・者の利便性をはかるためにレストランの再開に努め、次年度の夏休み特別期間に開業する道筋を立てた。レストラン開業のほか、ホテル朝食・パーティー受け入れ・青山劇場での軽食提供などもあわせて再開する。

ホテルにインターネット予約一括管理システムを導入し、販売の効率化に努めた結果、インターネット経由の予約が前年度比 25% 増となった。また、研修室では電波を利用したワイヤレスマイクの近隣との混信が問題となっていたか、赤外線方式のワイヤレスマイクを導入したことにより混信が解消し、サービス向上へとつなげることかてきた。

さらに収入増を計るため、8 階職員食堂をパーティー会場としても活用できるよう、内装を一新するとともに、10 階パソコンルームを改装して貸し会議室とした。

## その他の活動

### 広報

〔こどもの城〕の事業・活動内容をより理解、認識してもらうことを目的として、各種の広報活動を積極的に行った。本年度は 36 事業について、約 300 か所のマスコミに情報発信を行った。その結果、新聞、テレビなど年間 139 件の取材があった。

4 月に実施した「こいのほりかいっぱい 掲揚式」では、主要報道機関からの取材があり、〔こどもの城〕の存在を広く社会に知らしめることかてきた。また、インターネット上の情報提供サイトへの情報発信、フェイスブックによる事業実施報告などインターネットを活用した広報活動を強化。社会をめぐる環境を把握し、全職員に伝達する公聴機能強化などの新しい取り組みも行った。

### 人材育成への取り組み

全国の児童館、保育所、保健センターなどで働く専門職員を対象に、年間 19 コースの講座を開設し、児童健全育成事業発展のための人材育成に努めた（延べ受講者数 693 人）。

また大学、専門学校などの要請に応じて、〔こどもの城〕の各事業部をフィールドとし、その活動内容を研修する実習生、研修生を受け入れた。本年度は実習生 32 人、研修生 10 人（前年度実習生 21 人、研修生 22 人）を受け

#### 【講師派遣実績】

入れた。実習生のなかには、インターンシップ生として受け入れるケースがここ数年増加しており、〔こどもの城〕か中高生の職場体験も含めて、貴重な受け入れ施設として期待されている。

講師の派遣分野	件数
ゲーム・運動遊び（ゲーム・運動・科学・伝承など）	52
表現活動（音楽・造形など）	24
児童健全育成（児童館活動支援・援助技術など）	38
子育て支援（親子援助・子ども理解・保健など）	89
その他	1
計	204

### 講師派遣

〔こどもの城〕で行う指導者向け講習会やセミナー、〈動くこどもの城〉の派遣事業以外にも、児

童館や子育て支援センター、放課後児童クラブなど、全国の児童健全育成や子育て支援にかかわる施設・団体などからの要請により、講師派遣という形で協会職員が各地に出向き、〔こどもの城〕のプログラム運営の実際と理念の普及に努めた。本年度の派遣実績は、204 件（前年度 139 件）だった。

### ■■■■ 国際交流事業 ■■■■

ロシア連邦サハ共和国の楽器（口琴）をテーマした造形プログラムの実施、夏休み短期集中講習会のなかでアフリカやスロバキアの民族楽器を紹介して制作・演奏をするなど、気軽に自然な国際交流をめざした。インドの中学生によるマシックスショーの実施や京浜地区のインターナショナルスクールの合同造形展「アートスケープ 2012」にキャリアーを提供した。

### ■■■■ こどもの城友の会 ■■■■

〔こどもの城〕が利用者のニーズを的確に把握し、より利用者サイドにたった施設運営を可能にするために、モニターの役割を担う家族会員で構成されている。会員と〔こどもの城〕をつなぐために、年間 12 回の「友の会ニュース」の発行をはじめ、会員サービスとして、劇場公演の割引、こども活動エリアの各種プログラム優待などを行った。

本年度末の会員数は 540 家族（前年度末 600 家族）に減少しており、その要因の分析とともに、会員へのメリット、〔こどもの城〕としてのメリットを双方向から考察した上で、抜本的な見直しか迫られている。

### ■■■■ 全国の児童館との交流 ■■■■

国立総合児童センターとして、〈センター機能〉の強化が重要な目標として掲げられた。その一環として第 11 回全国児童館・児童クラブ北海道大会（10 月 12・13 日／北海道・札幌市）に職員を派遣し、全国の児童館の実態把握に努めた。

年度末には東日本大震災で被災した子どもたちに元気を届けることを目的に「忘れない！みんなでケンキに 児童館こいのぼりかいっぱいプロジェクト」を発足させ、全国の児童館などで一定期間こいのぼりを掲揚してもらうように呼びかけた。今後、児童健全育成事業が社会のなかでより認知され、発展していくためにも、全国を視野にいれた事業展開はますます重要になってくる。

## ■■■■ 国庫補助による事業活動 ■■■■

### ■■■■ 児童館巡回支援活動等事業〈動くこどもの城〉 ■■■■

児童館を中心とした地域のネットワークを生かし、放課後児童クラブ、子育て支援センター、保育所などさまざまな施設から参加できるように働きかけ、地域全体の活性化をはかってきた。本年度は、国の両立支援施策に沿って、放課後児童クラブへの働きかけに力をいれた。派遣 47 か所中 42 か所（89%）に放課後児童クラブからの参加があり、放課後児童クラブの事業充実により一定の効果をおよぼすことができた。

東日本大震災での被災地域からの要請にも積極的に応え、福島県二本松市、相馬市へのプログラム派遣を行った。

DVD やテキスト作成するなど、教材の充実にも努めるだけでなく、これまでの〈動くこどもの城〉事業を検証する「フォローアップ事業」を実施し、派遣後のプログラムの定着や事業活性化の状況について調査した。調査結果は次年度からの「放課後児童クラブ事業に焦点をあてた研修プログラム」という取り組みにつなげた。

### ■■■■ 中央児童厚生施設事業 ■■■■

国が推進する両立支援施策に対応し、「放課後児童クラブボランティア養成講座」「保育所ボランティア養成講座」「野外活動ボランティア養成講座」を実施した。これまで〔こどもの城〕で行ってきた施設ボランティア養成の経験を生かし、児童館以外の子育て支援への市民参加にも貢献することができた。

また、〔こどもの城〕の遊びのプログラムと野外活動ボランティア養成にかかわるノウハウをそれぞれ冊子にまとめて全国に配布し、地域での健全育成活動の活性化に取り組んだ。

### ■■■■ 啓発活動 ■■■■

〔こどもの城〕の活動状況や児童健全育成事業にかかわる情報を月刊情報紙としてまとめ毎月発行した。全国の児童館、地方公共団体、関係団体や健全育成関係者などに配布して、〔こどもの城〕での活動状況を地域での事業推進の参考として紹介するとともに、地域のすぐれた活動例を広く全国に紹介し、児童健全育成事業の普及、啓発に努めた。

## □□□ 開館時間・入館料（こども活動エリア） □□□

### ■■■■ 平常期間 ■■■■

〔こどもの城〕の「こども活動エリア」の開館時間は以下のとおりである。

平日	12 時 30 分～17 時 30 分
土・日曜日・祝日	10 時 00 分～17 時 30 分
月曜日	休館（祝日・振替休日にあたる場合は開館。翌火曜日が休館）

### ■■■■ 特別期間 ■■■■

学校の季節休み（夏休み、冬休み、春休み）、児童福祉週間（コールドンウイーク）、11 月 1 日の開館記念日を中心とするファミリーフェア（開館記念月間）を特別期間とし、多数の来館児・者が楽しめるようなプログラム作りと施設利用の工夫をした。

なお、5 月 5 日「こどもの日」と、〔こどもの城〕開館を記念した 11 月 3 日「文化の日」は“こども”の入館料を無料とした。開館時間は、特記した日を除き、10 時～17 時 30 分。

■児童福祉週間（コールドンウイーク）特別期間■ 4 月 29 日～5 月 8 日（5 月 2 日は休館）

■夏休み特別期間■ 7 月 16 日～8 月 31 日（毎日開館）

■ファミリーフェア（開館記念月間）■ 10 月 29 日～11 月 30 日（月曜日休館）

■冬休み特別期間■ 12 月 23 日～平成 24 年 1 月 9 日（12 月 29 日～1 月 2 日は休館）

×1 月 3 日は 12 時 30 分開館

■春休み特別期間■ 3 月 24 日～4 月 5 日（毎日開館）

### ■■■■ 入館料 ■■■■

#### 【入館料】

こども（18 歳未満）400 円（保護者が同伴した 3 歳未満児は無料）

大人（18 歳以上）500 円

×回数券 こども（6 枚つり）2,000 円／大人（6 枚つり）2,500 円

×団体（20 人以上）こども 320 円／大人 400 円

#### 【優待パス】

平日ゆうゆうパス（1 年間有効）大人 3,000 円

わくわくパス（夏休み期間限定）大人 1,800 円

トキトキパス（夏休み期間限定）こども 1,500 円

小・中学生土曜日パス（1 年間有効）小・中学生 2,500 円

施設・組織機構など

〔こどもの城〕の施設概要

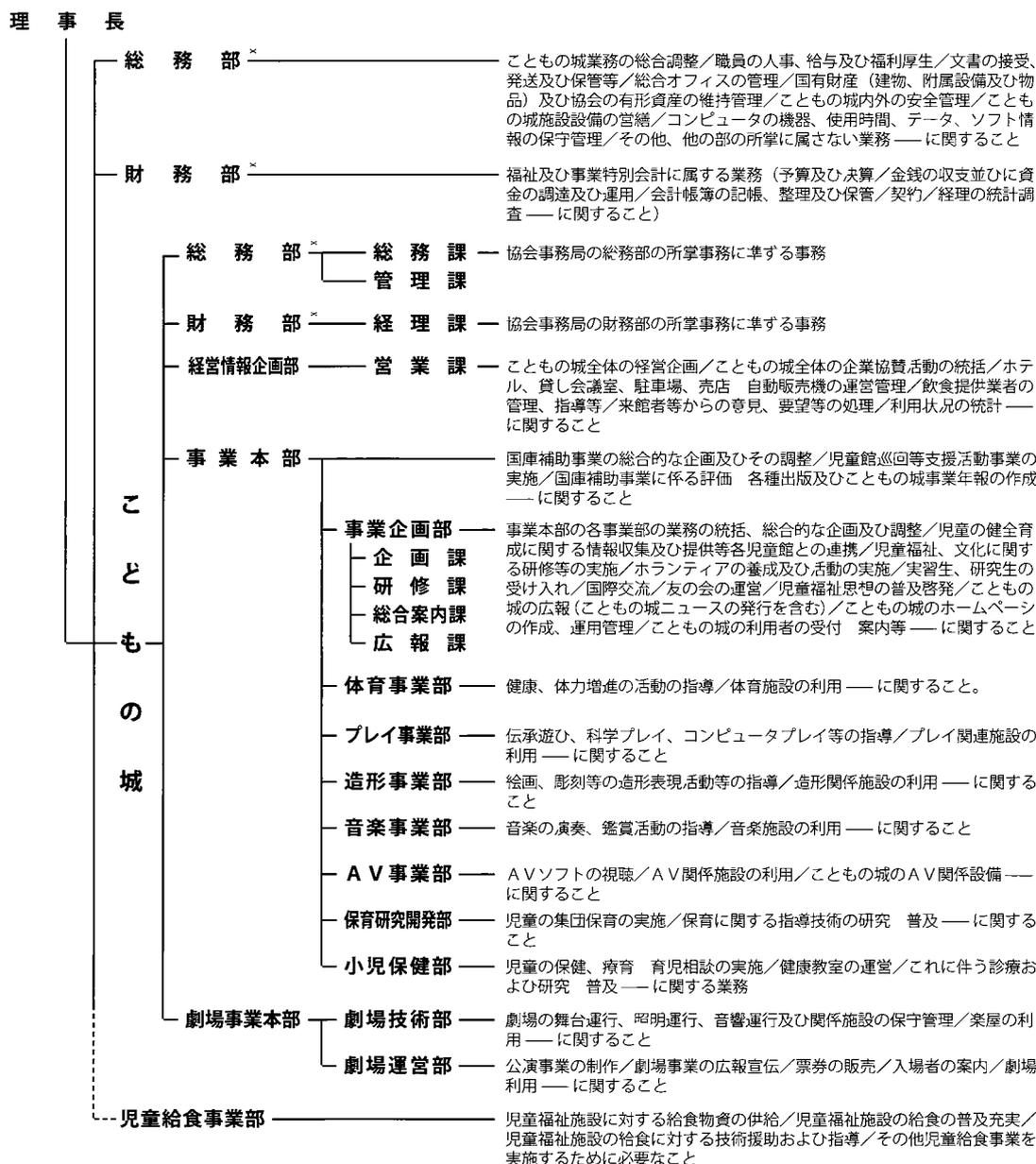
		オフィス	13 F 12 F 11 F 10 F		
		研修室	9 F 8 F		
		ホテル	7 F 6 F		
5 F	屋上遊園 プレイポート	小児保健クリニック 保育室	5 F	ふしぎか丘	
4 F	ヒデオライブラリー	音楽ロビー A・B スタシオ	4 F		
3 F	造形スタシオ 青山円形劇場	プレイホール パソコンルーム	3 F		
2 F	ギャラリー	屋外 通路	ファミリーラウンジ	2 F	青山劇場
1 F	アトリウム		エントランスホール レストラン	1 F	
B 1	プール観覧室	フリーホール	B 1		
B 2	体育室／プール／健康開発室		B 2		
		駐車場	B 3 B 4		

建築概要

所在地	東京都渋谷区神宮前 5-53-1	最高高さ	GL + 57.6メートル
建築主	厚生労働省 (当時 厚生省)	基礎下端	GL - 28.5メートル
敷地面積	9,923 平方メートル	主要構造	高層部 鉄骨造り
建築面積	6,001 平方メートル		低層部 鉄骨鉄筋コンクリート造り
延床面積	41,699 平方メートル		地下 鉄筋コンクリート造り
建ぺい率	60.48%	着工	昭和 56 年 11 月
容積率	345.38%	完成	昭和 60 年 9 月 (11 月 1 日開館)
階数	地下 4 階・地上 13 階・塔屋 1 階		

× [こどもの城] は 1979 年 (昭和 54 年) の国際児童年を記念して、厚生省 (当時) が計画 建設した児童の健全育成のための総合施設。運営は、厚生労働省の委託を受けて、(財)児童育成協会があたっている。

■■■■ [こどもの城] 組織機構図 ■■■■



部	職員数	一般	嘱託	計	部	職員数	一般	嘱託	計	部	職員数	一般	嘱託	計
総務	7	0	0	7	プレイ事業	7	0	0	7	劇場事業本部	0	0	0	0
財務	3	0	0	3	造形事業	4	0	0	4	劇場技術	6	0	0	6
経営情報企画	10	0	0	10	音楽事業	5	0	0	5	劇場運営	7	0	0	7
事業本部	3	0	0	3	AV事業	2	0	0	2					
事業企画	13	0	0	13	保育研究開発	5	0	0	5					
体育事業	7	0	0	7	小児保健	5	0	0	5	合計	84	0	0	84

■■■■ (財)児童育成協会役員 (平成 24 年 3 月 31 日現在) ■■■■

役職	氏名	役職	氏名
理事長	藤田 興彦 (財)こども未来財団理事長	理事	廣瀬 友久
理事	品川 正治 (一般財団法人)国際開発センター会長	理事	山口規容子 総合母子保健センター所長愛育病院名誉院長
理事	鈴木 一光 (財)児童健全育成推進財団理事長	監事	秋山 昭八 弁護士
理事	坪田 秀治 日本商工会議所理事・事務局長	監事	藤間 秋男 公認会計士

■■■〔こどもの城〕の付帯事業(平成24年3月31日現在)■■■

業種	店名等	場所	利用客席数	営業日・営業時間	備
宿泊施設	こどもの城 ホテル	6 7階	客室数 27 客室定員 68	無休 (12月28日～1月2日を除く)	洋室24室(シングル3、Aツイン10、Bツイン11) 和室3室(5人用1、6人用1、12人用1) ×1泊7,455円～
貸し室	研 修 室	8 9階	研修室 10 ×一部通して使用 できる。利用人員 400人くらいまで	無休 (12月28日～1月2日を除く) 営業時間=900～2100	研修および会議など ×1単位時間13,335円～
	ギャラリー	1階 アトリウム		無休 (12月28日～1月2日を除く) 営業時間=1000～1730	各種展示会など ×1日31,500円
物品販売	売 店	1階 アトリウム	1か所	営業時間=「ことも活動エリア」開館日の1200～1730	かん具、文具、スポーツ用品、講座指定水着、催事関係用品、印刷出版物、衣料、雑貨など
	自動販売機	館内各所	飲 食販売 40か所 カプセルトイ 2か所	無休	トリンク類 牛乳類、カノプ種類など
公衆電話		館内各所	1か所 2台	無休	
駐 車 場		屋内(地下2階～地下4階)、屋外(1階)	約126台 (業務車両分含む)	無休 (12月28日～1月2日を除く) 営業時間=800～2200	普通車両は地下駐車場、ハスなど大型車両は屋外(1階)に駐車 ×普通車両 30分 300円 マイクロ車 1時間 840円 大型車 1時間 1,260円
飲食関係	レストラン	1階	—	—	休業中
	劇場内「スナック」	青山劇場内 地下および 2階口ヒー	立食	公演に合わせて営業 営業時間=開演前 幕間	喫茶、軽食

# 平成23年度活動一覽表

## □□□ 来館児・者数 □□□

月	一般来館児・者			劇 場			その他	計
	有 料	総 数		青山劇場	青山円形劇場	小 計		
		(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)
4月	大人	7,776	25,344	12,220	6,833	19,053	8,051	52,448
	子ども	6,647						
	団体	248	推計					推計
	受講生など	10,673	(29,237)					(56,341)
5月	大人	12,788	31,903	31,095	6,360	37,455	8,620	77,978
	子ども	8,065						
	団体	761	推計					推計
	受講生など	10,289	(38,303)					(84,378)
6月	大人	8,332	24,760	23,391	6,963	30,354	9,534	64,648
	子ども	5,435						
	団体	927	推計					推計
	受講生など	10,066	(28,934)					(68,822)
7月	大人	14,714	35,1936	24,802	5,440	30,242	9,728	75,163
	子ども	11,809						
	団体	884	推計					推計
	受講生など	7,786	(42,556)					(82,526)
8月	大人	21,964	53,775	27,799	8,261	36,060	9,275	99,110
	子ども	21,338						
	団体	2,350	推計					推計
	受講生など	8,123	(64,766)					(110,101)
9月	大人	9,309	25,374	36,304	4,468	40,772	8,125	74,271
	子ども	6,290						
	団体	1,010	推計					推計
	受講生など	8,765	(30,035)					(78,932)
10月	大人	7,381	22,343	27,949	5,311	33,260	9,504	65,107
	子ども	5,006						
	団体	758	推計					推計
	受講生など	9,198	(26,039)					(68,803)
11月	大人	8,577	24,543	26,699	5,154	31,853	9,674	66,070
	子ども	4,739						
	団体	1,390	推計					推計
	受講生など	9,837	(28,840)					(70,367)
12月	大人	7,548	20,677	22,296	5,543	27,839	7,266	55,782
	子ども	5,668						
	団体	766	推計					推計
	受講生など	6,695	(24,457)					(59,562)
平成24年 1月	大人	9,201	24,529	22,411	7,375	29,786	6,603	60,918
	子ども	6,905						
	団体	703	推計					推計
	受講生など	7,720	(29,137)					(65,526)
2月	大人	6,331	20,858	0	0	0	10,684	31,542
	子ども	4,029						
	団体	1,370	推計					推計
	受講生など	9,128	(24,031)					(34,715)
3月	大人	11,131	34,489	17,216	2,144	19,360	11,778	65,627
	子ども	9,618						
	団体	1,380	推計					推計
	受講生など	12,360	(40,063)					(71,201)
計	大人	125,052	343,788	272,182	63,852	336,034	108,842	788,664
	子ども	95,549						
	団体	12,547	推計					推計
	受講生など	110,640	(406,398)					(851,274)

注) 「一般来館児 者」の「推計」は3歳未満の推定来館児数含む／「受講生など」は、招待と講座 クラブ受講生の合算／「その他」は、宿泊施設 研修室等利用者

□□□ グループ活動実施状況 □□□

		保 育 所	幼 稚 園	小 学 校	中 ・ 高 校	特 別 支 援 学 校	特 別 支 援 学 級	障 害 児 施 設	自 立 保 育 グ ル ー プ	計	
件	数	15	51	25	1	21	15	0	1	(件) 129	
月 別 内 訳	4月										
	5月		5	4		1				10	
	6月		10	4		4				18	
	7月										
	8月										
	9月	1		5		2	5			13	
	10月		3	3		4				10	
	11月	2	8	1		3			1	15	
	12月		2		1		2			5	
	平成 24 年 1月	3	4	3		1				11	
	2月	6	11	3		6	4			30	
	3月	3	8	2			4			17	
地域 内訳	東京都	区	13	48	25		17	10		1	114
		市	2				3	5			10
	他府県			3		1	1				5
参加 児童 数 別 内 訳	10人未満		1			5	4				10
	10～19	8	27	23		10	5				73
	20～29	5	5	1	1	5	3		1		21
	30～39	1	12				3				16
	40～49	1	3			1					5
	50～59										
	60～79		2								2
	80～99										
	100～149		1								1
150人以上			1							1	
参加 児童 数	延 へ 人 数	311	1,282	559	27	324	260		20		2,789
	1件当たり人数	20.7	25.1	22.4	27.0	15.4	17.3		20.0		21.6
引	率 者 数	53	188	59	2	216	120		3		641
付	添 者 数	32	48	5		48	17				150
活 動 部 門	体 育		12	9		2	4				27
	プ レ イ	13	15	5		6	9				48
	造 形		15	5		3	1				24
	音 楽	2	18			9	3		1		33
	A V	1	4	9	1	2	5				22
	プレイ自由利用										
	AV自由利用										
その他自由利用											

注)「活動部門」は、1つの団体が複数の部門を利用することかあるのて、重複して計上している。

□□□ 講座・クラブなど □□□

■■■ 講座 ■■■

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総定員
体 育	親子水泳	幼児・親	1 年 2 コース	60 (組)
	幼児水泳	幼児	〃 5 〃	270 (人)
	幼児体育	〃	〃 3 〃	120
	小学生水泳	小学生	〃 5 〃	300
	小中学生水泳	小・中学生	〃 2 〃	80
	小学生体育	小学生	〃 2 〃	60
	シニア・スイミング	小・中・高校生	〃 1 〃	30
	シニア・スイミングフレッシュ	〃	〃 1 〃	30
	ジュニア新体操	小学生の女子	〃 1 〃	35
	シニア新体操	小・中・高校生の女子	〃 1 〃	35
	手足の不自由な子の水泳	小・中学生	〃 1 〃	15
プ レ イ	キスクラブ	小学生	〃 1 〃	30
	ユースクラブ	小・中学生	〃 1 〃	40
造 形	こともクリエイティブクラブ～ゆかいな造形	〃	〃 1 〃	20
	〃 ～親子てアート	幼児・親	〃 1 〃	10 (組)
	〃 ～ハンズワーク	小・中・高校生	〃 1 〃	16 (人)
音 楽	みんなて楽しいリトミック	幼児・親	〃 3 〃	60 (組)
	おんかく大好きミュージック・パーク	タウン症の幼児・小学生と親	〃 2 〃	20
	合唱講座	小学生	〃 1 〃	30 (人)
	児童合唱団	合唱講座修了の小・中学生	〃 2 〃	120
	混声合唱	高校生以上	〃 1 〃	40
	和太鼓クループ	小・中・高校生	〃 1 〃	12
	レッツ・プレイ・サンハ	小・中・高校生	〃 2 〃	20
小児保健	健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉	太りすぎの小学生	〃 1 〃	20
計	31 種		42 コース	1,473

■■■ クラブ ■■■

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総定員
体 育	ダイナミック・ヘルス・クラブ	一般	通 年 1 コース	—
	レディース・コース	一般女性	〃 1 〃	150 (人)
小児保健	マタニティ・スイミング	妊婦	〃 1 〃	300
保 育	幼児クループ	幼児	1 年 1 〃	26
	保育クラブ	〃	〃 1 〃	450
企画研修	L I T (高校生ホランテニア)	高校生	〃 1 〃	30
計	6 種		6 コース	—

## ■■■ 講習会 (1 か月以上のもの) ■■■

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総定員
体 育	幼児・母親体育 I・II・III (1・2 歳)	幼児・母親	3 か月 3 コース	90 (組)
	幼児・母親体育 I・II・III (2・3 歳)	〃	〃 3 〃	90
	母と子のすくすくラント I・II・III	5 か月～・母親	〃 3 〃	90
	ばちばちファミリースイム I・II・III	幼児・親・祖父母	〃 6 〃	180
音 楽	おんかく星みつけた I・II・III	幼児・親	3 か月 3 〃	90
保 育	おやこクラブ～楽しく子育て～	幼児・親	〃 3 〃	54 (人)
計	6 種		21 コース	198

## ■■■ 短期講習会 (1 か月未満のもの) ■■■

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総定員
体 育	夏休みこども集中水泳講習会 (A・C)	小・中学生	5 日間 2 コース	100 (人)
	〃 (B・D)	幼児	〃 2 〃	80
	夏休み体操教室 カンハ	小学生	〃 1 〃	30
	春休みこども集中水泳講習会 A	小・中学生	〃 1 〃	50
	〃 B	幼児	〃 1 〃	40
	成人水泳集中講習会	一般	7 日間 12 〃	240
造 形	夏休み造形教室	小・中・高校生	1 日 20 〃	300
	親子体験ワークショップ	幼・小・親	〃 7 〃	76
音 楽	夏休み手作り楽器のワークショップ	小・中・高校生(親子)	1 日 4 〃	80
	ふれよう世界の音楽	〃	1 日 3 〃	60
	Dance [E] プロジェクト Vol3	小学生	2 日 2 〃	30
A V	夏休み子ども映像研究室	小・中・高校生	1 日 28 〃	280
小児保健	季節の離乳食	乳児 親	〃 9 〃	90
	赤ちゃんといっしょの子育て学習会	〃	〃 3 〃	90
劇 場	青山・パフォーミング・アーツ・セミナー 2010 (APAS)	小学生～一般	〃 13 〃	460
計	15 種		108 コース	2,006

## ■■■ 専門指導者向け講習会など ■■■

部 門	プ ロ グ ラ ム 名	対 象	コ ー ス	総定員
保 育	子育て支援研修会	保育関係者	2 コース	100 (人)
小児保健	小児保健セミナー	保育者・保健師など	1 〃	100
	心とからだの健康 012 歳児	〃	2 〃	100
	乳幼児期からの健康づくり	〃	1 〃	30
	最新の医療から	〃	1 〃	50
	乳幼児期の食生活の理解と対応	〃	1 〃	30
	「遊び」から理解するこころの発達	〃	1 〃	30
	子どもの虐待への対応	〃	1 〃	50
	企画研修	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会	児童厚生員など	2 〃
〃 つくって演じる人形劇	〃	1 〃	30	
〃 おりかみにつよくなる講習会	〃	1 〃	50	
〃 ホランティア講習会	18 歳以上	3 〃	80	
〃 ホランティア・クレートアップ講習会	ホランティア登録者	2 〃	30	
計	12 種		19 コース	780

□□□ 視察・見学実績 □□□

年 度	都道府県・市区町村 の本庁その他の行政 部局、公共団体		児童館、保育所、幼 稚園、学校、施設、サー クルなどの団体		海外からの 視察・見学		そ の 他		計		
昭和 60 年度	(100)	1,122	(100)	1,578	(22)	169	(18)	410	(240)	3,279	
61 年度	(121)	714	(192)	4,085	(52)	359	(31)	513	(396)	5,671	
62 年度	(107)	439	(123)	2,437	(36)	347	(20)	477	(286)	3,700	
63 年度	(91)	598	(69)	770	(30)	211	(32)	296	(222)	1,875	
平成元年度	(72)	541	(71)	931	(10)	86	(25)	195	(178)	1,753	
2 年度	(65)	605	(27)	292	(8)	156	(17)	212	(117)	1,265	
3 年度	(63)	417	(47)	705	(11)	77	(6)	274	(127)	1,473	
4 年度	(78)	585	(62)	1,038	(9)	122	(6)	35	(155)	1,780	
5 年度	(69)	698	(75)	1,182	(14)	119	(9)	41	(167)	2,040	
6 年度	(96)	782	(73)	1,251	(13)	144	(13)	116	(195)	2,293	
7 年度	(136)	956	(101)	1,542	(19)	273	(16)	94	(272)	2,865	
8 年度	(63)	402	(188)	1,691	(19)	139	(8)	48	(278)	2,280	
9 年度	(89)	723	(134)	1,335	(14)	229	(24)	43	(261)	2,330	
10 年度	(63)	474	(150)	1,470	(26)	204	(24)	145	(263)	2,293	
11 年度	(83)	863	(171)	975	(18)	177	(17)	68	(289)	2,083	
12 年度	(85)	616	(154)	596	(14)	128	(27)	37	(280)	1,377	
13 年度	(29)	254	(216)	1,029	(15)	109	(26)	68	(286)	1,460	
14 年度	(13)	40	(189)	1,212	(16)	211	(8)	38	(226)	1,501	
15 年度	(8)	14	(152)	965	(19)	149	(8)	14	(187)	1,142	
16 年度	(5)	53	(156)	1,084	(14)	135	(6)	13	(181)	1,285	
17 年度	(5)	41	(198)	924	(15)	300	(13)	35	(231)	1,300	
18 年度	(3)	31	(184)	1,267	(15)	229	(2)	7	(204)	1,534	
19 年度	(1)	2	(175)	903	(19)	192	(6)	21	(201)	1,118	
20 年度	(11)	29	(145)	604	(17)	136	(2)	29	(175)	798	
21 年度	(12)	32	(121)	441	(17)	210	(3)	43	(153)	726	
22 年度	(9)	33	(123)	652	(11)	145	(6)	42	(149)	872	
平成 23 年度	4 月	(1)	10	(0)	0	(0)	0	(0)	0	(1)	10
	5 月	(4)	10	(7)	8	(1)	1	(0)	0	(12)	19
	6 月	(2)	19	(4)	25	(2)	4	(0)	0	(8)	48
	7 月	(2)	2	(4)	5	(2)	63	(0)	0	(8)	70
	8 月	(4)	36	(8)	34	(0)	0	(1)	1	(13)	71
	9 月	(3)	21	(7)	8	(1)	3	(0)	0	(11)	32
	10 月	(3)	4	(14)	21	(0)	0	(0)	0	(17)	25
	11 月	(6)	87	(10)	21	(1)	10	(0)	0	(17)	118
	12 月	(4)	36	(7)	10	(1)	6	(0)	0	(12)	52
	H24 1 月	(2)	7	(3)	5	(0)	0	(0)	0	(5)	12
	2 月	(2)	6	(9)	36	(1)	5	(0)	0	(12)	47
	3 月	(4)	33	(6)	17	(0)	0	(0)	0	(10)	50
	合 計	(37)	271	(79)	190	(9)	92	(1)	1	(126)	554
累 計	(1,514)	11,335	(3,475)	(31,149)	(482)	4,848	(374)	3,315	(5,845)	50,647	

注) ( ) 内は、団体数。  
「その他」は、中央官庁、中央団体、会社など。

# 1 年の歩み

月日	事 項
4 10	東日本大震災チャリティコンサート こともたちからのサウントメッセージ〜たくさんの一歩〜 (青山劇場)
4 13 ~ 28	青山円形劇カウンスル # 4 ~ Re ~ 「その族の名は家族」 (青山円形劇場)
4 17	こいのほりかいっぱい! こいのほり掲揚式 (ピロティ) × 5 月 29 日まで 100 匹のこいのほりを正面広場に掲揚
4 29 ~ 5 8	児童福祉週間 (ゴールデンウィーク) 特別期間 「みんな あそほ! みんな イコ! こどもの城」 てかてかてっこいのほり/サ! 運動会/ことも歳時記「端午の節句」/みんなてダンスノっちゃって おとっちゃって/ミラクルライブラリー (光の科学編) ② 曜日でサイエンス/もりもり! おへん とBOX/ゴールデンたぬきパラダイス〜ぼんぼこ億万長者への道〜/ハフハフヘータウン〜パパ ママいっしょのスペースたよ〜 ― ほか × 5 月 5 日は、こどもの入館料は無料
5 8 ~ 10	ダンスーエックス 11 トーキョー〜ソウル〜モントリオール (青山円形劇場)
5 15 ~ 6 4	第 64 期ホランティアセミナー (会議室ほか) × 第 65 期ホランティアセミナーは、平成 24 年 2 月 4 日〜3 月 2 日に開催
6 8・9	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「遊びの専門技術〜オハケやしきを 10 倍楽しくする方法」(研修室ほか)
6 11・12	小学生プログラムスペシャル (プレイホール、音楽ロビー、体育室、造形スタジオ) × 平成 24 年 2 月 11・12 日にも実施
6 18・19	とり+かえっこ (フリーホール)
6 23 ~ 7 3	青山円形劇場プロデュース クラウト (青山円形劇場)
6 25	第 17 回心とからだの健康 0 12 歳児〜小児保健の基礎と実際〜 (会議室) × 第 18 回は、平成 24 年 2 月 24・25 日に 2 日間コースで開催。
7 8	第 3 回乳幼児期からの健康づくり (研修室)
7 16 ~ 8 31	夏休み特別期間 「夏にチャレンジ! あそんでチェンシ! こどもの城」 スポーツあそび 100 の秘けつ/造形発見展〜道と造形/みんなてあそぼう 夏本番! とれみふぁプレ ミアム/ミラクルライブラリー ② 曜日 de サイエンス/フシギトリック・アニメ・ワークショップ /パソコンでデザインピタッとパスル/夏休みハンスオン広場〜あそんで×まなで=大発見!! /ふねはすこいね! /きょうふ!? オハケ屋敷 ― ほか
7 18	It's ライフセービング (プール)
7 22 ~ 25	月猫えほん音楽会 2011 えほん×シャス=めっちゃ? 楽しいシアターライブ (青山円形劇場)
7 30	最新の医療から〜食物アレルギーへの対応〜 (会議室)
8 21	こどもの城児童厚生員等実技指導講習会「つくって演じる人形劇〜簡単な人形作りから劇の演し方まで〜」(会議室)
8 25 ~ 28	TAIKO JAPANN 2011 × 第 10 回東京国際和太鼓コンテスト (27・28 日 青山劇場) / 青山太鼓見聞録〈伝統の種子、 その展開〉(26 日 青山円形劇場) / 太鼓見聞録外伝〈東京打撃団、技あり!〉(25 日 青山 円形劇場) / 和太鼓カレッジ (26 ~ 28 日 青山円形劇場ほか)
8 27	保育室で使えるあそびのメニュー (実技 1) ~ 楽しく遊べるあそびのメニュー〜 (会議室) × 親子で遊べるあそびのメニュー (実技 2) ~ 親子で遊べるあそびのメニュー〜を 9 月 17 日に開催
8 27・28	LIT の「あそ VIVA ☆ワールドフェスティバル」(フリーホール)
8 30 ~ 9 1	Classical ROLLY Final III (青山円形劇場)
9 23・24	秋まつり (屋上ふしぎか丘)
10 10	スポーツ鬼っこ大会 ことももの城 CUP (体育室)
10 15	乳幼児期の食生活の理解と対応〜受講生の食の悩みに答えます〜 (研修室)
10 19~23	TOKYO DANCE TODAY#7 近藤良平構成・振付・出演『11 DANDY』(青山円形劇場)

日	事 項
10 29 ~ 11 27	第 12 回全国児童館おりかみ作品展 / 第 18 回おりかみカーニバル (ギャラリー) × 全国児童館おりかみ作品展の作品は [こともの城] で展示後、全国で巡回展示
10 29 ~ 11 30	こともの城ファミリーフェア～みんなて遊んで家族の絆を深めよう お父さんと運動遊び / あそびてつくる家族の WA ! 「お父さんも参加してね」 / 第 17 回親子体験 ワークショップ くつ屋さん～トカトカくつ～ / ハンスオン広場～みんなて体験楽しく体験～ / み てこ！よってこ！てこてこパーク / なかよし映像広場～家族みんなて映像あそびスペシャル～ほか
11 5	おとうさんのあそび市 (プレイホール)
10 30	第 26 回マタニティ・コンサート「ママとヘヒーに届けるすくすくサクソコンサート」(青山円形劇場)
11 1 ~ 30	いきいき家族写真展 (4 階ロビー)
11 9	第 17 回赤ちゃん大集合 (研修室ほか)
11 10 ~ 27	青山演劇 LABO#005 イキウメ『太陽』(青山円形劇場)
11 12	こともの城児童厚生員等実技指導講習会「おりかみにつよくなる～初心者向け指導者講習会～」(会議室)
11 26	第 26 回小児保健セミナー「多様化する親子へのかかわり方」(研修室)
12 3 ~ 25	青山円形劇場プロデュース ア・ラ・カルト 2 ～役者と音楽家のいるレストラン～ (青山円形劇場)
12 11	〈遊び〉から理解する子どものこころの発達 (会議室)
12 11	第 24 回水泳記録会 (プール)
12 11	中高生支援「ティーンズカフェ」
12 17	サンタにととけ！うたおうクリスマス (ピロティ)
12 23 ~ H24 1 9	冬休み冬休み特別期間 「冬休み あそんでケンキに！みんなてエンジョイ！こともの城」 ことも歳時記『クリスマス』『お正月』 / クリスマス人形劇フェア / パソコンでデザイン！「ミニク リスマスツリー」「わくわく☆カレンダー 2012 / ㊦曜日 de サイエンス 火曜日 + 木曜日〈炭の科学 編〉 / 新春あそびのお年玉 2012 ～めさせ！あそびの龍人～ / 七福神スポーツあそびめぐり / 日本 の楽器 やってみよう —— ほか
H24 1 3 ~ 9	第 1 回こともの城・ファミリーミュージカル「ソーク・ノーク・シーキングストーリー I ～なな色ぼうけん物語～」(青山円形劇場)
1 18 ~ 20	こともの城児童厚生員等実技指導講習会「今のことも徹底研究！～青少年の今日的課題～」(研修室)
1 21・22	ピコピコトルツチャテレヒ (体育室)
1 28・29	中西俊博 Leapingbow 2012 Reel's Trip ～はじめてのひかり～ (青山円形劇場)
2 1 ~ 12	保育活動展 (ギャラリー)
2 9 ~ 3 8	第 23 期こともの城女性ホランテア講習会 (会議室)
3 11	子どもの虐待への対応～親子支援に向けて (会議室)
3 18・20	トキトキスオンステーション 集まれ！サンハ・フェスティバル！ = 18 日 / 花のお江戸の助六太鼓 = 20 日 (音楽ロビー)
3 20	第 23 回新体操発表会 (体育室)
3 24・25	こともたちからのサウントメッセージ (青山円形劇場)
3 25 ~ 4 5	春休み特別期間 「こともの城 満開 笑顔」 汗かきあそびースーパーパーク / やってみよう！つくってみよう！～ペーパーマーケット～ / あそび横 丁 みんなてハシけてへんのへん！ / ㊦曜日 de サイエンス 土曜日 みんなてつくる色いろ「土」コ レクション / 春た！むすんで・あそんで・つなげよう！ / フレントシップカート / ウイアー・ロ ホタン研究所～キラリ、ひらめく！夢の口ホット —— ほか
3 29・30	Best of ROLLY～ローリー寺西 サ・クレイテスト・ヒッツ！～ (青山円形劇場)

# 2

## 各部の事業


# 事業企画



おそなえ餅づくり～年末にお餅つき



ゴールデンたぬきパラダイス

日曜クラブ

## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

「こども活動エリア」の各事業の統括および、総合的な企画・調整の強化をはかる組織改革に伴い、本年度から企画研修部、総合案内課、広報部を統合して事業企画部が発足した。事業の企画・調整を担当する企画課、ホランティアを担当する研修課、広報課、総合案内課の4課で構成される。

総合的な企画・調整に向けて、年間の重点課題を設定して、児童健全育成事業の質の向上と来館児・者増をはかること、国立の総合児童センターとしての〈センター機能〉を強化することを掲げ、以下の取り組みを行った。

〔こどもの城〕全事業の戦略的、効率的な実施をめさして、年度当初に全事業を網羅した「平成23年度こどもの城プログラム展開計画書」を作成した。各部門の事業を確実に把握することで、特別期間におけるプログラムの戦略的な展開、季節行事の全館コーディネート、各部門が協力して行う事業のスムーズな運営と充実をはかることができた。

児童福祉週間（ゴールデンウィーク）、夏休み、冬休み、春休みなどの、学校の長期休み期間を特別期間とし、来館児・者増と利用者ニーズに応える事業目標やテーマの設定、および目標来館児・者数の設定を行った。

「たなはた」「クリスマス」「節分」「ひな祭り」などの季節行事は、さまざまな形で各部門で取り組んでいるが、より魅力的な〔こどもの城〕を印象づけるために、本年度は各部門を横断して一体感を高めて事業を展開した。さらに、各部門の特性を生かし、総合児童センターとしての機能をより強化するとともに、事業の効率化をはかるために、各部門のスタッフで構成する全館事業企画チームを設置し、その運営と事業調整を行った。

〔こどもの城〕が持っている人的、物的資源だけでは実現できない事業について、外部の団体や企業の協力を得て実施した。〈センター機能〉の強化の一環として、〔こどもの城〕で展開する事業の告知や報告を通じ、遊びの重要性、児童館の存在意義を社会に発信するように努めた。

### □□□ 企画 □□□

健全育成事業である「こども活動エリア」のさまざまな分野のプログラムを掌握し、効率・効果

的に実施できるように調整することを中心に、全館的事業の取りまとめ・事業実施や対外的な協力事業を業務とした。なお組織改編により、本年度から「経営情報企画部」が新設され、外部団体や企業への事業協力については、事業内容を検討したうえで事業企画部と経営情報企画部が受け入れを分担するシステムに変更した。

### ■■■ プログラム展開計画の作成 ■■■

「ことも活動エリア」の事業計画は、各部ごとにまとめていた従来の方法から、全館的な計画の把握と調整の充実をはかれるようにした「こともの城プログラム展開計画書」に改めた。さらに、各部門ごとに活動重点目標を設定して事業の強化点を具体的に明記するほか、全館の重点目標にあわせて事業を集約して一覧表にまとめた。講座・クラブや事業に関連するキャリアー・劇場の使用状況なども関連事項として記載し、年間事業の全容を把握することに努めた。その結果、各部門が連携して事業を展開しやすい環境を作り、事業評価の視点を整えることかできた。

各部門がそれぞれに行っていた四季折々の季節行事については、その内容を把握したうえで全館的な事業調整を行った。具体的には、「たなばた」「クリスマス」「節分」「ひな祭り」の事業はプログラム実施期間の調整、「たなばた」「クリスマス」では全館統一装飾の提案・実施などを行った。

年間の重点目標の一つである〈乳幼児と保護者の支援の活動〉については、館内で行われているさまざまな乳幼児向け事業を調整するための話し合いの機会を設定し、総合的な取り組みが進められるように条件を整備した。

また、従来から取り組んでいる子どもたちの参画事業も、各部門のスタッフによる企画チームを編成して、全館的な事業として取り組んだ。本年度はさらに、父親の子育て参画を推進するプログラム企画チームを立ち上げ、父親と一緒に遊ぶことの意義や大切さについてアピールするとともに、新しい事業展開の企画・実践に取り組んだ。

### ■■■ 特別期間プログラム展開の戦略的な実施 ■■■

学校の長期休み期間などの特別期間に、事業計画の作成と実施に向けた調整および反省を行った。事業計画は、それぞれの特別期間の特性を生かして、年間の重点目標を具体的に各部門の事業へ反映するように調整した。

あわせて、特別期間ごとに過去のデータを分析して目標来館児・者数を設定した。来館児・者増を達成するために、計画的で効率的なプログラム配置を検討した。また、健全育成事業の啓発と、来館児・者を“子どもの遊びの世界”へ導き入れると同時に、“華やかさ”を感じてもらうため、春・秋～冬の期間には、玄関前広場のピロティを活用したイベントの充実をはかった。

さまざまな取り組みの効果を測定し、プログラムの記録を残すために、共通の記録シートを作成し、特別期間終了後にそれをもとに反省会を行った。

#### ■ゴールデンウィーク(児童福祉週間) 特別期間■

【期間】4月29日～5月8日(9日間。5月2日は休館)

【重点目標】①入館者増をねらった話題作りのために、「こいのほり」をテーマにした関連プログラムを主力事業とする。

②児童健全育成の理念にもとづいた効果的なプログラム作りとして、特に父親が楽しく活躍できるようなプログラムを主力事業としてPRする。

【目標来館児・者数】18,600人(実績 22,518人)、平均2,066人(実績 2,518人)

#### ■夏休み特別期間■

【期間】7月16日～8月31日(47日間)

【重点目標】①前年度とはサービス内容などを変更した“夏休みフリーパスキャンペーン”を行い、繰り返し来館児・者層の底上げをはかる。

②夏休み短期講座の充足率などを吟味し、人気講座の回数や定員枠の設定・見直しなどを行い、受講生獲得に力を入れる。

③夏休み特別期間に増加する小学生への対応プログラムを強化する。

④混雑時期に対応できるように、プログラム数や受け入れ枠の増加、スペースや遊具の拡充、スペースの活用などの工夫を検討。

【目標来館児・者数】98,000人(実績 92,857人)、平均2,085人(実績 1,976人)

### ■ファミリーフェア（開館記念特別月間）■

【期間】10月29日～11月30日

（27日間。11月7・14・21・28日は休館）

【重点目標】①親子プログラム強化のため、積極的に親子がふれあう機会を取り入れたプログラムを実施。父親の子育て参画、家族の良さ・大切さを伝えるとともに来館児・者増に努める。

②夏休みなどの長期休みとは異なる平常期間であり、平日の集客は難しい。土・日曜日、祝日の家族プログラムに力点を置き、来館児・者増に努める。

③各プログラムの名称に「家族」「親子」「お父さん」「お母さん」などを積極的に取り入れ、アピールをする。

【目標来館児・者数】27,000人（実績 30,590人）、平均964人（実績 1,093人）

### ■冬休み特別期間■

【期間】12月23日～平成24年1月9日

（13日間。12月29日～1月2日休館。1月3日は12時30分開館）

【重点目標】①来館児・者数の少ない年末の平日に、事前申し込みプログラムを設定し、来館児・者増をめさす。

②クリスマス・お正月の季節感を活用し、来館が多くなる家族（特に3世代家族）へ対応するプログラムを各部で検討し実施する（世代を超えて一緒に楽しめる活動）。

③大勢が一度に楽しめる多人数対応型プログラム、多くの人か楽しめるように回転率をあげる、遊具の拡充、スペースの活用——などの工夫をする。事前のPRを強化し、魅力高める。また、〔こどもの城〕の存在をアピールするために、ピロティを活用した「人を集める“目玉”プログラム」を各部で積極的に検討し、実施する。

【目標来館児・者数】17,000人（実績 19,073人）、平均1,300人（実績 1,467人）

### ■春休み特別期間■

【期間】平成24年3月24日～4月5日（13日間）

【重点目標】①平均2,000人の来館児・者に対応するため、実施回数も多く回転率の高い活動、1回あたりの参加者が多い観劇型・上映型などの活動に取り組む。館内アメニティ（昼食場所・ヘビーカー置き場など）は混雑時に対応できるように準備する。

②学童を中心に年齢層が高くなるため、学童期の子どもに適合した活動を考える。

③復興支援アピール月間として「ととけよう元気を」広げようこどもの笑顔」をテーマにしたプログラムの実施。あわせて、直接的に復興支援事業と結びつく事業を実施した。

④ゴールデンウィーク特別期間の来館児・者増にむけて、来館児・者全体に向けたPRとともに、再来館につながるしかけを考える。

【目標来館児・者数】27,000人（実績 25,789人）、平均2,077人（実績 1,984人）

### ■■■■ その他 ■■■■

企業や外部団体と協力する事業は、従来から日産自動車㈱やJAXA（独立行政法人宇宙航空開発機構）などと実施してきた。本年度からは、経営情報企画部と連携して、外部との協力事業を積極的に展開することとした。

「秋まつり」へ企業や外部団体の出店を誘致した結果、いくつかの企業・団体の参加が実現した。また、トヨタ自動車㈱「なせなにレクチャー（科学教室）」の開催、日本郵船㈱の協力で実施したキャリアーでの船の展示など、企業の社会貢献事業と連携した事業を実施することで、〔こどもの城〕単独では難しい事業も実施することができた。

〔こどもの城〕の理念に賛同し、時には“活動モニター”として活躍してもらう「こどもの城友の会」を本年度も運営した。会員数は毎年減少しており、本年度は3月末で540家族にとどまった。要因として、会員ニーズと実際のサービスクラス内容の差異が考えられ、その点について年間をとおして、新たな方向を模索した。今後は、「こどもの城友の会」を抜本的に見直し、そのあり方を検討する

ふねはすこい！～テーブルナブキンのたみ方ワークショップ～



必要がある。

## □□□ 研修 □□□

### ■■■■ 【こどもの城】 のボランティア ■■■■

「こども活動エリア」では、ボランティアが定期的実施している 26 の事業のほか、特別期間や各部の協力要請を受けてかかわる活動を入れると、年間で延べ 7,000 人を超えるボランティアが活動をしている。その活動内容は、ボランティアが独自で企画立案・実施をする事業から、各部門が立案したプログラムの実施補助まで幅が広い。

ここ数年来、要請が増えている乳幼児にかかわる活動など、館内の活動を充実するためにも各部門とのコミュニケーションを充実させることが重要となる。各部門のニーズをボランティアへ伝え、ボランティア独自の活動との調整をしていくことか、今後も重要な役割の一つとなるだろう。

【こどもの城】では、「ボランティアセミナー」(青年層を主な対象に毎年 2 回実施)を開催して、ボランティアの養成に努めている。子ども理解、【こどもの城】の理解、健全育成活動へのかかわり方などを理解してもらうために、週 2 回ほどの講義(含む、2 泊 3 日の宿泊研修)を約 1 か月かけて実施。セミナー修了後に登録して活動してもらうことになっている。

本年度も、6 月に 64 期(参加 19 人)、平成 24 年 1 月に 65 期(参加 31 人)のセミナーを実施した。これまでは学生の参加が多かったが、現在は減少傾向にあり、特に 6 月のセミナーで顕著である。今後は、希望者の確保に加え、各部門のニーズも踏まえ、気軽に参加でき、始められるボランティアのシステムを検討し、より広く希望者を集められるように、新しい育成システムの可能性を検討していきたい。

### ■■■■ 野外活動の効果的、効率的な運営 ■■■■

事業の効率化を検討するなかで、プレイ部門の小 4～6 を対象とした「フェローシップキャンプ」を中止することとなった。その参加者ニーズを取り込み、応えるため、「ジュニア・アウトドア・スクール」を 2 期制として、2 つの期間(4 泊 5 日と 6 泊 7 日)から選べるようにして、幅広い参加者を受け入れられるように考えた。しかし、実際には東日本大震災の影響もあり、充足率は 70%にとどまった。「ジュニア・アウトドア・スクール」だけでなく、【こどもの城】のキャンプ事業全般に同様の傾向が見られた。

今後の野外活動プログラムの方向性を探るために、保護者の地震や放射能に対する不安感、【こどもの城】の野外活動が親のニーズに適合しているかについてアンケート調査を実施した。調査対象は、春に実施するキャンプの対象年齢にあたる児童の家庭で、過去に【こどもの城】のキャンプに参加をした経験のある児童のなかからランダムに抽出した 264 世帯 280 人(小 1～3 が 134 人、小 4～中 3 が 146 人)。質問用紙に従って返信用はかきに記入する方法をとった。264 世帯中、170 世帯の回答があった。その結果、充足率の低下はやはり「地震」と「放射能」が影響していると推測できた。また、保護者のニーズについては、「キャンプ参加費に対する負担感が強い」こと、「ニーズはあっているものの、期間やプログラムの多様化が求められている」ことか分かり、野外活動プログラムの実施のための参考とした。



ジュニア・アウトドア・スクール

### ■■■■ 専門職向け講習会の調整と実施 ■■■■

【こどもの城】の使命の一つである、全国へ向けての〈センター機能〉を果たすために、専門職向け講習会などの開催をとおして、全国の子ともにかかわる指導者の支援を行っている。児童館・放課後児童クラブのスタッフを対象とした遊びの専門技術にかんする講習のほか、保育や小児保健など幅広い分野の講習会を、その専門性を生かして行っている。内容が多岐にわたるため、実施時

期や内容などについて、〔こどもの城〕全体で協力してより良い内容をめさすと同時に、効率的な講習会運営を行うために、全体の調整をはかった。

## □□□ 広報 □□□

〔こどもの城〕をより理解・認識してもらうことを目的に、「こどもの城ニュース」などの印刷物の発行、インターネット（ホームページなど）や各種メディアをとおして情報を発信した。

### ■■■ インターネットを利用した新しい取り組み ■■■

#### ■ ホームページに「プログラムレポート」を新設 ■

ホームページでは、いわば広告ちらしのように、施設案内や日替わり情報など、これから行われることの告知を行っている。さらに、〔こどもの城〕の考え方を伝える試みとして、「プログラムレポート」を〔こどもの城〕のサイト上に 11 月に開設した。事業の目的、内容、実施状況、スタッフの感想などを画像とともに紹介。プログラム立案の考え方や、子どもたちや大人に伝えたいことを織り交せて構成、レポート全体で〔こどもの城〕の考え方、めさすもの、スタッフの取り組みなどを伝えられるように配慮した。本年度のレポートは 17 件。

#### ■ Facebook を開設、インターネット広報の強化 ■

Facebook は世界最大の SNS サイトであり、団体や自治体での利用も多い。画像とテキストで十分な情報量を発信できること、経費かかからないことから開設を検討し、平成 24 年 3 月にスタートさせた。会報誌のようなイメージで、毎日記事と画像を掲載した。Facebook のページを持たない個人でも、パソコン、スマートフォン、携帯電話から気軽にアクセスできることから今後の広かりに期待したい。

また、Yahoo 地域情報「Yahoo！ロコ」内にも〔こどもの城〕のページを新設し、同情報の配信システムを利用してメールで直接登録者に配信を始めた。さらに、インターネット上の情報提供サイトを活用し、情報発信に努めた。

### ■■■ その他 ■■■

#### ■ 館内の情報集約と発信、社会状況の把握と伝達 ■

広報活動を展開するうえで、情報を早めに収集することは至上命題である。即時性が求められるなか、各部門の広報意識も高まり、多くの部門から早めに情報が提供されるようになった。集まった情報は、ホームページ、ちらし、ニュースリリース、無料のインターネット広報など、目的にあわせて加工して広報した。本年度中に発行した各種ちらしは、計約 68 万部。ニュースリリースは 36 事業について約 1 万件を発信、139 件の取材を受けた。ホームページの更新はほぼ毎日行い、年間閲覧ページは約 760 万ページにのぼる。

また、子ども、親子、学童をめぐる社会の動きを集約、提供する公聴機能の充実にも取り組んだ。新聞各紙の記事、官公庁のウェブなどから、国や地方自治体、NPO、企業の動き、〔こどもの城〕周辺地域の動きを集め整理し全スタッフに情報提供を行った。

### ■■■ これからの広報活動 ■■■

〔こどもの城〕の核となる活動は児童の健全育成。子どもたちの成長にとって〈あそび〉が大切であることを広く伝え、〈あそび〉の機会を提供することにある。広報する上では、常にこの点を心かけ、来館児・者へのていねいな情報提供とともに、広く社会へ〔こどもの城〕の「伝えたいこと」を広報していけるように努力した。

〔こどもの城〕の「伝えたいこと」とは、「めさすこと」と同してなくてはならない。さまざまなメディアをとおして広報するなかで、社会に問われている〔こどもの城〕の姿勢をスタッフが意識し、広報することをとおして活動の中身がより磨かれていくように、館内館外ともにより関係を保てるように努めた。

また、最近インターネットを活用した情報の広がりか加速している。早く広く伝わる利便性の一方で、交流サイトなどにおける個人情報保護などの問題もある。特に、無料のサービスにはデータが企業側に提供される危険も潜んでいる。また、同じインターネットでも、無料のサービスはホ

ームページほどには詳細な情報が掲載できないために、トラブルが発生する可能性もある。いかなる広報活動を行う時にも、バランスの良い広い視点から手順を踏んで取り組んでいきたい。

## □□□ 総合案内 □□□

総合案内では、「こどもの城」の利用者の受け付け・案内などにかんする業務および、「グループ活動」の調整・統括を行った。

### ■■■ 来館児・者増の取り組み ■■■

来館児・者増への取り組みの一つとして、さまざまなフリーパスを販売している。平日の利用促進をはかるために、乳幼児と親をターゲットとした「平日ゆうゆうパス」や、学校の土曜日休みに対応した土曜日限定の「小中学生土曜日パス」、夏休み特別期間に何度でも来館できる「夏休みフリーパス」などがある。

「夏休みフリーパス」は、前年度までは 400 件程度（平成 21 年度 411 件、22 年度 363 件）であったが、本年度は PR 方法の工夫、特典の変更などを行い、より積極的な販売促進をはかった。その結果、600 件を販売した。「小中学生土曜日パス」は、本年度 20 件（平成 19 年度 37 件、20 年度 33 件、21 年度 25 件、22 年度 23 件）で、年々減少している。要因としては、学校の土曜日授

### 【「グループ活動」プログラム一覧】

	プログラム名	対象年齢	内 容
体 育	すてきな新体操	3 歳児～中 3	ホール リンク 縄などの手具を使って楽しく体操する。
	たのしい体育・運動	3 歳児～中 3	身近な道具を使った運動や、マント 跳箱などを使ったサーキットなどのゲーム。
	レクリエーション	3 歳児～中 3	鬼ごっこやしっぽとり フラインクディスク パラハルーンを使って楽しく運動。
	球技で楽しく汗を流そう！	3 歳児～中 3	ウォールサッカー（室内サッカー） ユニホック タクラクヒーなどの球技から選択。
ブ レ	劇遊び「森へ行こう」	4 歳児～小 2	森のお姉さんや木こりと一緒に森のなかを探検する、こっこ遊びのプログラム。
	劇遊び「忍者修行道場」	4 歳児～小 2	悪者忍者の挑戦を受け、忍者修行に挑む、こっこ遊び。月齢 人数によって内容が変わる。
	みんなであそぼうパペットラント	4 歳児～小 2	紙コップでねずみの人形を作り、ねずみにちなんだ遊びをしなから、お話の世界で遊ぶ。
	みんなであそぼうパペットラント	3 歳児～小 2	靴下であおむしの人形を作り、あおむしになりきって、お話の世界で遊ぶ。
	みんないっしょに	3 歳児～小 2	歌やレクリエーションダンス、パネルシアターなどを組み合わせた「つといの広場」。
	魔法使いチャンピオンシップ	4・5 歳児	幼児からできるレクリエーションゲームを“魔法使いこっこ”に取り入れて楽しむ。
イ	わくわくオリンピック	4・5 歳児	幼児からできるレクリエーションゲームを“オリンピックこっこ”にして楽しむ。
	こどもの城オリンピック	小 1～	オリンピック種目を愉快地にアレンジしたレクリエーションゲーム大会。15 人以上。
	パソコンであそぼう	小 1～	合成写真や紙飛行機の設計制作など、さまざまな機能を使った 5 種類の活動から選り体験。
	造 形	かけをうつそう	4 歳児～小 6
木をつくろう		4 歳児～小 6	グループ全員が協力して、床に大きな紙の木を作る計画の楽しさを知る。
粘土でシャンクル旅行		5 歳児～小 2	粘土で飛行機 テント 木 動物などを作りながら、みんなでシャンクル旅行。
竹体験		小 1～	日本の伝統的な植物「竹」の特質——しなる、かたい、筒状などを体験しながら竹の造形。
音 楽	忍者ってほんとうにいたの？	3～5 歳児	子どもたちのイマジネーションによる忍者こっこ遊び。
	スカーフであそぼう	3～5 歳児	スタジオの照明に映えるスカーフで楽しく遊ぶ。
	まつりはやし	3～5 歳児	お祭り広場になった音楽スタジオで、楽しく和太鼓をたたく。
	やってみようカムラン	3 歳児～	インドネシアの打楽器オーケストラ、カムランを演奏したり、踊ったりする。
	サンハておとろう	4 5 歳児	ブラシルのカーニバル気分てサンハに挑戦。自分で作った楽器を持って踊る。
	たたいてみよう日本の太鼓	4 5 歳児	いろいろな種類の和太鼓を思いきりたたいてコンサート。リズムは簡単！
	インドネシア・アングルン	小 1～	インドネシアの珍しい竹の楽器を紹介。みんないっしょに合奏体験。
めずらし楽器大集合	3 歳児～	アフリカ 中国 インドネシア ブラシルなどから集めた珍しい楽器のコンサート。	
A V	みんなでつくろう“はたばたアニメ”	4 歳児～	みんなが描いた 2 枚の絵を交互に映し、絵が動くアニメ体験する。
	フィルムに絵を描いてみよう	小 2～	透明な映画フィルムに着色して映写すると、スクリーンに楽しい図柄が映し出される。
	ビデオであそぼう	小 3～	突撃インタビュー ビデオてしりとり 伝言ゲーム。ここではみんなかカメラマン。
	ピンホールカメラをつくろう	小 1～	針穴かあいたたけのカメラ——ピンホールカメラを作る。
	混虫（ませむし）工場	小 1～	昆虫の“ワンピース ペーパークラフト”を制作。

業の復活が大きく影響していると考えられる。今後、土曜日の事業計画も含めて「小中学生土曜日パス」のあり方を再考する必要がある。その他、東京都から依頼された「家族ふれあいの日」の割引クーポン、旅行雑誌の割引クーポンなどにも積極的に協力し、来館児・者増に取り組んだ。

### ■■■ グループ活動 ■■■

〔こどもの城〕の開館時間前の平日の午前中を利用して、保育所、幼稚園および学校などの団体を対象に、特別プログラムを提供する「グループ活動」は、一般来館児・者の受け入れ、講座・クラブの実施とならび、重要な位置を占めている。本年度は 129 グループ、2,789 人（前年度 152 グループ、3,055 人）を受け入れた。過去 5 年間は、毎年 150 グループ以上の利用があり安定していたが、本年度は減少がみられた。東日本大震災の影響により、園外活動を中止する保育所が多くあったのが、その要因と考えられる。

### ■■■ 視察・見学対応 ■■■

本年度の視察・見学は 126 件（公的団体 37 件、児童館・保育所など 79 件、海外 9 件、その他 1 件）あり、前年度の 149 件（公的団体 9 件、児童館・保育所など 123 件、海外 11 件、その他 6 件）を下回った。しかし、県議会・市議会を含めた行政関係の公的団体からの視察・見学は、前年の 4 倍の 37 件となっている。こうした団体の視察・見学の理由は、平成 27 年度から実施される「こども子育て新システム」を見据えた事業計画のためとされ、地方自治体の新しい施策に対する動きが活発化していることが読み取れる。また施設の建設計画がある地方自治体関係者は、通常の視察より踏み込んだ質問や具体的な運営方法などを熱心に聞いていた。一方、児童館・保育所などの団体の見学が減ったのは、東日本大震災の影響で、外での活動を控える傾向にあったことか推測できる。

## □□□ まとめ □□□

本年度は、前年度末に発生した東日本大震災の影響で、社会全体が放射能や地震に対する不安に揺れ動き、今まで安全で強固なものと考えられていた生活の基盤が、いかに脆弱であるかを国民全体が痛感した年であった。特に放射能の問題は、子どもを持つ親に子育ての不安をますます募らせる大きな要素となった。そうした社会環境のなか、児童館が本来持つ 5 つの機能「遊びをとおした子どもの発達増進」「子どもの居場所になるとともに、子どもの安定した日常生活の支援」「問題の発生予防・早期発見と対応」「子育て家庭に対する相談・援助を行い子育て家庭を支援する」「地域組織活動の育成を支援し、地域の子どもを健全に育成する拠点としての役割を担う」（『児童館ガイドライン』より）は、被災地 3 県はもとよりその周辺の地域において、子どもの育ちを支援する必要不可欠な地域機能として再認識されたと言えよう。

〔こどもの城〕は、国立の総合児童センターとして全国約 4300 児童館が機能を高め、それぞれの地域に応じた課題に的確な対応ができるよう、開館以来さまざまな支援を行ってきた。本年度は、全事業部門の協力のもと、「子どもの参画」「乳幼児とその親の支援」「父親の子育て参画」をテーマにした全館プログラムの企画調整・実施に取り組んだ。そして、それぞれのプログラムの実施だけではなく、あわせて検証を行い、全国の児童館に発信する準備を進めた。

〔こどもの城〕で養成したボランティアは、全国の大型児童館（神戸市総合児童センター、諫早市こどもの城、えひめこどもの城）のボランティアと交流事業を行い、情報・意見交換を実施した。

事業企画部門は、各部門が実施する独自性に富んだ事業を総合的な視野で調整し、〔こどもの城〕が国立の総合児童センターとしての魅力、機能をいかに発揮できるようにすることが最大の役割である。各事業の内容や時期などの調整のみならず、広報計画や案内業務と連動することで、初めて〔こどもの城〕全体の強化につながる。そのためには、連携を可能にする条件の整備、明確な目標設定や達成するためのスケジュールの立案、システムの確立が必要になってくる。

本年度は、目標達成のための課題を明確にしたが、課題解決の糸口を見つけたところととまってしまう。〔こどもの城〕の事業運営は、社会的な環境も含めて今後ますます厳しくなることが予測される。より先駆的で効率のよい事業運営をめさし、国立の児童センターとしての機能を十分に発揮するために、より強固な調整機能が発揮できるように取り組みたい。

# 平成 23 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■ ■ ■ 平常期間 (全館事業など) ■ ■ ■

≡ 称	日 時	内 容
マサースフェスタ 2011～子育て応援 フェスタ～	5.21・22 10:30～16:30	ららぽーと豊洲などで開催実績のある「マサースフェスタ」という企業参画型の子育て支援イベント。企業のブース、商品サンプリング、抽選会などの実施。14社の企業協力が得られた。震災直後のイベントだったため、事前のPRが不十分で、来館見 者増にはつながらなかった。気候のいい時期に、ピロティを有効活用できた。共催 NPO 法人マサース協会。(ピロティ)
ヒト展	6.12～18 開館時間中	10回目を迎えた「ヒト展」。今回は「つなげよう、みんなの輪、和、わっ！」がテーマ。東日本大震災への支援の気持ちを込めて、渋谷区内だけでなく、ベトナム、カンボジア、インドなど海外の子ともたちの絵画や彫刻などを展示した。共催 渋谷ユネスコ協会。(ギャラリー)
日印友好 マシクツアー 2011 魔法少女シニア	9.19 11:30～12:30	東日本大震災の被災地訪問のためインド ムンハイから来日した中学2年生のマシクツアー「シニア」による、マシクショー。「日本語のおしゃべりマシク」にも挑戦し、同世代の子ともたちとマシクをとおして交流を楽しんだ。(プレイホール)
秋まつり	9.23・24 15:00～19:00	閉館時間後の夕方から夜の[こどもの城]を親子で体験する特別プログラム。食へ物や的当てなどゲームの模擬店、夜の暗さを生かしたワークショップ、音楽やパフォーマンスなど。にぎやかなお祭りを来館見 者と楽しんだ。17時以降は入館無料。地元の人々にも開放。(ふしぎか丘)
お父さんの あそび子育て プログラム	10月～H24.3月	父親か、仕事と子育ての調和をはかることを目的に、「父」と「子」が一緒に遊ぶ各部のプログラムを系統立てて実施。〈あそび〉を媒介に父親か子どもとかわりをもつ機会を提供することで、父親の子育て参加 参画を進めるために留まらず、「父親同士のネットワーク」作りの活動も展開した。(館内各所)
のんびりマルシェ～ ハンドマッサージ編	11.13、12.11 11:00～12:00、 13:30～14:30	こどもの城友の会会員の母親向けに、子どもか館内で遊んでいる間に子育ての疲れをいやしてもらおうプログラム。地元のフレクラントアース㈱の協力で、15分間のアロマオイルを使用したハンドマッサージとリラクゼーションスペースを提供。参加者25人全員が満足した。母親支援の一環として、今後の展開を検討していく。(保育室1)
子供未来 とうきょうメッセ	11.25 10:00～17:30	子どもか子育て、次世代育成を応援している企業や民間団体、自治体などが活動を紹介し合い、連携のきっかけとなることを期待するイベントへ参加。一般の乳幼児親子も多く参加するため、[こどもの城]の紹介だけでなく、「アニマル帽」作りの造形ワークショップも実施した。主催 子育て応援とうきょう会議。(東京国際フォーラム)
パパもいっしょに！ ヘビータウン	12.11、H24.2.5 11:00～17:30	「子ども」と「子育て」に目を向けてもらおうと、各日2回、1回30分程度、パネルシアターや運動遊び、簡単な工作などの「父親と乳児のためのプログラム」を実施。プログラム時間外は、親子で楽しめる「乳児のための遊び場」を設置。参加 12月11日＝114人／2月5日＝208人。(Aスタジオ)
みんなてかさろう クリスマス	12.1～25 開館時間中	クリスマスの雰囲気作りのため、館内各所に手作りのクリスマスツリーを用意し、来館見 者の協力で飾りを作った(手でちぎったケント紙に模様をつける)。絵を描いたり、サンタさんへの願いを書いている子もいた。親子や兄弟、友人同士で作ったものを見せ合っていた。子どもたちの作品か館内の装飾になったので、温かみのある雰囲気になった。(館内各所)
サンタにとどけ！ たおうクリスマス	12.17 ① 15:00、② 17:00	クリスマスの雰囲気作りと[こどもの城]をアピールするため、「こどもの城児童合唱団 混声合唱団」によるクリスマスにちなんだ歌の合唱とハンドヘルズの演奏を楽しむミニコンサートを実施。(ピロティ)
いっしょにおとろう 「ピースフル！」	12.18 10:45～14:00 (ダンスレッスン) 14:30～15:00(発表)	NHK「みんなのうた」の『ピースフル！』の子ともタンサーたち(中高生を含む)か、小1～6年生40人に振り付けを教えてピロティで発表会。中高生の活躍の場も提供できた。今後は幼児と親のダンスレッスンなども企画したい。協力 avex/NHK みんなのうた/OFFICE KEI。(体育室 ピロティ)



≡ 称	日 時	内 容
London Play に学ぶ	28 19 00 ～ 21 00 210 10 00 ～ 16 00	「TOKYO PLAY」は、冒険遊び場や児童館、放課後児童クラブの指導者、保育士、地域住民など、子どもの遊びにかかわる専門家や市民のネットワークを行い、子どもの遊び環境の整備、質の向上を目的に活動する中間支援組織。“センター児童館”としての〔こどもの城〕のねらいと合致するため、協力をし、London Play 事務局長ウテ ナヒティ博士による研修会を行った。8 日は「London Play に学ぶ～子どもの遊びを保障する社会をつくるために」、10 日「遊び環境向上のためのアクション ワークショップ」を行った。主催 TOKYO PLAY。(会議室)

■■■ 特別期間 ■■■

≡ 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 こいのぼりがいっぱい みんなでケンキに！	4 17 ～ 5 29	4 月初旬～5 月末という長期にわたって、屋上から正面広場を利用して、日本鯉のぼり協会から寄贈された 100 匹の鯉のぼりを掲揚。被災地を含め全国の子とたちに、“ケンキになろう”のメッセージを伝えた。(ピロティ)
〈 " " 〉 てかてか てっコイのぼり	4 29 ～ 5 8 開館時間中	長さ 48 m の真鯉と 36 m の緋鯉の骨組みを用意し、子どもたちが作ったうろこをはりつけて、鯉のぼりのトンネルが完成。1,384 人が参加。鯉のぼりのトンネルは、5 月 31 日まで展示。(アトリウム、エントランスホール)
〈 " " 〉 ハフハフヘヒータウン	4 29 ～ 5 1、5 3 ～ 8 10 00 ～ 17 00 (8 日のみ 16 00 まで)	3 か月～2 歳 11 か月の、乳幼児と保護者のための居場所。手作りおもちゃ、音のてるおもちゃ、木のおもちゃなどで遊べる場所。幼児～学童の入館が増える時期に、乳幼児親子延へ 1,886 人が利用し、ゆったりと遊んだ。またスタッフが常駐し、子育て支援を行った。(A スタジオ)
〈 " " 〉 マックロー クリーテック	5 5 開館時間中	〔こどもの城〕のキャラクター、マック マックローが「こどもの日」を祝って、来館児 者にあいさつ。一緒に写真を撮ったり握手をしたり、日ごろの来館を感謝した。(アトリウムほか)
〈夏休み〉 ふねはすこい！	7 9 ～ 8 31 開館時間中	文化交流の扉ともなった船をテーマにした展示。子どもたちが船や海に興味を持ち、日本の国土の素晴らしさに関心を持つきっかけとした。貨物船などのモデルシブの展示、毎年の歴史や歴史上の船の紹介、船についてのメッセージコーナーのほか、テーブルナブキンのたたみ方ワークショップ。入場者数は約 45,654 人、ワークショップ参加者(全 12 回)は 200 人。協力 日本郵船(株)/後援 ㈱こども未来財団。(ギャラリー)
〈 " " 〉 ハフハフヘヒータウン	7 21 ～ 8 31 10 00 ～ 17 00 (31 日のみ 16 00 まで)	ゴールデンウィーク(児童福祉週間)特別期間と同じ。延へ 9,355 人の乳幼児親子が利用。(A スタジオ)
〈 " " 〉 夏のハーブイベント	7 29 ① 11 00 ② 13 00	ハーブの演奏家を迎え、デモンストレーション演奏と楽器に触れる時間を設けた。入り口周辺で華やかさを演出してきた。触れる機会の少ないハーブを知るきっかけを提供。主催 銀座十字屋ハーブ&フルートサロン。(アトリウム)
〈 " " 〉 はたらく消防の写生 会渋谷区入選作品展	8 3 ～ 31 開館時間中	渋谷消防署管内の小学校で開催された、「はたらく消防の写生会」の入賞作品 99 点を展示、啓発活動用のポスターおよびちらしの設置、消防車両などの写真パネルの展示。展示を通して防災の啓発活動を行った。(エントランス)
〈ファミリーフェア〉 第 12 回全国児童館お りかみ作品展/第 18 回おりかみカーニバル	10 29 ～ 11 27 開館時間中	〈宇宙〉をテーマにした「第 12 回全国児童館おりかみ作品展」(立体 9、壁面 14、写真参加 5 の合計 28 作品)と、〈絆〉をテーマにした日本折紙協会の作品を展示する「おりかみカーニバル」を開催。折って遊ぶコーナーを土曜日、祝日に実施した。協力 日本折紙協会。(ギャラリー)
〈 " " 〉 いきいき家族写真展	11 1 ～ 30 開館時間中	本年度は〈家族の絆〉をテーマに公募、87 点の応募があった。すべての作品を 4 階ロビーに掲出し、ファミリーフェアの期間(約 1 か月)展示をした。こどもの城理事長賞ほかの優秀作品には表彰のほか、協賛企業からも賞品を贈呈した。協力 富士フィルム。(4 階ロビー)
〈ファミリーフェア〉 マックロークリーテック	11 3 開館時間中	ゴールデンウィーク(児童福祉週間)特別期間と同じ。(アトリウムほか)
〈 " " 〉 赤ちゃん大集合	11 9 10 30 ～ 15 00	「小児保健」の項(99 ページ)参照。(研修室ほか)

名 称	日 時	内 容
〈 〃 〉 共育まつり	11.3 10:30～15:00	LITの活動の一環として、青山 赤坂共育情報局の活動に、プレイと広報のスタッフとともに参加。「紙トンボ」作りの指導と、遊び場の運営を行った。会場は、桜町公園 東京ミッドタウン。LITとしては、初の外部団体主催のプログラムへの参加。主催 青山 赤坂共育情報局。
〈 〃 〉 こどもの城にレーシング カーがやってくる!	11.6 11:00～16:30	フォーミュラジャパンとスーパーGTのレーシングカーを展示。コックピット(運転席)体験、スタッフによる説明、部品のハンズオン展示、物販、レースカー イラストコーナーなどを展開。エントランスホールの展示は10月29日～11月6日。「ぼくの、わたしの乗りたいレーシングカー」イラストコンテスト応募作品(約60点)は、レース会場で11月11日から月末まで展示された。主催 富士スピードウェイ㈱。(ピロティほか)
〈 〃 〉 ファミリーフェア (開館記念) 特別期間 各部プログラム	10.29～11.30	開館記念日(11月1日)を含む、10月29日～11月30日を「こどもの城ファミリーフェア～みんなて遊んで家族の絆を深めよう～」として、「家族と一緒に楽しむプログラム」をテーマにしたプログラムを展開した。 体育＝お父さんと運動遊び(10月30日～11月27日の日曜日 祝日)／家族で体力測定(期間中の土 日曜日、祝日)／家族でスイミング(期間中の日曜日、祝日) プレイ＝おとうさんのあそび市(11月5日)／おはなし人形広場(11月3、27日)／似顔絵ペインター(10月13日～11月30日)／ハンズオン広場～みんなて体験 楽しく発見～(11月12～23日) 造形＝第17回親子体験ワークショップ くつ屋さん～トカトカくつ～(11月1～6日)／第26回造形スタジオ展(11月1～27日) 音楽＝あそびてつくる家族のWA「おとうさんも参加してね」(11月13、20、23日)／うたってファミリー「おとうさんも参加してね」(11月26、27日) AV＝みなクル工房～お父さんといっしょスペシャル～(11月6、20日)／なかよし映像広場～家族みんなて映像あそびスペシャル～(11月3日)／不思議な映像実験室～絵か動いてみえるおもちゃの展示と輪～(11月27日)／こどもの城映画劇場～カナタのアニメーション～(11月11日) 事業企画(ホランディア)＝みてこ！よってこ！てここパーク(11月23、26、27日)
〈冬休み〉 きれいな未来へ。フ リチストンこともエ コ絵画コンクール展	12.17～H24.1.9 開館時間中	「かわらないてほしいしぜんといきもの」をテーマに公募した絵画24,950点から受賞作品101作品を展示。「エコピアの森からのおくりもの」のワークショップでは、間伐材を輪切りにしたコースターに、木の葉や木の実などを使って「いきもの」をつくって遊んだ。共催 ㈱フリチストン。(ギャラリー)
〈 〃 〉 ハブハブヒータウン	12.23～16 10:00～17:00 (6日のみ16:00まで)	ゴールデンウィーク(児童福祉週間)特別期間と同じ。延べ1,321人の乳幼児親子が利用。(Aスタジオ)
〈 〃 〉 おそなえ餅つくり～ 年末にお餅つき	12.26 ① 10:15 ② 13:00 ③ 15:00	家族でもちをついて、自分の家に飾る小さな「おそなえもち」を作った。正月の文化や慣習、もち米からもちへの変化、手さわりなどを家族一緒に体験できる、人気の季節行事。参加 60家族 162人。(フリーホール)
〈 〃 〉 マックロークリーテイク	1.3 開館時間中	来館児 者に新年のあいさつ。「おとしたま」として記念品を渡すなど、日ごろの来館を感謝。(アトリウムほか)
〈 〃 〉 こま名人来たる! こまばふおーまんず	1.4 ① 11:00 ② 13:00	「こまのたけちゃん」による、投げこまやディアホロのパフォーマンス。ホランディアとともに、こま回しなども指導。正月プログラム「新春遊びのお年王」とあわせて実施。〔こどもの城〕の活動を多くの人に伝える、ピロティの活用事業。(ピロティ)
〈 〃 〉 ひひけ！めてタイコ	1.8 ① 11:00 ② 13:00	和太鼓講座の小中学生によるミニコンサート。同講座指導者かかかっている「助六太鼓」の子どもたちも加わり、にぎやかに演奏。〔こどもの城〕の活動を多くの人に伝える、ピロティの活用事業。(ピロティ)
〈春休み〉 ハブハブヒータウン	3.24～4.5 10:00～17:00 (5日のみ16:00まで)	ゴールデンウィーク(児童福祉週間)特別期間と同じ。延べ2,245人の乳幼児親子が利用。(Aスタジオ)
〈 〃 〉 第20回ニッサン ゆかいな絵本と童話展 ～なみなみあふれる うれしいきもち～	3.24～4.5 開館時間中	第27回「ニッサン童話と絵本のクランプリ」絵本大賞受賞作品『うみのそこのでんし』(作 松宮敬治)の原画や大型パネルの展示。車の内装材などを使って、宝物が入った“貝”を作るワークショップを実施し、1,154人が参加。主催 日産自動車㈱。(ギャラリー)

■■■ その他 ■■■

名 称	日 時	内 容
クラブ活動	特別期間を除く 平日の午前中	平日の午前中を利用して、保育所、幼稚園および小学校などの団体を対象に、遊びのプログラムを提供。本年度は、129 クラブ 2,989 人（前年度は 152 クラブ 3,055 人）を受け入れた。全体の 3 分の 2 が未就学児童、3 分の 1 が小学生と特別支援学級や特別支援学校、自主保育クラブ。中高校生の利用が 3 件。
こともの城友の会	通年	家族単位で入会し、〔こともの城〕の活動をサポートする。会報「こともの城友の会通信」を年 12 回発行。特典は、入館招待券のプレゼント、友の会限定のプログラム開催（3 件）、青山劇場 青山円形劇場公演への招待 優待（3 件）、〔こともの城〕内外の催しへの招待 優待（12 件）、遊び場以外の施設利用割引（売店 ホテル）などがある。新規プログラム実施の際の、モニター機能も持つ。本年度末の会員数は、540 家族（前年度は 600 家族）。
来館促進活動	〃	各種優待パスの企画、入館キャンペーンの企画 実施、〔こともの城〕の地元となる六谷区 港区内の小学校などへの働きかけなど、〔こともの城〕への来館を促進するための活動を行っている。

□□□ ボランティアの活動 □□□

■■■ 定例活動 ■■■

名 称	日 時	内 容
保育活動 (保育研究開発)	月～全曜日 10 00 ～ 16 30	保育スタッフとともに、2 歳児クラス、または 3 ～ 5 歳児グループに入り運営補助。月曜日は「おやこクラブ」の運営補助。 (保育室ほか)
赤ちゃんサロン (小児保健)	第 1 3 火曜日 11 00 ～ 14 00	小児保健スタッフとともに、乳児とその親を対象に一緒に遊んだり、親との会話、相談したい人をスタッフにつなぐなどの運営をサポート。(音楽ロビー)
ぼかぼか広場 (事業本部)	第 2 4 火曜日 11 00 ～ 14 00	各部門のスタッフが交代で担当する「子育て広場事業」のサポートを行う。 (音楽ロビーほか)
水ようこにこ広場 (紙芝居/人形劇/影絵) (プレイ)	水曜日 15 00 ～ 15 30	第 1 3 週は「紙芝居」、第 2 週は「人形劇」、第 4 週は「影絵」。各女性ボランティアグループが担当し、公演を行う。 (プレイホール)
おりかみあそび広場 (プレイ)	木曜日 14 30 ～ 15 30	毎回 1 ～ 2 種類の折り紙遊びを子どもやその親を対象に伝えながら、一緒に遊ぶ。 (プレイホール)
みんなの楽器屋さん (音楽)	木曜日 15 00 ～ 15 30	プログラム導入の手遊びなどで、子どもたちをサポート。年数回、季節にちなんだ童謡などをトーンチャイムなどで演奏することもある。(音楽ロビー)
絵本であそぼっ (事業企画)	金曜日 14 00 ～ 14 30	幼児とその親を対象に、絵本の読みかたり。その後、少しの時間、個別に絵本を読む時間も設ける。 (A スタジオ)
みかんちゃんスの オパオパサンハ (音楽)	金曜日 14 15 ～ 14 45	スタッフとともに「サンハ」のリズムを中心にリズム遊び。演奏、プログラム進行を行う。 (音楽ロビー)
布おもちゃ (事業企画・プレイ)	金曜日 10 30 ～ 15 30	プレイホール幼児コーナーの「抱き人形」や、赤ちゃんも遊べる遊具の制作。季節ごとの環境設定を手作りの手芸品で行う。 (ボランティアオフィス)
ヒックサタデー (体育)	土曜日 10 30 ～ 11 45	小 4 以上の高学年を対象にしたスポーツプログラム。ハスケットホール、ハレーホール、テニスなど基礎練習から試合まで行う。 (体育室)
不思議な映像実験室 (AV)	土曜日 15 00 ～ 17 30	来館児 者を対象に行う視覚かん具作りのワークショップ（主にくるくるアニメ）の運営補助。 (音楽ロビー)
手足の不自由な子の スイミング (体育)	土曜日 17 00 ～ 18 00	講座に参加する子どもたちにボランティアが 1 対 1 でサポート。水泳の補助や安全面に配慮する。 (プール)
土曜昔あそびの会 (事業企画)	第 2 土曜日 14 00 ～ 17 00	屋上ふしぎか丘を中心に、こまや三つ男などの伝承遊びを実施。親子での参加が目立つ。 (ふしぎか丘ほか)

名 称	日 時	内 容
こどもの城アトヘン チャー (事業企画)	月1回土曜日 1400～1630	こども活動エリア全体を使った、ウオークラリー形式のゲーム。館内に設置された課題を探し、謎解きをする。子どもたちに人気のプログラム。(全館)
ホラカフェ (事業企画)	月1回土曜日 1830～2030	青年ボランティア各グループで構成される組織。活動の活性化をめざし、交流会、学習会、機関紙の発行などを行う。セルフヘルプ活動。(研修室ほか)
キッズクラブ (プレイ)	月2回土曜日 1500～1700	小1～4を対象に行う年間をとおした活動を運営する。プログラム企画 準備、グループワーカーとしての役割を担う。(会議室ほか)
ユースクラブ (プレイ)	月2回日曜日 1300～1700	小5～中3を対象に行う年間をとおした活動で、プログラム企画 準備、グループワーカーとしての役割を担う。(会議室ほか)
L.I.T=高校生ボランティア (事業企画)	月2回日曜日 1000～1600	年間をとおして高校生が行うボランティア活動を支援。ボランティアは、プログラムを企画、準備、運営する際のアトハイス、よりよいグループ活動を行うためのワーカーとしての働きを担う。(会議室ほか)
おはなしや (事業企画)	月1回日曜日 1100～1430	本年度から、「青年人形劇」「パネルシアター」の合同公演に変更。それぞれの公演を各1回行う。公演の間は、パネル布を使ったワークショップで自由に遊ぶ時間。(プレイホール)
絵本のよみかたり (事業企画)	月1回日曜日 1400～1430	保育室の1～2歳の遊び場で絵本の読みかたり。4～5冊程度の絵本を読み、その後、自由に絵本を読む時間(約10分)も設けている。(保育室2)
つくってあそぼう!!! (事業企画)	月1回日曜日 1400～1630	小学校低学年を対象に、身近な素材で手作りおもちゃのワークショップを行う。(フリーホール)
日曜クラブ (事業企画)	月1回日曜日 1130～1200	縄跳び、フラフープ、トッシュホールなどを実施。幼児～小学生と親の参加がある。最後に、レクリエーションゲームの集い(30分)も行う。(ふしぎか丘)
女性総会 (事業企画)	月1回(年度始めに提示/火～全曜日) 1100～1200	女性ボランティア各期のメンバーが、毎月交代で会議に参加し、連絡事項、検討事項を話し合う。女性ボランティア全体の活性化をめざすことが目的。
あかちゃんといっしょの子育て学習会 (小児保健)	年3回金曜日 1030～1500	親子一緒に参加する学習会で、親が集中できるように、同じ部屋で赤ちゃんの遊びをゆったりと見守る。
花壇ボランティア (事業企画)	不定期	本年度から本格始動。エントランス近くの花壇に、「ひまわり100本計画」を企画し、ボランティアに呼びかけ、自宅の本葉まで育てて花壇に移植したか、日陰のため、花か咲かず失敗。その後は、定期的花壇の草取り、植物の植え替えなどを実施。チューリップ花壇は成功。
とり+かえっこ (事業企画)	618・19 1030～1730	“実行委員”の子どもたちの相談役兼つなぎ役。午後は「ゲーム屋さんエリア」全体を見渡し、必要に応じた最小限のサポートを心かけた。
中高生支援 「ティーンスカフェ」 (事業企画)	1211 1400～1700	本音や悩みを語り合い、未来に対して夢を持つために、3つのテーマを設け、それぞれに意見交換 意見発信を行った。高校生世代か、大学生ボランティアとともに運営にも携わり、事前準備も行った。参加21人。

■■■ 特別期間中の活動 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 おもちゃ箱シアター (事業企画)	51、3～5 公演1300と1430 ワークショップ1330～1430 キッズ人形劇団1330～	紙芝居、人形劇、影絵、絵本、パネルシアターなど、表現活動系のボランティアグループが集い、日替りて公演。また、小学生以上を対象にした「キッズ人形劇団」(1時間程度の練習の後、公演)や、ペープサートのワークショップも行う。(研修室)
〈 〃 〉 ゴールデンたぬきパラダイス ～ぼんぼこ億万長者への道～ (事業企画・プレイ)	53～8 1100～1630 (受け付け時間)	子どもから父母、祖父母まで、大人も一緒に楽しめる“たぬきのお金”を使ったゲーム。①アルハイトを模したゲームに挑戦して、仕事に見合ったお金をコツコツ貯めるゲーム ②運試し失敗するとなくなってしまうか、うまくいくと大きく増えるゲームの2種類。何度も挑戦して、たぬきの世界の大金持ちをめざすゲーム。今回は、たぬきの街をホートの上に再現して、貯めたお金をもとに家を建てる活動も行った。(ふしぎか丘)
〈夏休み〉 きょうふ <sup>17</sup> オハケ屋敷 (事業企画)	820～27 1100～1600 (受け付け時間)	ボランティア事業初の“おはけ屋敷”。「のろわれ村の七不思議」をテーマに、村を歩いていくしかけ。幼児から高校生、そして大人にも大人気となった。(フリーホール)

名 称	日 時	内 容
〈 〃 〉 あそ VIVA ☆ワール トフェスティバル (事業企画)	8.27・28 11:00～16:00	高校生ホランティア LIT の夏のプログラム。「みんな仲良くなれるんだ！」をテーマに、3つのゲームとクラフトのコーナーを実施した。クラフトで製作したものを利用して、みんなてダンスを踊る時間も設けた。(ふしぎか丘)
〈冬休み〉 新春あそびのお年玉 ～めさせ!あそびの龍人～ (事業企画・プレイ)	H24.13～9 11:00～16:00 (3日は13:00～)	「三世代で遊べる」「遊びこむ」をテーマに、こまや三つ男、おはしき、めんこなどの昔遊びのプログラムを実施。遊ぶと「七福神カード」ももらえる。それぞれの遊びで「大会」を開催。プレイ事業部との共同企画。 (屋上遊園、プレイホール、ピロティ)
〈春休み〉 ウイアー・ロホタン 研究所～キラリ、ひら めく!夢のロホット～ (事業企画)	3.24～27 11:00～16:00	段ホールを使って、子どもたちか身につける「ロホット」を制作。時間を決めて、ロホットを身につけた「ファッションショー」や会場内の行進を行う。入館の前後に作ったり、持ち帰りをして楽しんでいた (ピロティ)

□□□ 広報活動 □□□

名 称	日 時	内 容
「こどもの城ニュース」 の編集・発行	毎月1日発行	毎月1日発行。B3判、表面4色、裏面1色印刷。各号17,000部発行。主な配布先は下記のとおり。 都道府県児童館連絡協議会など(3,250部) / 都道府県児童福祉主管課(3,200部) / こどもの城友の会(約1,000部) / 渋谷 港区内の保育所、幼稚園、小中学校(330部) / 渋谷区町会ほか(220部) / 市町村(1,000部) / その他一般来館児者、視察 見学者など(約8,000部) ◇主な内容◇ 第228号(4月1日号) = 作って遊ぶ、季節の行事「造形スタジオこども歳時記」 第229号(5月1日号) = 子どもの元気が明日への力 こいのほりかいっぱい 第230号(6月1日号) = 夏休み特別期間の4つのキャンプ 集まれ!小学生 第231号(7月1日号) = 自分の手であそびなからまなふ「ハンスオン広場」 第232号(8月1日号) = 身の回りの不思議から科学遊びへ「小学生ラホタリ」 第233号(9月1日号) = 見て、まねて、うこいて遊ぼう「なかよし映像広場」 第234号(10月1日号) = 宇宙をテーマに「第12回全国児童館おらかみ作品展」 第235号(11月1日号) = 親子で遊ぶ、家族で遊ぶ「ファミリーフェア」 第236号(12月1日号) = いきいき家族写真展 冬休み特別期間 第237号(平成24年1月1日号) = 父親の子育て参画事業 「お父さんのあそび子育てプログラム」 第238号(2月1日号) = 日本の季節を遊ぼう!各月の季節行事 第239号(3月1日号) = 春は、講座 クラブ受講生による発表会かいっぱい!
〔こどもの城〕の ホームページの運用	通年	催し物情報の提供を中心に運営。日替りプログラム、季節プログラム、特別プログラム、遊び場の紹介、事前申込制で行う講座 講習会などの募集案内、小児保健クリニック、保育などの情報をほぼ毎日更新。このほか、財団法人児童育成協会、〈動くこどもの城〉など、計4サイトの更新と運営を行っている。年間閲覧ページは約760万件ページ。11月から「プログラムレポート」を開始。実施プログラムの目的、内容、状況などより詳しく紹介した。
インターネットで 行う広報	随時	無料のインターネットサービスのなかから、24年1月にYahoo 地域情報「Yahoo! ロコ」内に〔こどもの城〕ページを開設、登録者へのメール配信を開始した。また、24年3月にFacebookに加入し、毎日記事と画像を掲載する広報活動を開始した。
特別期間のちらし の作成	特別期間開始日の 1か月前	以下の催し案内ちらし ポスターなどを作成した。 ○児童福祉週間(コールテンウィーク)特別期間ちらし(A4判/4色×2色/22,000部) ○夏休み特別期間ちらし(B4判2つ折り/4色×1色/45,000部) ○冬休み特別期間ちらし(A4判/1色×1色/17,000部) ○春休み特別期間ちらし(A4判/4色×2色/27,000部) ×英語版(1色/簡易印刷)もあわせて作成した。
平成 24 年度 講座・クラブ一覽	H24.1月	新年度の講座 クラブ受講生の募集にあわせて、例年同様に一覧を作成した。B4判2ページ(2色)。31,000部印刷。
館内リーフレットの作成	H24.3月	館内案内リーフレットを更新。50,000部印刷。

名 称	日 時	内 容
その他のちらしの作成	通年	講座 クラブの募集ちらし(2期、3期、夏休み短期講座)や土曜日プログラム、高学年プログラムなどのちらしを作成。月間スケジュール(カレンダー/毎月発行)を年間延べ150,000部作成。作成した。
新聞広告		朝日小学生新聞、毎日小学生新聞への定期的な記事広告掲載のほか、経費削減のため一部を除き、夏休み特別期間の広告出稿を取りやめた。
催し物案内ほか	通年	朝日小学生新聞(年10回)と毎日小学生新聞(年1回)に定期的に記事広告を特約掲載。
夏休み特別期間のお知らせ	75～85	港区広報誌「キスポーツ」(12cm×75cm/7月5日、8月5日)、スポニチシュニア(全5段/7月8日)、埼玉少年少女スポーツ新聞(タプロイト半2段/7月13・27日)
その他の広告		新聞以外の広告媒体を使って〔こどもの城〕の催し物の案内を行った。
ウェブ	通年	以下のサイトに定期的に情報を入力し配信機能を使って広報活動を行った。毎日新聞の情報紙ウェブ版「エリア毎日」/Event Bank(㈱イベントバンク)/Dokka! 関東おてかけ探検隊(㈱Dokka エンタープライズ)/るるふ.com
読者プレゼント・割引クーポン	随時	雑誌に割引クーポン、招待券プレゼントなどと協力し、記事を掲載。「るるふこととあそぼ! 首都圏版」(5月発行 JTBパブリッシング)/「るるふこととあそぼ! 夏休み」(6月発行 JTBパブリッシング)/「まっぴる 家族ておてかけ 夏号」(5月発行 昭文社)/「まっぴる 家族ておてかけ 秋号」(9月発行 昭文社)/「こととおてかけ 365日 首都圏版」(12月発行 ぴあ)/「春ぴあ 2012 首都圏版」(24年1月発行 ぴあ)/「テーマパークぴあ 2012」(24年1月発行 ぴあ)/初夏ぴあ 2012 首都圏版(24年3月発行 ぴあ)
取材関係	通年	取材の申し込みを受け、その後記事として掲載されたり放送されたものは以下のとおり(カッコ内は前年度の数)。新聞21(30)、テレビ ラジオ20(22)、雑誌65(49)、その他33(56)で、全体では139(157)。取材を受けたところには、その後、毎月定期的にプレスリリースを送っている。さらに、取材対応とは別に、36事業について約10,000件のニュースリリースを郵送、メール、ファクスで送った。
あ・ら・かるちゃー 渋谷・恵比寿・原宿	〃	渋谷 恵比寿 原宿周辺の文化施設が集まり、交流 情報交換を行うと同時に、協力してPR活動などを行う。NHKスタジオパーク、渋谷CCレモンホール、たはこと塩の博物館、トーキョーワンダーサイト渋谷、Bunkamura、観世能楽堂、戸栗美術館、ギャラリーTOM、渋谷区立松濤美術館、太田記念美術館、地球環境パートナーシッププラザ、国連大学ギャラリー、セルリアンタワー能楽堂、白根記念渋谷区郷土博物館 文学館、渋谷区ふれあい植物センター、東京都立中央図書館、エヒスヒール記念館、山種美術館、JICA地球ひろは、東京都写真美術館、〔こどもの城〕の21施設が参加。本年度は事務局の一員として会の運営に主体的にかかわった。「こどもの城秋まつり」(9月23・24日)に輪投げのゲーム店「あらわなけ」を出店、また「渋谷区民まつり ふるさと渋谷フェスティバル」(11月5・6日)に参加して「あ ら かるちゃー」をPRした。さらに、旅行業界、出版業界対象のプレス発表 施設巡りを9月8日に開催。約20社が参加した。知名度アップを目的に参加館を巡るスタンプラリーを実施した。
青山・赤坂 ともいっ 共育情報局	〃	赤坂 青山地区の子どもを対象とする施設 団体が集まり、交流 情報交換を行い、子ども向け事業の情報提供を行った。赤坂小学校、青山小学校、青南小学校、赤坂中学校、青山中学校、青少年対策赤坂地区委員会、青少年青少年対策青山地区委員会、青山児童館、赤坂子ども中高生プラザ「なんて〜も」、赤坂図書館、NPO法人 檜町公園遊びを考える会、サントリー美術館、21-21 DESIGN SIGHT、フシフィルムスクエア、先端技術館@TEPIA、すみっこ文庫、青山ライオンキッズクラブ、港SC、みなとスポーツ吹矢会、〔こどもの城〕の20施設 団体が参加している。「共育まつり」(11月3日/檜町公園)に参加し、紙とんぼのプログラムを行った。

講座・クラブなど

クラブ

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
L.I.T (Leader In Training)	(人) 高校生 (30)	(人) 31	日曜日 1000～1600 (原則/月2回)	高校生の社会参加プログラム。トレーニング中のリーダーという意味で、[こともの城]を中心に、〈あそび〉をとおして子どもたちとふれあうボランティア活動。平成22年9月から平成23年8月まで、月2～3回活動した。年に数回、子どもたちを対象としたプログラムを企画 運営し、ボランティア活動を行うことの楽しさや喜びを体験的に学んだ。受講料=10,000円(1年間)。

専門指導者向け講習会など

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成23年度登録ボランティア研修	(人) 平成23年度 こともの城 登録希望ボ ランティア	(人) 延へ 231	4・10・17・21・23 各日 9:30～12:00	登録更新をしたボランティアを対象に、本年度の事業方針や、各部説明(今回は小児保健部の視点からの来館親子の様子)、話し合いを中心としたワークショップを実施。ボランティア活動の活性化をめざした。(会議室)

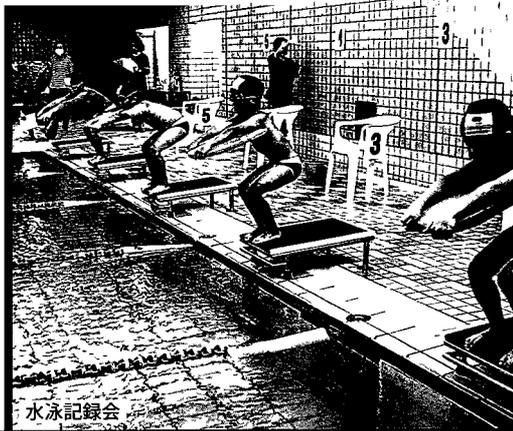
ボランティアセミナー

第64期	18歳以上 (高校生不可) (30)	18	5・15～6・4 19:00～21:00 (宿泊研修5・27～29)	大学生以上の学生 社会人が対象。大学1年生と社会人の参加が目立った。「外遊びの効果」「現代子ども事情」などの概論と、夏のキャンプを視野に入れた野外遊び。(会議室 足柄ふれあいの村)
第65期	18歳以上 (進路決定の 高校生可) (30)	31	H24・2・4～3・2 19:00～21:00 (宿泊研修2・24～26)	進路が決定した高3以上の学生 社会人が対象。大学生と20代の社会人が多く参加。「ボランティアはしめのいっぽ」「発掘」あそびこころ ことものこころ」などの概論のほか、グループ活動を中心に宿泊研修を行った。(会議室 三浦ふれあいの村)
第23期 こともの城女性ボ ランティア講習会	おおむね30 歳以上の女性 (20)	11	2・9 15 23 28 3 8	[こともの城]で定期的にボランティア活動を希望する女性にむけた講習会。「施設理解」「子ども 親理解」「活動へのオリエンテーション」などの講義。受講後、希望の活動に参加。(会議室)
クレートアップ 講習会	こともの城 ボランティア (各30)	18 17	7・2・3(夏) H24・2・17・18(春)	夏の野外活動、春の雪上活動におけるキャンプ活動の充実をはかり、ボランティアの資質向上と技術向上をめざす講習会。 (夏 埼玉県青少年野外活動センター/春 独立行政法人国立妙高青少年自然の家)

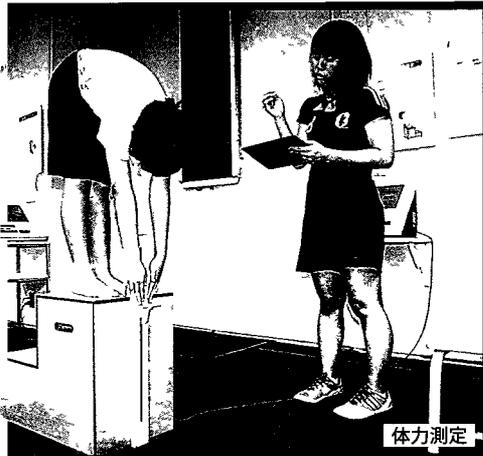
野外活動

名 称	日 時	内 容
ジュニア・アウトドア・スクール2011	8・5～11(A日程) 8・7～11(B日程)	小4～中3を対象とした全日程テント泊のキャンプ。本年度は、小学生のみ6泊7日(A日程)か4泊5日(B日程)の選択制とした。班ごとにテントを持って1泊するアウトトリップのほか、ナイトウォークラリー、大追跡ハイキングなどを楽しんだ。参加者50人。場所は独立行政法人国立花山青少年の家南蔵王野営場(宮城県)。
ジュニア・スプリング・キャンプ2012	H24・3・28～4・1	小3～中3を対象にした施設宿泊型のキャンプ。本年度は定番となっている「イクルー作り」にテーマ性を持たせ、「イクルータウン」を作った。クロスカントリースキーや雪上テント泊にチャレンジするメンバーの姿も見られた。参加者64人。場所は、独立行政法人国立妙高青少年自然の家(新潟県)。

# 体育



水泳記録会



体力測定



お父さんと運動あそび

## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

ハドミントンコート 2 面分の広さがある体育室と 25m × 5 コースの温水プールを中心に、〈あそび〉の要素が多く含まれる一般入館児・者を対象にした活動を、日曜日・祝日、特別期間（学校の長期休みなど）と土曜日の一部に行っている。火～金曜日と土曜日の一部は、水泳と体育の講座・講習会が中心。講座は年間をととしたカリキュラムを組み、子どもたちの能力に合わせた指導を展開している。

一般来館児・者に向けた体育室では、子どもたちに“運動の楽しさ”“運動のおもしろさ、大切さ”を球技や体操、運動遊びなどをとおして感じてもらうことを目的にプログラムを運営している。

また夏休み特別期間には、地下 2 階の 25m プールとは別に、屋上ちひっこプールを設営。乳児も親とプール遊びかてきできるようにしている。

本年度は、一般来館児・者に向けたプログラムでの親の参加、講座・講習会で運動や遊びの重要性を親に対して理解を求めると、子どもだけではなく親への積極的な取り組みに重点において活動してきた。一般来館児・者に向けたプログラムに参加する幼児に対しては、これまでも安全面を考えて親の参加をうながしてきたか、小学生の親にも声をかけて参加してもらった。嫌がるのではないかと危惧していたか、ころよく参加してくれる親が多く、終わった後も親との会話がてき、運動をとおしてどのように接したら良いか？などの質問をしてくる保護者もいた。

親子を対象とした講座では、運動の意味、体に対する良い影響などを説明し、理解してもらうことと関係性を深め、講座継続率を増加させることかてきた。

### ■■■ 一般利用 ■■■

平常期間の体育室は、土曜日の午後と日曜日に一般来館児・者向けのスポーツ遊びのプログラムを実施している。〈スポーツ遊び〉というネーミングは〈スポーツ〉と〈遊び〉の合成語である。〈スポーツ〉というと、特別な訓練が必要に思われて敬遠されかちなイメージかあるか、〈遊び〉を付け加えることて、“身近さ”を感じてたれもか参加したくなるようなイメージになる。気軽にスポーツに親んでもらうということからこの表現となり、今に至っている。

種目はドッジホールやサッカーなど、なしみのある種目からプラスチックのスティックを使つて

プレイするユニホック (ホッケー) などのニュースポーツも多く取り入れている。通常、前半は練習をして後半は試合を行っている。また、特別な道具を使わなくても、かなりの運動量が期待できて、どこでも手軽に楽しめる鬼ごっこを祝日に取り上げている。一口に鬼ごっこといっても、さまざまな種類のものがある。[こともの城] では、幼児や親子でも楽しめるように指導方法や遊び方にアレンジを加え、誰にでもできるように工夫して実施している。

健康開発室では、入館料とは別に利用料 100 円で体力測定を行っている。年齢・性別に応じた全国平均値と比較できるようになっていて、半年～1 年おきに来館して、体力測定をするリピーターも増えている。

### ■■■ 講座・クラブなど ■■■

親子、幼児、小学生 (「シニアスイミング」「新体操」は高校生まで) を対象に水泳・体育の講座を開講している。親子の講座は体操と水泳に分かれ、対象年齢は 1・2 歳、2・3 歳の枠で行っているか、常に満員状態が続いている。親と子と一緒に体を動かすことでコミュニケーションをはかる良い手段となっているようだ。

水泳の講座は水のなかでの活動のため、指導者は常に気を使い水の事故が起きないように注意しながら指導にあたっている。また、最近は“体育の家庭教師”がブームということもあり、小学生の体育の講座を受講する子ともたちが増えてきている。「手足の不自由な子の水泳」講座も開講していて、保護者の運転で遠方から通ってくる受講生も多い。

年度の後半には、水泳講座受講生の「水泳記録会」、新体操講座受講生による「新体操発表会」を行い、活動の成果を保護者に見てもらう機会としている。シニアクラスは水泳・新体操ともに、年数回ある対外試合に参加して種目別で上位の成績を収めている。

成人向けには、「レディースコース～レディース・スイミング/レディース・リズム&ストレッチ」を午前中に開講している。また、一般向けの「成人集中水泳教室」(週 2 回 18～19 時) には、10 年間以上にわたって通っている人も多く、マスターズ大会にも出場している。大人の会員制スポーツクラブ「ダイナミックヘルスクラブ」は、子ともたちの講座が無い昼間 (12 時～13 時 30 分) と夜間に運営している。近隣で生活されている人や勤務先が近くにある人が多く利用している。

## □□□ スポーツ遊びプログラム □□□

### ■■■ 特別期間のスポーツ遊びプログラム ■■■

特別期間 (児童福祉週間=コールドンウィーク、夏休み、冬休み、春休み) の体育室の活動は、利用者のニーズや季節にそったテーマを決めて、年度ごとにプログラム作りをしている。一般に来館する子ともや親子を対象にしているため、集まった子ともたちの年齢もさまざまであり、その時々の子ともたちの様子をみながら、参加者全員が楽しめるようにアレンジを加えて行っている。

児童福祉週間 (コールドンウィーク) 特別期間ではここ数年、“運動会”をテーマにしたプログラムを行っている。たれもが一度は経験がある“運動会”は、徒競走のようなスポーツ的な種目だけではなく、玉転かしのような遊びの要素を持っている種目も多く、親子で楽しめるプログラムとして最適である。運動会の種目を行うだけではなく、勝つための方法やコツを伝えることでより興味、関心かわき、参加者は親子で盛り上がっていた。

夏休みは、特別期間のなかで一番長く、数多くのスポーツやスポーツ遊びを子ともたちに提供できる。それだけに、とくにポイントとなるテーマを定めるかが、毎年苦労するところである。本年度は、“こつ”に着目した。さまざまなスポーツを楽しむこつ、うまくできるこつ、勝つためのこつなど、日替わりで取り上げるさまざまなスポーツの“こつ”を、練習や試合のなかに盛り込んで子ともたちに伝えた。



バスケットボール

特別プログラムとして、夏休み前に日本ライフセービング協会の協力で「It's ライフセービング～たのしい夏にするために～」を行った。水辺での安全を学ぶプログラムで、海の危険な生物や着衣泳、トラブル回避の方法などのレクチャーと実習。今では、毎年恒例になり好評を得ている。

冬休み特別期間は、年末と年始で異なるプログラムを行っている。年末は、1年の総決算で、今年子どもたちに人気のあったスポーツを取り上げ、1日2種目で6日間12種目のスポーツを行った。各種目とも、練習を控えめにして試合中心の流れでスポーツを楽しんだ。

年始は、これまでも正月にちなんだ遊びをテーマにしてきた。本年度は、スポーツ遊びとは直接結びつかないが、七福神を取り上げた。七福神をめぐる——朱印帳にスタンプを集める「七福神めぐり」にヒントを得て、「七福神スポーツあそびめぐり」を行った。行動体力(柔軟性、瞬発力、敏捷性など)を使わなければ遊べないポイントを5つ常設し、クリアしたらスタンプがもらえる。残り2つのスタンプは、スタッフが行う運動プログラムに参加すると集めることができる。7つのスタンプを朱印帳に集めるゲームであるが、七福神を知らない子どもたちでも楽しめた。1日でス



スポーツ鬼っこ大会 こどもの城CUP

スタンプがそろわなくても、期間中いつでも使えるので、再来館をうながすことを意図した試みであった。これをきっかけに実際の七福神めぐりに行ってみますという保護者もいた。

春休み特別期間は例年、誰にでも簡単に遊ぶことができるものを取り上げている。昔からある伝承遊びや鬼っこを公園で行うことをイメージとし「汗かきあそびツーパーク」というネーミングにした。体育室は地下2階(B2=ヒーツー)にあることからこの名前がつけられた。

### ■■■ その他のプログラム ■■■

開館記念日(11月1日)の前後は、例年家族を対象に運動プログラムを実施している。最近、父親の子育て参加がクローズアップされてきたので、父親と子どもともに焦点をあてて、父親の力強さという特徴を生かした親子体操・親子でスポーツを楽しむプログラムを企画。ファミリーフェア期間中(10月29日～11月30日)の日曜日・祝日の14時に、「お父さんと運動あそび」を行った。

## □□□ まとめ □□□

〔こどもの城〕の体育プログラムは、運動することの楽しさや、おもしろさを体で感じてもらうことを第一に考えてプログラム作りをしている。最近、新聞や週刊誌などで「今の子どもたちの体力は?」とか「子どもの体力低下に拍車」などの見出しをよく目にする。〔こどもの城〕でも体力測定を行っているか、子どもたちを取りまく環境はかなり厳しいものがあるようだ。

子どもは目で見て感じ、興味の有無を判断する。もともと運動が好きな子どもは別として、苦手意識がある子どもは興味がいたかないことが多い。学校の授業を含めて〈体育〉という領域は、ちょっとしたことがきっかけになって嫌いになりかねない要素を持っている。嫌いだからといって体を動かさないしていると、〈体力〉が身につかない。せひとも興味を持って、体を動かしてほしい。

〔こどもの城〕では、来館した子どもたちが楽しそうに感じ、おもしろさか見てとれるプログラム作りを行ってきた。オリジナルのプログラムでは、「ウォールサッカー」「スポーツ鬼ごっこ」などがある。ウォールサッカーは、書いて字のこたく壁を利用したサッカーである。ドリブルで相手を抜くとき一度ボールを壁にあて、跳ね返ってきたホール確保してゲームを有利に展開できる。このようなちょっとした工夫を入れ込むことで、同じサッカーでも興味ややる気を起こさせ「やってみよう!」という気持ちを引き出すことができる。

多岐にわたる子どもの指導でつちかした経験と工夫から、さまざまなプログラムを開発し、実践してきた。このような試みか、ナショナルセンター〔こどもの城〕としての使命と考える。運動への興味か、最終的に子どもたちの体力向上につながってくれればと願っている。

# 平成 23 年度活動一覧表

## □□□ 一般利用 □□□

### ■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
プール一般利用	日曜日 祝日 10 30 ~ 17 00	日曜日、祝日にそれぞれの時間帯で一般利用。18 歳以上 300 円、小 1 ~ 17 歳 200 円、幼児 100 円。レンタル (タオル 水着) 各 200 円。幼児は保護者か 1 対 1 で付き添って利用。 (プール)
体育室一般利用	土曜日 14 00 ~ 15 00 日曜日 祝日 14 00 ~ 15 00 16 00 ~ 17 00	日曜日 14 時と 16 時の 2 回、土曜日 14 時に練習とゲームを行い、それ以外の時間帯はフラインクディスクのフリースローインク。第 1 日曜日 フラインクディスク (14 時)、サッカー (16 時) / 第 2 日曜日 トッシホール (14 時)、ユニホック (16 時) / 第 3 日曜日 卓球 / 第 4 日曜日 サッカー (14 時)、トッシホール (16 時) / 第 5 日曜日 ユニホック (14 時)、フラインクディスク (16 時)。土曜日は、日曜日の 14 時の種目。卓球は終日卓球の自由利用 (混み合う場合は各グループ 20 分交代で利用)。利用時間は土曜日か 13 時 30 分 ~ 16 時、日曜日か 10 時 ~ 17 時。土 日曜日と重ならない祝日は、鬼こっこ。 (体育室)
体力測定	土曜日 14 00 / 15 00 日曜日 祝日 11 00 / 13 00 / 14 00 / 15 00 / 16 00	8 種目の体力測定を行っている。4 歳児くらいから大人までか利用でき、小学生以上は男女別に全国平均値と比べることかできる。利用料は 1 回 100 円。 (健康開発室)
ヒックサタデー	土曜日 10 30 ~ 11 45	小学 4 年生以上か対象。クリケット、タクラクヒー、ハレーホール、バスケットボール、ハトミントンなどの種目をほぼ 2 か月交代で取り上げ、技術や戦法、ルールなどを指導。ゲーム (試合) の楽しさ、おもしろさを体験できるようにした。 (体育室)
ファミリー アトヘンチャー	5 22 7 31 10 30 H24 3 18	身の回りかあるいろいろな "冒険" を家族で楽しむ野外プログラム。参加家族かふれあいなから、自然のなかか不思議を発見、新鮮な出会いなど、ちょっとした "冒険" にチャレンジ。参加費 = 500 ~ 2,000 円 (1 人)。 □ 5 月 22 日 = パークアトヘンチャー ~ なつかしのサリカニ釣りに挑戦 !! (水元公園 = 東京都) × 東日本大震災の影響で中止 □ 8 月 1 日 = 川遊びアトヘンチャー ~ 思いっきり川遊び (伊奈キャンプ場 = 東京都) □ 10 月 31 日 = クイスハイキングに挑戦 !! (台東区浅草周辺 = 東京都) □ 平成 24 年 3 月 18 日 = ネイチャーゲームに挑戦 (江東区木場公園 = 東京都)
It's ライフセーヒンク	7 18 10 30 ~ 11 50	海の安全についての学習や着衣泳を実践。小学生以上の子ともとその親 37 人か参加。先着予約制。参加費 500 円。協力 日本ライフセーヒンク協会。 (プール)
スポーツ鬼こっこ大会 こともの城 CUP	10 10 14 00 ~ 17 00	オリジナルの「スポーツ鬼こっこ」(自分の陣地の宝を取られないように守りながら、相手チームの宝を取りに行く、点数制で勝敗を決める鬼こっこ) の大会を開催した。その日に集まった子ともたちで作ったチームと、講座に参加している子ともたちで作ったチームなどか、チーム対抗で優勝を争った。 (体育室)
第 24 回水泳記録会	12 11 13 00 ~ 17 00	水泳講座生の記録会。25m 完泳できる講座生か対象たか、完泳できない講座生も参加できる「チャレンジ 25」も設けた。エントリー (1 人 2 種目 = 1,000 円) を行い、年齢別、男女別で記録に挑戦。幼児 29 人、小 中学生 164 人参加。 (プール)
第 23 回 新体操発表会	H23 3 20 10 30 ~ 12 00 14 00 ~ 15 30	「ジュニア新体操」「シニア新体操」の受講生による発表会。1 年間の成果を発揮し、家族の前で演技を発表した。今年のテーマは「ミラクルアワー」—— 新体操で、童話の世界を表現。3 歳以上を対象にした体験コーナーも。 (体育室)

■ ■ ■ 特別期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 サ！運動会	5 1、3～5 14 00～15 00 16 00～17 00	昔からある運動会の種目から珍しい種目まで、その日に集まった子どもと親がチームに分かれ、運動会の種目を楽しんだ。勝つためのひけつを伝授。 (体育室)
〈 " " 〉 親子 DE 運動会	5 1、3～5 11 00～12 00	幼児と親を対象に運動会種目を楽しんだ。小学生と親も参加可。 (体育室)
〈夏休み〉 スポーツあそび 100 の秘けつ	7 16～8 31 14 00～15 00 16 00～17 00	1 日 2 種目のスポーツや運動遊びを行いながら、その種目の特徴に応じて楽しみ方や勝つためのこつを伝えた。また、外部講師 (日本トランポリン協会) を招いてトランポリンを行った (8 月 13 日)。 (体育室)
〈 " " 〉 ちひっこプール	7 21～8 31 10 30～16 30	屋上に仮設プール (136 × 5m、水深 60cm) を設置。一般利用。利用料 200 円、レンタル (タオル 水着) 各 200 円。 (屋上遊園)
〈冬休み〉 2011 年 スポーツ総決算	12 23～28 14 00～15 00 16 00～17 00	体育室で行ってきたスポーツ 運動遊びのなかから、子どもたちに人気のあった種目を選び 1 日 2 種目実施した。 (体育室)
〈 " " 〉 七福神 スポーツあそびめぐり	H24 1 3～9 14 00～15 00 16 00～17 00	七福神めぐりのように " 朱印帳 " を片手に、5 つの常設運動プログラムめぐりに挑戦。クリアすることにスタンプがもらえる。残りの 2 つのスタンプは 2 時と 4 時に体育室で行われる運動プログラムに挑戦して集める。 (体育室)
〈春休み〉 汗かき あそびーツーパーク ～からたを動かして汗をかく ってこんなに気持ちイイ～	3 24～4 5 14 00～15 00 16 00～17 00	体育室を " パーク (公園) " に見立て、スポーツにこたわらずに、縄跳び遊び、靴飛ばし、鬼ごっこなど、昔から伝わる体を動かす遊びを取り上げた。 (体育室)
〈全期間〉 体力測定	11 00 / 14 00 / 15 00 / 16 00 (日・月曜日 祝日は 13 00 の回あり)	身長、体重、握力、垂直跳び、肺活量、立位体前屈、反復横跳び、閉眼片足立ちの 8 種目を測定。1 回 100 円。 (健康開発室)
〈 " " 〉 プール一般利用	10 30～17 00	18 歳以上 300 円、小 1～17 歳 200 円、幼児 100 円。レンタル (タオル 水着) 各 200 円。幼児は保護者が 1 対 1 で付き添って利用。日によって利用時間が異なる。 (プール)

□ □ □ 講座・クラブなど □ □ □

■ ■ ■ 講座 ■ ■ ■

× 講座回数 = 1・2 期 13 回、3 期 9 回

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
親子水泳	A 1 2 歳児 と親 (30)	(組) ① 20	水曜日 10 00～11 00 (全 35 回)	親と子を対象とした水泳コース。土曜日のコースは父親の参加が多い。父親が参加することで、よりダイナミックな動きかてきる。受講料 = 1 2 期各 29,000 円、3 期 20,000 円。
		② 28 ③ 21		
"	B " (")	① 34	土曜日 10 00～11 00 (全 35 回)	
		② 35 ③ 32		
幼児水泳	A 3 4 歳児 (50)	(人) ① 16	木曜日 14 00～15 00 (全 35 回)	単に泳法の修得だけでなく、水中でも楽しく活動できるように指導。プールでの活動をとおして、水に慣れることやバランスよく水に浮く感覚など、水泳に必要な運動の基礎を身につける。クラスの人数も少ないので、ゆったりとした雰囲気で行われている。6 段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。受講料 = 1 2 期各 22,500 円、3 期 15,500 円。
		② 22 ③ 20		
"	B 4 5 歳児 (60)	① 46	木曜日 15 00～16 00 (全 35 回)	
		② 46 ③ 39		
"	C " (")	① 27	金曜日 14 30～15 30 (全 35 回)	
		② 27 ③ 30		

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児水泳 D	(人) 3~5 歳児 (50)	① 44 ② 49 ③ 52	火曜日 14 30 ~ 15 30 (全 35 回)	水慣れから泳ぎへと個人差に応じた班分けを行っている。クロールなどの練習のみならず、幼児期に必要な水中感覚を得られるように指導を行っている。6 段階にレベル分けをして、次のステップへの目標としている。
"	" (//)	① 40 ② 47 ③ 46	水曜日 13 30 ~ 14 30 (全 35 回)	受講料 = 1 2 期各 22,500 円、3 期 15,500 円。
幼児体育 A	3・4 歳児 (40)	① 19 ② 23 ③ 16	水曜日 14 30 ~ 15 30 (全 35 回)	たくさんの友たちと一緒に思いきり体を動かし、運動遊び、リズム遊びなど楽しみながら健康な体や運動の基礎を作る。 受講料 = 1 2 期各 20,500 円、3 期 14,000 円。
"	B 4・5 歳児 (40)	① 15 ② 16 ③ 18	火曜日 15 00 ~ 16 00 (全 35 回)	「幼児体育 A」を土台にして、それを発展させながらさまざまな運動を体験し、体の使い方を学んでいく。 受講料 = 1 2 期各 20,500 円、3 期 14,000 円。
"	C " (//)	① 15 ② 10 ③ 9	木曜日 15 00 ~ 16 00 (全 35 回)	
小学生水泳 A	小 1 ~ 6 (60)	① 24 ② 16 ③ 14	水曜日 15 00 ~ 16 00 (全 35 回)	生涯楽しめるスポーツ「水泳」を基礎から学び、4 泳法をマスター。「シニア スイミング」へのステップアップが目標。各期の後半に進級テストを実施 (10 級 ~ 1 級)。次への目標としている。 受講料 = 1 2 期各 22,500 円、3 期 15,500 円。
"	B " (//)	① 29 ② 28 ③ 25	火曜日 16 00 ~ 17 00 (全 35 回)	10 級 顔つけ もくり 息こらえ ホビーク 水なれ 9 級 伏し浮き 背浮き 板キック ホティーイメーシ 1 8 級 伏し浮きキック 背浮きキック ホティーイメーシ 2 7 級 ノーフレクロール ハックキック ホティーイメーシ 3 6 級 クロール ハック (125) フレスト ハタフライ (キック) 5 級 クロール ハック (25) フレスト ハタフライ (リズム) 4 級 クロール ハック (50) フレスト ハタフライ (呼吸) 3 級 クロール フレスト (タイム) 個人メトラー 2 級 個人メトラー (100) (タイム) 1 級 個人メトラー (200) (タイム) ×ハランス良く発達かてきよう「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳 (小学生のみ)」の 2 講座の受講かてきよう。 受講料 = 1 2 期各 29,000 円、3 期 20,000 円 (2 コース合計)。
"	C " (//)	① 56 ② 53 ③ 50	水曜日 " (全 35 回)	
"	D " (//)	① 25 ② 19 ③ 21	金曜日 15 30 ~ 16 30 (全 35 回)	
"	E " (//)	① 51 ② 40 ③ 33	木曜日 16 00 ~ 17 00 (全 35 回)	
小中学生水泳 A	小 2 ~ 中 3 (30)	① 14 ② 14 ③ 12	火曜日 17 00 ~ 18 00 (全 35 回)	×「小中学生水泳 A」は、クロールで 25m 以上泳げる人限定。
"	B " (50)	① 50 ② 52 ③ 41	木曜日 " (全 35 回)	
シニア スイミング	小 1 ~ 高 3 (30)	① 29 ② 27 ③ 33	火・水曜日 16 30 ~ 18 00 (全 70 回)	「小学生水泳」からのステップアップ講座。4 泳法とも、自己記録の向上をめさす。指導者の推薦が必要。受講料 = 1 2 期各 22,500 円、3 期 15,500 円。 ×「シニアスイミングフレッシュ」の時間帯にも練習可。
シニア スイミング フレッシュ	小 3 ~ 高 3 (30)	① 30 ② 32 ③ 27	金曜日 16 30 ~ 18 00 (全 35 回)	小学 3 年生以上で泳ぎか不得意な子どものクラス。クロールで 25m 以上泳ぐことを第一目標に練習。90 分の集中的な練習で上達の度合いか大きい。受講料 = 1 2 期各 22,500 円、3 期 15,500 円。
小学生体育 A	小 1 ~ 6 (30)	① 21 ② 19 ③ 18	火曜日 16 00 ~ 17 00 (全 35 回)	器械体操、球技を中心に多種多様な運動経験をおとして苦手な種目を克服する。さらに、鬼ごっこなどを取り入れ、持久力も身につける。受講料 = 1 2 期各 17,000 円、3 期 11,000 円。 ×ハランス良く発達かてきよう「小学生体育」と「小学生水泳」「小中学生水泳 (小学生のみ)」の 2 講座の受講かてきよう。 受講料 = 1 2 期各 29,000 円、3 期 20,000 円 (2 コース合計)。
"	B " (//)	① 20 ② 19 ③ 17	木曜日 " (全 35 回)	

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ジュニア新体操	(人) 小1～3 の女子 (35)	(人) ① 15 ② 16 ③ 15	水・金曜日 15:30～17:00 (全70回)	跳ねたり、跳んだり、回ったり、リボンやホールを使って楽しく体を動かす。基礎的な運動も含めた新体操の初歩を指導。 受講料＝1 2期各29,000円、3期20,000円。
シニア新体操	小4～高3 の女子 (35)	① 19 ② 16 ③ 15	水・金曜日 16:30～18:00 (全70回)	「ジュニア新体操」から一步進んで新体操独特の美しい表現かてきるように練習。創作活動や発表会も開催。 受講料＝1 2期各29,000円、3期20,000円。
手足の不自由な 子の水泳	小1 ～中3 (15)	① 12 ② 12 ③ 11	土曜日 17:00～18:00 (全35回)	身体に障害があり、水泳の機会に恵まれない小・中学生が対象。スタッフ、ボランティアの個人指導を中心に楽しく活動。 受講料＝1 2期各17,500円、3期12,000円。

### ■■■ クラブ ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダイナミック・ ヘルス・クラブ (D.H.C)	(人) 成人 メンバー ヒシター 法人	(人) 年間延々 5,398 721 7	火～土曜日 12:00～13:30 18:00～21:00 日曜日 祝日 18:00～20:00	18歳以上の大人のためのクラブ。プール、体育室、シムを利用して体力作り、健康管理のために最適な環境で楽しく活動。個人会員は、入会金100%オフ、会費20%オフキャンペーンを実施して、新規会員の募集に努めた。入会金0円、年会費50,000円、4か月会費20,000円、月会費5,500円、利用料(利用の都度)300円。利用パス券(月3,000円、4か月11,000円)、ヒシター1,500円。
レディース コース スイミング リズム& ストレッチ	18歳以上 の女性 (122)	① 43 ② 36 ③ 43	火・木曜日 10:00～11:00 水曜日 10:00～11:00 土曜日 11:00～12:00	スイミング3コース、リズム&ストレッチ1コースを併せてレディースコースとし、チケット制でのコースでも参加できる。チケット終了後は6回分の追加利用券を発行。生活習慣のなかに定期的な運動を取り入れることが健康作りの第一歩。各クラスとも4班編成。それぞれのレベルにあった班を選択し、「スイミング」ではクロールの練習から4泳法を身につけることを目標に健康作り。「リズム&ストレッチ」ではゆったりと気持ちのよいストレッチと軽快なリズム運動で、楽しく動きながら明日への活力を生み出す。受講料＝1 2期各22,500円(13回分)、3期15,500円(9回分)。利用券(6回)5,000円。

### ■■■ 講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
母と子の すくすくランド	(組) おすわりの できる 乳児(5～ 8か月前 後)と母 親(30)	(組) ① 20 ② 30 ③ 30	金曜日 10:00～11:00	はいはいから歩行へと成長していく時期の赤ちゃんを対象に、楽しい体操や親子での遊び。お母さんのシェイプアップも。 受講料＝1 2期(各10回)各24,500円、3期(9回)22,000円。
幼児・母親体育 A	1・2歳の 子とも と母親(30)	① 29 ② 33 ③ 30	火曜日 13:30～14:30	親子が体育室でリズムに合わせて跳ね、跳ひ、走るうちに運動神経を養い、体を動かすことの楽しさを身につける。 受講料＝1 2期(各10回)各20,500円、3期(9回)18,000円。
〃 B	2・3歳の 子とも と母親(30)	① 22 ② 29 ③ 32	水曜日 11:00～12:00	
ばちばち ファミリースイム A	1・2歳の 子とも と父母、 祖父母(30)	① 14 ② 23 ③ 8	金曜日 10:00～11:00	1歳から始まる水泳のヒキナークラス。父母、祖父母のうち2人と幼児の組み合わせで参加できる。水慣れから、楽しい水泳活動をとおしてコミュニケーションも深めていく。 受講料＝1 2期(各10回)各26,500円、3期(9回)23,500円。
〃 B	〃	① 21 ② 31 ③ 28	土曜日 14:00～15:00	

■ ■ ■ 短期講習会 ■ ■ ■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏休みこども 集中水泳講習会 A	(組) 小1～中3 (50)	(組) 50	7 21～25 9 30～10 30	5 日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法を体験。受講料 = 8,000 円。
〃 B	4・5 歳児 (40)	40	7 21～25 10 30～11 30	
〃 C	小1～中3 (50)	50	8 11～15 9 30～10 30	
〃 D	4・5 歳児 (40)	40	8 11～15 10 30～11 30	
カンハ 2011	小1～3 (30)	30	8 4～8 9 30～10 30	器械体操や球技などの基本動作を身につける、体操の苦手な子どものための 5 日間連続の体操教室。受講料 = 9,000 円。
春休みこども 集中水泳講習会 A	小1～中3 (50)	50	H23 4 1～5 9 30～10 30	5 日間の集中練習で泳力アップといろいろな泳法体験。受講料 = 8,000 円。
〃 B	4 5 歳児 (40)	40	4 1～5 10 30～11 30	
成人水泳 集中講習会	18 歳以上 (月 20)	延へ 101	水・金曜日 18 00～19 00	18 歳以上の初心者やレベルアップを考えている人の集中水泳講習会。月ごとに募集を行い、各月の講習種目に合わせて指導を行う。受講料 = 10,000 円 (各月 7 回)。

■ ■ ■ 野外活動 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
スポーツキャンプ	7 26～29	大自然に囲まれたニュー クリーンピア津南でテニスや球技などのスポーツやトレーニングをとおして、全力を出した爽快感、充実感を味わうキャンプ。自分の体の感覚やバランスをしっかりと感じ、体力的にも、精神的にも成長することを目的とした。参加費 = 小学生 50,000 円、中学生 54,000 円。 (新潟県 ニュー クリーンピア津南)
新体操夏合宿	—	例年、福島県東白河郡矢祭町の「ユール矢祭」で実施してきたが、東日本大震災の影響で中止。
水泳合宿	8 2～4	「シニアスイミング」受講生を対象とした水泳合宿。本年度は熱海市(静岡県)で実施。1 日 2 時間の練習 2 コマのほか、筋力トレーニングや海水浴も行った。参加 13 人。 (静岡県 マリンスパあたみ)
チャレンジキャンプ	8 25～28	チャレンジの言葉とおり、何にでも挑戦していく、低学年の体験キャンプ。かんはつた子ともたちには、大きな満足感と達成感。生活面は、ボランティアアリーダーを中心に、仲間と協力して過ごす。小学 1～3 年生 33 人が参加。参加費 48,000 円。 (山梨県 東京 YMCA 山中湖センター)
スキースクール パート 1 1 期 〃 2 期	12 26～29 H23 1 4～7	1 期はスキースクールに最適な北志賀高原よませスキー場(長野県)。2 期はファミリー向けケレンデで安心して楽しめるニュー クリーンピア津南(新潟県)。2 期は新学期が始まる前なので、往復の疲労の軽減をはかるため新幹線を利用。2 期は中学生のみスノーボードのレッスンあり。小学 2 年生～中学 3 年生が対象。1 期は 38 人、2 期は 30 人参加。参加費 = 1 期 58,000 円、2 期小学生 58,000 円、中学生 62,000 円。
スキースクール パート 2	3 26～29	小学 1～3 年生の低学年が対象のスキースクール。パート 1 と異なり、スキーのみならず「班対抗雪合戦」「雪上運動会」などレクリエーション的なプログラムも多く含む。34 人参加。参加費 59,000 円。 (新潟県 ニュー クリーンピア津南)

# プレイ



春た！むすんで・つないで・あそぼう



ハンスオン広場 (チョコペタあそび発明所)



パソコンルーム (ピタッとパズル)

## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

本年度は、①常設プログラムと遊具の充実による遊び場の機能・魅力の向上 ②家族向けプログラムの充実(父親の子育て参画支援) ③効率的な運営 — の3事項を重点目標として運営した。

プレイホールに常設されている遊びのコーナーでは、遊具を更新するなどして整備をはかった。また、遊び場としての魅力を向上させるために、特別期間のプログラムとして行っている「ハンスオン広場」(自ら体験し、何かを発見することを大切に、遊ひながら学ぶことを楽しむ活動)にアレンジを加えて、平常期間にも実施するようになった。

家族向けプログラムの「ファミリープレイタイム」を復活させた。予約制にもかかわらず毎回ほぼ満員になり、親子で一緒に楽しむこと=共通体験へのニーズの高さかうかがえた。「ダンホールでめいろをつくろう」「手打ちうどんに挑戦」「スネークパン」「みつうま」など、父親も参加したくなるようなプログラムに設定した結果、父子での参加が多く見られるようになった。これまでは、「親子プログラム」というと母子の組み合わせが多かったが、参加延べ数 56 家族 136 人て 1 家族平均 2.4 人が示すように、家族で参加する姿も目立った。

プレイホール内の小中学生コーナーの受け付けをなくした(ハンパーの受け付けを除く)。また、2つのコンセプトのもとで2か所(10階パソコンルームと3階コンピュータプレイルーム)で行ってきた活動を1つに整理して、パソコンルームの名称で運営の効率化をはかり、その分プログラム活動の企画運営により力を注いだ。

「クリスマス人形劇フェア」では大学の児童文化研究会や人形劇サークル、「おとうさんの遊び市」では父親の子育てグループなど、外部団体との交流をはかりながら活動を行った年でもあった。

### □□□ プログラム活動 □□□

#### ■ ■ ■ 一般来館児・者向けプログラム活動 ■ ■ ■

一般来館児・者活動は、さまざまな遊びの要素があるプレイホールや屋上ふしぎか丘などの遊び場の管理・運営と、プレイホールなどで行われるプログラムの企画・運営とに分かれる。

常設の遊び場では、これまで「高学年コーナー」という名称だった学童向け(小4以上)の対戦

型遊具のコーナーの遊具を一部見直し、対象年齢を1年生からに引き下げた。同時に、受け付けも廃止して「小中学生コーナー」という自由利用の遊び場とし、気軽に利用できるようにした。ハンパーのみ小4以上が対象で、受け付けが必要。

パソコンルームは、前年度の倍以上、ここ10年間でも最大の利用者(23,728組 34,940人)であった。これまで、3階コンピュータプレイルームと10階パソコンルームに分かれていたパソコン遊びの場所が、プレイホール内の“新パソコンルーム”になったのか一番の要因と考えられる。

本年度も平常期間のプレイホールでは、ボランティアが中心となって行う“お話”や“折り紙”のプログラム、さまざまなおもちゃを週替わりで登場させるプログラム、科学遊びプログラム、プロの劇団の人形劇を楽しむプログラムなどを実施した。「みんな集まれ あそぼうタイム」は、都民の日や近隣の県・市の記念日など、平日でも来館児・者が多い日に開催した。

また、“体験型の遊び”プログラムを2か月程度ごとにプログラムを交代させて提供する「ハンズオン広場コーナー」を常設した。特別期間のプログラムとして実施してきた「買物っこ」「ネシて遊ぼう」などで遊べるようにした。

七夕や節分、ひなまつりなどの季節行事も引き続き実施し、子どもたちに単に楽しんでもらうだけでなく、その由来や昔から込められている願いを、プログラムをとおして伝える工夫をした。

また、学校の季節休みなどの特別期間には、ダイナミックなゲーム大会や伝承遊びを特集したプログラム、いろいろなことを体験しながら楽しく学ぶ「ハンズオン広場」などを実施した。

前年度までコールドウイーク(児童福祉週間)特別期間に、大学の人形劇・児童文化研究サークルネットワーク「しゃんくるしむ」、人形劇団ネットワーク「パペットマーケット」と共同で実施していた「人形劇フェア」は、冬休み特別期間にプレイホールで「クリスマス人形劇フェア」として実施した。春休みを利用して準備をしていた前年度に比べ、秋の大学祭や校外活動などの合間をぬって準備をしなければならないこと、会場の変更によるとまどいなどか大学生側に見られたが、例年よりもたくさんの子ともたちでにぎわった。

## ■■■ 講座・グループ活動・野外活動など ■■■

### 【講座「キッズクラブ」「ユースクラブ」】

本年度の「キッズクラブ」は、外部の協力を得て、2回連続のプログラムを1期と2期にそれぞれ実施した。さまざまな分野に精通した大人とふれあうことの大切さを知ることや、工作やこま回しなどの手業を使うことは、今の子どもたちにとって必要なことであると改めて感じた。

「ユースクラブ」は、年間のまとめの活動として、[こどもの城]来館児・者を対象にした館内ラリーを企画・運営した。自分たちで企画したプログラムに、来館児・者に参加してもらうという活動をとおし、クラブへの帰属感や自分たちらしさとはなにかを実感できるものとなった。

### 【グループ活動】

プレイのグループ活動は、忍者修行、魔法学校などの世界観をぶっ遊びや劇遊びに仕立て、より楽しめるように工夫した内容。集団のなかでの自己表現や、仲間作りに大切な“共感”をしながら目的を達成することを重視している。保育所・幼稚園・小学校、特別支援学校の小学部が多く利用している。

本年度は、特別支援学校中学部を「こどもの城オリンピック」で受け入れた。身体も大きく、プ



ちひっこ冒険団

レイホールでは手狭な様子ではあったが、レクリエーションとして楽しんでた。年齢の高い中学部の子どもたちの利用目的に沿っていたか心配したか、“校外での社会体験の一つとしての利用”とのことで、内容も含めて満足いくものであったとアンケートで回答があった。今後とも、受け入れ体制など施設全体での調整も含めて、さらに充実した利用しやすい内容をめざしたい。

### 【野外活動】

“子どもを心身ともに健やかに育成する”

ことを目的とした児童館にとって、現代の子どもたちが置かれている状況を考えたとき、野外活動（キャンプ）は児童の健全育成活動のための有効な手段の一つと考えられる。

プレイ事業部では、夏休みと冬休みの特別期間に、小学校低学年を対象とした2つのキャンプを実施した。例年、実施場所は福島県的那須甲子青少年自然の家だったが、東日本大震災の避難所となったこと、原発事故による不安要素がぬぐいされなかったことから、本年度は埼玉県青少年総合野外活動センターに変更した。

「ちびっこ冒険団」では、2日目にキャンプ場を離れ、県民の森までハイキング。リーダーか扮する地元のラジオ局が「ちびっこ冒険団」を訪れ、生放送で秩父の森の魅力を伝えるというストーリーを考え、前夜の集いで、劇仕立てで動機づけを行った。子どもたちの期待感の高まり、「展望所でお祈りをすると願いがかなう」との情報に、その場所をめさす班も多かった。

「ちびっこ冒険団 in Winter」は、例年の雪遊びのキャンプではなく、冬の森で遊ぶキャンプとなった。参加人数は少なかったものの、アットホームな雰囲気で行われ、子どもたちも班の仲間からキャンプの仲間へと輪を広げていた。雪がなくとも寒い森に出かけて、野原を走り回り、体を温められるたき火にホッとすると、いつもとは違う冬の自然を満喫していた。例年よりも参加人数が少なかったのは、雪遊びの魅力に変わるプログラムがなかったことに起因していると考えている。過去のキャンプ参加者への「野外活動プログラムに関するアンケート調査のまとめ」でも雪遊びのニーズが多く寄せられている。今後のキャンプ運営に生かしていきたい。

野外活動は、子どもが成長する上で必要な力をはくくむ機会として、有効な手段の一つと考えられる。その意義をきちんと社会に伝えていくこと、発信していくことの必要性を強く感じる。

## □□□ 家族を楽しむプログラム □□□

近年、父親の子育て参加が社会的にも広がりを見せている。〔こどもの城〕でも本年度から全館をあけて〈父親参画事業〉に取り組んだ。プレイ部門でも、家族や父親を参加対象とした2つの事業「ファミリープレイタイム」と「おとうさんのあそび市」を実施した。

今後もこれらの事業を定期的に展開することで、家族で遊ぶことの大切さや、遊びをとおした子育てで支援のあり方を考え直す機会とし、社会に対しその重要性を提言していきたいと考えている。

### 【ファミリープレイタイム】

親子が一緒になって遊ぶという体験は、ふだんの生活ではなかなか難しい。そこで、親と子どもが遊びを共有体験し、遊びをとおして学び、楽しめる活動を展開した。意図的に親と子どもが共同で作業する部分を多くし、共通の遊び体験かできるように配慮し、さらに父親が活躍できるテーマを設定することで、より父親がこの事業に参加しやすいようにした。あわせて、なるべく他の家族たちと交流かてくる機会を作り、他の家族の親子の関係を見るなかで、自分自身の子育てに新たな気づきが生まれるようにした。



「タンボールでめいろを作ろう」ファミリープレイタイム「手打ちうどんに挑戦」

では、家族ごとに段ボールを使って大きな迷路のユニットを制作。てきあがったユニットを、他の家族か作ったユニットとつなぎ合わせることで、大きな迷路に仕上げた。子どもたちのために、親たちか協力して大きなものを作るという家族間の共同作業をとおして、家族同士の会話が促進され、またてきあがった時の達成感を共有できるようにした。

「手打ちうどんに挑戦」では、粉からこねて、のはして切るまでは家族こと作業たが、ゆてる段階で複数のグループか一つの鍋を使う。ゆて上かっただんを一緒に試食する段階では、自然と他の家族との会話が弾むように設定している。

本年度は、事業開始初年度ということもあり、試験的に夏休み以降 5 回にわたりいろいろな形でプログラムを実施してきた。次年度以降はなるべく月 1 回のペースで実施することで、繰り返し参加をうながしていきたい。定例化することで、スタッフと参加家族との関係や、家族同士の関係かできるのではないかと考えている。

### 【おとうさんのあそび市】

子育てや育児に感心を持つ父親が増えているなか、子育てをしている父親同士か、地域などてつながりを持ち、情報交換・交流をする、いわゆる“パパ友”を作り、サークル活動を展開



おとうさんの遊び市

しているケースも増えている。東京近隣で活動している父親のサークル 6 団体に〔こどもの城〕に来てもらい、来館した子どもたちを対象にさまざまな遊びのプログラムを展開した。

各団体か、ポスターセッション形式で地域での活動内容などを紹介するなか、子ども向けの遊びのワークショップも実施してもらった。紙コップやヒニール袋などの身近な素材を使った遊べるおもちゃ作り、コンピュータ制御のブロックでできた車を使った科学遊び、ペンシルハルーンを使ったハルーンアート——父親たちの得意とする多彩な遊びを展開した。また、ワークショップとは別にステーププログラムも実施。絵本や紙芝居、エプロンシアターなどの公演活動も行い、参加した子どもたちからは大きな歓声が上がっていた。

〔こどもの城〕のスタッフも親子ふれあい体操や科学遊びを展開したり、小児保健部の臨床心理士が、「父親が子どもの遊びにかかわることの大切さ」について会場にいる父親と一緒に考える時間を設けたりと、〔こどもの城〕の専門性を生かすプログラムも実施した。

参加した父親サークルのみなさんは、互いの活動を知ることによって刺激を受けあい、その後の活動に生かされていったようだ。実施後も各団体間で連絡としては、それぞれの団体の活動に参加し合うなど、各グループ間のネットワークが強化されているという報告を聞いている。

## □□□ まとめ □□□

伝承的な遊びをリニューアルしたり、コンピュータを使った活動や出会った子ども同士をつなぐ遊びのプログラムの開発など、新しい遊びを積極的に取り入れることによって、たくさんの遊びのプログラムを蓄積してきた。それらの遊びの検証をするなかで、人と人とのかわりをおして心身ともにはくくまれる環境である〈遊び場〉を作り上げてきた。近年、多くの遊び場や子どもの居場所か、乳幼児だけ小学生だけというように年齢ごとに分断化かされていく傾向かあるなかで、異年齢の子どもたちや異年齢の子どもを持つ親同士か交流できる〈遊び場〉を提供することは重要である。プレイホールや屋上には、まさにその“場”かてきている。

本年度は、たひたひ起こる東日本大震災の余震や放射能の影響を考慮して、例年よりさらに安全に気を配って運営した。屋外で遊ぶことに不安を持つ人が多かからか、屋内遊びか中心である〔こどもの城〕には多くの来館児・者かあった。プレイホールでは、日常生活への不安や思うように体を動かして遊ぶことができない状況で抑制かされていた、子どもたちのエネルギーか発散される様子か印象的であった。

子どもたちの不安感や閉塞感を解き放つには、〈あそび〉かもつとも有効な手段である。より多くの〈あそび〉の機会を持ち、〈あそび〉の環境を作るには、もつとも身近な大人である保護者の理解か不可欠であり、一緒に遊ぶのか一番良い。そこで、家族で遊ぶ機会を増やす工夫をした結果、家族での参加か多く見られた。次年度はさらに、家族で楽しめる遊び場、家族間の交流か持てるプログラムの充実をはかしていきたい。

また、「おとうさんのあそび市」は、子育て中の父親サークルの情報交換・交流の場になると同時に、〔こどもの城〕のスタッフも“子育て支援”の現場とふれあう機会にもなり、得るものか多かった。外部の団体やグループとの交流は、プレイホールの活動の活性化にもつながるので、今後も取り組んでいきたいと思っている。

# 平成23年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
みんなの にこにこ広場	水曜日 15 00～15 30	ホランテアとともに運営。紙芝居、人形劇、影絵を週替わりに実施。1・2歳児の親子の参加が多いため、導入の手遊びは親子でできるものを意識しながら実施。その結果、参加性が高まり、親子で楽しんでいる姿も多く見られた。11月5日の「赤ちゃん大集合」では、童謡にあわせた人形劇を、赤ちゃん連れの親子が楽しんでいた。人形劇11回(参加約600人)、影絵11回(同580人)、紙芝居16回(同480人)。全38回実施。(プレイホール)
おりかみあそび広場	木曜日 14 30～15 30	ホランテアとともに運営。児童文化の継承が主な目的。2・3歳児連れの親子の参加が多い。乳児連れの親と話をしながら制作することも増えた。年間をとおして定着する子どもも多い。作品を作る過程で、文化の継承はもちろん、スタッフと参加者、参加者同士のコミュニケーションも深まり、おたやかなひとときになっている。食べ物、動物、季節の作品、遊べる作品など、1回につき1作品。全38回、参加延べ人数約1,232人。(プレイホール)
金曜開店! あそひやさん	金曜日 開館時間中	つみきやブロック、ハランスケームなど、期ごとに3～4種類のおもちゃを週替わりで体験できるプログラム。同じような遊び方のおもちゃを組み合わせ、雰囲気を変えやすいいろいろな楽しめるように試みた。全37回。 1期=汽車+木の車/ネシブロック/かえるさんジャンプ+バックンフィッシュク/ネオブロック 2期=手ひねりこま/はたらく車/ハランスケーム(サルも木から落ちるほか)/変形木製ブロックぶい 3期=絵合わせ(動物トミノ、Mee Too、ポケットパズルほか)/ネシブロック/着替え人形 (プレイホール)
おはなし人形広場	日曜日(不定期) 15 00～15 40	プロの劇団による人形劇などの公演。生の舞台にふれて、感性の豊さをはくむことが目的。毎回、幼児～小学校低学年を中心に、100人近くの親子が楽しんだ。親子の気持ちの共有もはかられ、語らいが一層深まった。遊び場と直結するオープンスペースで出入りが自由にてきため、乳幼児を連れた親も気軽に公演をみていけるようであった。全12回。(プレイホール)
小学生ラボ	土 日曜日(月1回) 13 00～16 00 (受け付け時間)	小学生以上を対象の科学 映像遊びを中心とした実体験を重視したプログラム。AV事業部と交代でプログラムを実施。内容は別表参照。(プレイホール)
みんな集まれ あそぼうタイム	近隣都県市の記念日 13 00～16 00 (受け付け時間)	平日の都民の日や近隣の県民 市民の日などに、未館した都 県 市民に楽しんでもらおうと実施。さまざまな遊びのプログラムに自由に参加できる形式で、幼児から親子まで幅広い年齢が参加した。内容は別表参照。(プレイホール)
〈七夕〉 天までととけ ねかいこと	7・1～3 10 30～12 00 13 00～16 00 7・5～7 13 00～16 00 ×「短冊」は開館時間中	「短冊に願い事を書いて笹竹に飾る」ことに加え、本年度は「お裁縫」を実施。織り姫にちなんで「裁縫の上達」を願った由来を伝え、短冊形の不織布に針と糸で自分の名前を縫った。由来を書いた印刷物も用意し、縫い物とともに持ち帰ってもらった。参加者延べ1,159人。(プレイホール)
ハンスオン広場 ～みんなで体験 楽しく体験～ お店屋さんこっこ「おしろマ ーケット」/ダンホールで遊 び道具を作る「チョキベタあ そひ発明所」	11 12～23 「おしろマーケット」は開館時間中 「チョキベタあそひ発明所」は、 13 00～16 00(平日) 11 00～16 00(土曜日、祝日)	「遊ぶこととおして何かを発見する」「遊ひなからまなふ」をねらいに、2つのプログラムを同時に実施した。「おしろマーケット」は、店と買い物をする人に分かれ、紙で作ったお金やままごとの食へ物、菓子の空き箱などを使って買い物こっこ。「チョキベタあそひ発明所」では、主に段ホールを材料に、「プレイホールにあつたらいいな」という遊具を作成。思い思いに工作を楽しみ、「輪なげ」「的当て」「ホーリング」などの遊具を工夫を凝らして作っていた。(プレイホール)
〈節分〉 節分会 大まめまき大会	H24 1 28・29 14 30～15 15	恒例の豆まき大会。節分の由来を参加劇仕立てで紹介。スタッフやホランテアが扮する鬼めかけて、会場の親子が一斉に豆を投げ、鬼を退治した。たくさん親子が達成感を一緒に味わうことかできた。(プレイホール)
〈ひなまつり〉 みんなてひなまつり	2 26・27 13 00～16 00 3 2・3 10 30～16 00	ひなまつりの飾りの一種「つるし飾り」を千代紙や綿、赤いひもで工作。一つひとつの飾りには、こう育てほしいという願いが込められている。それぞれの願いを紹介しつつ、子どもの成長をあらためて願う機会とした。親子で工作することで交流の場となった。参加者延べ462人。(プレイホール)

称	日 時	内 容
第 49 回ハンパー大会	3 20 小学生の部 10 00～12 30 中 高生の部 14 00～15 00	小中学生コーナーにある遊具「ハンパー」の大会。小中学生コーナーに集まる子どもたちの交流促進を目的に実施。小学生の部 4 人、中高生の部 4 人か参加し、ハンパーをとおした楽しいひと時を過ごした。(プレイホール)

■ ■ ■ 特別期間 ■ ■ ■

称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ゴールデン たぬきパラダイス ～ぼんぼこ 億万長者への道～	5 3～8 11 00～16 00 × 5 3・6 は 12 00～	屋上ふしぎか丘の“たぬきの世界”で、「お仕事ゲーム」をして給料をもらったり、「チャンスゲーム」に参加したりしながら、“たぬきのお金”を集めるダイナミックなゲーム大会。子どもたちにもわかりやすく、大人も夢中になる内容のため、親子で長時間楽しむ姿が見られた。延へ 3,133 人参加。(ふしぎか丘)
〈夏休み〉 夏休み ハンスオン広場 「あそんで+まなんて =大発見!」	8 10～23 開館時間中	遊びのなかで“気づき”や“発見”“学ぶ”ことを目的として「パスルラント」と「くらやみティスカハリー」を行った。 □パスルラント□パスル遊びの楽しさ(じっくり遊ぶ 考えて遊ぶ 解けたときの達成感を味わう)をさまざまなパスルをとおして伝えた。 □くらやみティスカハリー□暗い所でない体験できない、(光)を使った遊びをとおして、“冒険心”“好奇心”“試してみる”“不思議”を感じる気持ちを伝えた。幻灯機遊びでは、スライドに絵を描いて遊ぶ「簡単幻灯機」の作り方を紹介した。また、手影絵では、ペンギン、犬、鬼、ははたく鳥、にわとり、小鳥、きつねなどの作り方を紹介。延へ 2,200 組参加。(プレイホール)
〈 “ ” 〉 第 48 回 ハンパー大会	8 25 小学生の部 10 00～12 30 中 高生の部 14 00～15 00	小中学生コーナーにある遊具「ハンパー」の大会。小中学生コーナーに集まる子どもたちの交流促進を目的に開催。小学生の部 2 人、中高生の部 4 人か参加。小学生の部の参加人数が大変少なかったか、ふたんのハンパーの利用者は増えているので、いかに大会に呼びこむか課題である。(プレイホール)
〈 “ ” 〉 小学生ラホ 夏休みスペシャル	8 27～31 12 30～16 30 (受け付け時間)	平常期間に実施している「小学生ラホ」のスペシャル版。1 日に 2 プログラムを並行して実施。実施プログラムは、「かさくるま」「日光写真にチャレンジ」「計算尺をつくろう」「すすめ! ポンポン船」「円形計算尺を作るう」「浮沈子をつくろう」。延へ 622 人か参加。(プレイホール)
〈冬休み〉 クリスマス 人形劇フェア	12 23～25 11 00～16 00 上演 ①11 00 ②14 00 ③16 00	人形劇という児童文化を多方面からアプローチして、人形劇の楽しさを伝える。“見る 作る 遊ぶ 演じる”の 4 面からのプログラムを設定。従来はゴールデンウィーク(児童福祉週間)特別期間に実施していたか、冬休み特別期間に移動。場所をプレイホールに移し、クリスマスの時期に開催。“より多くの来館児 者を獲得する”方法の一つとして、キッス人形劇団の半数を事前募集した。大人人形劇 児童文化研究サークルネットワーク「しゃんくるしむ」と人形劇団ネットワーク「パペットマーケット」との共同企画。創価大学、東京家政大学、法政大学などか参加。 □作るワークショップ□紙コップ人形を作って遊ぶ。延へ 548 人参加。 □キッス人形劇団□延へ 25 人参加。各日 13 時 30 分と 15 時 30 分に集まり、30 分の練習の後、14 時と 16 時から公演。延へ 360 人か来場した。 □人形劇の上演□23、25 日 創価大学 東京家政大学 / 24 日 創価大学 / 法政大学。(プレイホール)
〈 “ ” 〉 新春あそひのお年玉 ～めさせ遊びの龍人～	H24 13～9 11 00～16 00 × 3 日は 13 00～	世代を超えて参加できる昔遊びのプログラム。プレイホールでは、へいこま、めんこ、おはしき、坊主めくり、ピロティでは投げこま。7～9 日にはふしぎか丘で三つ馬を実施。それぞれの遊びで 1 日数回、その場にいる子どもたちで遊ぶ“遊びの大会”を実施。青山通りを通行している人か、投げこまに興味を持って参加していく姿もあり、[こどもの城]の活動を紹介するよい機会ともなった。(プレイホール、ピロティ、ふしぎか丘)
〈春休み〉 春た!むすんで・ つないで・あそぼう	3 24～45 開館時間中	“ひもを結ぶ”をテーマに、遊びながら“ひも”の楽しさや便利さを自ら感じ、発見していくプログラム。ひもを使った衣服を着る、三つ編みやちょうちょ結ひをする、アクセサリーを作るコーナーを設置。遊びをとおして、便利な生活のなかで失われつつある道具の世界を知ってもらい、生活のなかで役立つ使い方を知ったり、便利さ、おもしろさ、楽しさなどを家族で体験した。気づきかあるプログラムにすることで、遊びの持つ力を改めて発見する機会となった。(プレイホール)

### ■■■ パソコンルーム ■■■

名 称	日 時	内 容
もりもり！おへんとBOX	4/12～5/31	あらかじめ用意した食品、食器などの素材（写真）を組み合わせて“おへんとう”を作るカラーシュ遊び。A5 サイズにプリント。子どものし好に発見があり、親子の会話か盛り上ったり、楽しい発想のお弁当に驚嘆した。
ことはあそびのA☆B☆C	6/1～7/5	パソコンとしりとり対決をしたり、複数の言葉を聞き分けたり、5つの言葉遊び（しりとり、アナグラム、4W遊び、暗号解読、聞き分けクイズ）を実施。自分の好きな遊びが見つかる、遊び続けている姿が多く見られた。
シャングルカメラ	7/6～8/5	シャングルの風景写真に、動物や植物などの写真をはりつけて、イメージするシャングルの写真を作るカラーシュ遊び。好きな動物に囲まれた写真や、大きさを変えて奥行きをたした写真など、イメージの世界か形となった。
ピタッとパズル	8/6～9/13	3×3、4×4のパズル（カイトの外枠太線の有 無）、8パズル（3×3パズルの1枚を抜き取って遊ぶ。片面 両面）— 6種類から一つを作成。ケント紙（B5）にプリントした後、工作。大きなイラストの簡単なものから、小さくしたイラストを散りはめて難易度をあげたものなど。
ネイチャークイズ	9/14～10/12	図鑑ソフトを使って、鳥や花の名前をクイズ形式で探すプログラム。鳥は住んでいる環境や身体の色、大きさなど、花は咲いている時期や場所、花の色や葉っぱの形など、それぞれの対象の特徴から、その名前を導き出す。
似顔絵ペインター	10/13～11/30	CCDカメラで自分や友だち、家族の写真を撮り、画面上で画像をなぞって似顔絵を描く。ペンの種類を選択しなから、タッチの違った作品作り。幼児には、ペンタブレットの使用が難しいため、短時間でできる方法を伝えた。
ミニクリスマスツリー	12/1～25	ツリーの台紙に、リースや星、長靴などのイラストを飾りつけて印刷。刷り上がったものをさみ、のりを使用して組み立て、クリスマスの飾りを作製。色画用紙にはりつけるカートタイプの「つるツリー（平面型）」「おるツリー（半立体型）」、三角柱の3面にツリーの絵をはる「たてるツリー」の3種類。
わくわく☆カレンダー	12/26～H24/1/31	イラストやメッセージで飾って、2012年のカレンダーを作った。1～12月か長くつなかつた「ロンクカレンダー」、月めくりの壁掛けタイプ「ミニカレンダー」、月めくりの「卓上カレンダー」から選んで制作。自分の机に飾れるからと、卓上タイプを選ぶ子どもも多かった。
パソコンミュージック	2/1～3/13	簡単な楽譜制作ソフトを利用。①ソフトのなかにある曲を聞く ②楽器の音を聞く ③おもいおもいに音符を入力して聞く ④写譜入力して曲を聞く。パソコンルームかプレイホールになってからは幼児と親の利用かたいへん多いため、比較的高学年向けの④で遊ぶ子どもも少なかった。
フレントシップカード	3/15～4/17	名刺作りソフトを利用し、名前 住所 趣味 特技 メッセージなどを入力。好みのイラストも選んでレイアウトし、オリジナルの名刺を完成。また、自分の顔写真を入れた名刺作りも行った。おしゃべりしなから入力していたり、てきあかつたかつた名刺を見せ合ったり— 交流する場面も多く見られた。

### ■■■ 小学生ラボ ■■■

13:00～16:00 / プレイホール

名 称	日 時	内 容
物体浮遊術？ ふき玉の科学	4/16	息の力で発泡スチロール球をうかせる科学おもちゃ「ふき玉」を作成。参加 45人。 (担当 プレイ事業部)
ハルフ撮影に チャレンジ 2011	4/17	曲けた針金をろくろに設置して、カメラで長時間露光撮影。不思議な写真を作成。参加 27人。 (担当 AV 事業部)
ソートロープを 作ろう	5/21	12個のスリットのあいたトラムを回転させ、なかに入れた絵をスリットからのそくと絵か動いて見える視覚かん具。参加 24人。 (担当 AV 事業部)
不思議な動きの やしろへえ	5/22	針金と重りて自由自在に形かえられる「やしろへえ」を作った。参加 71人。 (担当 プレイ事業部)
ぱらぱらマンカ/ アメンホの科学	6/11 12	全館事業『集まれ小学生』のなかで、午前は「アメンホの科学」、午後は「ぱらぱらマンカ」を実施。参加 97人。 (担当 プレイ事業 AV 事業部)

名 称	日 時	内 容
ふわりふわり 「浮羽ウイング」	6 18	薄い発泡スチロール板を使った、空気に浮くようにして飛ぶ「浮羽ウイング」を作成。参加 69 人。 (担当 プレイ事業部)
驚き盤をつくろう	6 19	円盤に描いた絵が動いて見える映像おもちゃ。参加 92 人。(担当 AV 事業部)
海の生き物 チリメンモンスター	9 17	無選別のちりめんしゃこに混ざっている、さまざまな生き物を探して標本を作成。参加 59 人。 (担当 プレイ事業部)
4 コマまんか道場	9 18	4 場面て構成する「4 コマまんか」を創作。参加 75 人。(担当 AV 事業部)
からくり大作戦	9 19	空き缶やスプーンなど身近な物を組み合わせて、「コールで音を鳴らす」からくり装置」を作成した。参加 86 人。 (担当 プレイ事業部)
機械の中を見てみよう	10 15	機械を分解して、なかを見て楽しんだ。参加 39 人。(担当 プレイ事業部)
アニメをつくろう	10 16	紙製のキャラクターを動かしてアニメ作り。参加 34 人。(担当 AV 事業部)
フーメランの科学	11 19	投げたところにもとってくるフーメラン。参加 22 人。(担当 プレイ事業部)
ピンホールカメラをつくろう	11 20	針穴かあいているたけのふしぎなカメラ。参加 55 人。(担当 AV 事業部)
ろうそく工房	12 17	しんとなる「ひも」に、溶かしたろうを少しずつからめて、ろうそくを作成。参加 42 人。 (担当 プレイ事業部)
モアレに チャレンジ!	12 18	モアレ現象を利用した、動きのあるはり絵。クリスマスにちなんでクリスマスツリーのモアレ絵を作成した。参加 55 人。 (担当 AV 事業部)
「まる」くないコマ をつくろう	H24 1 14	段ホールをいろいろな形に切り、重心を探して軸をとおし、こまを作成。参加 32 人。 (担当 プレイ事業部)
逆回転で喋ろう!	1 15	“逆回転”でしゃべったものを録音して、“逆回転”で再生するとふつうに聞こえるかどうかを実験。参加 31 人。 (担当 AV 事業部)
驚き盤をつくろう/ あったかいそ! カイロをつくろう	2 11・12	全館事業『集まれ小学生』のなかで、午前中は「驚き盤をつくろう」、午後には「あったかいそ!カイロをつくろう」。参加 102 人。 (担当 プレイ事業 AV 事業部)
ポップアップカート をつくろう	3 17	開くと家や木が飛び出してくる“しかけカート”。参加 36 人。 (担当 プレイ事業部)
虹色クラムを つくろう	3 18	分光の仕組みを使って、7 色の模様か浮かひ上かって見えるおもちゃを作成。参加 114 人。 (担当 AV 事業部)

■■■ ファミリープレイタイム ■■■

名 称	日 時	内 容
ダンホールでめいろ をつくろう	9 4 10 30 ~ 12 00	段ホール箱で大きなめいろを作る。参加した家族が作った迷路をつなぎ合わせ、大きな迷路に。参加 10 家族 23 人。
手打ちちとんに挑戦	10 9 10 30 ~ 12 00	手打ちちとん作り。ヒニール袋に入れて足で踏むという作業を入れたか、参加した子どもたちも楽しそうにちとんを踏んでいた。参加 14 家族 38 人。
アウトドアクッキング スネークパン	11 6 10 30 ~ 12 00	硬めに作ったホットケーキの種を細長く伸ばして、木の枝にまきつけて炭火で焼くパン。たき火を使ったプログラム。お父さんが張り切る姿も多く見られ、家族でアウトドアクッキングを楽しんでいた。参加 16 家族 37 人。
メリークリスマス! あわせ手ツリー	12 11 10 30 ~ 12 00	家族の手形でできたクリスマスツリーの台紙に、思い思いに飾り付け。気に入ったところや工夫したところを発表。観賞も楽しんだ。参加 8 家族 19 人。
みつうまをつくろう	H24 2 5 10 30 ~ 12 00	3 本の材木を組み合わせ、ハランスをとりながら乗って遊ぶ伝承遊具。材木を切りたすところからはしめる。家族に手伝ってもらいながら、子どもたちは慣れないのこぎりに挑戦。屋上で実際に乗って遊んだ。参加 8 家族 19 人。

■■■ みんな集まれ 遊ぼうタイム ■■■ 13:00~16:00 / プレイホール

名 称	日 時	内 容
横浜開港記念日 コロリン大作戦	6.2	身の回りのいろいろな道具や紙管などで、木の玉を転がすコース作りを楽しんだ。
千葉県民の日 こまをまわそう	6.15	投げこまや手ひねりこまを回して遊ぶ。ひもの巻き方から回し方まで伝えることで、初めてこまに触れた子どもも回せるようになった。
川崎市制記念日 ニュースポーツに挑戦! 吹き矢で遊ぼう	7.1	紙で筒と矢を作り、的当てを楽しんだ。息を一気にはいて、吹き矢を飛ばす動作が難しいようだったか、したいにこつをつかみ、的に当たるようになった。
都民の日 記録に挑戦! チャレンジゲーム	10.1	〇分間にカウンターをとれたけ押せるか、とれたけ一息で「あー」と言い続けられるかなと、自分の記録にチャレンジするゲームをいくつか用意した。

□□□ 講座・クラブなど □□□

■■■ 講座 ■■■

×講座回数=1・2期6回、3期4回

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
キッズクラブ	(人) 小1~4 (30)	(人) ① 30 ② 26 ③ 24	隔週土曜日 15:00~17:00 (原則)	①家庭や学校では体験できない活動を行う ②地域や学校とは違う新しい人間関係作りをめざす ③子どもたち自身がプログラムを考え作り上げることで、自発性やコミュニケーション力を養うことを目的としている。1期と2期に外部指導者の協力を得て、2回連続のプログラム活動を実施。4年生が多く、しかも2年以上継続しているメンバーだったので、キッズクラブに対する思いも深く、結束力も強かった。3期は4年生が中心となって活動を進めていく姿が多く見られた。充実した活動ができた1年だった。受講料=1 2期10,000円、3期7,000円。
ユースクラブ	小5~ 中3 (40)	① 26 ② 24 ③ 27	隔週日曜日 13:30~15:30 (原則)	10代前半の心の成長期に集団活動をとおり豊かな人間形成をはかることかねらい。①いろいろな活動をとおりさまざまな直接体験をする ②仲間をとおり人間関係を学ぶ ③計画~実施をとおり夢を実現することの3つが目的。本年度は、年間のまとめの活動として、[こどもの城]の来館児者を対象とした催し物の企画運営を行った。受講料=1 2期10,000円、3期7,000円。

■■■ 野外活動 ■■■

名 称	日 時	内 容
ちひっこ冒険団 2011	7.31~8.3 (3泊4日)	小学校1~3年生のための舎営キャンプ。豊かな自然のなかで、班ごとに考えたグループ活動を楽しむ。班の仲間とともに“何をして遊ぼうか”“どうやって遊ぼうか”などを相談したり、協力しあうなかで、自己と他者との関係性を学んでいったり、協調性や社会性を獲得していくことを大きなねらいとしている。本年度は、キャンプ地を福島県那須甲子から埼玉県秩父に変更したか、広いキャンプ場内と隣接する広大な公園のなかで、虫とり、基地作りや探検といった自然のなかでの遊びを子どもたちは満喫した。参加72人、ボランティア25人、職員3人。参加費39,000円。 (埼玉県 青少年総合野外活動センター)
ちひっこ冒険団 in Winter	12.25~28 (3泊4日)	小学校1~3年生のための舎営キャンプ。冬の自然を感じ、そのなかで遊ぶことをとおして、仲間との交流を広げる活動を行う。本年度は、キャンプ地を福島県那須甲子から埼玉県秩父に変更した。雪はなかったか、広いキャンプ場内、木登り、基地作りや夜の星空観察といった自然のなかでの遊びを子どもたちは満喫した。参加者が少なく組織が小さかった分、班をこえて交流が持てたキャンプだった。参加30人、ボランティア10人、職員3人。参加費39,000円。 (埼玉県 青少年総合野外活動センター)

## ■キッズクラブの活動プログラム一覧■

日時	プログラム名	内 容
4 16	いよいよスタート2011年!キッズクラブ	新メンバー(入会者)と継続メンバーとの親睦をはかる。共通点で集まるなどのゲームを行った。
5 14	いくぞ!街角探偵団	いろいろな課題をヒンコカートに記入。グループごとに周辺の街を探索し、ヒンコの数を競い合った。
5 28	牛乳パックフロッグを作ろう!	元NHKテレビ「てきるかな」の造形指導者、枝常弘氏の協力で、牛乳パックを加工したフロッグ制作。
6 11	牛乳パックフロッグで遊ぼう!	前回作ったフロッグを使い、グループごとに建物や乗り物を制作。ユニークな作品が完成した。
7 2	パフェ(トライフル)をつくらう!	今年度最初のクッキングは、イギリス風のパフェ「トライフル」作りにチャレンジした。
7 16	ウォーターゲーム 2011	梅雨の合間の晴れた暑い日だったので、水遊びも気持ちよくおもいきり発散できた。
9 10	キッズ「おもしろ運動会」	屋上ネット広場で実施。三輪車競争やクツ飛ばしなどのユニークな競技を楽しんだ。
10 8	代々木公園であそぼう!	代々木公園で「しっぽとり」や「ハノカン」などの陣取りゲーム。おもいきり体を動かした。
10 29	キノズ、秋の遠足 2011	電車に乗って、横浜のこともの国へ。全員で鬼ごっこで遊んだあと、グループごとに広い園内を探索。
11 12	おいしいシウマイ「キノズ軒」	シウマイ作りに挑戦した。デザートに杏仁豆腐も作って、中華料理店顔負けのてきばえとなった。
12 3	ヘーゴマにチャレンジ	ヘーゴマの達人(川崎ヘーゴマクラブの指導員)にひもの巻き方とまわし方を教えてもらった。
12 17	めさせヘーゴマ名人!	ヘーゴマの改造(削ってバランスをとる)と色塗り。ヘーゴマ勝負で交流が広がった。
H24 1 14	凧をつくって遊ぼう!	ビニール袋を利用した凧作り。子どもたち同士で協力する姿が見られた。完成後、外周路で凧あげ。
2 4	トノシホールであそぼう!	屋上ネット広場でトノシホール。4年生がルールを考え、コートの手直し、ルール説明も行った。
2 19	キノズ、ヒンゴでラリー!	館内を巡るクイズラリー。ヒンゴ形式の解答用紙にできるラインの数を競った。4年生がルール考案。
3 13 14	最後までたくさんたくさん遊ぼうよ!	1泊2日の特別プログラム。1日目は「デジカメリとり」で周辺の街を探索。夜は館内をめぐる「こともの城アートハンチャー」。プレイホールで就寝。2日目は「トノシホール」の後、「1年を振り返る会」。1〜3年生が会場の準備をし、4年生は下級生と保護者が楽しめる出し物考えた。

## ■ユースクラブの活動プログラム一覧■

日時	プログラム名	内 容
4 10	ゲームでよろしくこれぞユースゲーム大会!	新聞紙を、あるテーマに沿った作品になるように順番に切るなど リレーをテーマにゲームを楽しむ。
4 24	代々木で遊ぼう!ユース得意のクマ狩りだ!	都立代々木公園で野外ゲーム「クマ狩り」。初めてのメンバーもすぐにルールを覚え、熱中して行った。
5 22	こともの城まわりを競い合う!みんなのカメラが活躍!	周辺の街を探索。「顔に見える物」を探しデジタルカメラで撮影。どんなことを話しているのかを発表。
6 12	みんなてこねおとんづくり & 1期残りの2回の作戦会議	手打ちおとん作り。こねたおとんをビニール袋に入れて足で踏みながら伸ばすという作業の時には「へんなかんし」と足に伝わる感触を楽しんでいた。
7 3	みんなて染めよう ユースTシャツ	紫、赤、黄色、水色から自分の好きな色を選び、その色でTシャツの絞り染めを行う。
7 16 17	ユースクラブ夏のキャンプ in こともの杜	児童野外活動センターこともの杜(横浜市青葉区)に宿泊。野外炊事や野外ゲームなどを楽しんだ。
9 11	流しそうめんにチャレンジ!	流しそうめんを楽しむ。そうめんを流す竹は丸竹を割るところから手作りで行った。
9 25	2期もクマ狩り!そして次回の作戦会議	今回も陣取りゲームを行う。欠席者も多く、野外ゲームのダイナミクスにはやや欠けてしまった。
10 15 16	自己への挑戦!オーハナイトハイクスカイツリーからこともの城を踏破せよ!	開業前の東京スカイツリーから[こともの城]までを夜間に歩く。途中、両国国技館、東京駅、皇居、国会議事堂などの東京の名所を回りながら約15キロを歩いた。
11 6	ヒノクリ/キムヒール-みんなで作ろう!	近くの物は大きく、遠くの物は小さく見えるというカメラの性質を使って、特撮の映画を作った。
11 27	牛乳パックをリサイクル紙をすいてクリスマスカードをつくらう	牛乳パックを使った紙すき。色紙もすき込んで、クリスマスもようのカードを作った。
12 18	クリスマスパーティー in 昭和記念公園	国営昭和記念公園の野外炊事場を使ってシチューやケーキを作り、野外クリスマスパーティーを行う。
H24 1 15	新春登山! いき日和田山の頂へ	埼玉県日高地方にある日和田山に登山に出かけた。岩登りをしながら、山頂をめざした。
2 5	最終回プロジェクトの作戦会議 & 対決!クマ狩りトリウムチーム	年度のまとめの活動についての企画会議。自分たちらしい活動とは何かを考えた結果、[こともの城]の来館児 者を対象にした催しの企画運営を行うことを決定した。
2 26	最終回プロジェクト準備「スヘースハトルシブモモタロウ」を組み立てろ!	最終回の活動で行うゲーム大会の準備活動。[こともの城]館内を使ったポイントラリーを実施するため、細かいルールやゲーム内容を詰め、PRビデオやポスターを作成する。
3 17 18	最終回プロジェクト「スヘースハトルシブモモタロウ」	[こともの城]に宿泊して会場設営などの準備を行う。18日の催しはプレイホールを中心に約2時間実施し、120人程の来館児 者が参加した。

# 造形



やってみよう！つくってみよう！  
～ペーパーマーケット～  
「新聞紙のお風呂屋さん」



造形発見展～道と造形（親子コーナー）



親子体験ワークショップ  
「親子で陶芸体験～アート皿をつくろう！」

## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

開館以来、造形スタジオでは、子どもたちが造形体験を豊かにしながら、感性を健やかに育てていけるように、①新しい視点で素材を探求して、子どもたちに素材への広い関心を抱かせるワークショップ「素材との出会い展」②そのままでは素材になりにくい音や光などを制作の媒体としてとらえ、子どもたちの造形感覚を新しくするワークショップ「造形発見展」③造形活動の基本となる“素材と道具と技法”の関係をわかりやすく理解できるように視覚化したワークショップ「オープンスタジオ」——の3つを軸に活動を展開している。それぞれのワークショップを1～3年間にわたって継続。それを順次くりかえしなから、スタジオを運営している。

本年度もワークショップの構成要素である〈展示・体験・制作〉という基本コンセプトを効果的に実施するため、ワークショップのテーマに応じた環境設定を行い、子どもたちが自主的に活動にかかわれるようにした。夏休み特別期間には「造形発見展～道と造形」、10月からは新しいテーマ「やってみよう！つくってみよう！～ペーパーマーケット」を実施した。

本年度は、“父親の子育て参画事業”“乳幼児プログラム”“子どもの参画”を重点目標として活動を展開した。“父親の子育て参画事業”では年3回、有料の短期講習会「親子体験ワークショップ」を開催し、父親を含めた親子で造形体験を共有した。2時間程度のプログラムで、父親も参加しやすい形態をとった。

また、“乳幼児プログラム”への新たな取り組みとして、「赤ちゃん大集合」へのプログラム参加と、春休み特別期間には0歳～2歳11か月の乳幼児向けに「新聞紙のお風呂屋さん」コーナーを開設し、大変好評を博した。“子どもの参画”では、全館事業の「ドルッチャテレビ」への積極的なかわりだけでなく、造形スタジオの「クリエイティブコーナー」の対象年齢を低学年のほうに広げるように努力した。

重点目標への対応は、イベントのみならず、一般活動の展示・体験コーナーなども乳幼児が楽しめるようにしたり、親子と一緒に体験できるように設営内容などに工夫を凝らした。

### ■■■ 一般来館児・者へのワークショップ ■■■

平常期間は「やってみよう！つくってみよう！」。夏休み特別期間までのプログラムステップとし

て、〈道〉をテーマにプログラムを実施した。10 月からは、〈紙〉を造形素材のテーマに3週間ずつ交代でプログラムを実施、平成24年＝12年夏休み特別期間プログラムへ向けてのステップとした。また、季節のなかにある共通のイメージをテーマにした「ことも歳時記」も開催した。

### ■■■ 講座 ■■■

講座活動では、受講者数の減少で存続が懸案事項であった火曜日と金曜日のコースを廃止。「こどもクリエイティブクラブ～ゆかいな造形」「同 親子でアート～わくわくワーク」「同 ハンスワーク」の3コースに絞った。

小学校のカリキュラムの再編成の影響から、講座を受講することが難しくなったり遠因にある。また、「大人のための造形表現教室」も期ごとの受講者数にはらつきがあり、継続を断念した。

### ■■■ グループ活動 ■■■

東日本大震災の影響もあり、前年度より7件少ない24件を受け入れた。内訳は、「かけをうつそう」(7件)、「木をつくろう」(3件)、「粘土体験」(8件)、「竹体験」(6件)である。

例年「かけをうつそう」が全体の4～5割占めていたが、本年度は各プログラムが平均した実施回数となった。「竹体験」では、前年度に比べ小学校の利用が2件増えた。特別支援学級などの受け入れは4件(前年度2件)。「粘土体験」「竹体験」などは、それぞれの団体の様子を聞き、アレンジして実施した。経費削減にともない、打ち合せや実施スタッフを引き続き最小限に抑えている。

また、前年度に引き続き、各団体の引率者にも積極的に参加してもらえるように、プログラムを進行した。新規プログラムの開発が引き続きの課題である。

## □□□ 造形発見展～道と造形～ □□□

### ■あの道 この道 とんな道? ■

平成22年秋から、造形スタジオでは〈道〉をテーマとして活動してきた。道にはどんな道があるのか、人類と他の生物との道の違いは何か、道のまわりには何かあるのか、そして人と人、町と町をつなげるための道とはどういうものなのか——これらのことを造形的にとらえ、模索していくワークショップを展開してきた。

春休み特別期間には、「やってみよう! つくってみよう! 道と造形～あの道 この道 とんな道?～」を実施。小さな子どもにも親しみやすい、感覚的な言葉である《擬声語》を取り上げ、「くねくね”道”や”かたがた”道”などのように、擬声語を用いて表現するいろいろな道の形態を、遊びをとおして体験し、道のさまざまを考えるワークショップを展開した。

展示体験コーナーでは、横5.5m×縦2.9mの大きな壁一面に、竹や人工芝、カーペットなど、さまざまな手触りの素材を道状につなげた「手で見るいろいろな道」や、ワークシートを使い、指先で歩くまねをしなから、さまざまな感触の道の上を冒険する「指先でつくる道のお話」など、五感を働かせ、楽しみながら道の特徴を発見できるコーナーを設置し、制作に結びつけた。

### ■平面の道、立体の道 ■

夏休み特別期間までの平常期間は、紙や木、竹、鏡面紙など、さまざまな素材と技法を使って道を表現するプログラムを試みた。

帯状の紙を道に見立ててつなぎ、実際にかふることかできる「みちぼうし」や、短く切った竹どうしを糸でつなぎ合わせて、形を自在に変えられる「竹カクカロード」、描いた道が鏡面紙に写り、そのままつなげて空間が広がる「ミラーロード」などのプログラムを実施した。平面だけではなく、立体も組み合わせながら、道の楽しさを感じ取ってもらった。



造形発見展～道と造形（体験コーナー）

造形発見展～道と造形（クリエイティブコーナー）



夏休み造形教室「光るプラネットトーロ」



### ■道みち つないで■

夏休み特別期間は、「造形発見展 道と造形～道みち つないで～」。道か“のひる”“つなかる”ことをキーワードにしたワークショップを展開した。家や学校などから道か“のひる”、そしてその道か他の場所や道と“つなかる”ことによって生まれる、町としての一体感や豊かさを、活動を通して子どもたちに体験してもらうことをねらいとした。

展示体験コーナーには、スイッチを押して道を光らせながらつなげて行く「おてかけスイッチロード」や、横3.6m×縦0.9mの大きなスチールホードに、マグネットがついたプラスチック製の道をはってとんとんつないでいく「つなげよう！マグネットロード」、木でできたいろいろな形の道を自由につなげて、坂道や橋、高速道路を積み木感覚で作って遊ぶ「つみ木の道をつなげよう！」など、“のひる”“つなかる”のキーワードに沿ったものを設置した。

また、との展示体験コーナーも、低年齢の子どもたちが楽しく参加できるように、設置する高さを低くしたり、直接床に座って取り組めるように配慮した。その結果、低年齢の子どもたちが楽しそうに参加する姿が多数見受けられた。

制作の場では、親子コーナー、小学生コーナーともに2週間ごとにプログラムを変更し、合計6つのプログラムを実施した。夏休み特別期間中、延べ約1万8千人の子どもたちか、造形スタジオの活動に参加した。

約1年にわたって〈道と造形〉というテーマで活動したか、さまざまな展示環境や制作体験を通じて、多くの子どもたちに作ることの楽しさや魅力を感じ取ってもらえたようである。

## □□□ まとめ □□□

平成19年から22年まで、現在の常勤スタッフを核にして、1年ごとに〈からくり〉〈野菜、果物〉〈動物〉とテーマを変えて「オープンスタジオ」を実施してきた。本年度から、改めて「造形発見展～道と造形」「素材との出会い展～紙と造形」を実施した。これには、「オープンスタジオ」で“素材と道具と技法”の関係を中心に考えてきた活動か、テーマを深く理解し、展開するうえに生かされたと思える。

また、〈動くこどもの城〉をはしめとした研修会や講師派遣などの実技講習会では、開館当初から開発してきた多くのプログラムのなかからセレクトしたプログラムを取り上げて紹介している。すでに多くの児童館の一般プログラムのようになった定番のプログラムもあるが、子どもたちの身近にある素材や環境、テーマも変化してきている。紙、竹のような古くからの素材だけでなく、樹脂系などの新しい素材の探求も重要と考え、さまざまな素材やテーマを扱う「オープンスタジオ」も実施してきた。このことは、今後の研修会活動をさらに充実させるものと考えられる。

【こどもの城】は、開館してから25年余を経過し、造形部門のスタッフもさまざまな経験を積み重ねてきた。現在のスタッフのほとんどか、造形スタジオの活動の柱である「素材との出会い展」「造形発見展」「オープンスタジオ」の実践を経験したことになる。

こうした経験が深まっていくことで、全館事業への取り組み、他部門との協力事業などが、以前にもましてスムーズに行うことかできた。特に東日本大震災以降のさまざまな取り組みでは、単独の部門では実施できないことか多い。今後も他部門と相互協力しながら、造形活動をとおした児童の健全育成、社会貢献、普及活動を充実させていきたい。

# 平成 23 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

≡ 称	日 時	内 容
やってみよう！ つくってみよう！ 「道と造形」	49～24、56～715、 93～25 開館時間中	夏休み特別期間プログラム「造形発見展～道と造形」に向け、さまざまな素材と道具、技法を使って〈道〉を表現するプログラムの開発とワークショップ活動を実施、展開した。
やってみよう！ つくってみよう！ 「ペーパー マーケット」	927～1030、118～ 124、H2424～12、34 ～23 開館時間中	平成 24 年春休み特別期間「やってみよう！つくってみよう！～ペーパーマーケット～」・同夏休み特別期間「素材との出会い展 紙と造形～ペーパーマーケット～」に向けて、さまざまな紙の種類を素材とし、“もむ” “ちぎる” “切る” “接着する” など、紙の技法を体験しながら、お店屋さんにあるものを楽しく制作。身近にある素材、紙の特性を体験するワークショップ活動を実施展開した。

## ことも歳時記

端午の節句	426～55 開館時間中	スタシオ入口に、実施プログラム「端午のはしきコイ」「くるりコイ変化」の大きなサンプルを展示し誘導役とした。マクネットを張り替えたり、模様のカートを変えることで、こいのほりのうろこを飾るコーナーを設置。全属て制作したかふとのレリーフ、全国各地の民芸品、民芸品を図案化したタペストリーも展示した。
クリスマス	126～25 開館時間中	全館事業「みんなてかさろうクリスマス」で子ともたちか作ったオーナメントをツリーに飾り、スタシオ入口に展示した。スタシオ壁面には、プログラムで使用する波段ホールを素材にして作った、サンタクロースや雪たるま、ロールケーキを設置。天井にはクリスマスをイメージさせる飾りをつるし、雰囲気盛り上げた。全館事業のクリスマスのオーナメントを制作できるスペースも設けた。
お正月	1226～H2419 開館時間中	干支の〈辰〉を取り上げたプログラム。スタシオ入口に、今回のプログラム素材である和紙を使った大きな〈辰〉を展示して誘導役とした。スタシオ内にも和紙で作った〈辰〉を飾り、制作の見本とした。お正月や干支にちなんだ全国の民芸品を展示。3階ロビーやスタシオ天井には全国各地のたこを飾り、スロープには説明パネルを展示した。
節分	113～23 開館時間中	3階ロビースロープに、鬼の顔のタペストリーを設置し、来館児 者を迎えた。スタシオ入口には、張り子で作った大小さまざまな鬼を展示し、誘導役とした。スタシオ壁面には大きな鬼と福の神を設置し、全体を紙や布で作った豆や升などで飾り、にぎやかな雰囲気を演出した。節分の習わしの説明も掲示した。
桃の節句	214～33 開館時間中	スタシオ入口には、はまくり型のおひな様を展示し、桃の節句の導入とした。スタシオ壁面には紙で作った大きなひな壇を設置。「ひしもち」「ひなあられ」などの由来を説明した文章を合わせて掲示。全国各地の民芸品と民芸品を図案化したタペストリーも展示した。
第 18 回親子体験 ワークショップ	111～6 開館時間中	親と子かそれぞれに制作することで、造形活動をおし親子のかかわりを見つめ直すワークショップ。「くつ屋さん～トカトカくつ～」を実施。親子て紙をもんで柔らかくし、自分の足に巻いてのりつけし、紙の靴を制作。さまざまな紙による飾り付けや、親子て足のサイズを比較して楽しんでいた。



造形発見展～道と造形 (親子コーナー)

■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 造形発見展 道と造形 ～道みち つないで～	7/16～8/31 開館時間中	道か“のひる”“つながる”をキーワードに、ワークショップを展開。キーワードにそった展示 体験コーナーを造形スタジオ内外に設置し、子どもたちが見たり触ったりしながら、道の広がり＝空間の広がり、町と町、人と人とのつながっていくことを体験してもらった。
〈春休み〉 やってみよう！ つくってみよう！ ～ペーパーマーケット～	H24.3.24～4.5 開館時間中	平成 24 年度の夏休み特別期間「素材との出会い展 紙と造形～ペーパーマーケット～」に向けた活動。「ふっくらヘーカリー」では、膨らませて遊べるパンを制作し、紙の薄さ、軽さを体験。「カーテンショップ～なみ段ブランツ～」(新小4～)では、波段ホールの特性を生かして、植物を制作した。また、体験コーナーには乳幼児が紙の触感を体験できる「新聞紙のお風呂屋さん」を設営。ペーパーマーケット＝紙のお店屋さんのなかで、楽しく制作し、体験コーナーで遊び、展示資料を見て、紙という素材の性質や特性、表現するための技法を体験するワークショップを実施した

□□□ 講座・クラブなど □□□

■■■ 講座 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ クレイワーク ゆかいな造形	(人) 小1 ～中3 (20)	(人) ① 20 ② 20 ③ 21	水曜日 16:15～17:30	布や木、金属、紙などのさまざまな素材を用い、素材にみあった道具を使い分けて、遊びのなかでより深い造形体験をする「無人島大冒険」。年間を通してストーリーを仕掛けて展開した。 1期は、冒険旅行の準備。旅行に必要なランタン作り挑戦。金つちやトリル、電動糸のこぎりや精密トライハーなどの道具を駆使して制作した。ほかに、いろいろな具材をヘニア板から電動糸のこぎりで作って作るハンパーカーの弁当なども制作した。 2期は、無人島での生活。まずは食料を調達するために、竹とラミン棒を継ぎ足して作った釣りさおで魚釣り。1.8m×3.6mの実際に水を張ったいけすを作り、そのなかにエアパッキンとカラーヒニールで作った魚をたくさん放して、釣り上げて食料を調達。子どもたちは、はしゃいで取り組んでいた。そのほか、ピアノ線の弾力を利用して作った、無人島に棲む謎の生物“ほよよんまん”、ネシやマカロニ、竹の端材などを自由に組み合わせ、光かあたとシルエットで姿を現す不思議な生物などを制作した。 3期は、無人島で発見した宝箱と財宝を、木工や彫金、石こう型取り、鋳物、磨きなどの技法を使って制作。1年間の活動をとおして、子どもたちはさまざまな素材や道具、技法に接し、個人の造形表現の幅を広げながら、それぞれに楽しみを見い出していた。 受講料＝1期(10回)26,000円、2期(12回)31,000円、3期(8回)21,000円。
〃 親子でアート ～わくわく ワーク～	(組) 4・5歳児 と親(10)	(組) ① 10 ② 10 ③ 10	木曜日 15:30～16:30	親子で協力して作る、親と子が分かれて作る、時には別々に作った作品を組み合わせるなど、さまざまな制作方法を取り入れ、造形活動をとおして親子の関係を見つめ直し、新たななかわりを発見するコース。なしみのあるもの、また触れたことのないものなど、さまざまな素材に触れその技法を体験することで、新たな触感や視覚を発見することも目的。紙すきなどのさまざまな紙の技法を用いた弁当作り、スタンピング技法による描画など、幼児にもなしみのある“紙”を中心としたプログラム。木を切る、くぎを打つなどの木工、鍛金技法による金属の加工、羊毛による縮毛、湯せんにかけてろうによる立体作りなど、幼児かあまり経験しないような素材や技法を体験するプログラムも実施。年間をとおし、子どもたちになしみのある“動物”“食べ物”“季節行事”をテーマに取り入れ、より制作が楽しくなるように工夫した。親子で協力し、時には互いの表現に感心しながら、また他の親子の作品を見て、その家族とのコミュニケーションが広がるなど、造形活動をとおして自然ななかわりが生まれていた。 受講料＝1期(10回)31,000円、2期(12回)37,000円、3期(8回)25,000円。

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
こどもクリエイティブクラブ ハンスワーク～ 創造探検～	(人)	(人)	土曜日 15 30 ～ 17 30	素材、技法、道具などについて、より良い知識を蓄積し、造形表現の力を養うための、高学年向けコース。活動時間も 2 時間と長く、より充実した制作かてきようになっている。1 期は木 プラスチック 紙、2 期は石 布 粘土、3 期は全属 カラス 一期こと中心となる素材を限定することで、素材と工具、技法との関係性を明確に体験できるようにした。 新聞紙による立体構造物、石板を使った版画、鑄造技法のメタル、鉄錆の絵画などを実施。素材の違い、目的や道具の違いをいろいろと体験することで、子どもたちの創造する喜びと可能性が大きく変化し、新しい発見を繰り返しながら、素材と格闘を続け制作を楽しんでいた。 受講料＝1 期 (10 回) 26,000 円、2 期 (12 回) 31,000 円、3 期 (8 回) 21,000 円。
	小2	① 9		
	～中3 (16)	② 9 ③ 8		

■ ■ ■ 短期講習会 ■ ■ ■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容			
親子体験ワークショップ	(組)	(組)	6 19 10 30 ～ 12 00 14 00 ～ 15 30	父の日にちなみ、父親参加を呼びかけたワークショップ第 1 弾。色のちかう 2 種類の粘土を使い。“ひもづくり”や“象かん”などの陶芸技法を体験しながら、1 人大小 2 枚の皿作りを体験した。成形後、乾燥 袖かけ 本焼き焼成をして完成。受講料＝3,000 円 (親子 1 組)。			
	親子で陶芸体験 ～アート皿をつ くろう! I～	年長～高3 と保護者 のペア (各 10)			計 20		
	“ ～アート皿をつ くろう! II～	“			計 20		
親子で金属体験 ～スプーンをつ くろう! I～	“	計 20	H24 2 12 10 30 ～ 12 30 14 30 ～ 16 30	父親参加を呼びかけたワークショップ第 3 弾。“なます”“たたく”という金属加工 (鍛金) 技法を体験しながら、親子で協力して「銅のスプーン」と「アルミのミニスプーン」を 1 人 1 本ずつを制作。受講料＝2,500 円 (親子 1 組)。			
夏休み造形教室	(人)	(人)	7 26 ～ 29 10 10 ～ 12 40 14 00 ～ 16 30	板状にした陶芸用粘土に、色味の違う粘土で十字路や T 字路などの道を作り、まわりには家や木、動物などを飾って自分だけの町を作る。焼成後、組み合わせ方によっては、何通りもの町に発展する。受講料＝3,000 円。			
	くみかえ 陶道路	小2～高3 (半日コー ス/4日間 計 120)			延へ 122		
	マクネット サッカー スタジアム	小2～高3 (1日コー ス/4日間 計 60)			延へ 60	8 2 ～ 5 10 10 ～ 16 40	ピッチ上をコミカルに動き回るサッカー選手たち! 相手をブロックしてホールを奪ったり、トリプル技を駆使したりしながら、得点に結びつける、強力マクネットを使ったサッカーゲーム。使用する磁石は、敵味方で極性を変えてあるので、自分のチームの選手だけを動かせる。受講料＝5,000 円。
	光る プラネット トーロ	小3～高3 (1日コー ス/4日間 計 60)			延へ 60	8 9 ～ 12 10 10 ～ 16 40	張り子技法で作る白いプラネット。光か七色に変化する特殊照明か点灯すると、表面に道かっきりと浮かひ上がる。光の色か次第に変わってプラネットの色と同化するなど、幻想的な雰囲気を作り出す。透明素材で作る建物も、光の色に合せて次々と色か変わっていく。受講料＝5,000 円。
	シオラマ コロコロ 迷路	“			延へ 60	8 16 ～ 19 10 10 ～ 16 40,	さわやかな音を奏てるくぎ打ち迷路、くねくね道の切り抜き迷路、竹や石やスポンジなどを使った素材迷路、光る素材と透明素材を使ったキラキラ迷路——4 つの迷路か連続した迷路を作り、鉄の玉を転がしてゴールをめさす。金つちやトリル、電動糸のこぎりなどの道具を使って制作。受講料＝5,000 円。

## ■■■ その他 ■■■

名 称	日 時	内 容
レクチャー「Tactile」	8月1日 18:30～21:00	平成18年から継続している「触察」レクチャーシリーズの第6回目。視覚障害者か認知の世界を広げるための習得法や美的な鑑賞体験かてきえるよう開発された手で触って読み解く「触察」の本についての講演会。講師 駒形克己さん(クラフィノクデザイナー)。主催 NPO法人視覚障害者芸術活動推進委員会、こどもの城造形事業部。(会議室)
第15回 図工たいすき 子ども美術展	9月13～10月2日	都内小学校の図工専科教師有志(19校)による子どもたちの図工作品展。会期中の土 日曜日、祝日にワークショップを開催。9月18日は国立西洋美術館主任研究員 寺島洋子さんによるギャラリートーク、10月1日はアートディレクター はたよしこさんによるフォーラムを開催。入場者は3,873人。主催 NPO法人CCAA、こどもの城造形事業部。(ギャラリー)
ブルーノ・ムナーリ展	10月9～30日	造形事業部所蔵の「ブルーノ ムナーリ コレクション」の貸出事業。韓国ソウル市の芸術の殿堂 ハンカラム デザイン美術館での展示、カタログ制作に協力。ワークショップ「テクスチャー」「木をつくろう」を実施。現地スタッフに指導法を指導し、継続して実施した。同美術館では2回目の展示。
第10回鉄はうたう	12月15～H24.1.15	2011年(平成23年)6月にロシア連邦サハ共和国で開催された「第7回国際口琴大会」の資料と口琴の展示。また、10回を記念して親指ピアノも展示した。1月13日にはコンサートも開催。主催 日本口琴協会、こどもの城造形事業部。(造形スタジオ)

## ■■■ プログラム一覧 ■■■

## ■■■ 親子コーナー ■■■

名 称	内 容	
道と造形	くねくね スカイウェイ	紙の帯とアルミ針金を組み合わせ道に見立てたものを、土台にとめて自由に飾り付けをする。空に向かってくねくねと伸びる道か完成。
	ミラーロート	ラシャ紙と鏡面状の紙をし字に組み合わせ、ラシャ紙に道を描いてまわりを飾ると、鏡面状の紙に道や飾りか映り込み、奥行きのある不思議な作品になる。
	S字道(えすしみち)	竹ひこに紙帯をSの字型にとめたら、紙帯の表裏を道にたとえて、家や車、木などの飾り付けをする。道をたると、終わりなく続くSの字型の道かてきあかる。
	つないて道	道に見立てた紙の帯を切って、シクサク道や分かれ道などを自由につないて飾り付けをする。紙の帯のつなぎ方によって、さまざまな形の道かてきあかる。
	みちほうし	太い紙の帯を巻いて輪を作り、細い紙の帯を組み合わせ帽子型の道を作る。道に自由に飾り付けをすると、かふっておてかけかてき道の完成。
	もこもこみち	輪にしたモールをハトロン紙の間にはさんではり合わせる。モールを道に見立ててまわりを飾ったら、モールを曲げて遊ぶ。さまざまな形に变化する道になる。
	つないて スタンプロート	直線や曲線など、さまざまなスタンプを台紙に押し道を作り、まわりに建物や木などを飾り付けすれば、スタンプを使った地図かてきあかる。
たとロート	毛糸を紙にホチキスとめて道に見立てる。道のまわりを木や家などで飾ると完成。てきあかつたら、指先で道をたどって遊ぶ。	
ペーパー マーケット	八百屋さん 魚屋さん	新聞紙をやわらかくもんで、好きな野菜や果物の形を作る。そこに薄い色紙を巻いて飾り付けをすれば完成。
	くつ屋さん ～トカトカくつ～	よくもんでやわらかくした色ラシャ紙を自分の足に巻いて、靴の形を作る。いろいろな紙で飾りをして、世界でひとつしかないオリジナルの靴を作る。
	ふっくら ヘーカリー	2枚重ねたうすい色紙をパンの形に切り、端をのりつける。色紙にストローを付けて息を吹き込むと、パンかふっくらとふくらむ。
	びっくり ペーパーめかね	四角い色紙に穴をあけてメカネのフレームを作り、いろいろな紙をもんたりまるめたりして飾ると、変身メカネの完成。
	うつわ屋さん ～キリコミカップ～	色紙に切りこみを入れ、はり合わせて器を作る。切りこみの数や長さ、はり合わせる角度によって、ちかう形のカップかてきえる。

	称	内 容
こども歳時記	端午のはしきコイ	段ホールや土台に竹ひこを立ててこいのほりを飾り、塩と板をはしくとこいのほりか跳ね上がる。郷土かん具の「はしきざる」を身近な材料でアレンジしたプログラム。
	X'mas ペーパー ロールケーキ	皮段ホールの内側に、よくもんだ紙をはさんで巻く。お皿にのせてまわりをデコレーションしたら、おいしそうなおロールケーキの完成。
	お正月辰パッケン	和紙を袋状にし、手にはめてパクパクと動かせる干支の〈辰〉を作る。
	節分ころっと！ オニカップ	丸めた紙と紙コップをたこ糸でつないで鬼の飾りつけをする。たこ糸を引っ張ると、転がっていた鬼の頭が紙コップの体になる。
	おひなとうろう	和紙におひなさまの飾りをして筒状に。内側に鏡面状の紙をつるし、やさしい光が透過する灯籠に。
その他	変身「はっぱ面	子どもの顔ほどの大きさに拡大した葉っぱの台紙に、いろいろな形の葉っぱのコピーを自由にはって作るお面。「秋祭り」のプログラム。

### ■■■ クリエイティブコーナー ■■■

	称	内 容
道と造形	くみかえ道路	3枚の段ホール板に紙の帯をはって道を作り、道路のまわりを紙や木片で作った木や建物で飾る。段ホール板を自由に組み替えると、道路の形をさまざまに変えて遊べる。(新小4以上、1時間30分)
	走れ！∞(むげん) ロード	回し棒をクルクル回すと、ヘルト状の道がルームランナーのように連動して動き、自分で作った車や動物などの飾りか無限に走り続ける。(小3以上、1時間30分)
	コロコロさんぼ道	カムテープのしんの内側を道に見立てて紙で飾る。人形や動物などを作り、透明シートと組み合わせてなかにふら下げる。転かすと、転がる道を人や動物の飾りか歩き続ける。(小3以上、1時間)
	竹カクカクロード	割り竹をのこぎりて数個に切って、両端にトリルで穴を開ける。竹をたこ糸で環状につなぎ、人形や動物などで全体を飾る。つなぎ目がカクカクとユーモラスに動く道か完成。(小3以上、1時間30分)
	みちカート	凸凹の壁紙や鏡面状の紙、片側かスポンジの紙など、いろいろな素材のカートを4枚使い、それぞれに道を作って飾り付けると完成。自由に組み替えて、町の形を変えて遊ぶ。(小3以上、1時間30分)
	ロードパット	段ホール板に道を描き、電動糸のこぎりて切り抜く。道と残った形を2枚に分けて台紙にはり、まわりを飾る。凸凹が反転した道か完成。台紙を半分に折ると、とすることかできる。(小3以上、1時間30分)
	たんたん DE 道	段ホール板を切ってさまざまな形を作り、土台に重ねてはる。高さの異なる地面と切った段ホールの形に合った道かできる。全体を飾って、段々に囲まれた道を作る。(小3以上、1時間30分)
ペーパーマーケット	アルミ山のお散歩道	アルミ板を鍛全用の「しゅもく植」でたたいてトーム状に。タカネで凸凹模様の道を作り、油性ペンで着色する。次にスチールワッシャーを仕込んだ人や動物を作り、トームの裏から磁石をあてて動かせは、お散歩も楽しい道の完成。(小3以上、1時間30分)
	電気屋さん～段ホールコレクション～	段ホールや皮段ホールを組み合わせ、カメラや冷蔵庫などの電化製品を作る。(小3以上、1時間30分)
	カーデショップ ～みな段プランツ～	皮段ホールを葉っぱの形に切り、針金に通して植物を作る。「あなか開いている」「曲げやすい」という皮段ホールの特徴を生かした植物作り。(小3以上、1時間30分)
	パンチンクカコ屋	裏と表で色の違う色紙を半分に折り、端をのりてとめる。ポンチで穴を開け、紙テープで持ち手や飾りをつければ、裏と表の色の違いを楽しめるカコの完成。(小3以上、1時間30分)
	ペタペタハリコの ヒン屋さん	好きな形のヒンを選んで、まわりに紙をのりてはり、乾燥後、なかのヒンはずせは「張り子」のヒンの完成。最後にラヘルも作り、オリジナルのヒンをデザインする。(小3以上、1時間30分)
	型紙プリント	染色用の型紙にポンチで穴を開けて模様(版)を作り、和紙などの紙の上のせ、ハケで絵具をのせていくと模様か写る。(小2以上、1時間)
こども歳時記	くるりコイ変化	角材を斜めに4つに切り分け、中心にコムひもを通してこいの飾りを作る。角材を回転させるたびに、形と模様が変わるこいの完成。(小3以上、1時間30分)
	X'mas ウキウキ紙人形	竹ひこに、手足になるパーツを和紙でつけて本体に割ピンで固定。竹ひこで連動して動く紙人形の完成。(小3以上、1時間30分)
	お正月辰かぶり	竹ひこで骨組みを作り、和紙をはってたこのように軽くて丈夫な〈辰〉の形をしたかぶりものを作る。(小3以上、1時間30分)
	節分鬼たいこ	鬼の形に切った段ホールをくり抜き、トレーシングペーパーをはる。たたいたり、振ったりして音を鳴らす鬼の太鼓になる。(小3以上、1時間30分)
	ひなゆらり	厚紙にいろいろな紙をはって凸版を作り、和紙に刷る。おひなさまとおたいらさまの飾りをして竹ひこにつるせば、ゆらりとゆれるモヒールの完成。(小3以上、1時間30分)

# 音楽



トキトキッス オンステージ  
花のお江戸の助六太鼓



こどもたちからのサウンドメッセージ

## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

音楽事業部の活動は、音楽ロヒーを一般活動の拠点とし、スタジオは特別な催しと講座・クラブの活動の場とするという形を基本としている。

音楽ロヒーは、長年の実験的プログラム実施の積み重ねて、ユニークな音楽遊びが展開されるオープンスペースとして〔こどもの城〕のなかでも、なくてはならない遊びの場となっている。手作りの楽器や民族楽器などをそろえ、いかに音楽の楽しさと共感する喜びを子どもたちに伝えることかてきるかをコンセプトにプログラム開発を行い、環境整備に工夫をこらしてきた。

平常期間の一般利用については、平日は1日1回の音楽遊びのプログラムを核として、ストリートオルガンの体験と童謡コンサート「うたってハッピー」を数回実施している。音楽遊びのプログラムでは特に、親子のスキンシップかはかれるオリジナルの歌遊びやダンス、そしてパネルシアターなどを行っている。1回30分のプログラムのなかで、〈動〉と〈静〉のめりはりをつけた構成としている。

日曜日・祝日には、11時30分から17時まで、プログラムが9本組まれている。ストリートオルガンの体験、童謡コンサート「うたってハッピー」、音楽遊びプログラム「音楽広場」、そして世界の民族楽器か体験できる「めすらし楽器にチャレンジ」など。管楽器や打楽器などによる編成でリスミカルな楽曲を演奏する「Oshiro Band ミニライブ」は、自然に体が動き出すような楽しい選曲で、子どもたちも自由に楽器を鳴らし、親子で“音楽を遊べる”スペースとなっている。

スタジオの一般来館事業の核となるのか、Bスタジオで行われる「わいわいスタジオ」である。世界各地の民族音楽などを定期的に取り上げたり、手作り楽器のワークショップを開催するなど、来館する親子にさまざまな音楽体験の場を提供している。

特別期間には、特に来館児・者が多いことと学童の来館児も増えることを念頭においたプログラムを実施し、多人数異年齢の来館児・者にむけて幅広い音楽体験の場を提供している。夏休み特別期間には、親子で参加できる「手作り楽器ワークショップ」や「ふれよう世界の音楽」などの短期講座を実施した。

講座・クラブについては、他では体験できない音楽活動をめさして邦楽・民族音楽系なども含むラインアップで運営している。グループ活動については、個々の参加団体の要望にフレキシブルに

対応できる柔軟で積極的な姿勢と応用力のあるプログラムを用意している。

本年度は、下記の 3 つに重点を置いて活動した。

- ①経費節減のなかでも、今までのボリュームやクオリティを極力落とさない工夫をする。
- ②子ども主役型の季節行事、家族のコミュニケーションをはかるプログラムをより充実させる。
- ③小学生対象のプログラムにさらに力をいれる。

## □□□ 音楽ロビーの活動から □□□

本年度もオリジナルのプログラムをいくつか開発した。主なものは以下の通り。

### ■■■■ ベにとロク〜オリジナルパネルシアター〜 ■■■■

音楽事業部の活動は子どもだけか楽しめるのはいいというのではなく、保護者にも「おもしろいからまた参加してみたい」と思ってもらえるような、プログラム作りを目標にしている。このプログラムも、大人も楽しめるクオリティをめざして作った新プログラム。

子どもたちは前作から引き継いでいる、なじみのあるテーマソングで振りやかけ声をかけたり、何回も見ることで次の展開を思い描いている。くり返しのおもしろさ、展開を知っていることの楽しさを感じながら、子どもたちが登場人物に共感し、能動的に参加できる作品に成長した。

### ■■■■ うたって おどって ハッピークリスマス ■■■■

子どもたちには“自分か主役になれる体験をする”ことや、“子ども同士が刺激しあい、より楽しい時間を作り出す”こと、保護者には、“子どもを見守りながらその成長を感じ、喜ぶ”こと——“大人と子どもの両者か楽しさを共有できる”ことをねらったプログラム。「ひなまつり」「七夕」「ハロウィーン」に実施する、子どもたちがステージにあがって歌ったり踊ったりする子ども主役型プログラムの新シリーズ。これで、春夏秋冬それぞれの季節のプログラムがそろった。

『赤鼻のトナカイ』『サンタが街にやってくる』といった子どもたちのよく知るクリスマスソングはもちろんだが、今回もスタッフオリジナルのクリスマスソング『HAPPY MERRY CHRISTMAS』



うたって おどって ハッピークリスマス

を制作し、使用した。子どもたちがノリやすいヒート感とテンポ、口つきみやすい歌詞とメロディーですぐに覚えて歌えてしまうのか特徴だ。

本年度は AV 事業部の協力で、ミュージックビデオふうな映像を撮影し、館内放送で PR した。事前に館内テレビを見て、歌や振り付けを覚えて参加する子どももいて、告知だけではない効果があった。今後はインターネットなども利用し、楽しさを伝えることにも力を入れたい。

### ■■■■ みんなでおどろう BON ダンス! ■■■■

“四季の行事を音楽をとおして感じる”ことと、“世代を超えて子どもから大人まで一緒に楽しむ”ことをねらいとしたプログラム。四季折々の行事を楽しむことは大切であり、音楽のプログラムにも季節感を取り入れるように工夫している。

夏休み特別期間には、夏の風物詩「盆踊り」を取り上げた。オリジナル音頭で踊りを取り入れたことも近年にあったか、「盆踊り」単独でプログラムとしたのは、平成 17 年 (05 年) 以来 6 年ぶりである。

オープニングは太鼓を真んなかにし、[こどもの城]オリジナル音頭を円になって踊る、オーソドックスな「盆踊り」。次に、新たな演出として、わたあめ屋台を舞台にしたコントふうのプレイクタイムを設けた。店に並ぶわたあめの袋を開けると違う物が入っている、という単純な設定だが、手拍子をうなかし、音楽に乗せてテンポよく進めることで、後半のプログラムへのよい橋渡しになった。

フィナーレは、サ・ドリフターズのテレビ番組で有名な『北海盆歌』を替え歌にして使用。保護者の認知度が高い曲であり、懐かしさも手伝って積極的に親子そろって参加する姿が多くみられた。子どもたちに人気の音楽を取り入れることは言うまでもないが、親の世代か子どものころに体験していた素材を用いることで、親の参加度を高めることができた。加えて、親子の話題作りという効果もあるように感じた。

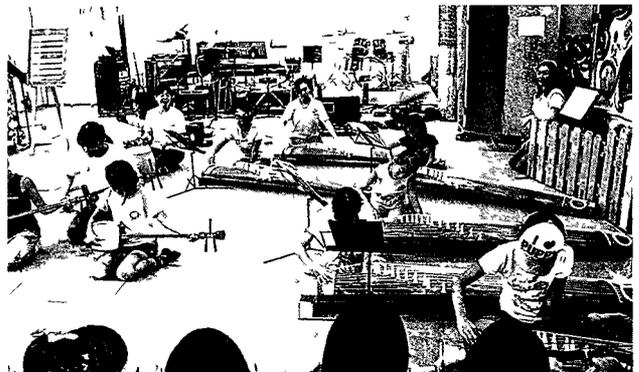
### ■■■ ポコ・ア・ポコ夏休みスペシャル ■■■

“一緒に取り組む子ども同士でアンサンブルの楽しさを感じる”こと、そして“自分で考えて楽器に取り組む”ことをねらいとして、夏休み特別期間に実施した。平常期間の毎週土曜に行っている「ポコ・ア・ポコ土曜音楽倶楽部」（活動一覧表を参照）の拡大版。小学3年生以上が対象の楽器体験プログラム。通常では種類の楽器だか、「箏」と「三味線」の2種類の楽器に取り組み、異なる楽器でのアンサンブルをめざした。

子どもたちはどちらかの楽器を選択し、それぞれの楽器に取り組む。選曲は適度な長さで、子どもたちになじみがあり、なおかつ、あまり幼形的でないものという条件から『小さな世界』に決定した。最初はメロディーの核となる一つの音を長く伸ばしてゆっくりと演奏し、慣れてきたら少しずつ音の数を増やし、最終的にメロディーに取り組む、という3段階の楽譜で進行した。こうすることで、年齢差や遅れて参加した子どもたち、それぞれの進行状態が違っていても合奏が可能になり、本来の目的であるアンサンブルの楽しさを感じてもらいやすくなった。

また、このプログラムのもう一つのねらいに“自分で考えて楽器に取り組む”ことがある。自分のペースで主体的に取り組む、一段階ずつ進むことができるからこそ感じられる楽器や音楽の魅力は、小学生プログラムならではの体験といえる。

異なる2つの楽器のアンサンブルに取り組んだのは、初めての試みだった。限られた時間で、楽器ごとの進行状況を合わせながら合奏までに進めていくのはなかなか難しく、期間中、スタッフが何度も楽譜を書き換え、演奏の難易度を調節しながら実施することになった。ただ、“やさしすぎない”ことも魅力の一つである。何度も参加して取り組む子どもたちもいて、知的好奇心や向上心を刺激する内容となった。



ポコ・ア・ポコ夏休みスペシャル

### □□□ まとめ □□□

前年度末に発生した東日本大震災の影響（計画停電など）で、休館や開館時間を短縮せざるを得なかったが、平常に戻った後の音楽ロビーのプログラムには、たくさんの常連メンバーの家族が訪れ、待ちかねていたように音楽を楽しんでいた。子どもたちが体全体で喜びを表している姿を見て、音楽の力や表現活動の大切さを再認識した。ふたつ私たちが何気なく子どもと歌っている歌の歌詞にも、人と人とのつながりや、思いやりの大切さなどがこめられているものが多いことにも、改めて気付かされた。今後も子どもの成長と音楽の役割について常に真摯に考え、取り組んでいきたい。

〈動くこどもの城〉やこどもの城児童合唱団の夏合宿をとらして、音楽部門の活動は広く全国に波及している。オリジナルの手遊びや手作り楽器などのプログラムは、〔こどもの城〕の実践のなかではくまれてきたものなので、実際的ですぐに活用できる。〈動くこどもの城〉は派遣回数に限りがあるが、講師派遣の形でさまざまな所へかけて実践的な音楽遊びの指導をしている。

こどもの城児童合唱団は、縦年齢のつながりと個性を生かした集団として、表現活動の大切さを発信し続け、児童館における音楽活動のモデルとしての役割を担っている。今後も粘り強く活動を推進していきたい。

# 平成 23 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
みんなてライフ!	火曜日 1500～1530	子どもたちがよく知っている手遊び、季節に合わせたパネルシアター、童謡、体を動かす遊びのプログラム。音楽を楽しむなかで、親子のふれあいを感じるものを取り入れている。幅広い年齢層に対応するプログラム作りに取り組んだ。 (音楽ロビー)
ほんわかおんかくタイム	火曜日 1615～1630	15分間のショートプログラム。主に、ハイオリンとピアノの演奏。夕方のひととき、子どもだけでなく保護者にもゆったり音楽を楽しんでもらおうと、クラシック的なものや、ゆったりとした曲調のものも取り入れている。 (音楽ロビー)
赤ちゃん特等席 はふりんパラダイス	火～金曜日 開館時間中 (催し開催時を除く)	0～1歳児と保護者のコーナー。赤ちゃんを囲んで初対面の母親同士が自然と交流を持てる場になっている。 (音楽ロビー)
うたってハッピー	火曜日 1430～1500 水曜日 1400～1430 1600～1630 木曜日 1415～1445 金曜日 1315～1345 1600～1630 土曜日 1130～1200 1300～1330 日曜日・祝日 1130～1200 1300～1330 1500～1530	ハント形式による弾き語り。レパートリーは童謡のほか、アニメのヒットソングなど。リクエストも多く、子どもたち積極的にロビーの楽器を楽しめる。それぞれのスタッフが毎回工夫し、個性豊かな内容を展開することかてきた。土 日曜日、祝日の午前中の回は、早い時間帯に来館する幼児と保護者には特に好評である。 (音楽ロビー)
ストリートオルカン やってみよう!	火曜日 1630～1700 水曜日 1330～1400 1530～1600 木曜日 1615～1645 金曜日 1515～1545 1630～1700 土曜日 1230～1300 日曜日 1215～1300 1630～1700	ロビー常設のオランダ式手回しオルカン。親子、兄弟、友たち同士などでペアになり、演奏を楽しんだ。 (音楽ロビー)
すいようパチパチパーク	水曜日 1430～1500	歌遊び、手遊びなどの参加型プログラム。また、アフリカ、インドネシアなどの音楽の演奏と鑑賞のコーナーを加えることもある。親子も、スタッフも参加して、一体となって音楽を感じあえるイベントになっている。 (音楽ロビー)
木曜なかよし広場	木曜日 1345～1415	スタッフの個性を生かしながら、乳幼児から親子で気軽に楽しめるプログラム構成に努めている。内容は、遊び歌、パネルシアター、絵本、簡単なダンスなどが中心。 (音楽ロビー)
みんなの楽器屋さん	木曜日 1500～1530	世界各地の楽器を紹介する、鑑賞と体験のプログラム。活動には女性ボランティアも参加。演奏のレパートリーも増え、アンクルン、トーンチャイム、ミュージックヘルを中心に季節の童謡を演奏。本年度から、演奏した楽器曲についての紹介を女性ボランティアが担当。楽器の扱い方、演奏のコツ、曲の由来など、個性豊かに司会している。 (音楽ロビー)
うきうきタイム	木曜日 1600～1615	新プログラム。毎回担当する職員の個性に合わせて、さまざまな内容を試みた。マリンハヤピアノなどで昔から歌い継がれてきた童謡の演奏、絵描き歌、子どもたちにマイクを持って歌ってもらう——等々。手遊び 歌遊びを積極的にうながすのではなく、親子でゆったりと過ごせるプログラム構成を心かけた。夕方の時間帯は、参加する親子も少人数のことか多く、スタッフとの距離も近くなり、アットホームな雰囲気プログラム。 (音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
みかんちゃんの オバオバサンハ!	金曜日 14 15 ~ 14 45	女性ボランティア中心の活動。サンハのリズムに合わせて体を動かす「サンハ新聞」というプログラムに取り組んだ。ボランティアの一人ひとりか、プログラムリーダーとしてのスキルや演奏技術の向上をはかり、活動を支援している。(音楽ロビー)
音楽あそび マーケット	土曜日 13 30 ~ 14 00	パネルシアターや紙芝居に音楽を組み合わせ楽しんでもらう鑑賞型の活動と、手遊び、音楽遊びという参加型の活動を組み合わせた。土曜日であることから、幅広い年齢層の子ともたちはもちろん、大人にも楽しんでもらえる内容を心かけた。(音楽ロビー)
宅配!ミュージック ボックス	土曜日 14 00 ~ 14 30	演奏を聴く 楽器にふれて演奏してみるという体験をとおして、さまざまな音楽を楽しむ鑑賞 体験合体型のコンサート。時間になると宅配ボックスが届き、なかに紹介する楽器や音楽のヒントが入ってる——という設定。国地域や楽器の素材、奏法など、さまざまな角度から楽器を紹介。(音楽ロビー)
ポコ・ア・ポコ 土曜音楽倶楽部	土曜日 14 30 ~ 15 20	高学年向けの楽器体験コーナー。1期は「カムラン」、2期は「木琴 鉄琴」、3期は「シェンヘ」を取り上げた。どの楽器も、参加した子とも同士あるいはスタッフと合奏することで、みんなて演奏する楽しさを伝えられるようにした。毎週同じ楽器を続けることで、リピーターには個々の技術を向上させるおもしろさや達成感を味わってもらえるように工夫した。2月 11 ~ 13 日には、体育 AV プレイ事業部と企画研修部の共同で、小学生プログラムのスペシャル企画を実施。音楽事業部は、アフリカの太鼓と日本の箏、インドネシアのアンクルンで参加。プレイホールで発表(ミニ コンサート)も行った。(音楽ロビー)
みんなてあそぼう! 音楽広場	日曜日 祝日 13 30 ~ 14 00	担当職員一人ひとりの個性とレパートリーを生かした手遊び、歌遊び、リズム遊びを中心とした豊富な内容に、パネルシアターやダンスなども加えたハラエティー豊かなプログラム。「わいわいスタジオ」のある日は実施しない。(音楽ロビー)
Oshiro Band ミニライブ	日曜日・祝日 14 45 ~ 15 00 16 00 ~ 16 30 ×「みんなてあそぼう!音楽広場」がないとき 13 55 ~ 14 15	『クシコスポスト』『トランペット吹きの日』『トルコ行進曲』など、リズムミカルな楽曲をマリンバ、ギター、トランペット、ハイオリン、フルートなどで演奏。オリジナルアレンジで、スタッフのソコを入れ、来館児 者にアピール。子ともたけてはなく、大人も一緒になって手作り楽器を演奏したり、手拍子をしたり、ロビー全体が一体となるライブになった。(音楽ロビー)
めずらし楽器に チャレンジ	日曜日・祝日 14 00 ~ 14 30 ×「みんなてあそぼう!音楽広場」がないとき 14 15 ~ 14 45	世界各地の楽器を演奏し、紹介 体験する参加型のプログラム。世界のさまざまな楽器を演奏し、楽器の特徴をわかりやすく紹介。コンサート終了後は使用した本物の楽器をゆっくり体験してもらう。(音楽ロビー)
わいわいスタジオ	日曜日・祝日(ほぼ隔週) 13 30 ~ 14 00 15 30 ~ 16 00	演奏者を招いたコンサートと、身近な材料を使って手作りして楽器を作るワークショップの 2 種がある。ワークショップは、フィルムケースやペットボトルのキャップを利用した鳥笛作り。小学生対象のプログラムと幼児も参加できるプログラムがある。コンサートは「全管アンサンブル」「草笛」「フラメンコ」「インドネシアのカムラン」を実施。クリスマスは 2 つのコンサート(「わいわいスタジオクリスマススペシャル」の項参照)を実施、多くのファミリーに楽しんでもらった。(B スタジオ)



わいわいスタジオ「元気にフラメンコ」

わいわいスタジオ「モーモーずのようこそクリスマス」



≡ 称	日 時	内 容
うたってハッピー！ 七夕スペシャル	7・2・3 11:30～12:00 13:00～13:30 (3日のみ) 15:00～15:30	星の飾りを身につけ、子どもたちかステーションに上かって歌い、踊る場面を設けた「うたってハッピー！」のスペシャル版。(音楽ロビー)
うたっておとって ハッピーハロウィーン	10・29 30 11:30～12:00 13:00～13:30 (30日のみ) 15:00～15:30	子どもたちかステーションに上かって歌い、踊るシリーズのハロウィーン版。来館児かたれても身につけられる仮装用の衣装を用意。ロビー全体をパーティ会場のように演出。ステーションに上からなくても楽しめた。フィナーレはオリジナルソング『PAN PAN PUMPKIN』で歌い踊った。(音楽ロビー)
うたっておとって ハッピークリスマス	12・17 18 11:30～12:00 13:00～13:30 (18日のみ) 15:00～15:30	本年度の新プログラム。子どもたちかステーションに上かって歌い、踊るシリーズのクリスマス版。子どもたちはサンタ帽の飾りをつけ、歌い踊った。クリスマスソングのほか、オリジナルソング『HAPPY MERRY CHRISTMAS』で大フィナーレ。ハロウィーン同様、クリスマスの衣装やクッスを用意し、音楽ロビー全体をクリスマスパーティ会場のように演出した。(音楽ロビー)
トキトキッズ オンステーション	H24 3 18、20 13:30～14:00	音楽事業部講座 クラブ発表会をかねる、一般来館児 者向けのコンサート。 □集まれ！サンハ・フェスティバル！(レノッ プレイ サンハ初級、レノッ プレイ サンハ) = 3月18日/13時30分/音楽ロビー □花のお江戸の助六太鼓(和太鼓グループ) = 2月20日/13時30分/音楽ロビー

■ ■ ■ 特別期間 ■ ■ ■

≡ 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 めずらし楽器に チャレンジ	4・29 30 14:00～14:40 5・1、3、6～8 14:10～14:50 5・4・5 13:30～14:10	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 うたってハッピー！	4・29・30 11:30～12:00 13:00～13:30 15:00～15:30 5・1、3、6～8 11:30～12:00 13:00～13:30 5・4 5 13:00～13:30	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 ストリートオルカン やってみよう！	4・29～5・1、5・3～8 12:15～13:00 16:30～17:00	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 Oshiro Band ミニライブ	5・1、3、6～8 14:55～15:10 16:10～16:30	平常期間と同じ。4月29日は14時45分と16時。(音楽ロビー)
〈 " 〉 みんなてあそぼう！ 音楽広場	4・29 30 13:30～14:00	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 みんなてダンス！ ノッチャって！ おとっちゃって！	5・1、3、6～8 13:30～14:10 15:10～15:50	「こどもの日」にちなんで、子どもたちによりスポットか当たるように工夫したダンスプログラム。体全体を使ったまねっこ遊びのウォーミングアップから始め、ゲームに発展させる。それらの動きか次第に組み合わせり、知らず知らずのうちにダンスになるという進行。最後は年齢ごとにステーションにあかり、[こどもの城] オリジナルソングにあわせて披露する。(音楽ロビー)
〈 " 〉 カトカトスーパーライブ おんかくてあそぼう！	5・4・5 11:30、14:30 (ファミリータイム) 16:00 (ハワフルタイム)	[こどもの城] から生まれた6人編成のバンドの公演。劇場公演と違い、子どもたちそれぞれか音楽ロビーにある楽器を持って参加。リズム遊び、手遊び、ダンス、民族楽器紹介、シャクリンクなど多彩な内容を展開。(音楽ロビー)

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 ストリートオルカン やってみよう!	7 16 ~ 8 31 12 15 ~ 13 00 16 30 ~ 17 00	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 夏のこいっしょ ライブ!	7 16 ~ 8 31 11 30 ~ 12 00 15 00 ~ 15 30 (8 14, 17 は 11 30 の回のみ)	ハント形式による弾き語り。歌の演奏は子どもたち、親子にとって、人気のあるプログラムであることから、夏休み特別期間をとおして実施した。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 Oshiro Band ミニライブ	7 16 ~ 8 16 13 00 ~ 13 15 (8 14, 17 のみ) 14 45 ~ 15 00 16 00 ~ 16 30 8 18 ~ 31 14 45 ~ 15 00 16 00 ~ 16 30	平常期間と同じ。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 みんなてあそぼう夏本番! とれみふぁプレミアム	7 16 ~ 8 9 13 15 ~ 13 55	歌遊び、リズム遊び、パネルシアター、ダンスとハラエティに富んだ内容で実施。スタッフによる日替わりプログラム。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 めずらし楽器に チャレンジ!	7 16 ~ 8 16 14 00 ~ 14 45	世界の民族楽器を紹介するコンサート。参加者には楽器のイラストと解説を書いた「オリジナル楽器カイト」をプレゼントした。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 みんなておとろう BON ダンス!	8 10 ~ 17 13 15 ~ 14 00	オリジナルの曲で夏の風物詩「盆踊り」を楽しむプログラム (本文参照)。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 みんな to みんな あつまれ キッスタンサー	8 14, 17 15 00 ~ 15 15	夏休み短期講座「Dance[E] プロジェクト」の子どもたちリーダーとなり、一般来館児と一緒に踊るダンスプログラム。声を使ったコール&レスポンスやじゃんけんの動きを使ったリズム遊びなども取り入れ、受講生が主体となって進行。最後はオリジナルテーマ曲『to-be-tate』で踊った。(音楽ロビー)
〈 〃 〉 和楽器にチャレンジ	8 18 ~ 31 13 00 ~ 13 45	「めずらし楽器にチャレンジ」の和楽器バージョン。「和太鼓」と「箏 三味線」を日替わりで実施。「和太鼓」はスタッフのデモンストレーション演奏の後、3 歳以下は保護者と一緒に「締め太鼓」、4 歳以上は「中太鼓」を体験した。「箏 三味線」も同じようにデモンストレーション演奏の後、体験。なかなか触れることかない楽器にさわれるとあって、幼児や保護者にも好評だった。 (音楽ロビー)
〈 〃 〉 ポコ・ア・ポコ夏休 みスペシャル	8 18 ~ 31 13 45 ~ 14 40	平常期間に実施している小学生プログラム「ポコ ア ポコ土曜音楽倶楽部」のスペシャル版。対象は小学 3 年生以上。参加者は「箏」か「三味線」のどちらかを選択し、じっくり時間をかけて体験する (本文参照)。対象年齢外の子どもたちには、前項の「和楽器にチャレンジ」と連動し、スペースを分けて同じ楽器を体験してもらった。 (音楽ロビー)



みんなてダンス! ノッチャって! おとっちゃって!



名 称	日 時	内 容
〈冬休み〉 うたってハッピー	12 23 ~ 25 11 30 ~ 12 00 13 00 ~ 13 30 15 00 ~ 15 30 12 26 ~ 28 11 30 ~ 12 00 14 30 ~ 15 00 H24 1 4 ~ 9 11 30 ~ 12 00	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 Oshiro Band ミニ ライブ	12 23 ~ 25 13 55 ~ 14 15 16 00 ~ 16 30 12 26 ~ 28 14 10 ~ 14 30 16 00 ~ 16 30 H24 1 3 ~ 9 14 40 ~ 15 00 16 00 ~ 16 30	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 わいわいスタシオ クリスマススペシャル	12 24 25 13 30 ~ 14 00 15 30 ~ 16 00	24 日は毎年おなじみになった「モーモーずのようこそクリスマス」(牛に扮した 2 人が繰り広げるおはなしと遊びのコンサート)。クリスマスとクリスマスソングをモチーフにしたオリジナルのおはなし「サンタクロースもクリスマス」(新作) を上演した。25 日は「クリスマスのおくりもの 2 世界の楽器でクリスマス」。前年度出演した「先生のためこハント」か「先生のひよこハント」と名前を変えて出演。管楽器に和楽器も加わり、子どもたちのよく知るクリスマスソングを演奏した。(Bスタシオ)
〈 " 〉 ストリートオルカン やってみよう!	12 25 ~ 28、H24 1 3 ~ 9 12 15 ~ 13 00 16 30 ~ 17 00 (3 日のみ 12 15 の回は 12 30 ~)	平常期間と同じ。1 月 3 日は 12 時 30 分から。(音楽ロビー)
〈 " 〉 めずらし楽器にチャレンジ スペシャル	12 26 ~ 28 13 00 ~ 13 40 15 00 ~ 15 40	13 時の回かイントネシア フラシル 中国などの楽器、15 時の回か和太鼓 箏 三味線などの日本の楽器を特集。演奏と体験を行った。(音楽ロビー)
〈 " 〉 うたってファミリー	H24 1 3 ~ 9 13 00 ~ 13 40 15 00 ~ 15 40	家族でエントリーして、生ハントの演奏にあわせてステージで歌を披露。1 回に 8 組の家族かエントリー。子ども用のカラフルな小型マイクに加え、ティアラやぼうし、リボンなどの衣装グッズも用意した。AV 事業部の協力、館内テレビでライブ中継を行った。延べ 123 組の親子が参加。(音楽ロビー)
〈 " 〉 日本の楽器 やってみよう	1 3 ~ 9 13 50 ~ 14 20	夏休み特別期間「和楽器にチャレンジ」と同じ。(音楽ロビー)
〈春休み〉 あそび横丁 みんなてハシけて へへのへん	3 24 ~ 4 5 13 20 ~ 14 00	手作りの弦楽器「へへん」を鳴らすと、天井に光の「種」が現れる。「種」が柱にとまったら、そっと近づいて「たね、くん、ぱっ」(たね 種を握るようにネックを握る/くん 芽かくん、と伸びるようにネックを上げる/ぱっ 花が咲くようにジャンプ)の呪文開始。演奏が盛り上がると、柱にとまった「種」から花が咲く、という仕掛け。最後はオリジナルソング『たねくんたねくん』で「へへん」を鳴らし、ポーズをキメる。幼児用の「ちひへへん」を作り直し、より多くの子ともたちに楽しんでもらえるようにした。(音楽ロビー)
〈 " 〉 うたってハッピー!	3 24 ~ 4 5 11 30 ~ 12 00 15 00 ~ 15 30	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 ストリートオルカン やってみよう!	" 12 15 ~ 13 00 16 30 ~ 17 00	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 Oshiro Band ミニライブ	" 13 00 ~ 13 15 16 00 ~ 16 30	平常期間と同じ。(音楽ロビー)
〈 " 〉 めずらし楽器にチャ レンジ	" 14 00 ~ 14 45	平常期間と同じ。(音楽ロビー)

講座・クラブなど

講座

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
みんなて楽しい リトミック I	(組) 3歳児と親 (20)	(組) ① 17 ② 18 ③ 15	水曜日 1400～1500 (全32回)	発達段階に即したリズム遊び、歌遊び、簡単な造形活動をとおしてコミュニケーションをはかり、音楽を楽しむ心と豊かな感受性を養う。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
〃 II	4歳児と親 (20)	① 17 ② 17 ③ 17	水曜日 1500～1600 (全32回)	I(初級)でつちかった、感性や音に対する感受性を引き続き伸ばすよう心かけ、成長に合わせて、個性豊かな発達をうながす。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
〃 III	5歳児と親 (20)	① 15 ② 14 ③ 14	水曜日 1600～1700 (全32回)	就学を控えるころになると、子どもたち同士の接触の機会が多くなる。ここでは音楽を楽しみながら、次へのステップアップをめざす。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
おんかく大好き ミュージック・パーク ～ダウン症児のための 楽しいリトミック I	ダウン症の 2歳6か月 ～6歳児と 親 (10)	① 11 ② 10 ③ 10	木曜日 1500～1615 (全29回)	ダウン症児とその保護者を対象としたクラス。音楽を使って、無理なく楽しみながら療育の手助けをすることをめざす。また音楽での保護者の心身開放も目的の一つとして活動を行っている。受講料＝1期20,000円、2期20,000円、3期18,000円。
〃 II	I修了の小 1～6 (10)	① 17 ② 18 ③ 18	木曜日 1630～1745 (全29回)	Iのステップを修了した小学生が対象。活動をとおし、親からの自立、表現能力、運動能力の発達を、音楽を楽しく学びながらうながす。受講料＝1期20,000円、2期20,000円、3期18,000円。
和太鼓クラブ	小3～高3 (12)	① 12 ② 13 ③ 12	土曜日 1400～1530 (全32回)	易島に伝わる「助六太鼓」のコース。大太鼓、中太鼓、締め太鼓の3種の太鼓を使って演奏する組み太鼓。口唱歌で指導している。受講料＝1期23,100円、2期25,200円、3期18,900円。
レッツ・プレイ・ サンハ I ～演奏とステップ～	小1～4 (10)	① 6 ② 9 ③ 6	土曜日 1300～1400 (全15回)	初級講座は、サンハ楽器を使った演奏と踊り(ステップ)を指導。“サンハ”をとおして、仲間と演奏する楽しさ、音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じてもらおう。受講料＝各期9,500円。
レッツ・プレイ・ サンハ II	小4～高3 (10)	① 9 ② 5 ③ 6	土曜日 1530～1700 (全15回)	サンハのリズムを楽しくアンサンブルする「レッツ プレイ サンハI」の進級コース。ステップの活動も加え、より幅広い活動に変化した。高度で力強い演奏を展開。受講料＝各期10,500円。
合唱講座	小1～4 (30)	① 36 ② 34 ③ 32	土曜日 1400～1530 (全32回)	遊ぶことをとおして、体全体で音楽を表現するユニークな合唱活動。修了後は、「児童合唱団I、II」へ。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
こどもの城 児童合唱団 I	小2～3 (合唱講座 修了者40)	① 44 ② 40 ③ 40	土曜日 1530～1730 (全32回)	音楽をとおし、協調性 創造性 幅広い知的好奇心を養い、豊かな音楽性を育てることを目的としている。合唱活動だけでなく、野外活動、シンセサイザーやリズム楽器による合奏なども体験。総合的にプログラムを展開。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。
〃 II	小4～中3 (合唱講座 修了者80)	① 132 ② 131 ③ 125	土曜日 1700～1900 (全32回)	
混声合唱 ～こどもに聞かせる おとなのコーラス～	高校生以上 (40)	① 85 ② 85 ③ 82	土曜日 1930～2100 (全32回)	子どもたちに、豊かな音楽や表現のすばらしさを伝えることをめざし、合唱を楽しんでいる。メンバーは高校生から社会人と幅広く、コンサートや合宿などのときは、「こどもの城児童合唱団」と活動をとともにしている。受講料＝1期22,000円、2期24,000円、3期18,000円。

講習会

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おんかく星みつけた ～就園前の リトミック～	(組) 2歳児と親 (20)	(組) ① 21 ② 21 ③ 20	木曜日 1030～1130 (1 2期10回、 3期9回)	就園前の幼児と保護者が対象で、リズム遊びを中心に、造形活動や身体表現なども取り入れた活動を行っている。親子でスキンシップをしながら、楽しく音楽と遊べることをめざす。受講料＝1期20,000円、2期18,000円、3期18,000円。

■ ■ ■ 短期講習会 ■ ■ ■

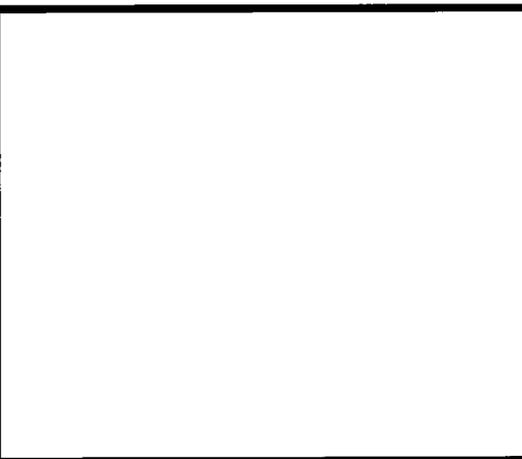
名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
ダンスワークショップ Dance [E] プロジェクト Vol 5	(人) 小2～6 (各 15)	(人) 30	8 13・14 8 16・17 10 30～16 00 (2 日間コース)	好評のため本年度は 2 コースに増やした。オリジナル曲にヒップホップを基調にした振り付けて、子どもたち考えた振りも取り入れた。最後は生ハントをハックに練習の成果を披露。本年度は「みんな to みんな あつまれキッスダンサー」という音楽クイズのプログラムとして発表。来館児の参加コーナーを設け、受講生か踊りのリーダーになった。受講料＝2,500 円。(B スタジオほか)
親子でチャレンジ！ふれよう世界の音楽 イントネシア・ハリカムラン	小1～高3 ×小4以上は 子どもだけで の参加も可。 (20)	15	8 23 13 00～15 30	一年ぶりの開講となるイントネシアの楽器「カムラン」の体験半日講座。指導はイントネシア ハリ島出身のプトゥ クテ ステイアワンさん。受講料＝親子ペア 4,000 円、子どものみ 2,000 円。(B スタジオ)
アフリカン・シェンヘ	“(各 20)	計 20	8 27・28 13 00～15 30	ワカン ンシャエ ロースさん(西アフリカ セネガルのパーカ ッションニスト)か、西アフリカのリスムを指導する太鼓のコース。各日、違うリスムを取り上げた。以前は〔こどもの城〕の講座で製作した手作りシェンヘを持参してもらったか、今回は楽器の貸出を行い、多くの人に受講してもらえるようにした。受講料＝親子ペア 4,000 円、子どものみ 2,000 円。(B スタジオ)
親子でチャレンジ！手作り楽器ワークショップ フヤラ	“(各 20)	計 24	8 23、26 13 00～15 30	新プログラム。東ヨーロッパ スロハキアの羊飼いか吹いている木管の笛 フヤラは、160～200cm ほどの大きさ。指穴は 3 つ。今回は塩ヒパイプを用いて製作。スロハキア大使館の参事官の協力で、スロハキアの話や楽器の話をしてもらった。受講料＝親子ペア 4,200 円、子どものみ 2,100 円。(B スタジオ)
コンツォウカ	“(各 20)	計 41	8 22、25 13 00～15 30	新プログラム。東ヨーロッパ スロハキアの羊飼いか吹いている木管の笛。60～90cm ほどの大きさを、一本の木をくりぬいたもの。塩ヒパイプを用いて製作。スロハキア大使館の参事官の協力で、スロハキアの話や楽器の話をしてもらった。受講料＝親子ペア 3,200 円、子どものみ 1,600 円。(B スタジオ)

□ □ □ その他 □ □ □

名 称	日 時	内 容
被災地支援チャリティーコンサート こどもたちからの サウントメッセージ ～たくさんの一歩～	4 10	東日本大震災のため、前年度末の 3 月に予定して中止となった公演を、劇場事業本部の全面的な協力でチャリティーコンサートとして実施。日常のありがたさを一人一人が感じながら、合宿で世話になった岩手県陸前高田市や釜石市のみなさん、そして全ての被災された人たちのために心をこめた公演となった。出演者、スタッフの協力のみならず、観客のみなさんからも多大な募金をいただき、現地に届けることかできた。(青山劇場)
こどもの城児童合唱団 夏季合宿(石川県)	8 21～25	27 回目の合宿は、石川県で行われた。以前にも訪れた輪島市に加え、白山市や能登町でも交流コンサートを開催。輪島市では、老人ホームの慰問や祭りへの参加など、地元に着した活動を行うことかできた。
こどもたちからの サウントメッセージ	H24 3 24 25	合唱講座、合唱団 I II、混声合唱か出演する「出会っただけありがとう」、おかあさんもいっしょリトミック I II III、おんかく大好きミュージックパーク、合唱講座、合唱団 I II、混声合唱か出演する「みんな音楽家」の 2 公演、全 5 回を青山円形劇場で実施。総勢 350 人か出演。合宿で訪れた石川県での思い出の曲、また交流のある被災地からのメッセージや曲を取り入れ、“子どもたちと地域を結ぶ”を大きなテーマにコンサートを進化した。参加型のリーダーシアター「ジャックと豆の木」なども、プログラムに花をそえた。(青山円形劇場)

オーディオ ビジュアル

AV



## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

本年度の重点項目は、①前年度に引き続き、開館以来実施してきたアニメーションを中心とした映像関連のプログラムに加えて、科学遊びのプログラムの充実をはかる ②ビデオライブラリーには、家族や友たちとビデオ観賞を楽しむという要素のほかに、子どもたちの居場所的な要素があることから、その機能を強化する ③地上デジタルテレビ放送への移行にともない、テレビ画面の縦横比が変更になることから、映像関連機器などのハードや、これまで独自に製作してきたソフトの対応を実施する — の3点である。

同時に、全館的な重点項目である乳幼児対策、父親の子育て参画への支援などについても、AV部門の特徴を生かして取り組んだ。

### □□□ 科学遊びプログラムの充実 □□□

子どもの“科学離れ”が問題提起されてから多くの時間が経過し、さまざまな取り組みが行われているか、なかなか改善しないのか現状である。“科学離れ”の要因の一つとして、〈あそび〉の変化が考えられる。子どもたちは身近な自然のなかで遊ぶことで、いろいろな自然現象と出会い、そこで創意工夫を重ねて“科学的な学び”を得てきた。しかし、パソコンやビデオゲームなどを使って室内で遊ぶことが多くなった今、こうした“学びの機会”が少なくなっていると感じている。

AV部門では、小学生以上を対象にした科学遊びプログラム「小学生ラホラトリー」を、プレイ部門と共同で行っている。これまでの実績をもとに、新たなプログラム開発に取り組んだ。さらに、幼児から参加でき、遊びの要素の強い「みなクル工房」を新規に第1・3日曜日に実施した。

ビデオライブラリーでは、特別期間ごとに視聴促進のためのさまざまな“特集”を組んできた。しかし、“特集”と連動させて科学遊びプログラムを実施していこうとすると、かなり活動が限られてくる。本年度からは、視聴促進と切り離して科学遊びプログラムの充実をはかることにした。“土・木・金属・月・火など、人間の生活に密着した素材を科学する”を年間のテーマに、特別期間に“曜日”に関連させた「②曜日 de サイエンス」というプログラムに取り組んだ。ここで開発されたプログラムは、「みなクル工房」に生かされている。

## ■■■■ ② 曜日 de サイエンス ■■■■

年間をとおして生活に密着した科学遊びのプログラムを実施するために、日・月・火・水・木・金・土という曜日の名称から浮かび上がるものをテーマに設定し、特別期間ごとに新たなプログラムの開発と実践に取り組んだ。

スタートとなったゴールデンウィーク(児童福祉週間)特別期間は、日曜日の“日”をテーマに〈光〉を取り上げた。モアレ現象、光の三原色、光ファイバー、偏向シートなど、〈光〉に関連した現象を遊びのなかで体験してもらい、関心を持ってもらうプログラム。クイズラリー形式で実施した。

ワークシートをもとに、4階にあるさまざまな現象を探る設定にしたため、参加者の遊びとしての満足度は高かった。しかし、現象の背景にある“科学的な要素”を伝えることには課題が残った。

夏休み特別期間は、期間が長いこともあり、前半は月曜日の〈月・星〉、後半を金曜日の〈金属・建築〉をテーマとした。展示物は、できるだけ子どもたちも好奇心を持って見たり、触ったりすることかできるものにしたと考えているが、内部の制作物だけでは限界があり、企業などの協力を得るように努めた。〈月・星〉については、清水建設(株)の協力を得て、アポロ計画で地球に持ち帰った月の砂の分析結果をもとに、その性質と成分を似せて作った砂「月土壌シミュラント」を展示した。〈金属・建築〉では、日本電波塔(株)(東京タワー)や東武タワースカイツリー(株)(東京スカイツリー)の協力を得て、写真パネルなどを制作し、展示した。

遊びの要素としては、前回と同様にクイズラリーの手法を用いた。前半は「スペースクイズラリー」、後半は「メタル・トレジャーハンター」を実施した。「スペースクイズラリー」では、クイズを探して答えるにとどまったが、「メタル・トレジャーハンター」ではクイズに答えるだけでなく、そこで得た数字を使って宝箱を開けるといった推理ゲーム的な要素を入れたため、子どもからは大変好評だった。また、問題になる金属を毎日変更したため、繰り返し参加する子どもも多く、繰り返し入館につながったと考えられる。

冬休み特別期間は、一般社団法人全国燃料協会の協力を得て、さまざまな炭やその原木、炭琴(炭製の木琴)などを展示した。音楽部門に協力してもらい、炭琴のミニコンサートなども実施し好評

だった。

年間テーマを設定したこと、展示構成などを考えやすくなったと同時に、来館児・者に対してプログラムを効果的にアピールすることかできた。科学的な要素を、いかに遊びのなかに取り入れるかが難しい課題であったが、前半はクイズラリー形式、後半は人数や時間を限定した「炭電池づくり」「松ぼっくりの炭づくり」「光る泥だんごづくり」「紙を染めよう」の体験プログラムを実施することで対応した。一長一短はあるが、科学的な要素をしっかりと伝えるためには後者の方が有効だったように感じている。



“土”ってなに？ みんなで考えてから「光る泥だんごづくり」

## ■■■■ 小学生ラボラトリー ■■■■

科学的なテーマを中心に、映像の要素なども盛り込んだ小学生対象の科学遊びプログラム。これまでに開発してきたプログラムの改良を中心に、いくつかの新規プログラムを行った。

これまでも写真機のハルブ撮影機能(長時間露光)を利用した遊びを提案してきた。ペンライトで空中に光跡を描いたり、スピログラフを使って幾何学模様の光跡を描くプログラムなどである。今回の「ハルブ撮影にチャレンジ」では、回転する針金をハルブ撮影し、仮想の立体物を光学的に描き出すことを試みた。異い背景の前で回転する針金をハルブ撮影すると、あたかもろくろで壺などを形作るような感覚で、回転体の映像(立体)が浮かび上がった。

「虹色クラムをつくらう」は新企画。CD-Rなどの“光を分光するプラスチック素材”が作り出す虹色の光で、模様を浮かび上からせる小箱を制作した。箱の形と分光素材の配置を工夫することで、

小箱のなかの空間に模様が浮かんでいるように見えるのが特徴である。

## □□□ 居場所としての機能の充実 □□□

ビデオライブラリーは、ふたは能動的なプログラムを行っていない。いつも同じスタッフが常駐しているからか、ビデオを見にくるほかに、スタッフにその日に起きた出来事などを話にくるといような子どもたちの“居場所”的な要素がある。そこで、そうした機能を強化するために、子どもたちとのコミュニケーションをはかる取り組みを実施した。

### ■■■■ みなクル工房 ■■■■

ビデオライブラリーを子どもたちにとってより居心地の良い場所にしたい、あわせて科学遊びのプログラムの充実をはかりたいという目的で新たに始めたプログラム。スタッフの個性や経験を生かして幅広い内容のプログラムを実施することと、個々のスタッフの能力を向上させるために、チームではなく、一人ひとりのスタッフか企画から準備・実施までを担当するスタイルをとった。

スタート当初は、スタッフが得意としているプログラムを実施することが多く、「昆虫のペーパークラフト」、錯覚を体験する「錯覚ラリー」、「とり+かえっこ屋」（規模を小さくした児童館版の“かえっこ”）、子どもたちがビデオライブラリーのお薦めソフトを紹介する「ビデオライブラリー応援プロジェクト」などを実施した。

夏休み特別期間以降は、クランクの仕組みを使ったからくりかん具「からくり玉」、マグネットシートの磁性体がしま状になっているのを利用した「パタパタハタフライ」、正四面体を組み合わせて作る「立体カレンター」など、科学的な要素を取り入れたかん具工作のプログラムが中心になってきた。10月には「シャック・オ・ランタン」のペーパークラフト、12月にはストローを使って動きの向きを変化させる「シャンシャンサンタ」など、季節感も大切にした。



カプセルトイの空容器をリサイクルして「からくり王」作り

「みなクル工房」は、スタッフと子どものコミュニケーションを促進することで、子どもたちにとって居心地のよい場を作ることを重要なポイントとしている。工作のプログラムでも、スタッフと子どもが「教える・教えられる」という関係にならないように心かけた。基本的には、子どもたちがサンプルを自ら観察し、考えて制作してもらい、必要なときにのみ相談にのるというスタイルをとった。スタッフは子どもたちのかたわらで制作をするようにし、同じ立場で子どもたちとコミュニケーションをはかるように心かけた。

また、居場所作りを目的に、子どもたちとまったりと遊ぶ環境を作りたいと、熊本県人吉地方で伝承されてきた“うんすんカルタ”やウノなどのカードゲームのプログラムも実施した。カードゲームの場合、確かにまったりとした雰囲気にはなるのたか、参加できる人数が限られていたり、“うんすんカルタ”のようにルールかやや複雑だったり、今後実施していくためには、何か工夫が必要だと感じている。

年度の途中から、これまでに実施してきたプログラムのサンプルを展示した。自由に触れるようにしておくと、次第に子どもたちの関心も高くなり、「この次は何をするの?」という問い合わせも多くなった。当然のことであるか、早目にプログラムを決めていくことの重要性を再認識した。

### ■■■■ ジュニアスタッフの取り組み ■■■■

これまで、[こどもの城]では「ドルッチャワークス～こどもの城 DE お仕事体験」や「とり+かえっこ」など、仕事を遊びとして体験するプログラムを実施してきた。また、ビデオライブラリーに居場所を求めてくる子どもたちのなかには、そこで働いているスタッフの仕事に関心を持って

る子どもも少なくない。そこで、常時子どもたちの“仕事体験”の要望を受け入れることができるように、「ビデオライブラリー・ジュニアスタッフ」という活動を実施した。

ビデオライブラリーの受け付けの仕事を体験してもらうのが基本。小学 5 年生以上が対象で、1 時間の研修を受けてから登録してもらう。[こどもの城] に来館し、ほかの遊びに飽きた時などに仕事にきてくれている。現在小学生から高校生までの 5 人が登録している。

子どもか受け付けをしている雰囲気はとても良く、ビデオを申し込む子どもにとっても新鮮なようだ。また、ジュニアスタッフの子どもたちは仕事をとおして、来館児・者やスタッフに認められることで、より意欲的になり、自己肯定感をはぐくむことにもつながっている。

## ■■■ その他 ■■■

全館的な課題でもある 0～3 歳くらいまでの乳幼児とその保護者に対する対応は、AV 部門が得意としている分野ではない。これまで試行的に実施してきた、映像を媒体に親子のスキンシップを楽しむ「なかよし映像広場」は、実施回数を増やすとともに、新たな試みにも取り組んだ。

### ■■■ なかよし映像広場 ■■■

オリジナルの動画を使用して、乳幼児とその保護者とがスキンシップをはかったり、体を動かしたり、“お話の世界”を楽しむプログラムである。これまで月に 1 回程度、不定期に実施してきたのだが、本年度は月に 2 回、できるだけ定期的な実施するようにした。さらに「クリスマス」「節分」「七夕」には、スペシャル版のプログラムも実施した。通常は、子ウサギのキャラクター“あさちゃん”と遊ぶ形で進行しているが、スペシャル版では新たなキャラクターも登場させ、季節行事の由来なども分かりやすく伝えるように取り組んだ。



スクリーンのなかの“あさちゃん”と一緒にヒーローのポーズ

実施回数が多くなったことで、プログラムの種類が増えるとともに、スタッフの経験値もあかってきたため、一般来館児・者向けのプログラムだけでなく、幼児を対象にしたグループ活動のプログラムとしても実施するようになった。おおむね好評だったか、グループ全体で何かを達成する場面をいかに構成していくかが課題となった。

実施回数が多くなったことで、プログラムの種類が増えるとともに、スタッフの経験値もあかってきたため、一般来館児・者向けのプログラムだけでなく、幼児を対象にしたグループ活動のプログラムとしても実施するようになった。おおむね好評だったか、グループ全体で何かを達成する場面をいかに構成していくかが課題となった。

### ■■■ インターネット活用の試み ■■■

[こどもの城] でもホームページ (以下 HP) をとおして情報発信を行っている。しかしそれらの情報が効率的に情報を求める人のもとへ届いているか、疑問に感じることがある。アニメーションをテーマにしたワークショップでは、ソートロープや驚き盤、ソーマトロープなどの視覚かん具を定期的に取り上げているが、インターネット上でこれらの視覚かん具を検索しても、[こどもの城] の情報がヒットしない。効率的に検索の網にかかる工夫をしなくては、情報が上手く伝わって行かないと切実に感じた。

インターネットで注目を集める HP 作りには、斬新なデザインや最新の動画機能を盛り込んだページ作りが欠かせないのでは? と思っていたのだが、まずは検索に強いページを心がけるように考えを改めた。情報を検索する側が入力するであろう“ワード (単語)”を必ずテキストのなかに入れるというものである。

インターネット上でより豊富な情報を提供する試みとして、YouTube への映像投稿も試験的に開始した。これまでに、館内テレビに放送していたプログラム紹介の映像などをアップロードした。ホームページにリンクを設定し、動画での情報提供を試みた。アニメワークショップに参加した子どもたちが制作したアニメーション作品のアップロードなども、来館を検討している人に、制作する作品のイメージを伝えることを目的として行っている。

### ■■■ 映像制作物の 16:9 への対応 ■■■

地上デジタルテレビ放送への移行にともなって、市販のビデオソフトやテレビ画面のワイド化が急速に進んでいる。

従来のテレビ規格（4:3 の画面横縦比で 512 本の走査線で映像を描く）から、地上デジタル放送の中心となるハイビジョンの規格（16:9 の画面横縦比で 1,080 本の走査線で映像を描く）に移行し、家庭用のテレビ録画再生機もブルーレイなどのハイビジョン規格のものか普及しつつある。

〔こどもの城〕では、まず販売する映像ソフトの対応から検討を開始した。視聴環境については、テレビの買い替えによって画面の横縦比は 16:9、再生機の規格は従来の NTSC 対応のものを使用している家庭がまだ多いという想定で、ワイド画面（16:9）記録の DVD での販売という形で対応している。

今後、イベントの展示映像、ワークショップの工程説明映像や、館内のイベント告知映像の制作を徐々に 16:9 ハイビジョンへ移行して行く計画である。

### □□□ まとめ □□□

子どもを取り巻く映像環境は、開館当初と比較すると激変している。当時は、ビデオを見る環境がすべての家庭にはなかったか、現在では、ビデオ・オン・デマンドなど、インターネットでいつでも見ることも可能になってきている。そうした環境の変化を考えると、ビデオライブラリーの機能についても、今後検討をしていくことが必要だと感じている。

また、AV 事業部では、開館以来「アニメワークショップ」など映像関連のワークショップに、継続的に取り組んできた。〈動くこどもの城〉などでさまざまな児童館に活動を紹介し、県立児童館などと同様のプログラムを現在も実施しているなど、〈センター機能〉としての成果をあげてきた。子どもたちが映像を使って表現することが容易にできるようになった現在、子どもたちが映像と向き合い、映像を理解するワークショップの重要性は増している。身近になった映像と子どもたちがどのように接していくのがよいかを検討し、どんなプログラムを提供することが可能なのか考えていくことが必要だと感じている。

映像にかんする環境だけでなく、私たちの身の周りには多くの機器などがあり、コンピュータで制御されるようになってきている。ハイテク化にともないさまざまな仕組みを見ることかてきなくなったため、子どもたちは身近にある“不思議”に関心を持ってなくなり、子どもの科学離れにつながっているのではないかと考えている。身近な素材を使った遊びのなかで、科学的な体験をしてもらうことが重要であり、今後、より一層の科学遊びのプログラムの開発に努めていきたい。

# 平成 23 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■■■ 平常期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
ヒデオライブラリー 自由利用	開館時間中	幅広いジャンルでのビデオソフト 22,000 以上のタイトルを所蔵するビデオの図書館。 (ヒデオライブラリー)
親子の ZOO っと広場	火～金曜日 12 30～17 00 (木曜日 12 30～16 30)	ビデオライブラリーの一角に設置した、乳幼児と保護者のための小さな広場。木のおもちゃやぬいぐるみなどを置いている。 (ヒデオライブラリー)
おもしろビデオ館	金曜日 14 45～15 15	ビデオライブラリーにある上映可能なビデオソフトから、テーマを決めて上映。上映のあとに手作りの絵本を作っている。音楽ロビーの催し時間と調整をし、開始時間を 15 時 30 分から 14 時 45 分に変更した。 (B スタジオ)
なかよし映像広場	第 2 4 金曜日 (原則) 13 45～14 15	乳幼児親子を対象とした映像遊びプログラム。映像を見てまねっこ遊びをしたり、色を感じる照明遊びなど。親子のコミュニケーションやスキンシップなどを、遊びをとおして感じてもらう。七夕 クリスマス 節分にはスペシャル版も実施し、その由来などについて子どもたちに分かりやすく伝える内容にした。 (B スタジオ)
不思議な映像実験室	土曜日 15 30～17 30 第 4 日曜日 12 30～17 30	映画発明以前からあった、絵か動いてみえるおもちゃ (視覚かん具) の展示とワークショップ。日曜日版では、「ソーマトロープをつくろう」(13 時 30 分～14 時 30 分)、「ばたばたアニメをつくろう」(15 時 30 分～16 時 30 分)を実施。土曜日版は、2 枚の絵を描いてつくる「くるくるアニメ」や円盤の裏と表の絵か合成されてみえる「ソーマトロープ」の工作、ホランティアスタッフの協力による視覚かん具の紹介を実施。 (土曜日 音楽ロビー/日曜日 B スタジオ)
小学生ラボ	土・日曜日 (月 1 回) 13 00～16 00	小学生～高校生を対象とした、身近な不思議を体験するプログラム。月 1 回土 日曜日実施。本文紹介の新規企画のほかに「ソーマトロープ」の用紙の改良なども行った。 (プレイホール)
みなクル工房	第 1 3 日曜日 13 00～16 00	〈科学〉と〈居場所〉という 2 つのテーマのもと、日替わりでプログラムを実施した。クランクの仕組み、多面体の展開図など科学的な要素を含む簡単な工作や「うんすんかるた」などのカードゲーム、「とり+かえっこ」を小規模にした「とり+かえっこ屋」などを実施。 (ヒデオライブラリー)
こどもの城映画劇場 カナダのアニメーション	第 2 日曜日 13 35、14 35、15 35	フィルム コレクション「武藤行雄記念文庫」収蔵の、世界的に高い評価を得ている NFBC (カナダ国立映画制作局) のアニメーション作品 2、3 タイトルで 1 プログラムを組み上映。季節やファミリーフェアといったテーマにそわせてプログラムを構成。 (B スタジオ)
逆転時間 ワークショップ	7 3、10 26、H24 2 26 10 00～12 00 13 00～15 00	青山学院大学のワークショップデザイナー養成講座との協力企画で、デジタルカメラで撮影した動画を逆再生することで、通常とは異なる不思議な映像作品を作るワークショップを実施した。 (会議室ほか)
秋まつり 星空映画会	9 23・24 18 15、18 45	「秋まつり」のイベントの一つ。屋上ふしぎか丘から建物の壁面につるした白いシートに 16 mm 映画の上映を行った。上映プログラムは、山村浩二さんの作品集とフィルム コレクション「武藤行雄記念文庫」収蔵の NFBC のカナダアニメーションの傑作選。 (屋上ふしぎか丘)
小学生ラボ 父親プログラム	10 15・16 13 00～16 00	父親の積極的な子育て参加を促す特別版。15 日は「機械の中を見てみよう」、16 日は「アニメをつくろう」。 (ヒデオライブラリー)
小学生ラボスペシャル 「TOYOTA 科学のひっくり箱」なせなにレクチャー	12 18 10 30 / 13 30	トヨタ自動車㈱の社会貢献活動「科学のひっくり箱」なせなにレクチャー」シリーズから「ホバークラフト」を実施。事前募集、定員制 (各回 30 人)。参加者は、10 時 30 分の回 23 人、13 時 30 分の回 33 人。参加費無料、要割引 (100 円) 入館券。 (フリーホール/B スタジオ)
みなクル工房スペシャル ロケットのふしぎ	H24 1 29 13 00 / 14 00 / 15 00 / 16 00	ロケットや人工衛星の姿勢制御をテーマとしたプログラムを実施。仮説実験授業の手法を用いて、シャイロの仕組みをわかりやすく伝えた。最後には傘袋ロケットを制作した。 (B スタジオ)

### ■■■ 特別期間 ■■■

名 称	日 時	内 容
〈児童福祉週間〉 ㊦ 曜日 de サイエンス ～日曜日 光の科学～	4.29～5.1、5.3～8 開館時間中	ワークシートをもとに、4階にあるモアレ現象、光の三原色、光ファイバー、偏向シートなど光に関連した科学的現象を探すクイズラリーを実施。 (ヒデオライブラリー)
〈 " " 〉 アニメフェスタ 2011	4.29～5.1、5.3～8 11:00～17:00	切り紙アニメやヒースを使ったアニメの撮影体験コーナーや、「円盤アニメ」制作コーナーで、アニメーション制作を体験する企画。絵を描く一般的なアニメーションの制作体験から、「アートアニメ」といわれる作品で使われる技法など幅広く紹介した。 (B スタジオ)
〈夏休み〉 ㊦ 曜日 de サイエンス ～月曜日 月(星)の科学～	7.16～8.18 開館時間中	清水建設㈱の協力を得て、アポロ計画によって地球に持ち帰られた月の砂の分析結果をもとに、その性質と成分を似せて作った砂「月土壌シミュラント」や月球儀、そして月 宇宙開発 星をテーマにしたパネルを展示した。あわせて、子どもたちにパネルを見てもらうために、「スペースクイズラリー」を実施した。 (ヒデオライブラリー)
〈 " " 〉 " " ～金曜日 金属・建物の科学～	8.20～31 開館時間中	身近なところで使われているさまざまな金属や、主に金属でできた建築物、東京タワーや東京スカイツリーについてのパネルを展示した。遊びの要素としては、これまでと同様にクイズラリーの手法を用いて「メタル トレジャーハンター」を実施した。 (ヒデオライブラリー)
〈 " " 〉 不思議な映像実験室	7.21～30 11:00～17:00	映画発明以前からあった、絵か動いてみえるおもちゃ(視覚かん具)の展示とワークショップ。ワークショップでは、2枚の絵を描いてつくるアニメおもちゃ「くるくるアニメ」を実施。動きの参考になるイラストの印刷されたくるくるアニメ用紙の2011年バージョンも作成。スタジオの興では夏休み短期講座「こども映像研究室」も並行して実施。 (B スタジオ)
〈 " " 〉 フシトリック・アニメ・ワークショップ	8.4～11 11:00～17:00	パソコンやプロジェクターを使った、トリックアートとアニメーションを合体した展示や、円盤アニメなどアニメーションを描いて楽しむコーナーを実施。これまで12コマで作画していた驚き盤用紙に3、4、6、8コマのタイプを新たに加えた。展示協力 KIF(映像作家)+東京工芸大学アニメーション学科有志。 (B スタジオ)
〈 " " 〉 小学生ラボ 夏休みスペシャル	8.27～31 12:30～16:30	小学生以上を対象とした、映像や科学をテーマにしたプログラム。日替わりで1日2プログラム実施。27日＝「色のふしぎ」「かさくるま」、28日＝「日光写真にチャレンジ」「かさくるま」、29日＝「円形計算尺をつくろう」「計算尺をつくろう」、30日＝「浮ぶ子をつくろう」「計算尺をつくろう」、31日＝「すずめ!ポンポン船」「計算尺をつくろう」。 (プレイホール)
〈冬休み〉 プラレールで日本旅行	12.27・28 10:30～12:00	大きな日本地図の上に、プラレールで実際にある鉄道を再現した。事前申し込み制。 (フリーホール)
〈 " " 〉 ㊦ 曜日 de サイエンス ～火・木曜日 炭の科学～	1.3～9 開館時間中	一般社団法人全国燃料協会の協力を得て、さまざまな炭やその原木、炭琴(炭で作った木琴)などを展示した。「炭電池づくり」「松ぼっくりの炭づくり」の科学遊びプログラムも実施。 (ヒデオライブラリー)
〈 " " 〉 みなクル工房スペシャル 駄菓子屋「よってけ屋」	1.3～9 開館時間中	ヒデオライブラリーのジュニアスタッフにも、駄菓子屋「よってけ屋」の店員として活躍してもらった。 (ヒデオライブラリー)
〈 " " 〉 ひっくりビデオ広場	1.3～9 11:00～17:00	ビデオを使った遊びを体験する展示型のコーナー(クロマキー合成で干支の籠にのった映像を楽しめるコーナーなど)と、制作コーナー「赤青アニメ」を実施。自分の「ニュース」を発表する「お城TVニュースキャスター体験コーナー」も行った。 (B スタジオ)
〈春休み〉 ㊦ 曜日 de サイエンス ～土曜日 土の科学～	3.24～4.5 開館時間中	日本各地の土を展示する「みんなてつくる『土』色いろコレクション」の展示と、「光る泥たんこづくり」「紙を染めよう」のワークショップを実施した。 (ヒデオライブラリー)
館内テレビ「お城TV」	特別期間 開館時間中	特別期間の催し案内を中心に、館内を取材して番組を作成。館内のテレビで放送。必要に応じて、平常期間にも実施。平成24年(12年)春休み特別期間の催し案内から、インターネットの動画投稿サイトYouTubeへアップロード。チャンネル名は「OshiroTV2」。(映像調整室/マスターコントロール室)

講座・クラブなど

短期講習会

名	称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
夏 休 み こ と も 映 像 研 究 室 2 0 1 1	天体望遠鏡	(人) 小3～高3 (各回 10)	(人) 計 40	7.22・23 ① 13:00～14:45 ② 15:30～17:15	塩化ビニールパイプやホール紙など、身近な材料で天体観察用望遠鏡“マックロースコープ”を作る。受講料＝2,400円。 (Bスタジオ)
	手作り映像おもちゃで映画のしくみを体験！ヘリオシネグラフ	小1～高3 (各回 10)	計 21	7.25 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	スリットのあいた円盤こしに、動画の描かれた円盤をのそくと、絵か動いてみえる視覚かん具を制作。動画を描くのが苦手な子ども向けに、塗り絵用紙も多数用意。受講料＝2,200円。 (Bスタジオ)
と も 映 像 研 究 室 2 0 1 1	3D 大実験！ステレオスコープ	小3～高3 (各回 10)	計 41	7.28・29 ① 13:00～15:00 ② 15:30～17:30	レンズ組み込み式のステレオスコープ（立体メカネ）を作る。立体写真のサンプルがつくほか、参加者自身の立体写真も撮影する。受講料＝2,600円。 (Bスタジオ)
	番外編 いきもの図鑑	小1～高3 (小1～3は要保護者同伴/ 各回 10)	計 20	7.31 ① 13:00～15:00 ② 15:30～17:30	オリジナルペーパークラフトで“いきもの”を再現する。「ヘラクレスオオカブトムシ」を制作。数点のおまけ型紙付き。受講料＝2,000円。 (Bスタジオ)
と も 映 像 研 究 室 2 0 1 1	自分の絵が大きく映る！手作り幻灯プロジェクト	小1～高3 (各回 10)	計 41	8.1・2 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	専用の映写フィルムに、自分で絵を描いて投影する幻灯プロジェクターを、ルーペや LED ライトなどの日用品を使って作る。受講料＝2,000円。 (Bスタジオ)
	手作り映像おもちゃで映画のしくみを体験！プラクシノスコープ	〃	計 40	8.4・5 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	映画が発明される前にあった視覚かん具のプラクシノスコープを制作。帯状の紙に動画を描き、その絵を多面体の鏡に映して絵かアニメのように動いて見える映像おもちゃ作りを体験。受講料＝2,600円。 (Bスタジオ)
と も 映 像 研 究 室 2 0 1 1	手作り映像おもちゃで映画のしくみを体験！キノーラ	〃	計 60	8.8～10 ① 13:00～15:00 ② 15:30～17:30	ばらばらマンガを、アニメのように連続して見ることかできる装置 キノーラを制作。装置を組み立て、15～30枚の動く絵を描いてセットする。受講料＝2,200円。 (Bスタジオ)
	こどもの城 オリジナルキット アニメーションキットを作ろう	〃	計 20	8.11 ① 13:00～14:30 ② 15:30～17:00	売店で販売している「つくるキント」を組み立てる講座。工作が苦手な子どもも「つくるキット」を楽しめるよう、組み立ての難易度が高い「ソートロープ」を中心に工作指導。受講料＝2,100円。 (Bスタジオ)

その他

名	称	日 時	内 容
館内活動の記録	通年		体育部門の「母と子のすくすくラント」(Part1～3) など、講座の内容をソフト化して参加者に販売。また、「あかちゃん大集合」などの全館事業を記録した。
館外活動の記録	夏休み、冬休み、春休みの各特別期間		〔こどもの城〕の館外活動に同行してビデオ取材、ソフト化して参加者に販売した。体育部門「チャレンジキャンプ 2011」「スキースクール」(Part 1－1 期、同一 2 期および Part 2)。また、プレイ部門「ちひっこ冒険団 2011」「同 in Winter 2011」、および事業企画部門「シジュニア アウトドア スクール 2011」は、キャンプスタッフの撮影した記録映像の編集に協力した。上記作品はオリジナルソフトとしてビデオライブラリーに登録。視聴できる。
劇場公演の記録	通年		ワイド画面に対応するため、本年度から HDV のカメラを劇場内に 3 台設置して収録した。『こともたちからのサウントメッセージ』(青山劇場/4 月 10 日)、『シークシーキンクスストーリー 1～なな色ほうけん物語～』(青山円形劇場/平成 24 年 1 月 4～8 日)、『こともたちからのサウントメッセージ』(青山円形劇場/3 月 24・25 日) の公演を収録、編集した。

# 保育



おひなさま作り～2歳児の親子制作プログラム  
(保育クラブ)



親子で遊べるあそびのメニュー(実技2)  
～家族をつなぐあそびのヒント～

## 平成23年度の活動

### □□□ はじめに □□□

保育研究開発部は、就労の有無にかかわらず育児のサポートをする育児支援プログラムを実施している。本年度は、保育事業「保育クラブ」「幼児グループ」「おやこクラブ」、研修事業「子育て支援講習会(実技1・2)」、一般来館児・者事業「よちよちクラブ」の3つ事業を、それぞれのねらいを以下のとおり定めて実施した。特に、保育事業では子どもへの集団保育の効果向上と家庭の子育て力の向上、研修事業では保育事業で実践した子育て支援事業の普及にねらいを定めた。

事業を行うにあたり、従来からチームで事業運営にあたっているか、本年度はさらにチーム力向上に力を入れた。保育内容の検討を重ねたほか、研修内容の見直しを行い、保育活動で実践してきたことを研修会に取り入れるなど、新しい研修会をめざした。

本年度は、東日本大震災の直後ということから、保育する側も保護者の側もさまざまな“不安”を抱えて活動することになった。スタッフ同士はもとより、保護者・子どもとも気持ちを通い合わせ、保育事業を実施するうえで、これまで以上のエネルギーが必要となった1年だった。放射能汚染への不安か拭いきれないなかで、屋外遊び(砂場を含む)や給食への配慮に苦心した。このような状況のなか、例年に増して家庭が不安定になる姿も見られ、それらを受け止める保育施設としては必死で過ごした1年だった。

### □□□ 保育事業の活動から □□□

近年、保育事業を利用する保護者の多くは、〈子育て〉を知る機会が無いままに〈子育て〉を始めていることも多い。実体験を伴わない“知識”だけでは、子どもの成長についての客観的な視点を持ちつらくなる。そのために、身近に安心して子育てかてきる環境と専門のアトバイスか、いかに必要とされているかを肌で感じている。

家庭の考え方を把握しなから、子どもか集団のなかで成長することの意味や必要性などを伝えた。そして、母親同士、家族同士をつなぐことか、他の家庭の育児を知るきっかけになり、広い視野で子育てかてきるようになることか、各事業ごとに具体的なねらいを立ててプログラムを組み立て実施した。

1 歳児の親子を対象とした「おやこクラブ」では、母親のみならず父親のよさを生かした子育て環境作りを進めた。2～5 歳児を対象とする「保育クラブ」では、生活リズムの改善・生活習慣の自立・食生活の見直しを促すこと、保護者が子どもの成長を理解する力を高めること、そして子育ての仲間作りを援助することの 3 点にねらいを置いた。

4・5 歳児の「幼児グループ」では、利用児の家庭の育児の考え方や悩み・不安をきめ細やかに把握して対応すること、母親・家族同士をつなぐこと、集団保育の効果を保護者に伝えること、子どもの体力の低下を補うプログラムを実施することをねらいとした。

### ■■■ おやこクラブ ■■■

「おやこクラブ」は、「母子教室」（昭和 60 年度～平成 5 年度）としてスタートしたものが、父親の子育て参加が増えてきたことを受けて、平成 6 年度に「親子教室」（平成 21 年度まで）に名称・内容を変えた。その後、家族の形態がさらに変化してきたので、親と子どものペアで参加する新しい子育て支援の講座として前年度から「おやこクラブ」に改めてスタートすることにした。

親子の形態も多様化し共働きが増加するなか、家庭での育児も母親が主ではなく、家族全体で行う流れになってきている。その背景から、母親以外の保護者（父・祖父母）が気軽に参加できる育児講座を求める声が出てきた。育児は女性だけの場ではなくなり、保護者のたれでもが参加しやすい場への変化が求められている。そこで、「親子教室」（主に月曜日開講／母親主体）のときにはカハークできなかった保護者が参加できるように、土曜日に開講し、保護者と子どももペアで参加するという、気軽な育児講座スタイルに変えて 2 年が経過した。

これまで子育ての中心を担ってきた女性は、仕事と家族みんなて子育てかてきる家庭（育児環境）を求めていると感じている。そこで、“家庭の子育て力の向上”にむけて、具体的な遊びや育児内容



お父さんも、お友たちもみんな一緒に砂場で遊ぼう（おやこクラブ）

の紹介を中心に運営した。具体的には、利用目的や現在の悩みなどを聞き、家庭の状況を把握した上で、講座を進めた。講座開始後は、毎回自分（の育児）を振り返るゆとりを持ってもらうために、簡単な感想などを記入してもらった。また、男性（父親）が参加して楽しめるようにダイナミックな遊び（砂場遊び・絵の具遊び・親子ゲーム）や家族間コミュニケーションタイム（保護者へのインタビュー）を実施した。参加者がそれぞれか家族と向き合い、家族と一緒に子どもを理解し、それぞれか互いに子育てをする相手の気持ちを理解しあう時間とした。今後は、家族みんなて子育てをする上で楽しむ企画が必要になると感じた。

### ■■■ 保育クラブ ■■■

2 歳児クラス（1 クラス 16 人）は、週 1 日利用の定期保育児（日替わりて利用児か異なる）と随時予約するフリー利用保育児て構成している。初めて集団保育を利用し、幼稚園入園前に集団経験を積みたいと利用する子どもと、すでに 1 歳児から多くの習い事を経験している子どもの 2 パターンに分かれる。しかし、毎日保育所に通所しているケースと異なり、いずれの子どもも生活習慣などを身につけるのは家庭が中心になるため、その点の苦労は多いようだ。

3～5 歳児クラス（1 クラス 11 人。週 1・2 回の定期保育児と随時利用するフリー保育児て構成。「幼児グループ」26 人と合同で保育）の 3 歳児は、2 年保育の幼稚園に進む前の集団経験の場として利用。4・5 歳児はすでに幼稚園に入園してて、幼稚園の休園日や長期休みに利用することが多く、日常の集団保育ては足らない部分（日常ふれあわない子どもと知り合う）を求めて、参加する子どもが多い。

このような集団構成のなかで、子ども・保護者とかかわるときに気になる点を取り上げ、「保育

クラブ」運営の重点とした。

生活リズムの改善・生活習慣の自立・食生活の見直しをうながすこと、保護者か子どもの成長するプロセスを理解する力を高めること、子育ての仲間作りを援助することの3点である。

近年、集団保育に入って初めて生活習慣を身につけることを始める家庭が多い。ベビーカーに乗る時期が長く、手をつないだり、階段を登る経験がない子どもがクラスの8割。生活リズムの乱れ、偏食、子どもの成長に伴う行動の変化に戸惑う保護者の姿が見られる——家庭環境調査票（入会時）・生活調査票・利用ノートまたは利用票で把握。

そこで、集団保育で子どもの成長を見ていくと同時に、家庭での生活習慣の自立と生活リズムを整えることをていねいに指導。家庭で実践しながら週1日の集団保育をとおして、家庭と施設かともに子どもの成長を支えるプログラムを作った。保育では「生活のねらいチェック表」を作ってチームで子どもの成長を見守り、家庭には集団保育のなかで見られた成長をていねいに伝えることを1年間重ねていった。結果、子ども・保護者ともに家庭生活に落ち着きが見られ、ほぼ全員の子ともかすへての生活習慣の自立かでき、生活リズムの改善が見られた。保育者も1年間にわたって意識し取り組んだので、保護者（特に母親）の意識変化も大きかった。

保護者へは、「クラスのおたより」を配布するほか、保育室に併設された観察室からの観察、懇談会、親子制作プログラムなど、さまざまなプログラムをとおして働きかけをした。保護者と離れる際に子どもが大きな声で泣くことの原因、反抗期を迎えて自我を出し始めた子どもの気持ちを保護者か理解をしたり、それを超えて成長する子どもを知ることかできていった。同時に、同じ悩みをかかえる保護者同士か他愛のない雑談をとおして子育ての仲間作りをし、子育てにゆとりか出ていく姿も見られた。

しかし、東日本大震災から発した“不安”は何にもまして大きく、保護者の声をくみ取り、一つひとつに対応していくことが大きな課題の一つたつた。また、集団を出入りするとも例年になく多く、クラス全体のまとまりか落ち着きのなさを生み出し、クラス運営に影響をかあたえた。

### ■ ■ ■ 幼児グループ ■ ■ ■

一般的な保育施設とは環境・利用日数か違い、[こどもの城]のこどもエリアに併設され、週4日（火～金曜日）2年間の保育を行っている。こども活動エリアは、保育活動はもとより、保育後に利用できる遊び場として使われている。児童館か“身近に”あることか特徴。子どもたちは、多くの人や多くの遊びを経験して育つ。



お母さんとも一緒に、館外活動をおもいっきり楽しみました（幼児グループ）

一人てくつしたをはけるよ（2歳児）



東日本大震災発生以前から自然体験の少なさを憂慮し、自然体験はなくてはならないものとして保育プログラムをか考えているか、大震災の影響を受け、館外（砂場を含む）活動プログラムには大変苦心した。

家庭との連携・信頼関係を結ぶことか例年になく厳しく、家庭の不安定な心理状況か日々のコミュ

ニケーションにも影を落とし、保育者は子どもの保育をする以前に保護者とのコミュニケーションに力を割かざるを得なかった。一人ひとりと向き合うことがグループの安定につながると考え、家庭との連携（コミュニケーション）を高める活動を行った。

「保育参加」もその一つ。「保育参観」とは違い、子どもと一緒に保育に参加し、子どもと積極的に遊ぶことで、集団のなかの自然な子どもの様子を知り、集団のなかでの育ちを肌で感じてもらった。

往々にして不安が高くなりやすい母親は参加を必須とし、父親の参加は希望制とした。不安の高い母親は父親に頼む傾向があるか、母親自身が経験することで不安感が収まることを伝え積極的に参加するように伝えた。

「保育参加」は、その集団のなかにいる子どもの様子を知ること、子どもの言葉や成長を客観的な視点でとらえることができる力を、保護者自身か身につける機会ととらえている。子どもか親元から離れることに不安を感じやすい大震災後たつたこともあり、子どもと一緒に過ごせる時間とあって笑顔で参加する人が多かった。

「親子活動」は、通常〔こどもの城〕館内では経験することができない活動を、その年度の保育児童の経験や実態に合わせて活動内容を設定し、親子ともに同じ経験をして、交流できる活動。年間 2 回企画し、実施している。本年度は体力不足と自然経験を豊かにすることをねらいとし、春は「母親同士をつなぐ」（こどもの国 横浜市）、秋は「家族同士をつなぐ」（高尾の森わくわくビレッジ 東京都）を実施した。日常とは違う環境のなかで、参加した母親や家族と保育者か気さくにコミュニケーションをとることは、互いの距離間や緊張を解消することになり、子どもの家庭環境・子ども理解へとつながる。ともに“育てる”土壌か、固まるきっかけになった。

「個人面談」は、事前に保護者からの質問内容を確認し、チーム保育者かよく子どもの育ちを話し合ったうえで対応する。当日は、保育者か一方的に話すのではなく、保護者の言葉に耳を傾けるようにすることで、各家庭の考え方や家族関係、親子関係を探るようにした。新学期を 1 か月程度過ぎたころの面談は、時期的には適当であるか考える。悩みか深まらないうちに、面談での家庭の考え方を踏まえ、保護者か前向きに簡単に行えそうな子育ての改善点を、具体的にアトハイスして話を締めくくるようにした。生活リズムや食生活の悪循環の繰り返しが改善されていった。

「懇談会」では、プライベートな話もてやすいか、最近はプライハシーにかかわる話に抵抗を感じる保護者も多く、その進め方に苦慮している。そのため、プライハシーにあまり関係ない集団の様子を言葉や写真で紹介した。また、母親同士か保育者を交えてその場で楽しめるゲームや、保護者 2 人組て絵を描く活動なども織り交せ、保護者同士か気軽ににかかわれる糸口を見つけられるようにした。

保護者には、子どもたちそれぞれの年齢に応じた育ちや目標を伝えていくことが、子どもの健全な育ちを援助するうえで改めて大切なことであることを確認した。次年度の保育に生かしていくことが必要と感じた。

### ■■■ 研修事業の活動 ■■■

前年度まで長年にわたって、「保育所で行う子育て支援」というテーマで、保育所などで行う子育て相談や課題のある家族に対する支援や理解についての研修会を行ってきた。しかし、これらの内容の研修会は、近年、各地方自治体単位で行われるようになってきたので、新たな研修会を組み立てた。近年の研修会の参加者アンケートには実践的な研修を望む声か多くあったこと、各地の保育所・幼稚園・子育て支援センターや児童館などで家族プログラムの必要性か強まりつつあることなどから、〔こどもの城〕で実践しているプログラムの紹介や、子育て支援・保育プログラムの実



お父さんと“野外調理”。火加減はたいしょうふかな？（幼児グループの親子活動）

践を一つのケースとして紹介する 保育室で使えるあそびのメニュー (実習 1) ～楽しく遊べる造形のアイデア～  
 研修会を新設した。

本年度は、[こどもの城] の造形スタジオで幼児 (親子) 向けに実施しているプログラムのなかから、比較的手に入りやすい材料を使ったものをワークショップ形式で体験する研修会と、遊びをとおして親子や家族のみならず、親同士や家族同士をつなぐヒントを紹介する 2 つの実技研修会を実施した。



#### ■研修参加者の傾向■

参加者の所属は保育所、児童館、幼稚園、子育て支援センターなどで、所属先についてはこれまでと変化はない。

しかし、以前は主任保育士や施設長の参加が非常に多く、参加者の年齢層も高かったか、現在は実際に指導にあたる現場の担当者の参加が多く、特に「子育て支援講習会 (実技 1) 保育室で使える あそびのメニュー～楽しくあそべる造形のアイデア～」は、20 代～30 代前半の参加者も多く見られた。また、以前は施設長などが個人の資格で参加 (自費参加) が多かったか、最近は施設から派遣されるケースが非常に多くなっている (公費での参加、自治体が参加者を招集など)。「子育て支援講習会 (実技 2) 親子で遊べる あそびのメニュー～家族をつなぐあそびのヒント～」は締め切り前に定員を超えてしまうほど好評だった。

#### ■アンケートから■

全体に「研修会に参加して、求めていた内容の学習を得られた」という内容の記述が多かった。「子育て支援講習会 (実技 1)」では、「さまざまな素材に触れられて勉強になった」「いつも使う紙からさまざまな展開ができて参考になった」といった内容の記述が多かった。また、「子育て支援講習会 (実技 2)」では、「なかなかプロの振付師からの指導は受けられないので、とてもよい経験になった」「園に持ち帰ってすぐにやってみようと思う」。保育のプログラム紹介については、「体験したとのプログラムも、一参加者になってとても楽しかった」「指導の方法がとてもスムーズで違和感なく緊張がほくれた」「スタッフ間の関係が和やかで、協力して進められていた」。

#### ■次年度への展望■

「子育て支援講習会 (実技 1)」は、造形遊びのプログラムの紹介が多く内容は充実していたが、一方で保育の現場でどう展開するかという視点に立ったものではなかったため、次年度は保育の現場と紹介するプログラムを結び付けるようにしていきたい。また、「子育て支援講習会 (実技 2)」では、プログラムの組み方などについての質問が多く寄せられたため、次年度はこれらの質問を講義のなかに盛り込んでいきたいと思う。

アンケートの次年度への要望という欄でも「来年もこの研修に参加したい」という記述が多かったため、リピーターも満足できるように、方向性は変えずに本年度学んだ内容をさらに深く、また違った角度から展開していきたい。

## □□□ まとめ □□□

[こどもの城] の保育は、家庭とともに子どもの育ちを考えると大切に、開館以来、「子ども家庭支援プログラム」を 3 つの事業に分けて行ってきた。「保育事業」「一般来館児・者事業」「研修事業」である。

「保育事業」「一般来館児・者事業」では、一時保育からスタートした保育システムをとおして、家庭育児の改善につながるように保育内容の充実を努めた。さらに、子育て家庭 (家族同士) の交流を促進することから始めて、安心して楽しい育児につながるような家族プログラム作りに力を入れた。

「研修事業」では、保育セミナーをはじめ各種の研修会をこれまでに合計 139 回実施 (延べ受講

人数は 9,518 人) した。多くの保育関係者の学びの場となった。また、子育て支援のニュースレター発行は 58 回、延べ購読数 11,534 部となった。

今や子育ては〈家庭〉だけではなく、〈社会〉がかかわって育てることが当たり前となっている。言い換えれば、家庭の悩みを家庭内だけで解決できる時代ではなくなってきていると言える。実際、子育ての仕方がわからずに、悩んでしまう保護者が多い。保育施設は、このような保護者やそのもとで育つ子どもの両者を、心身ともに健康的な毎日をおくれるように援助をする、すなわち個別の対応かとても大切な時期をむかえている。保育施設の数、年々増えてきているか、施設数の増加以上に、家庭指導もできる保育者の人材育成が急務となっていることを現場から強く感じる。養成校での新人育成と同時に、現任保育者が保育現場でいかに力をつけて、利用者の問題を解決していくことかできるかを考えていかなければならない。

それには、保育現場の小さな保育内容から子ども・保護者の問題まで、身近なチーム（保育士・幼稚園教諭など）や施設（地域）全体の力を出しきり、みんなて検討して解決しようとする取り組みか、子どもや保護者とのコミュニケーションを前進させる推進力となり、解決には時間かかる内容であっても、保育者の大きな勇気となり、子ども・家族を支えていく力となる。

今後の保育施設は、保育関係者一人ひとりか家族を受け止める力をいかに高めることかできるかか求められる。「保育の質の向上」をはかるために、欠かすことのできないか課題となることを強く感じた。

# 平成 23 年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

■■■■ 平常期間 ■■■■

名 称	日 時	内 容
親子遠足	5 15 10 30	「保育クラブ」2～5 歳児の家族プログラム。家族同士の交流をはかることかねらい。春は代々木公園で、家族、会員同士で、ウォーミンクアップの「パチパチマン体操」、チーム対抗戦「ちょっぴり障害物競争」「先生を探せ！ピンコゲーム」のゲームを楽しんだ。参加した父親の感想を会員向け通信物に掲載。68 組 220 人か参加。 秋は〔こともの城〕から代々木公園までのウォークラリー。ハロウィーンの飾りて彩られた表参道を親子で散策後、代々木公園で落ち葉のペンダント作りを楽しんだ。24 組、74 人か参加。
保育活動展	H24 2 1～12	テーマは「ことものようパート 9」。「幼児グループ」を中心に「保育クラブ」の 2～5 歳児の保育活動をさまざまな絵や協同制作、個人制作、写真などで紹介した。本年度の「幼児グループ」は「まち（ほくの家わたしの家 こともの樹）」、「保育クラブ」3 歳児は「等身大の自分 自分の顔」、「保育クラブ」2 歳児は「さつま芋人形あそび」（親子制作 さつま芋人形）「さつま芋ほり」「輪ゴムスタンプ」「にしみ絵」をテーマにした活動を展示。毎年恒例となっている入口看板の飾りは本年度も家族で制作した花を飾った。子育て川柳も引き続き展示し、祖父母の作品も展示した。（ギャラリー）
よちよちクラブ	6 25、7 23、10 22、 12 24、H24 1 28（土曜日） 11 00～12 00 13 30～14 30	一般来館の 1 2 歳の親子のための子育て支援プログラム。年間 6 回。保護者 72 人、子ども 59 人か参加。家族の参加、母親の友たち同士の参加、父親と子どもとの参加といろいろな組み合わせの参加だった。父親同士か会話する姿も時々みられた。予約制たか、当日参加可。（保育室 1）
保育室の一般開放	土 日曜日、祝日 10 00～17 00	1 2 歳のためのおもちゃや絵本を用意して、〔こともの城〕に来館する低年齢児親子か遊べる場。こともの城ボランティアか定期的に絵本の読み語りを行っている。（保育室 2）

■■■■ 特別期間 ■■■■

名 称	日 時	内 容
〈夏休み〉 つくって遊ぼう親子 工房「フィッシュ DE ウオッシュ」	8 20・21 10 30～12 00 13 30～15 00 15 30～17 00	遊びのなかから親子で生活技術を身につけることを目的に企画。親子でアクリル毛糸の三つ編みを編み、海の生き物を作った。ときあかった魚は掃除クッスになった。父親は三つ編みに慣れず、親子で時間をかけて作っていた。2 日間で保護者 133 人、子ども 160 人か参加。（保育室 1）
〈 〃 〉 小中高生 保育体験プログラム	7 19～8 31 10 00～14 00 14 00～16 00	「幼児グループ」修了児の小学 5 年生～中学 3 年生に声をかけ、夏休み特別期間の保育中に幼児とふれあう機会を提供した。幼児の表情や言葉、行動から相手の気持ちを読み取ることや、自分の子どもころのことを思い出し、子どもたちの見本となるように自覚を促すなどの配慮をしながら保育体験をした。参加者は 17 人、延べ人数は 37 人。（保育室 1 2 ほか）
保育室の一般開放	特別期間中の土 日曜日 10 00～17 00	〔こともの城〕に未館する 1～2 歳の親子かおもちゃなどて自由に遊べる場の提供。（保育室 2）

講座・クラブなど

クラブ

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
幼児グループ	(人) 4 歳児 (13) 5 歳児 (13)	(人) 14 11	火～金曜日 10 00～14 00	[こどもの城] を保育の場とする週 4 日、2 年間にわたる継続的な保育活動。「保育クラブ」の主に 3 歳児が曜日別に加わり、異年齢保育となる。多様な人間関係を体験するため、チームで保育を行い活動を深める。プール活動など、体育事業部との連携プログラムも行う。本年度は、東日本大震災をうけて、子どもなりに考えた「街づくり」をテーマに制作活動。保育活動展かその発表の場になった。「保育クラブ」に連動している。保育料 41,000 円、給食費 4,800 円 (いずれも月額)。延長保育料は別途。
保育クラブ	2～5 歳児 (定員 460 人/登録数 約 392 人)	4～7 15～18 6 4 (1日あたりの保育枠)	月～金曜日 (2 歳児) 10 00～13 00 10 00～14 00 火～金曜日 (3～5 歳児) 10 00～14 00 10 00～16 00	登録をして使う会員制の保育。登録数は 392 人。会員サービスには次の 3 つがある。保育プログラムは、①異年齢児混合保育 (2 歳児 3～5 歳児) 2 歳児保育は定期保育 (週 1 回利用) とフリー利用保育。3～5 歳児保育は定期保育 (週 1 または 2 回利用) とフリー利用保育、その他に延長保育を実施。②チーム保育 (各保育者の持ち味を生かす) ③保育ボランティア (小 5～社会人) の参加—などの特徴がある。家族プログラムは「親子遠足 (春・秋)」「親子工房」など。情報提供プログラムでは「保育クラブ通信 (おやとこ)」年 4 回発行、小児保健部と連携しての「健康診断 (春)」など。ほかに、登録期間中は会員証で [こどもの城] の入館もできる。 入会金 15,000 円、年会費 5,000 円。保育料、2 歳児 1,350 円 (1 時間)、3 歳児以上 1,000 円 (1 時間)。給食代 600 円、おやつ代 200 円 (1 回)。

講習会

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
おやこクラブ①	(組) 1 歳児親子	(組) 16	土曜日	さまざまな親子遊びをとおして、子育ての楽しさを体験するプログラム。小児保健部と連携し、心理 発達、子どもの食事についてのアトハイスも行った。両親とちらかか参加する。受講料 27,000 円。
〃 ②	(各期 18)	16	10 00～12 00	
〃 ③	保育士など	11	(全 10 回)	

指導者向け講習会

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
保育室で使えるあそびのメニュー (実技 1) ～楽しくあそべる造形のアイデア～	(人) 保育所 子育て支援センター 児童館の保育士など (50)	(人) 39	8 27 10 00～17 00	[こどもの城] では、造形活動をとおして子どもの自発性を喚起できるように、環境を整え、積極的に制作に取り組めるように指導している。映像をまじえて実際の活動を説明後、身近な素材を使ったプログラムを中心に紹介。受講者は自分の作品を箱に納めて持ち帰った。受講料 7,000 円。
親子で遊べるあそびのメニュー (実技 2) ～家族をつなぐあそびのヒント～	〃 (50)	51	9 17 10 00～17 00	NHK テレビの『おかあさんといっしょ』の振付担当者、宮田雅代さんの指導で、子どもに伝える方法などを学んだ。午後は保育研究開発部のスタッフか、初めての人同士をつなぐプログラムを紹介。参加者も、保護者の役になって疑似体験。受講料 7,000 円。

その他

名 称	日 時	内 容
子育て支援のニュースレターの発行	第 40 (通巻 56) 号 = 7 15 第 41 (通巻 57) 号 = 11 1 第 42 (通巻 58) 号 = H24 2 15	子育てをめぐる情報、現場などの動きをはじめ、各地の実践などを中心に取上げた。児童福祉施設の果たす役割の大きさを実感させられるとの読者の声。事業企画部、小児保健部との合同企画となり、内容が強化された。主な配布先は、子育て支援にかかわる実践者、研究者、大学などで年間購読を希望する個人および団体。その他見学者、関係所管課に無料配布。年間購読料 2,000 円 (郵送費、印刷代一部負担金)。

# 小児保健



健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉 夏合宿



赤ちゃんサロン

## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

本年度は、児童健全育成や子育て支援における〔こどもの城〕の小児保健部門の役割を改めて考え、①研修機能として保育所や児童館などの子育て支援者に対する講習会の充実をはかる ②〔こどもの城〕全館の「乳幼児と親の支援」活動のさらなる発展に努力する——を重点目標においた。

①については、さまざまな親子に対応する現場に役立つよう「食物アレルギーへの対応」「子どもの遊びから発達を理解する」「虐待の疑いのある子どもへの対応」の3つを新たに取り上げた。個々の講習会の詳細については後に述べる。

②については、〔こどもの城〕の0～2歳児と保護者への一般来館対応として、前年度から平常期間の火曜日に「子育て広場」（毎月第1・3・5が小児保健部門主催「赤ちゃんサロン」、第2・4が各部門共同運営の「ぼかぼか広場」）が開催されている。夏休みなどの特別期間には乳幼児親子の居場所「ハブバブ・ベヒータウン」か4階のAスタジオで期間中毎日実施されるようになった。これらの子育て支援事業は徐々に全館的な事業となりつつあるか、小児保健部門としても積極的にかかわっており、〔こどもの城〕における子育て支援事業のさらなる発展を引き続き模索している。

活動の中心は、予約制の診療を行っている小児科の「小児保健クリニック」であり、身体面では肥満や低身長などの発育の問題、発達・心理面では発達障害の疑い・集団生活への不適応・情緒不安など、子どもの健康や発達上の心配ことについて、個別の診療・相談を行っている。クリニックに来所される人は、それぞれに個人の相談ことを携えているか、そこに現代社会のさまざまな様相が凝縮されて現れていることも多い。例えば乳幼児の子育て時期に、湿疹などかアレルギー疾患ではないかと過剰なほど心配する保護者がいる。こうした疑問にも、最近の医学的な知識を持って子育て支援の現場で適切に助言・対応する必要もある。またチックなどの習癖や攻撃的な行動が発生する背景には、習い事や勉強などで忙しいスケジュールのなかで、自由に遊ぶ機会も少なく、家族との関係が希薄になっている子どもたちの生活がある。

現代の親と子の様子を診察・健診・相談などてくみ取りながら、講習会の企画・運営や子育て支援の活動に生かしていくことが大切である。

さらに現代の社会においては、一人親家庭の増加など家族形態が多様化し、両親ともに仕事を持って子育てをしている家庭も多い。小児保健クリニックは週末も診療・相談を行っているか、土・

日曜日の需要は高く、子育てと仕事の両立支援にはこうしたサービスも必要であると感じられる。  
 今後も子どもの健康な身体の発育・心の成長の様子を見守り、社会的な問題としてとらえ、子どもの健全な発達の支援、保護者の支援とそこに携わる地域の支援者を応援していくことが、[こともの城]にある小児保健部門の使命であろうと考えている。

## □□□ 診療・相談活動 □□□

本年度の小児保健クリニックの診療・相談の総件数は、前年度 2,409 件から 2,429 件に増加した。これは、公費による乳幼児の「健康診査」が 136 件から 144 件にわずかに増えたほか、「心理相談」が 922 件から 987 件へと増加したことが大きい。「初診」件数は前年度 346 件から 311 件に減少しているが、とくに「心理相談」を継続する件数が増えたといえる。年度当初は、東日本大震災で小児科の受診数が低下するなどの影響が見られたが、数か月後には回復した(表 1)。

新規に来所した人の居住地は、表 2 に示した。東京都 23 区内が 81.7%、うち近隣の 4 区が 51.9%と来所しやすい地域が多い。しかし、近隣の県からも 34 件 10.9%の利用がある。また、海外居住者の一時帰国時の受診・相談もみられる。

年齢の内訳を表 3 に示している。0～2 歳が 144 人 46.3%と、乳幼児健康診査の件数を反映して多く、ついで 6～11 歳の小学生が 97 人 31.2%と 3 割におよんでいる。小学生の相談も多いといえよう。

診療・相談内容の内訳については表 4 にあけてあるが、「乳幼児健康診査」が全体の 3 分の 1 に達している。診療・相談内容については、初診時の内容を基本に「発達の相談」「情緒・行動面の相談」「身体的・心身症的な相談」に分類すると、それらの割合はあまり大きく変化していない。

発達障害の知識が普及したため、本年度も子どもの状態を「発達障害ではないか」という主訴で受診する傾向が続いている。しかし、詳しく相談を継続するうちに、実際には、幼少期からの親子関係、離婚などの家庭環境の変化、保護者の心身の不調(たとえばうつ病)などの要因が子どもに影響しているとわかる場合も少なくない。また、発達障害ではないかと疑心暗鬼になって、不安に陥っている例もある。子どもを取り巻く家庭の状況を、全体的に捉えながらサポートしていく必要がある。なお、東日本大震災の被災地から避難されて来た人も含まれているが、直接その影響を主訴としてはいなかったため、特別にはここにあげていない。

【小児保健クリニック月別診療・相談件数(初診・再診内訳)】(表 1)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H241月	2月	3月	合計
診療	96	66	85	102	77	120	69	68	120	93	98	146	1,140
健康診査(公費)	8	12	5	13	11	10	6	11	18	14	10	26	144
健康診査(自費)	2	22	5	1	0	0	31	2	0	1	1	1	66
育児・健康相談	2	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	6
心理相談	78	79	75	101	76	77	92	73	86	71	76	103	987
ダウン症療育相談	9	5	7	10	5	4	8	7	8	5	7	11	86
合計	195	185	177	227	169	212	207	161	232	184	193	287	2,429
内訳													
初診(新規)	20	29	23	32	27	21	22	14	38	28	22	35	311
再診	175	156	154	195	142	191	185	147	194	156	171	252	2,118

【小児保健クリニック新規来所者の居住地域内訳】(表 2)

居住地域	渋谷区	港区	世田谷区	目黒区	その他の区部	市郡部	小計	神奈川県	千葉県	埼玉県	その他	小計	合計
人	84	24	23	18	105	14	268	14	12	8	9	43	311
(%)	(27.0)	(7.7)	(7.4)	(5.8)	(33.8)	(4.5)	(86.2)	(4.5)	(3.9)	(2.6)	(2.9)	(13.8)	(100)

【小児保健クリニック新規来所者の年齢内訳】(表 3)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12～14歳	15歳以上	合計
人	77	41	26	15	18	14	15	20	14	17	15	16	21	2	311
(%)	(24.8)	(13.2)	(8.4)	(4.8)	(5.8)	(4.5)	(4.8)	(6.4)	(4.5)	(5.5)	(4.8)	(5.1)	(6.8)	(0.6)	(100)

## □□□ 子育て支援者向け講習会 □□□

これまでも、毎年 1 回、現場の親子へのかかわり方を中心テーマに 3 人の外部講師を招いて行ってきた「小児保健セミナー」、0～2 歳の子育て支援の基礎的な知識について小児保健部門のスタッフかそれぞれの専門分野の講義を行う「心とからだの健康 012 歳児～小児保健の基礎と実際～」、乳幼児期の健康における食育や運動の大切さについて体育部門のスタッフの協力を得て講義・実習をする「乳幼児期からの健康づくり」など、主に乳幼児期の子育て支援を目的に講習会を行ってきた。これらの講習会などは、本年度も継続して実施した。

本年度は新たに、現場で苦慮していることに対応する新規の講習会を下記のように行った。

### 【最新の医療から～食物アレルギーへの対応～】

食物アレルギーの情報かはらんするなか、子育て支援者は正しい情報の把握に苦勞し、保護者の対応に不安を感じている状況かしばしばみられた。直接子ども健康や命にかかわるものであるだけに、とまどいも大きかった。そこで、最新の食物アレルギーの考え方や対応を整理する機会が必要と考え、本年度から新規講習会として「最新の医療から～食物アレルギーへの対応～」を実施した。保育所などに勤務する栄養士の参加が半数を超えた。事前に寄せられた質問は 20 件以上のぼり、現場の悩みが伝わってきた。

「離乳食で卵を制限している親が多く、1 歳まではあたえないという場合もあるかその対応について」「除去食を保育園で行っているにもかかわらず、家ではやっていないときの対応」など、家庭と現場の認識のずれによるジレンマを感じさせる質問内容が多かった。また、「離乳食でアレルギー検査を行わないで、卵を控えるようにという医師の指示があること」「卵アレルギーの場合、鶏卵や魚卵の扱いが医師によって違う」など、医療へのとまどいもあった。

寄せられた質問には、「Q&A」のコーナーで講師が全て回答した。具体的でわかりやすかったという感想が多く、90%以上の参加者が「よかった」「まあまあよかった」と答えていた。

【新規来所者の診療・相談内容内訳】(表 4)

	内 容	件数 (%)
発達 の 相 談 ( 疑 い も 含 む)	学習障害・注意欠陥多動性障害	33 (10.6)
	自閉症・自閉的傾向(広汎性発達障害)	29 (9.3)
	精神遅滞	21 (6.8)
	言語発達遅滞	20 (6.4)
	ダウン症、その他先天異常	3 (1.0)
	小 計	106 (34.1)
情 緒 ・ 行 動 面 の 相 談	神経症	11 (3.5)
	不登園・不登校	9 (2.9)
	情緒障害・情緒不安	9 (2.9)
	育児不安	1 (0.3)
	集団不適應	1 (0.3)
小 計	31 (10.0)	
身 体 的 ・ 心 身 症 的 な 相 談	肥満(心理的な問題含む)	22 (7.1)
	習癖(チック・抜毛症など)	11 (3.5)
	低身長	5 (1.6)
	その他身体疾患(思春期早発症・アレルギーなど)	6 (1.9)
	その他心身症(起立性調節障害など)	3 (1.0)
小 計	47 (15.1)	
合 計	184 (59.2)	
健 診	乳幼児健康診査(公費)	108 (34.7)
	健康診断(自費)	19 (6.1)
合 計	127 (40.8)	
総 計	311 (100)	

### 【『遊び』から理解する子どものこころの発達】

小児保健クリニックでは、幼児期・児童期の子どもの〈遊び〉を媒介にして心理相談（遊戯療法）を行っている。〈遊び〉には、子どもの現在の心や発達の様子が現れやすく、心の問題を改善する力や発達を促進させる力があり、子どもの心理相談では重要な役割を担っている。

これらの〈遊び〉の持つ力を意識しながら、子どもの心および発達の状態を理解する方法が、保育所・児童館などの日常の活動で役立つのではないかと発想で、この研修会を企画した。

前半は、子どもの発達および〈遊び〉の理解ととらえ方について講義形式で学び、後半は事前のアンケートで集められた子どもの遊びの事例を取り上げ、ディスカッションを行うという実践的な方法で理解を深めた。

終了後のアンケート結果をみると満足度は高く、前半の講義は 97.6%、後半のディスカッションは 95.1%が満足していた。「子どもと遊びの関連性がよくわかった」「大人かかかわることの重要性を再確認した」「もっと子どもの世界に踏み込んでみようと思う」「診断を当てはめるのではなく、どういう子どもなのかを考えることを大事にしたい」などの感想が寄せられた。

〈遊び〉の持つ意味や役割は、〔こどもの城〕の活動にとっても重要なテーマでもあり、今後も講習会などをとおして、〈遊び〉の持つ子どもの成長に寄与する力を伝えていきたいと思っている。

### 【子どもの虐待への対応～親子支援に向けて～】

児童虐待は、大きな社会問題となっている。しかし保育所や児童館・放課後児童クラブなどの現場ではなかなか対応が難しく、理解や対応にとまどうケースも多い。特に児童館は自由来館であることから、虐待が疑われる子どもに対し、どう対応し、地域で共有すればよいかなど戸惑いの声が聞かれることが多かった。これらのニーズの高さを受け、児童虐待の理解と具体的な対応について実践的に学ぶことを目的として講習会を行った。

講師には、「財団法人子どもの虹情報研修センター」（全国の児童相談所や虐待対応施設職員の研修を行っている専門機関）の増沢高研修部長（臨床心理士）を迎えた。前半は講義形式で虐待の実態や対応の現状について学び、後半は Q&A 形式で事前に募った困難事例をもとに理解を深めた。

終了後のアンケート結果をみると満足度は高く、「時間が短かった。もっと話を多く聞きたかった」「事例が多く、よく理解できた。今後の参考になった」「多くの事例を聞き、胸が痛くなったが、いかに私たちが早期に気づき対応するかが大切かということがよく理解できた」などの感想も寄せられた。

次年度も同様の講習会を望む声が多かった。しかし一方で、児童館という自由来館が可能な施設での対応の難しさ、行政へのつなげ方の難しさに言及した感想も多く、虐待の対応の難しさを痛感させられた。子どもが健全に社会のなかで育つことは、〔こどもの城〕の願いでもあり、また受講生の要望も多いことから、今後とも継続していきたいと思っている。

## □□□ まとめ □□□

小児保健の部門ではこれまで、子どもの心身の健康や発達の支援・保護者の子育て支援を中心に活動を行ってきた。特に「赤ちゃんサロン」は全国の子育て広場事業の先駆的な役割を担った。乳幼児の子育て支援関係の講習会には長年にわたり全国の関係者が参加し、地域での親子支援にどのような知識やかかわり方や必要かを学ぶ機会を提供してきた。さらに本年度は特に現場の実践に細かく手の届くような視点からの講習会を企画・実施した。結果としては、おおむね好評であり、今後も継続して現場での経験と情報交換し、積み上げていく必要が感じられた。

本年度は東日本大震災の直後であり、個々の家族にはその影響もあったであろう。また、長引く経済的不況や社会的な混迷など、さまざまな環境の変化が訪れている。「絆（きずな）」の大切さが再認識される一方で、インターネット社会の発達で、幼少期から、遊び方、情報の取り入れ方、人と人のかかわりなどの様相が変化し、これまでの考えかかならずも通用しない社会の実態が現われてきている。

このような時代だからこそ、子どもの心身の基礎を形作る乳幼児期の遊びや子育て支援を大切にしながら、児童期・思春期の健康作り・人間形成を視野に入れて活動する、一つのモデルになるような施設や機能が求められているといえる。

# 平成23年度活動一覧表

□□□ 一般利用 □□□

## ■ ■ ■ 平常期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
<b>小児保健クリニック</b> (診療・相談) 小児科診療 育児・健康相談 乳幼児健康診査 健康診断 栄養相談 心理・発達相談 タウン症療育相談	休館日を除く毎日 9:30～17:00  木曜日 金曜日(各月1回)	診療 相談は予約制。小児科医師 保健師 看護師 管理栄養士 臨床心理士が診療 相談にあたる(週2回小児精神科 月1回小児耳鼻科を含む)。小児科医師の診療には、原則として健康保険が適用される。乳幼児健康診査は、東京都乳幼児健診委託機関のため受診票で受けられる。育児 健康相談は、相談料1回5,000円。心理 発達相談は、担当者1人の場合1回50分5,000円、医師の診察を受けずに直接相談に入る場合、初回のみ7,000円、専門相談のタウン症療育相談は、相談料8,000円。  専門医師が担当。(小児保健クリニック)
<b>赤ちゃんサロン</b>	火曜日(年18回) 11:00～14:00	対象は3～18か月の乳幼児とその保護者、妊婦。親たちか自由に交流し、赤ちゃんたちかふれあう場。小児科医師 保健師 管理栄養士 臨床心理士か加わり子育ての相談も行う。本年度は延べ1,611人か参加。入館券対応。(音楽ロビー)
<b>第26回マタニティ・コンサート</b> <b>「ママとヘヒーに届けるすくすくサククスコンサート」</b>	10:30 15:00～17:00	妊娠中に、楽しくリラックスできるひとときをすこししてもらい、出産を迎えようという主旨のコンサート。全員女性の「サクソフォン カルテット 桜」のアンサンブルコンサート、絵本のスライド上映と朗読とのコラボレーションを行った。野末源一元日本赤十字社医療センター副院長産婦人科医師と巷野悟郎こどもの城小児保健クリニック小児科医師の話、体育事業部スタッフによるリラックス体操なども行った。公募、無料招待。203人参加。劇場事業本部との共同事業。(青山円形劇場)

## ■ ■ ■ 特別期間 ■ ■ ■

名 称	日 時	内 容
<b>〈開館記念〉</b> <b>第17回赤ちゃん大集合</b>	11.9 10:30～15:30	3か月から2歳未満の乳幼児と保護者か対象。研修室の「赤ちゃんサロンスペシャル」会場で、「小児科医師の話」「井戸端会議」「子育て相談」を行う。また、8階の育児用品関係の企業 団体による「情報 展示コーナー」を実施。他の事業部も「みんなのここにご広場」「ころころハイハイ/たっち たっちタッタッ/てくてくピョンピョン」「It's aヘヒーワールト」「うたつてハブリん/あそんでハブリん」「ヒデオとうふつえん」「紙のおふる体験」などを実施した。参加者は、1,046人(515組)。全館事業として実施。入館券対応。(研修室ほか)



赤ちゃんといっしょの 子育て学習会



赤ちゃん大集合～赤ちゃんサロンスペシャル

□□□ 講座・クラブなど □□□

■■■ 講座 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
健康スポーツ教室〈太りすぎクラス〉第 28 期	(組) 太りすぎの小学生とその親(20)	(組) ① 18 ② 25 ③ 25	土曜日 14 00～17 00	太りすぎの改善のために医学指導（東京女子医科大学東医療センター医師）栄養指導（和洋女子大学ほか）体育指導（体育事業部。水泳と体育を交互に実施）を行う。食事と心理の保護者向けレクチャーと親子合同の体育プログラムを実施した。親子での屋外活動を年 3 回実施（お茶の水駅からウオーキング、アイススケート、港区七福神めぐり）。夏合宿は、山岳スポーツセンター（神奈川県）へ。体育事業部との共同事業。受講料＝1 2 期（各 12 回）各 24,000 円、3 期（9 回）18,000 円。 (小児保健クリニック/体育室/プールほか)

■■■ クラブ ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
マタニティ・スイミング	(人) 妊娠 16 週以降の妊婦 (25)	(人) 4月 14 5月 11 6月 14 7月 21 8月 19 9月 13 10月 18 11月 20 12月 21 H24 1月 10 2月 14 3月 9 (計 184)	火・木曜日(月 7 回) 11 00～12 00 ×夏休み特別期間 (7 16～8 31) は 10 30～11 30 × 4、9 月と H24 年 1 月は 6 回。	妊娠中、心身ともに健康に過ごすことを目的として水泳を行っている。母親になる人たちの友たち作りにも役立ち、妊娠期からの子育て支援の意味も大きい。水泳前後の検診は、育良クリニック産科医師 助産師と小児保健スタッフが担当、年 5 回レクチャーも実施。体育事業部との共同事業。 入会全 10,000 円、受講料 13,000 円（月額）。 (プール)



乳幼児期からの健康づくり 運動遊びの実践から



心とからだの健康 0 12 歳児～小児保健の基礎と実際

■■■ 短期講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
季節の離乳食	(人) 5 か月～ 1 歳 6 か 月の乳幼 児と親 (各回 10)	(人) 計 57	金曜日 (年 9 回) 13 30 ～ 14 30 × 4 22=2 / 5 27 = 4 / 6 24 = 7 / 9 30 = 11 / 10 21 = 5 / 12 2 = 7 / H24 1 27 = 14 / 2 17 = 3 / 3 19 = 4	離乳食の作り方 与え方に悩む母親たちに、実際に調理した食材などを見せながら、ちょっとした工夫でできる調理法などを紹介。互いに疑問点を質問し合うなど、話し合う母親同士の交流も大切な要素になっている。受講料 2,000 円 (1 回)。 (小児保健部プレイルーム)
赤ちゃんといっしょの子育て学習会	(組) 3 か月～ 1 歳 6 か 月の乳幼 児と親 (各回 30)	(組) 35 25 14	7 22 11 00 ～ 15 00 9 16 11 00 ～ 15 00 H24 3 23 11 00 ～ 15 00	赤ちゃんの健康、栄養、発達、子育てのあれこれを学ぶ、親向けの学習会。今までの「赤ちゃんほっとタイム」を分かりやすい名称に変えて実施。7 月は「〈氏より育ち〉は本当でしょうか？」(小児科医師)、「赤ちゃんの病気とけかの対応」(看護師) と子育て Q & A。9 月は「〈寝る子は育つ〉は本当でしょうか？」(小児科医師)、「本当は奥が深い、赤ちゃんの遊び」(大藪泰さん 早稲田大学文学学術院教授) と子育て Q & A。3 月は「〈抱き癖〉は本当に悪いことでしょうか？」(小児科医師)、「赤ちゃんの飲むこと 食へること」(管理栄養士) と子育て Q & A。会場で食事をとることもでき、ヘヒーカーも預かった。受講料 2,000 円。(会議室)

■■■ 専門指導者向け講習会 ■■■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
第 26 回 小児保健セミナー 「多様化する親子 へのかかわり方」	(人) 保育士 児童厚生 員・学童 指導員・ 保健師な と (100)	(人) 77	11 26 10 00 ～ 17 00	家族のあり方が多様化しているなかでさまざまな事例に対応するために、保護者とのコミュニケーションのとり方、安心して話してもらえる配慮などを学んだ。さらに、最近増えている離婚を経験した子どもの不安や親の子育ての悩みなどへの理解、適切な子どもへの心身の発達援助と保護者への支援などを取り上げた。「親の話の聴き方 答え方」(多田光さん 佼成病院小児科医師)、「コミュニケーション マナー」(中川奈美さん NPO 法人日本サービスマナー協会)、「離婚を経験した親子への援助」(井村たかねさん 聖徳大学人文学部教授/臨床心理士)。受講料 7,000 円。(研修室)
心とからだの健康 0.12 歳児～ 小児保健の基礎 と実際～ (第 17 回/第 18 回)	保育士 栄養 士 保健師 看護師など (第 17 回 50) // (第 18 回 50)	36 58	6 25 (第 17 回) 10 00 ～ 16 45 H24 2 24・25 (第 18 回) 10 00 ～ 16 30	子育て支援の活動にたずさわる現場の職員の研修会。「0 12 歳児の保健の基礎と子育ての考え方」「健康管理や応急処置」「離乳食や食生活一般」「気になる子どもの理解とその対応」などの講義、「子育て支援の方法と実際」の説明や情報交換の時間を持った。講師は小児保健部スタッフ。保育士、看護師、児童厚生員などが参加。第 18 回は定員を上回る申し込みがあった。第 17 回(1 日)は受講料 7,000 円、第 18 回(2 日間)は受講料 13,000 円。(会議室)
第 3 回乳幼児期 からの健康づく り	栄養士 保 育士 児童 厚生員など (30)	33	7 8 10 00 ～ 16 30	乳児期における〈食育〉の考え方、幼児期における〈食育〉の具体的な取り組みを中心とした講習会。「食をめぐる諸問題」(村田光範小児科医師)、「わかりやすい食事アトハイスのポイント」(太田百合子管理栄養士)、「運動遊びの実践から」(島田綾子体育事業部主任指導員)。受講料 7,000 円。(研修室)
最新の医療から ～食物アレルギー への対応～	栄養士 看護師・ 保育士な と (50)	39	7 30 13 00 ～ 16 00	新規の講習会。食物アレルギーの対応に苦慮している子育て支援の現場が多いため、食物アレルギーの病態を整理し、具体的な対応を説明。受講生からの多くの質問もとりあげて進化した。「食物アレルギーの歴史と今後の対応」(小児保健部小児科医師)「食物アレルギーの基礎知識と現場での対応」(大谷智子さん 東京女子医科大学東医療センター小児科医師)。栄養士が半数を占め、看護師、保育士なども受講。受講料 5,000 円。(会議室)

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
乳幼児期の食生活の理解と対応～受講生の食の悩みに答えます～	(人) 栄養士 保育士など (30)	(人) 17	10 15 13 00～16 00	前年度に続き 2 回目。乳幼児期の食事や親支援のポイントを整理して伝えた後、受講生からの多くの質問もとりあけながら具体的な対応を話した。講師は小児保健部管理栄養士。受講生の大半が栄養士と保育士。受講料 5,000 円 (研修室)
〈遊び〉から理解する子どものこころの発達	保育士 児童厚生員 児童センター職員など (30)	45	12 11 13 30～16 30	子どもの心や発達について、〈遊び〉を切り口に学んでいく講習会。それぞれの時期にみられる子どもの〈遊び〉を事例として取り上げ、ディスカッションをとおして〈遊び〉に子どものこころや発達かどう表現されるのかについて具体的に学んだ。「子どもの発達～こころと〈遊び〉～」（北原知典 こともの城小児保健部臨床心理士）、「実例を通して学ぶ子どもの遊びの見方、かかわり方」（井口由子 同）。受講料 5,000 円 (会議室)
子どもの虐待への対応～親子支援に向けて～	児童厚生員 保育士 子育て支援センター職員 など (50)	55	H24 3 11 13 30～16 30	大きな社会問題となっている児童虐待について、その実態や対応の現状を知り、虐待に至る家族の背景や虐待の子どもに与える影響について学んだ。特にネグレクトの事例を中心に取り上げ、ディスカッションを行いながら具体的な対応の仕方などについて理解を深めた。「虐待の現状と理解」「虐待か疑われる親子の理解と対応」。ともに講師は増沢高さん（子どもの虹情報研修センター）。受講料 5,000 円 (会議室)

# 劇場



ダンス・エクス11  
子ども向けダンスワークショップ

## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

児童健全育成施設〔こどもの城〕の劇場としての意義を認識しつつ、新たに策定した「自主・提携公演の実施方針」にのっとり、子ども文化のすくえた発信場所としての地位を保つように努力するとともに、〔こどもの城〕全体の維持のための経済的側面をも意識した事業運営を行った。

自主・共催公演は、青山劇場で1公演、青山円形劇場で11公演、提携公演は青山劇場で1公演、青山円形劇場で6公演を実施した。このうち『DANCE—X11』と『シーク・シーク・シーキングストーリーI』は、芸術文化振興基金の現代舞台芸術創造普及活動に、『青山太鼓見聞録』『TOKYO DANCE TODAY #7』『CLOUD』は、文化庁の芸術創造活動特別推進事業に選ばれた。劇場貸与は青山劇場18件、青山円形劇場20件であった。

稼働日数は、青山劇場使用可能日数331日中293日、青山円形劇場使用可能日数311日中300日と、95%に近い稼働状況であった。

また、劇場公演のほかに、若手舞台芸術家の育成をはかるためのセミナー「APAS」(Aoyama Performing Arts Seminar)を15件実施した。

### □□□ 主な自主・提携公演 □□□

#### ■ ■ ■ 青山劇場 ■ ■ ■

#### TAIKO JAPAN 2011

〈太鼓〉は古来より、祭や民俗行事、古典芸能などに用いられてきたが、それ自体が音楽として独立するのは戦後のこと。祭りから離れて一人歩きする民俗の太鼓、新しい感性が生んだ創作の太鼓。その歩みのなかに時を彩り、今なお生きて胸を打つのが〈太鼓〉。

平成18年=06年から『青山太鼓見聞録』は、東京新聞と浅野太鼓文化研究所の主催する『東京国際和太鼓コンテスト』および『和太鼓カレッジ』と開催時期を合わせ、『TAIKO JAPAN』という“太鼓フェスティバル”として開催している。鑑賞と体験、そしてチャレンジ——太鼓のさまざまな魅力をそなえ、青山劇場と青山円形劇場、〔こどもの城〕全体で展開し、参加者の便宜と宣伝

などの相乗効果に成果を上げている。音楽部門と連携して実施した、来館児・者を対象としたワークショップも好評を得た。

□主催□(財)児童育成協会、(財)浅野太鼓文化研究所、東京新聞。

### ◆青山太鼓見聞録〈伝統の種子、その展開〉

グループの枠を越え、実力ある太鼓打ちを集めて構成する『青山太鼓見聞録』の第 8 回公演。今回のテーマは「伝統の種子、その展開」。戦後、舞台芸能として一つの音楽ジャンルを形成した〈太鼓〉は、組太鼓という新しい演奏スタイルを確立させて豊かな音楽表現を獲得した。新しい太鼓音楽は〈創作太鼓〉とも呼ばれるが、実は一朝一夕に生まれたわけではなく、その核には日本の太鼓の伝統が息づいている。祭りの場に神を招くために“打ち込み”、降臨した神を楽しませるために“打ち囃す”——二つの要素が日本の太鼓を特徴付け、現代の太鼓音楽に受け継がれた。何代にもわたって継がれてきた日本の太鼓の種子は、現代の環境に合わせて新たな花を咲かせている。

□会場・日時□青山劇場／8月26日 19時開演  
 □曲目・演奏□和太鼓松村組(神戸市)「鳳」「列波」「天狗風」「大地」／の太鼓保存会(福井県坂井市)「東尋坊荒波乱れ打ち～火の太鼓」／鼓童 一選抜一(新潟県佐渡市)「一人加護」「三宅」「神祇の太鼓」「山唄」「大太鼓」「空」  
 □企画・演出□太鼓見聞録編纂委員会＝浅野昭利(財)浅野太鼓文化研究所理事長、小野晋司(こどもの城劇場事業本部、平沼仁一(アートウィル)／東京打撃団主宰、茂木仁史(平凡社新書「入門日本の太鼓」)著者  
 □スタッフ□舞台監督 金子芳浩(ニケステーションワークス)／照明 片田光彦／音響 武藤一郎(こどもの城劇場事業本部)／宣伝デザイン 野村高志+KACHIDOKI／協力 鼓童／制作協力 アートウィル  
 □助成□文化芸術振興費補助金(トップレベルの舞台芸術創造事業)



太鼓見聞録外伝〈伝統の種子、その展開〉

### ◆太鼓見聞録外伝〈東京打撃団、技あり!〉

□会場・日時□青山円形劇場／8月25日 19時開演  
 □出演□東京打撃団(村山二朗、田川智文、加藤拓哉、関根まこと、横山亮介、露木一博、長谷川暢、守田充利、佐藤晃弘)  
 □スタッフ□舞台監督 田畑祭(ニケステーションワークス)／照明 元木浩一(こどもの城劇場事業本部)／音響 武藤一郎(こどもの城劇場事業本部)

### ◆第 10 回東京国際和太鼓コンテスト

『東京国際和太鼓コンテスト』は、課題曲と自由曲により、演奏技術はかりだけでなく、独創性やパフォーマンスとしての表現力などを総合的に競うコンテスト。さまざまな審査員が多角的視点で評価し、各部門の最優秀賞、優秀賞、敢闘賞を決定した。これまでの受賞者からは、プロの演奏家も輩出しており、本年度もレベルの高い舞台となった。

□会場・日時□青山劇場／8月27日 組太鼓部門青少年の部、28日 大太鼓部門・組太鼓部門一般の部  
 □審査結果□  
**【大太鼓部門】** 最優秀賞 荒川正輝(千葉県)／優秀賞 築瀬和重(愛知県)／敢闘賞 橋本美和(神奈川県)  
**【組太鼓部門(青少年の部)】** 最優秀賞 創作太鼓衆 美らさ(沖縄県)／優秀賞 転輪太鼓 風雲児 風組(愛知県)／敢闘賞 四万十川 ととろき 結太鼓(高知県)  
**【組太鼓部門(一般の部)】** 最優秀賞 TAIKO NO WA(オーストラリア)／優秀賞 松平わ太鼓(愛知県)／敢闘賞 和 ZOKU(和歌山県)  
 □本選出場者(演奏順)□  
**【組太鼓部門青少年の部】**(27日) 大和太鼓保存会 鼓天童子(佐賀県)、川越ふし太鼓(埼玉県)、香島津太鼓 息吹(石川県)、愛泉童子太鼓(栃木県)、四万十川 ととろき結太鼓(高知県)、創作太鼓衆 美らさ(沖縄

県)、和太鼓キッズゆりかこ(栃木県)、田島太鼓クラブ 龍巳会(福島県)、転輪太鼓 風雲児 風組(愛知県)、和太鼓大元組ジュニア(東京都)  
**【大太鼓部門】**(28日) 伊勢竜二(福井県)、西野貴士(京都府)、荒川正輝(千葉県)、内海いっこう(兵庫県)、井寄忠明(和歌山県)、石田充志(千葉県)、小塩賢(アメリカ)、橋本美和(神奈川県)、築瀬和重(愛知県)、王慶齡(台湾)  
**【組太鼓部門一般の部】**(28日) 和太鼓 大元鼓龍組(東京都)、金光藤陰高等学校和太鼓部“鼓響”(大阪府)、福井農林高校 郷土芸能部(福井県。本選出場辞退)、岐阜県立飛騨高山高等学校 太鼓部(岐阜県)、TAIKO NO WA(オーストラリア)、転輪太鼓 銀輪組(愛知県)、松平わ太鼓(愛知県)、鼓摩の会和太鼓和樂(山梨県)、和 ZOKU(和歌山県)、土佐日高環頭太鼓(高知県)

## ◆和太鼓カレッジ

多彩なワークショップのほか、親子で参加してミニ太鼓を作る工作教室など、ハラエティーに富んだ講座を〔こどもの城〕と青山円形劇場で開催した。また、音楽口ビエでは〔こどもの城〕来館児・者を対象に、東京打撃団によるワークショップも行った。

□日時□ 8 月 26 ～ 28 日

□プログラム□

【カレッジ】①太鼓に役立つダンスワークショップ／コンタクト・インプロヒセーション 勝部ちこ・鹿島聖子 ②長胴太鼓基礎リズム打ち込み～楽曲作りへの応用～ 山田純平(松村組) ③締太鼓ステップアップ 浅野町子 ④大太鼓～初級者～太鼓の基本にたちかえる 見留知弘(鼓童) ⑤篠笛教室 初級編～美しく力強い音を奏に出すために～ 山口幹文(鼓童) ⑥桶・締セットの Lesson 1 松村公彦(松村組) ⑦手を速く動

かす秘密を暴露！一和太鼓奏者のためのモーラー奏法  
— 細谷一郎 ⑧太鼓の最初の一步 守田充利・佐藤晃弘(東京打撃団) ⑨篠笛か吹きたい！(篠笛入門講座・基礎編) 村山二郎 ⑩しなやかな三つ打ち 山田瑞恵(焔太鼓)

【工作教室】楽しいカスタネット作り (2 回)、ミニ太鼓作り (2 回) 浅野太鼓

【こどもの城ワークショップ (参加自由)】和太鼓 東京打撃団

## ■ ■ ■ 青山円形劇場 ■ ■ ■

## 青山円劇カウンスル #4~Re~ その族の名は「家族」

新進気鋭、今か旬の劇作家と組んで新しい魅力あふれる“円劇”(青山円形劇場×演劇)をプロデュースする《青山円劇カウンスル》の第 4 弾。

『その族の名は家族』は、人気若手劇作家・ハイハイの岩井秀人が自身の劇団で上演し好評を得た『て』を改訂したもの。認知症にかかった祖母をめぐる家族再生の物語を、時にシリアスに時にコミカルに描いたもの。母親役にはテレビなどで大活躍のユースケ・サンタマリアか、祖母役には意外にもこれが舞台初出演の研ナオコというユニークな取り合わせ。人気劇団大人計画など有名な荒川良々や実力派大鷹明良、滝藤賢一、内田慈など話題性の高いキャストがそろい、高い評価を得た。また、東日本大震災発生後、また 1 か月という上演すら危ぶまれるなか、多くの観客かつめかけ、大きな話題を得ることかできた。

《青山円劇カウンスル》は新進劇作家を取り上げて、次世代の才能を確保する当初の目的以上に、新しい才能を発掘したい制作カンパニーから多くの注目を集め、劇場営業面でも多くの業績を上げている。また、青山円形劇場という空間で人気俳優を間近に見ることができる、大劇場にはないプレミアム感と、《青山円劇カウンスル》の企画の先進性が、多くのマネージメント会社から注目を集めていて、人気俳優出演による収益面でのアップが徐々に実現しつつある。今回はこの流れを大切にしつつ、さらに一歩進めた活気のある企画にしていきたい。

□日時□ 4 月 13 ～ 28 日

□脚本・演出□ 岩井秀人 (ハイハイ)

□出演□ ユースケ サンタマリア、研ナオコ、荒川良々、大鷹明良、滝藤賢一、内田慈ほか

□共催□ ネルケプランニング

□提携□ 劇児童育成協会



～ Re～ 「その族の名は家族」

## ダンス・エクス 11 トーキョー～ソウル～モントリオール

平成 20 年 = 08 年に始動したこのダンスプロジェクトは、モントリオールのタンシャン、ソウルの LIG アートホール、東京の青山円形劇場 — それぞれ客席が 100 ～ 200 席ほどで、若手アーティスト支援を推進している劇場を、2 年に一度サーキットして、それぞれの国で将来を嘱望される若い振付家の作品を同時発表するプロジェクト。各国で今を疾走しているダンスを紹介し、ダンス軸の共生をはかる目的で共同企画された。

3 つの国のそれぞれ異なる文化背景を持つ、若い世代の 3 組のアーティストかともにツアーをするプロジェクトは、新たな発見に満ちていて刺激的で、各振付家の多様でユニークな視点を見ることはやはり新鮮である。また、各都市の観客か 3 つの対照的な作品を自分のなかで、比較しながら

理解を深めることができるという意味で、教育的な価値も持っているかもしれない。

さらに重要なこととして、このプロジェクトはパフォーマンスのコラボレーションのみならず、キュレーションからプロデュースやテクニカルの面まで連携して行い、ノウハウの交換と蓄積という点でも成果を上げている。参加アーティストは、トーキョー → ソウル → モントリオールと、約 3 週間に渡る連続上演により、文化背景の異なる観客の前で作品の強度をより



変形する視点

高めることができただけでなく、他のアーティストのクリエイションに対する眼差しに触れて交流する芸術的な刺激か、今後の活動の糧となることを希望している。

過去に経験したことのない日本の社会状況のなかで実現した今回、3つのパートナー劇場間の、さまざまな過程を経てさらに強い信頼関係を築いたことも成果であり、次回の『DANCE-X13』の準備に着手したところである。

参加アーティストと作品は以下のとおり。

□エラン・フリン「その日は灰から立ち上がる」(初演) カナダ□

振付 Erin Flynn / ケストアーティスト George Stamos / 出演 Erin Flynn, George Stamos / 音楽 Eric Craven / 照明 Karine Gauthier / ビジュアルデザイン Jeremy Gordaneer / 衣装 Marianne Therault / ドラマトウルキー Jo Leslie / リハーサルディレクター Marie Claire Forte

□イン・ジュンジュ & パク・ヨンクール「変形する視点」(2007年初演) 韓国□

振付 In Jung-ju, Park Young-cool (Oh! My Life Movement Theatre) / 出演 Park Young-cool, Jung Lee-su, Ju Hui / 音楽 Georg F Handel, Jordi Shavall / 照明デザイン Kim Yun-hee / 衣装デザイン In Jung-ju / アーティスティックアシスタント Ju Hui

□森下真樹「コシツ」2011 ver (2004年初演) 日本□

振付・出演 森下真樹 / 音楽 井ノ上裕二 aka Dill / 照明 三浦あさ子 / 衣裳 斉藤絵美 / スペシャルサンクス 山崎麻衣子、長井江里奈、石和田尚子、427FOTO、遠田誠 / 映像作品「コシツ」製作 427FOTO × 森下真樹

□日時□ 5月8～10日

○ソウル 5月13～15日 LIG アートホール

○モントリオール 5月20～22日 タンシャン

×各公演地でポストパフォーマンストーク、ワークショップを開催

□スタッフ□ツアー技術監督 Karine Gauthier / 舞台

監督 原口佳子 / 照明デザイン 三浦あさ子 / 照明コ

ーディネート 元木浩一 (こどもの城劇場事業本部)

/ 音響コーディネーター 武藤一郎 (こどもの城劇場事

業本部) / 制作協力 平岡久美 (Dance in Deed!) /

プロデューサー 小野晋司 (こどもの城劇場事業本部)、

Joh Seong-joo (LIG アートホール)、Stephane Frederick

Labbe (タンシャン)

□主催□ 働兒童育成協会 (青山円形劇場)、LIG Arts Foundation (LIG アートホール)、タンシャン

□助成□ 芸術文化振興基金、国際交流基金、EU・ジャパンフェスト日本委員会、Ministry of Foreign Affairs and Trade Republic of Korea、Korea Foundation、Conseil des arts et des lettres Quebec、Canada Council for Arts

□協賛□ 資生堂

□特別協力□ ケヘック州政府在日事務所

□後援□ 駐日韓国大使館、韓国文化院

## 青山円形劇場プロデュース クラウド

鈴木勝秀による新作オリジナル劇の上演。時代の感性を意識した青山円形劇場ならではの舞台を提案、それに賛同した異色で魅力的な5人のキャストが集まった。

鈴木のオリジナル作品での一貫したテーマは、自らを社会から隔離し、ディスコミュニケーションに陥った男の姿をとおして社会とのつながりを見つめること。3月の東日本大震災を経験したことにより、さらに深く掘り下げて書き上げた。役者が台本から読み取ったものを表現する演技、その感情を観客が感じ共有する、舞台の魅力がそこにあったと思う。

公演終了後に、多くの人たちが演劇にもっと気軽に接することができる環境を作り、演劇を活性化させたいという願いをこめて、台本をホームページに無料掲載した。

□日時□ 6月23～7月3日

□構成・演出□ 鈴木勝秀

□出演□ 田口トモロヲ、鈴木浩介、栗根まこと、山岸

門人、伊藤ヨタロウ

□助成□ 文化芸術振興費補助金 (トップレベルの舞台芸術創造事業)

### 月猫えほん音楽会 2011 えほん×ジャズ=めっちゃ<sup>2</sup>楽しいシアターライブ

『月猫えほん音楽会』は、“絵本”と“読み聞かせ”の持つ魅力を取り上げた企画で、親子（小学生）を対象とした招待公演。大きな月（スクリーン）に絵本を映しなからの読み聞かせと、シャズ・ピアノの即興演奏を組み合わせた、絵本とシャズとのセッションライブ。さらにパントマイムを加え、観客参加で作るシーンなど、他に類を見ない画期的なステーションを展開した。

また、希望する観客には、フェイス・ペインティングで猫に扮し、“猫道”と呼ぶ長いトンネルをくくり抜けて入場するなど、さまざまな趣向でライブの楽しさを演出することに成功している。

『月猫えほん音楽会』は平成11年＝99年に始まり、今回で13回目。毎回たくさんの応募がある。今回も総定員2,100人のところ、2,484家族6,411人の応募があった。



月猫えほん音楽会 2011

□日時□7月22～25日

□出演□佐山雅弘（ピアノ）、保亜美（進行）、本多愛也（パントマイム）、能祖将夫（朗読）

□スタッフ□演出 吉澤耕一／構成 能祖将夫／美術

小竹信節／協力 東京動物園ボランティアース

□主催□(財)こども未来財団／(財)児童育成協会

### Classical ROLLY Final!!!

エンターテイナー、ROLLYによるクラシックをテーマにしたコンサートの第3弾。平成21年＝11年3月に予定していたが、東日本大震災の影響により8月に延期して開催した。ふたんクラシック音楽を聴かない人にも、ROLLY的解釈の歌詞とアレンジによって入り込みやすい環境を作り、ジャンルを超えた音楽の力や楽しさが体感できるコンサートになった。

□日時□8月30日～9月1日

□演出□吉澤耕一

□音楽監督□中西俊博

□出演□ROLLY (Vocal / Guitar)、中西俊博 (Violin)、

クリス・シルハースタイン (Bass)、楠均 (Percussion)、

林正樹 (Piano)

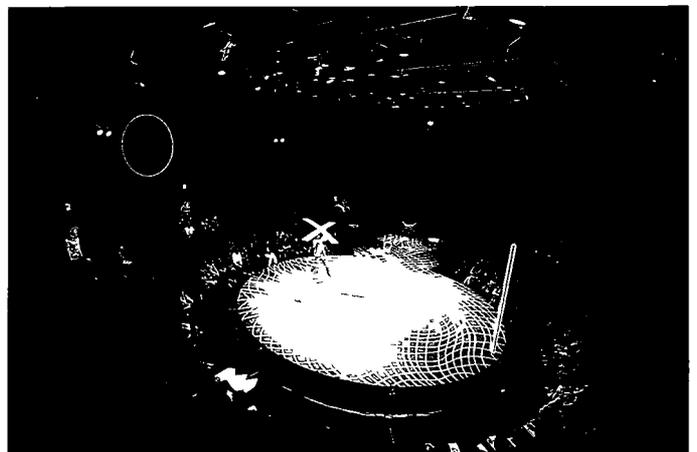
□共催□ソニー・ミュージックアーティスツ

□協賛□富士通(株)

### TOKYO DANCE TODAY #7 近藤良平 構成・振付・出演『11 DANDY』

演出・構成力のある振付家とアーティストか、約40日間、劇場にレジデンスして真摯に作品作りに臨み、青山円形劇場のユニークな空間を生かした独創的な作品を仕上げるこたてきた。

このシリーズを継続的に開催して日本のダンス状況に刺激を与えながら、作品記録とアーティスト資料を蓄積・発信していくことで、日本のダンスの潮流を国内外に向けて提示していきたい。ダンス、演劇、テレビ、映画、教育へと活動領域を拡げ、多様なクリエイターたちと融合しながら、新たな世界を切り拓く近藤良平への期待はさらに高まる一方で、その振付・構成力で舞踊、演劇など舞台芸術関係者や次代を担うアーティストにも大きな刺激を与えた。



TOKYO DANCE TODAY#7 近藤良平構成・振付・出演『11 DANDY』

□日時□ 10 月 19～23 日  
 □構成・振付・出演□近藤良平  
 □スタッフ□舞台美術 日比野克彦／音楽 ハナレクミ／衣裳 國時誠&國時里織 (STORE)／映像 芳賀薫 & 柳沢翔 (THE DIRECTORS GUILD)／宣伝デザイン 森本千絵 (goen°)／古道具 柿本景 (poefu)／照明 坂本明浩 (OneDrop)／音響 原嶋紘平 (SONICWAVE)／舞台監督 筒井昭善／舞監助手 原口佳子／振付助手 楠美奈生、中村 蓉／映像機材 (株)ラディックス／大道

具製作 (株)俳優座劇場 舞台美術部／小道具製作 伊倉真理恵／インターンシップ 昭和音楽大学、跡見学園女子大学／プロデューサー 勝山康晴 (ROCKSTAR)、小野晋司 (こともの城劇場事業本部)  
 □主催□(財)児童育成協会  
 □助成□文化芸術振興費補助金 (トップレベルの舞台芸術創造事業)、EU・ジャパンフェスト日本委員会  
 ×平成 23 年度 (第 66 回) 文化庁芸術祭参加公演／協賛公演

**青山演劇 LABO#005 イキウメ「太陽」**

人気若手劇作家を抱え、青山円形劇場使用を希望しながらさまざまな理由から躊躇してきた劇団と提携し、興行形態を模索しながら公演を実現。青山円形劇場を代表する傑作公演を生み出すべく、[こともの城] 発信の演劇企画として平成 21 年度＝09 年度に立ち上げた《青山演劇 LABO》。

第 5 弾は若手劇作家のなかで、今、最も注目を集める前川知大主宰の劇団「イキウメ」。前川書き下ろしによる本作は、多方面のマスコミから大きな反響を呼び、連日盛況となった。多くの風刺を込めた 2 つの社会の分断物語をほぼ劇団員のみで構成して、劇団最高レベルのパフォーマンスを発揮。大きな感動を呼んだ。

この作品により、前川は読売文学賞最優秀戯曲賞を、また演出家の力量を認められてその年の演劇界最高峰とも言える読売演劇大賞を受賞。青山円形劇場企画公演としても初の快挙をもたらした。



イキウメ「太陽」

今後も、《青山円形劇場カウンスル》(プロデュース公演)、《Aoyama First Act》(未経験者)とあわせて、対外的には演劇界の活性化に貢献し、同時に青山円形劇場のラインナップの質の向上をはかり、[こともの城] にさらなる注目を集めたい。

□日時□ 11 月 10～27 日  
 □作・演出□前川知大  
 □出演□浜田信也、盛隆二、岩本幸子、伊勢佳世、森下創、大窪人衛、加茂杏子、安井順平、有川マコト  
 □主催□イキウメ エッチヒイ  
 □提携□(財)児童育成協会

**青山円形劇場プロデュース ア・ラ・カルト 2～役者と音楽家のいるレストラン～**

新しいキャストと構成のもと『ア・ラ・カルト 2』としてリニューアルオープンした舞台の 2 年目公演。『ア・ラ・カルト 2』は、クリスマスの時期を迎えたフレンチレストランでの、心温まるショートショートのお芝居とハンドマンの生演奏でつづる音楽劇。“料理と恋のお話と、しゃれた音楽でつづるおしゃべりなレストラン”を役者と音楽家が一体となって創り上げた。

豪華で多才な日替わりキャストの参加もあり、幅広い年齢層に楽しめるしゃれたエンターテインメントショーになった。

また、年末に兵庫県立芸術文化センター中ホールで、3 年ぶりに関西地区公演が実現した。



ア・ラ・カルト 2～役者と音楽家のいるレストラン

□日時□ 12月3～25日  
 □出演□ 高泉淳子、山本光洋 本多愛也 中山祐一朗、  
 中西俊博 (Violin)、クリス・シルハースタイン (Bass)、  
 竹中俊二 (Guitar)、林正樹 (Piano)  
 日替わりケスト (50音順) 池田鉄洋、石井一孝、近  
 藤良平、篠井英介、春風亭昇太、山寺宏一

□スタッフ□ 演出 吉澤耕一 / 台本 高泉淳子 / 音楽  
 監督 中西俊博  
 □協賛□ 富士通(株)、メルシャン(株)  
 □制作協力□ 遊機械オフィス  
 □助成□ 文化芸術振興費補助金 (芸術創造活動特別推  
 進事業)

### 第1回こどもの城・ファミリーミュージカル

#### 「シーク・シーク・シーキングストーリーⅠ～なな色ほうけん物語～」

昭和61年＝86年から25年間続いた、正月恒例のファミリーオペレッタをリニューアル。26年目の今年度から、第1回「こどもの城・ファミリーミュージカル」として再スタートした。

新シリーズは、お花が大好きな花屋の女の子が主人公。お花の国で巻き起こるさまざまな事件に直面しながら成長していく姿を描く。第1弾となる今回は、お花の国の王様が行方不明になり、四季が巡らなくなってしまうお話をおし、自然の大切さを描いた。

正月にふさわしい明るく、楽しいお話しで、「こどもの城」の新年の幕開けを飾った。



シーク・シーク・シーキングストーリーⅠ～なな色ほうけん物語～

□日時□ 平成24年1月3～9日  
 □スタッフ□ 脚本 太宰久夫、吉村温子 / 監修 名倉  
 加代子 / 演出 オペラクリエーション・イン・青山  
 □出演□ オペラクリエーション・イン・青山、こども

の城児童合唱団、平多正於舞踊研究所、ハレエスタシ  
 オ HORIUCHI ほか  
 □助成□ 芸術文化振興基金、EU・シャパンフェスト日  
 本委員会

### 中西俊博 Leapingbow2012 Reel's Trip ～はじめてのひかり～

中西俊博が新しい実験的な音楽にチャレンジしていくコンサート『Leapingbow』。気鋭の若手ミュージシャンと結成した [Reel's Trip] で、さらに深いサウンドを追求した。青山円形劇場でのコンサートは、[Reel's Trip] のメンバーが1年かけて行ってきた実験的なライブによって構築された音楽の集大成である。“はじめてのひかり”というテーマを設け、中西が音楽の世界に入り込んだ時の光、311の東日本大震災を経た光など、あらゆる光の情景をバンドの紡ぎ出すアンサンブルで表現した。

中西の音楽活動のなかで、若者の奥底にある才能を引き出すことも大切な役割である。若手音楽家の新しい感性を生かした〈音・楽〉を表現した。さらに、初めての試みとして、「こどもの城」の来館児・者を対象にした無料ミニコンサートを行った。多くの子どもたちにとって初体験となる劇場での生の演奏会。上質な音楽にふれることで子どもたちが豊かな感性をはくくむ一助になればと願い開催した。

□日時□ 平成24年1月28・29日 (2回公演) / ミニ  
 コンサート「はじめての音楽会」1月29日 (1回公演。  
 無料)  
 □出演□ 中西俊博 (Violin)、木村将之 (Bass)、ファルコ

(Guitar)、伊賀拓郎 (Piano)、はたけやま裕 (Percussion)  
 □スタッフ□ 演出 吉澤耕一  
 □協力□ ヤマハ(株)、富士通(株)

## Best of ROLLY ～ローリー寺西 サ・グレイテスト・ヒッツ！～

青山円形劇場で、ジャズとクラシックをテーマに 6 年間続けてきたコンサートの集大成を開催。ファンから募集したベスト曲とメンバーが選んだベスト曲を組み合わせて、ジャズ、クラシック、そしてロックがバランス良く取り込まれた、まさしくベスト版かてきあかった。

また、50 人限定の観客が参加して公開レコーディングライブを行い、今回の曲目の一部を CD にして販売。今までの楽曲を手元に残したいという観客のニーズが強かったことを実感した。



Best of ROLLY ～ローリー寺西 サ・グレイテスト・ヒッツ！～

□日時□ 3月 29 30日（4回公演）

□演出□ 吉澤耕一

□音楽監督□ 中西俊博

□出演□ ROLLY（Vocal / Guitar）、中西俊博（Violin）、

クリス・シルハースタイン（Bass）、楠均（Percussion）、林正樹（Piano）

□共催□ ソニー・ミュージックアーティスツ

□協賛□ 富士通(株)

## □□□ まとめ □□□

開館以来、〔こどもの城〕の劇場として「児童の健全育成に資する」という理念のもと、〈文化施設〉と〈文化事業機関〉の両輪で運営してきた。〈劇場を貸すこと〉と〈自主（共催）・提携公演を行うこと〉である。

本年度は、〔こどもの城〕を取り巻く政治、社会、経済情勢の変化にともない、〔こどもの城〕の財政は厳しい状況におかれ、収益部門として、より一層の収支改善をめざした。「自主（共催）・提携公演の実施方針」にのっとり、自主（共催）・提携公演の日数制限を設け、演目の選定基準を厳格にし、〈文化事業機関〉の側面を減少させるという劇場設立の理念とは相容れない苦汁の選択を行わざるをえなかった。その努力が実り、収益は上がったが、劇場事業の自助努力だけでは、根本的な問題＝財政難は解決しない。劇場部門の収益をいくら上げて、〔こどもの城〕全体を運営するに足る額には届かない。早急に全体の運営をどうするのかという根本的な、そして全館的な意思決定が望まれる。

# 平成 23 年度公演演目一覧表

□□□ 青山劇場 □□□

名 称	日 時	回 数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉 青山太鼓見聞録 伝統の種子、その展開	(日) 8 25 26	(回) 1	(円) 4,000 (前売= 3,500)	(人) 1,104	(人) 679	(%) 61.5	
第 10 回東京国際和太鼓コンテスト (東京新聞)	8 27・28	2	大人= 2,500 / 中学生以下 = 1,000	2,310	1,481	64.1	
(自主・提携公演 小計) 2 件		4	3	3,414	2,160	63.3	
〈内部利用〉 東日本大震災チャリティ公演 こともちからのサウンドメッセージ ～たくさんの一歩～	4 9・10	1	1,500	1,101	810	73.6	音楽
(内部利用 小計) 1 件		2	1	1,101	810	73.6	
〈貸し館〉 丸美屋食品ミュージカル「アニー」 (日本テレビ)	4 18～5 9	25	S=8,000 / A = 6,500	27,683	25,679	92.8	
フロートウェイ・ミュージカル 「スウィニー・トット -フリート街の悪魔の理髪師-」 (ホリプロ)	5 10～6 5	27	S = 12,600 / A = 8,000	28,134	23,074	82.0	
クーテンホーフ・ミツコ没後 70 年記念 ミュージカル「MITSUKO～愛は国境を 越えて～」 (キョートー東京)	6 7～29	21	SS = 15,000 / S = 12,000 / A = 9,000 / B = 6,000 / C = 3,000	24,276	17,170	70.7	
The 26th PLAYZONE 2011 SONG & DANCIN' (ヤングコミュニケーション)	7 1～8 7	30	S = 10,500 / 立見 = 8,400	32,928	32,378	98.3	
劇団 EXILE - IMPACT 「レットクリフ-戦-」 (ネルケプランニング)	8 9～24	19	12,000	21,115	18,062	85.5	
劇団☆新感線 2011 年夏興行 いのうえ歌舞伎「閻魔城の七人」 (ウイレッシ)	8 29～ 10 10	43	S = 12,500 / A = 10,500	52,629	51,358	97.6	
D - BOYS STAGE 2011 「検察側の証人～麻布広尾町殺人事件～」 (ワタナヘエンターテインメント)	10 12～23	11	S = 7,000 / A = 6,000	12,562	10,430	83.0	
音楽座ミュージカル「アイ・ラブ・坊ち ゃん 2011 ～夏目漱石が『坊っちゃん』 を書いた 11 日間～」 (音楽座)	10 25～ 11 5	10	SS = 10,920 / S = 9,870 / A = 7,770	11,560	7,846	67.9	
寺山修司×蜷川幸雄「あゝ、荒野」 (クオラス)	11 8～ 12 2	21	S = 10,500 / A = 9,500	24,918	24,855	99.8	
鼓童「ワン・アース・ツアー 2011」 (鼓童)	12 8～13、 12 15～18	9	6,500	10,734	8,668	80.8	
鼓童 Concert for KIDS ～0 才からの鼓 童～子どもたちに贈るスペシャルコンサ ート・シリーズ vol 3「鼓童-生命のリ ズム-」 (ソニーミュージック)	12 14	2	大人= 2,500 / 0 歳～小学 生= 1,000 / 小 中 高校 生(S = 2,000 / A = 1,500)	2,204	1,379	62.6	
天使のララ presents 藤澤ノリマサ 「WINTER CONCERT 2011」 (サンライズプロモーション東京)	12 22・23	2	6,500	2,342	2,238	95.6	
丸美屋食品ミュージカルアニー 「アニークリスマスコンサート」 (キョートー東京)	12 24 25	4	S = 5,800 / A = 4,800	4,696	4,185	89.1	
立川談春 独演会～白談春 2011 ～ (サンライズプロモーション東京)	12 26	2	S = 3,800 / A = 3,000	2,460	2,247	91.3	

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈貸し館〉 ミュージカル「ホニー&クライトー俺たち に明日はない」 (ホリプロ)	(日) H24 13 ~ 22	(回) 20	(円) S = 11,000 / A = 8,500 / B = 3,500 / ディレクター ズシート = 11,000	(人) 23,110	(人) 16,041	(%) 69.4	
CHEES in Concert (梅田芸術劇場)	1 24 ~ 29	6	S = 11,000 / A = 8,000 / B = 5,000 / 見切・補助席 = 7,000 / 立見 = 4,000	7,062	6,380	90.3	
フロートウェイ・ミュージカル 「My One and Only」 (クオラス)	3 5 ~ 24	16	SS = 12,000 / S = 11,000 / A = 9,500	18,322	17,216	94.0	
SAMURAI 7 (ネルケプランニング)	3 26 ~ 31	1	6,000	1,140	960	84.2	
(貸し館 小計)	18 件	287 日	269	307,875	270,166	87.8	
(青山劇場 合計)	21 件	293 日	273	312,390	273,136	87.4	

## □□□ 青山円形劇場 □□□

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
〈自主・提携公演〉 青山円形劇場カウンシル # 4 ~ Re ~ その族の名は「家族」 (共催：ネルケプランニング)	(日) 4 11 ~ 28	(回) 17	(円) 5,800	(人) 4,965	(人) 4,042	(%) 81.4	
遠ざかるネーハラント (提携 る・ひまわり)	5 1 ~ 5	6	5,500 (前売 = 5,000)	1,872	1,723	92.0	
Dance Exchange Program DANCE - X11 Tokyo - Seoul - Montreal	5 6 ~ 10	3	4,000 (前売 = 3,500)	586	346	59.0	
玉川大学芸術学部 + 青山円形劇場提携公演 Performing Arts Fair 2011 in 青山 (提携：玉川大学)	6 13 ~ 19	6	一般 3,000 (前売 = 2,500) / 学生 = 2,500 (前売 = 2,000) / リピータ料金 (一 般 = 1,500、学生 = 1,000)	1,475	1,373	93.0	
青山円形劇場プロデュース CLOUD - クラウト -	7 5 ~ 18	12	4,800	2,657	2,338	88.0	
月猫えほん音楽会 えほん×シャズ=コ トモオトナもめちゃ? 楽しいシアター ライブ (共催：こともの未来財団)	7 19 ~ 24	7	入場無料 (応募制招待)	2,240	2,143	95.7	
劇団鹿殺し 夏の女優祭り「岸家の夏」 (提携 劇団鹿殺し)	7 25 ~ 8 7	14	4,500 / 学生 = 3,500	3,183	2,971	93.3	
太鼓見聞録外伝「東京打撃団、技あり!」	8 25	1	3,500 (前売 = 3,000)	292	277	94.9	
和太鼓カレッジ (提携：東京新聞)	8 26 ~ 28	8	500 ~ 6,000	240	179	74.6	
Classical ROLLY Final !!! - 最終楽章 - (共催：SMA ソニー・ミュージックアーティスツ)	8 29 ~ 9 1	4	7,000	1,216	977	80.4	
フランス・ダンス・イヤー 2011 MANTA / JUST TO DANCE (提携：東京日仏学院)	9 12 ~ 15	2	一般 = 4,500 / 日仏会員 学生 = 3,000 / 2 日間通し 券 (前売) = 5,000	403	299	72.4	
TOKYO DANCE TODAY #7 近藤良平ソロダンス公演「11DAYS」	10 17 ~ 23	6	4,500 (前売 = 4,000) × 22 日のみ 3 歳 ~ 高校生 = 2,500 (前 売のみ)	1,782	1,567	87.9	
青山演劇 LABO #005 太陽 THE SUN (提携：イキウメ)	11 7 ~ 27	18	4,500 (前売 = 4,000) × プレビュー = 3,800 (前売)	4,125	3,487	84.5	
青山円形劇場プロデュース ア・ラ・カルト 2 ~ 役者と音楽家のいるレストラン	11 29 ~ 12 25	20	6,300	6,342	5,543	87.4	
第 1 回こともの城ファミリーミュージカル シーク・シーク・シークンクストーリー I ~ なな色ぼうけん物語り ~	12 26 ~ 29, H24 1 3 ~ 9	11	2,800	3,883	3,209	82.6	

名 称	日 時	回数	料 金	総席数	入場者数	入場率	備考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
〈自主・提携公演〉 中西俊博 Leapingbow 2012 Reel's Trip ～はじめてのひかり～	1 29 30	1	6,000	582	462	79.4	
Best of ROLLY ローリー寺西 サ・クレイテスト・ヒッツ！ (共催 SMA ソニー・ミュージックアーティスツ)	3 28 31	4	7,000	1,260	1,137	90.2	
(自主・提携公演 小計) 17 件	161 日	140		37,113	32,073	86.4	
〈内部利用〉 第 26 回こともの城マタニティ・コンサート ～ママとヘヒーに届けろすくすくサクソコンサート～	7 3 4	1	無料 (応募制招待)	302	203	67.2	小児 保健
ことものちからのサウントメッセーシ	H24 3 23 ～25	5	1,500	1,340	1,007	75.2	音楽
(内部利用 小計) 2 件	5 日	6		1,642	1,210	73.7	
〈貸し館〉 あさみちゆきコンサート「聴く Live ふ るさとの木の下で」 あさみちゆき アコースティックコンサート with 野中則夫「歌う Live あさみちゆ きと歌うとしひ歌声コンサート」 (ザ・カンパニ)	4 1 2	2	6,000 3,500	738	618	83.7	
劇団 TEAM - ODAC 第 9 回本公演 saigono / bansan (チームオダック)	4 4 ~ 10	8	5,300 (前売 = 4,800)	2,047	1,851	90.4	
クミコ スペシャルライブ AURA ～松本隆の世界を歌う～ (サンライズプロモーション東京)	4 29	1	6,300	282	259	91.8	
中島淳一 一人演劇「釈迦」 (劇団エーテル)	4 30	1	3,500 (前売 = 3,000)	164	63	38.4	
劇団ステージア第 20 回記念公演 人生はいちときり！ Dreams Cometrue (ステージア)	5 14 15	3	3,000	932	882	91.6	
NYLON 100℃ 36th SESSION 異い十人の女～ version100℃～ (キューブ)	5 16 ~ 6 12	27	6,900 / 学生割引 (前売の み) 4 200	8,475	7,492	88.4	
僕の時間の深呼吸 21 世紀の彼方の時間 にいる君へ (兵庫県立芸術文化センター)	7 11 ~ 18	8	5,500	1,984	1,287	64.9	
こころ (る・ひまわり)	8 8 ~ 13	8	6,000 (前売 = 5,800)	2,616	2,476	94.7	
平成 23 年度児童福祉文化賞発表会 ロハの音楽座「らくかきフヒヒのコンサ ート」 (財団法人児童健全育成推進財団)	8 14	1	無料 (整理券)	332	260	78.3	
12 人の優しい殺し屋 ～狙われた豪華客船～ (ホリプロ)	8 15 ~ 24	12	4,800	2,905	2,533	87.2	
4 つの胸 - THE FOUR PICES - (アポロ 5)	9 2 ~ 8	8	S = 7,000 (前売 = 6,500) / A = 6,000 (前売 = 5,500)	1,872	907	48.5	
アキコ・カンダ・モダンダンス公演 花を咲かせるために～ハルハラを踊る (アキコカンダ事務所)	9 9 ~ 11	4	5,250	5,015	4,696	93.6	
扉座・RAYNET プロデュース公演 音楽劇「オリヒアを聴きなから」 (レイネット)	9 16 ~ 25	12	6,500 (前売 = 6,000) / 学 生 = 4,000	3,223	2,472	76.7	
少年探偵団 (ネルケプランニング)	10 3 ~ 16	15	5,000	4,580	3,541	77.3	
劇団 M.M.C オリジナルミュージカル vol 28 「星の王子さま」 (劇団 M M C)	10 31 ~ 11 6	8	7,000 (前売 = 6,500) / 中 学生以下 = 5,000	1,840	1,667	90.6	
ヘニハラ兎団 Vol 9 Mr 教授の危険なマスカレイト (ヘニハラ兎団)	H24 1 11 ～15	7	5,500 (前売 = 5,000)	1,663	1,444	86.8	
GULF - カルフ - (少年社中)	1 16 ~ 25	8	7,000	1,902	1,689	88.8	

名 称	日 時	回 数	料 金	総 席 数	入 場 者 数	入 場 率	備 考
	(日)	(回)	(円)	(人)	(人)	(%)	
<貸し館> the CIRCLe (少年社中)	1 26	1	3,000	316	304	96.2	
(貸し館 小計)	18 件	134 日	134	40,886	34,441	84.2	
(青山円形劇場 合計)	37 件	300 日	280	79,641	67,724	85.0	

□□□ その他 □□□

■ ■ ■ 青山パフォーミング・アーツ・セミナー 2010 (APAS) など ■ ■ ■

名 称	対 象 ・ 定 員	受 講 数	日 時	内 容
DANCE - X11 子ども向けダンス ワークショップ	(人) こともの 城児童合 唱団 (40)	(人) 40	7 9 15 30 ~ 16 30	ワークショップ/講師=森下真樹/無料/A スタシオ

和太鼓カレッジほか (TAIKO JAPAN2010)

長胴太鼓基礎リス ム打ち込み~楽曲 作りへの応用~	(人) 一般 30	(人) 19	8 26 11 00 ~ 13 30	ワークショップ/講師=山田純平 (松村組) / 受講料 4,000 円 / 青山円形劇場
締太鼓ステッ プアップ	" 30	30	" 14 00 ~ 16 30	ワークショップ/講師=浅野町子/受講料 4,000 円 / 青山円形劇場
篠笛教室 初級編~ 美しく力強い音を 楽に出すために~	" 30	21	8 27 10 30 ~ 13 00	ワークショップ/講師=山口幹文 (鼓童) / 受講料 4,000 円 / 会議室
大太鼓~初級者 ~太鼓の基本に たちかえる	" 30	28	" 10 30 ~ 13 00	ワークショップ/講師=見留知弘 (鼓童) / 受講料 4,000 円 / 青山円形劇場
桶・締セット の Lesson 1	" 30	26	" 14 00 ~ 16 30	ワークショップ/講師=松村公彦 (松村組) / 受講料 4,000 円 / 青山円形劇場
手を速く動かす秘 密を暴露! -和太 鼓奏者のためのモ ーラー奏法-	" 30	22	" 17 30 ~ 20 00	ワークショップ/講師=細谷一郎/受講料 4,000 円 / 青山円形劇場
太鼓の 最初の一步	" 40	16	8 28 10 30 ~ 13 00	ワークショップ/講師=守田充利 佐藤晃弘 (東京打撃団) / 受講料 = 3,000 円 / 青山円形劇場
太鼓に役立つダン スワークショップ /コンタクト・イン プロビセーション	" 30	9	" 13 30 ~ 16 00	ワークショップ/講師=勝部ちこ 鹿島聖子/受講料 = 3,000 / 青山円形劇場
篠笛か吹きたい! (篠笛入門 講座・基礎編)	" 30	29	" 14 00 ~ 16 30	ワークショップ/講師=村山二朗/受講料 = 6,000 円 (篠笛持参の場合は 4,000 円) / 会議室
しなやかな 三つ打ち	" 30	29	" 16 30 ~ 19 00	ワークショップ/講師=山田瑞穂 (众太鼓) / 受講料 = 4,000 円 / 青山円形劇場
楽しいカستا ネット作り	一般 30 " 30	15 13	8 27 13 30 ~ 14 00 8 28 13 00 ~ 13 30	工作教室/講師=山田瑞穂 (众太鼓) / 受講料 = 500 円 (材料費込み) / ピロティ
ミニ太鼓づくり	" 30 " 30	4 10	8 27 14 30 ~ 16 00 8 28 14 00 ~ 15 30	工作教室/講師=浅野太鼓/受講料 = 4,000 円 (材料費込み) / ピロティ

■ ■ ■ 青山劇場プロデュースによるツアー公演 ■ ■ ■

名 称	日 時	回 数	内 容
月猫えほん音楽会 2010	7 27 28 7 29 30	1 1	北九州芸術劇場 中劇場 (福岡県北九州市) 滋賀県立芸術劇場ひわ湖 中ホール (滋賀県大津市)
ア ラ カルト 2	12 26 ~ 28	1	兵庫県立芸術文化センター 中ホール (兵庫県神戸市)

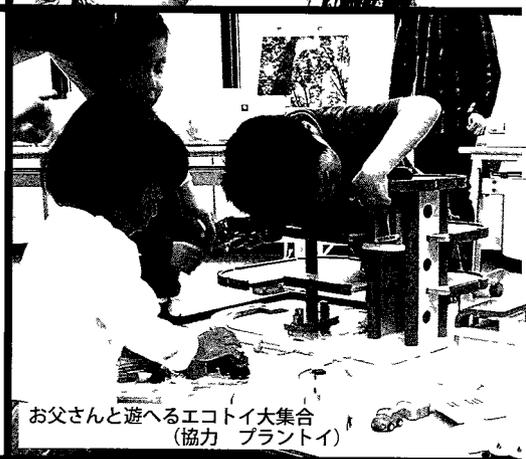
# 経営情報企画



ヘルシーキッズ (共催 ネスレジャパン)



こども写真展 (主催 富士フィルム㈱)



お父さんと遊べるエコトイ大集合 (協力 プラントイ)

## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

〔こどもの城〕は、平成 22 年度に実施された行政刷新会議による事業仕分の対象となり、その結果、平成 23 年度以降の国庫補助金が大幅に減額されることとなった。経営情報企画部は、このような背景をうけ、新たな収入源の確保や経営全般の効率化を推進する目的で、本年度新設された部署である。

さらに、利用者からの意見・要望などの処理や、利用統計にかんする事項、ホテル・研修室・駐車場・売店・自動販売機の管理運営などの業務も担当している。

### □□□ 経営全般の効率化を推進 □□□

#### ■ ■ ■ 企業との提携による新たな収入確保 ■ ■ ■

施設全体、フロアまたはセクションごとのネーミングライツ、館内の企業広告の掲示、そして企業との提携事業の実施などか、新たな収入確保につながるのではないかと考え、〔こどもの城〕内外の関係者の意見も取り入れつつ検討を行った。しかし、〔こどもの城〕が国立の総合児童センターであり公的施設に属することから、ネーミングライツや企業広告の掲示など施設に直接手を入れるようなものについては、継続した検討が必要という意見が大勢を占めた。

そこで、当面は企業との関係を築き、提携事業などを実施していくなかで、人的・物的・金銭的な協賛を得ることに主眼を置くこととした。

本年度は、①子育てなどに関連するイベントや企業を誘致し、スペースを貸与する ②かん具メーカーが遊具持ち込みで乳幼児コーナーを開設する ③館内イベントへの企業ブース出展 ④館内放送で外部エンターテインメント映像を送出する——など、さまざまな取り組みを行った。

結果としては、年間の実施件数は 12 件にとどまり、また収益面でも補助金の減額分を補うレベルまでには至らなかった。これには、昭和 60 年の開館以来一貫して企業色の露出を抑制してきたことか関係していると思われる。これまでも企業からのアプローチは大なり小なりあったか、そのほとんどのケースか一定以上の企業色露出を伴うものであり、それらの提携事業については実施に至ることがなかった。企業色の露出が難しいという〔こどもの城〕の方針か、企業側に定着してい

る可能性が高い。今後は企業色の露出などについても一定の条件を満たせば可能であるということ  
を、外部に向けアナウンスして行くことが重要である。

### ■■■ 利用統計の調査と顧客ニーズの把握 ■■■

〔こどもの城〕の来館児・者の動向を見ることを目的に、来館児・者アンケートおよび意見箱の  
設置を行った。

アンケートは来館児・者の動向を知るため、8月と10月に1回ずつ行った。内容は、家族ごとに  
年齢・居住地域・入館方法（受講証での利用など）をたずねるもの。比較対象がないため、正確な  
分析にはならないが、来館する保護者の年齢層は圧倒的に30代が多く、次いで40代、20代と続く。  
子どもの年齢層は幼児、小学校低学年の利用がほとんどで、中高生に至ってはほぼ利用されていな  
かった。

また、設置した意見箱には、施設についての意見・要望が多く、次に職員の対応についてであっ  
た。レストランのリニューアルオープンについてはかなりの要望があり、早急な対応が求められて  
いる。まだ情報収集の段階であるが、集めたデータをどのように使用していくかの検討も並行して  
行わなくてはならない。

### ■■■ 経営改善のための取り組み ■■■

営業部門の収支改善をはかるため、いくつかの取り組みを行った。

**【研修室の新設】**前年度まで10階のパソコンルームは、プレイ事業部が運営していたが、本年度か  
らは事業の効率化をはかる目的で3階コンピュータプレイルームに移転した。パソコンルームを研  
修室に改修し、新たな収入を得るための体制を整えた。

**【研修室への赤外線方式ワイヤレスマイク導入】**研修室では電波を用いたワイヤレスマイクを使用  
してきたが、館内外で混信が発生し、苦情が持ち込まれるケースがあった。本年度は、この問題を  
解決するために、赤外線方式ワイヤレスマイクの導入に踏み切った。これをセールスポイントとし  
て収入増をはかっていきたい。

**【ホテルのインターネット予約一括管理システム導入】**ホテルは、インターネット予約業者5社と  
契約しているが、空室や料金設定を個別管理していたため、非常に効率が悪かった。本年度は、複  
数の業者を一括管理するシステムを導入して効率化をはかった。その結果、ネット予約による売り  
上げ金額は、前年度比124.7%となった。

**【職員食堂の改修】**職員食堂は、開館日の11時～15時に職員のための食堂として機能している。  
利用していない夜間、パーティールームとして有料貸与する目的で、壁面・床面の改修を行った。

室内のリニューアルのほか、壁面を青山劇場・青山円形劇場の過去の公演ちらして装飾するな  
どの演出も施した。次年度からパーティールームとして有料貸与を本格的に開始したい。

**【売店の廃止】**売店の過去10年間の売り上げ推移は、さまざまな努力にもかかわらず一部を除き  
下降の一途をたどり、人件費などを考慮に入れた場合、赤字が常態化していた。このため、経営改  
善の観点から売店の営業は本年度末で終了することとした。売店スペースは、次年度以降、企業な  
ど外部の力も借り、子どもの施設にふさしい仕掛けを行うなどして、有効活用をはかりたい。

## □□□ まとめ □□□

インターネット予約一括管理システムを導入したことによりネット予約の売り上げは上がった  
が、前年度末に発生した東日本大震災の影響を受けて、ホテル・研修室全体の実績が振るわず、結  
果として前年度の売り上げを下回ることとなった。しかしながら、観光旅行の自粛やレジャーが  
“安・近・短”傾向を示したため、〔こどもの城〕の来館児・者は前年度を大きく上回り、平成18  
年度以来、最高を示すこととなった。

このため、駐車場・自動販売機といった利用者サービス部門の収益が好調で、ホテルや研修室の  
減収分を穴埋めする結果となり、営業収益全体でみた場合、若干ではあるが前年度実績を上回るこ  
とになった。

次年度以降は、ホテル・研修室の業績回復を第一目標に掲げるほか、企業との提携事業をより促  
進させ、国庫補助金の減額に備えて行きたい。

3

こどもの城から全国へ


# こどもの城から 全国へ



全国児童館おりかみ作品巡回展（群馬県）



〈動くこどもの城〉親子ふれあい体操“1・2・3”（埼玉県）

## 平成 23 年度の活動

### □□□ はじめに □□□

〔こどもの城〕は国立の総合児童センターとして、子どもたちに遊びの環境を提供するだけでなく、全国の児童館等の健全育成事業に携わる関係者とさまざまな情報を交換し、交流をはかってきた。体育、造形、音楽、映像などの分野で、専門スタッフが先駆的・実験的なプログラム開発を行うと同時に、その成果を公開して多くの人の検証を受け、児童の健全育成の向上に寄与してきた。

〈あそび〉のプログラムを開発し、その意義や目的、さらに指導技術を広めていくことか、〈センター〉としての〔こどもの城〕に与えられた使命の一つと考える。開館当初から、児童厚生員等の児童館職員を対象とした各種の研修会を開催し、全国からの視察・見学に際しては積極的に情報を提供し、研修生や実習生の受け入れなどを行ってきた。平成6年度＝94年度からは、国からの補助金を受けて、地域活動の活性化をはかる〈動くこどもの城〉（派遣事業）を行い、“遊びのプログラム”の紹介と同時に、各地の児童館・児童センターと交流を深めてきた。

ここ数年、国は就労しなから充実した子育てかてきる環境作りをめさす両立支援に力を入れ、〈動くこどもの城〉などの国庫補助事業も、本年度から両立支援に関連する“放課後児童クラブ”への派遣に力を入れることとした。さらに、両立支援で重要な役割を担う保育所や放課後児童クラブ（学童保育）へ働きかけて、「放課後児童クラブボランティア養成講座」「保育所ボランティア養成講座」を事業化し、従来の派遣事業と併せて実施した。

子育てと仕事（就労）を両立させるための支援が重視されるようになり、本年度は国庫補助事業も大きな変化を迎えることとなった。

### □□□ 〈遊びのプログラム〉を伝える □□□

#### ■■■ こどもの城児童厚生員等実技指導講習会 ■■■

〔こどもの城〕から全国の健全育成関係者へ情報発信をする〈センター機能〉の一つとして、児童館や放課後児童クラブの職員を対象に、実技を中心とした「こどもの城児童厚生員等実技指導講習会」を開催している。本年度も4回実施した。うち2回は、児童館で実施されることの多いプログラムである“人形劇”と“折り紙”がテーマ。他の2回は、児童館などの現場で役立つ指導技術や

運営の課題を解決するための実践的な内容の講習会である。その時々の子どもを取り巻く環境を考えながら、最新のテーマを毎年取り上げている。本年度は、夏休み前の第 1 回は“お化け屋敷”、第 4 回は“中高生へのアプローチ”をテーマとして取り上げた。

「実技指導講習会」の名称のとおり、実技を中心とした具体的な内容の講習会。実技だけではなく、プログラムの背景にある考え方、児童館で行う意味や活動全体のなかでの位置づけなども伝えるようにしている。参加者からは、現場ですぐに役に立つ内容と評価されている。

### ■■■ 講師派遣 ■■■

〔こどもの城〕が主催する事業以外に、児童健全育成に関連した研修会や催しに職員が講師として派遣を依頼される。本年度は 204 件 (前年度 139 件) の依頼を受け、講師として研修・指導にあたった。

これらは〔こどもの城〕の事業として行われているわけではないので、それぞれの職員が勤務時間外に対応している。派遣内容は、都道府県単位の研修会から、地域に密着した催しでのプログラム実施まで多岐にわたり、放課後児童クラブや保育所に関連した派遣が 11 件含まれていた。講師派遣の依頼は、〔こどもの城〕の事業内容を反映して、実技指導にかんするものが多い。

今後も、実際に“遊びのプログラム”を実践している〔こどもの城〕のさまざまなノウハウを伝えてほしいという、講師派遣依頼の要望が続くと思われる。〔こどもの城〕本来の事業とのバランスに留意しながら、〈センター機能〉を支える一つの方法として、児童館・児童センターなどからの要望に応じていくとともに、講習を行う立場としての技能の向上を心がけていきたい。

## □□□ 国庫補助金による事業 □□□

### ■■■ 児童館巡回等支援活動事業 ■■■

地域の健全育成事業支援のために、児童館や放課後児童クラブなどを巡回する「児童館巡回等支援活動」などを、〈動くこどもの城〉と通称している。〔こどもの城〕の活動——“遊びのプログラム”とそのノウハウなどを館外に持ち出して各地に伝えることから、この通称を使っている。

本年度は、「子どもとその家族を対象とした活動の実践」を 23 か所て実施し、子ども (親子) が 5,549 人、児童館などの指導スタッフ 763 人が参加した。「児童厚生員やボランティアを対象とした研修会」は 10 か所て実施し、364 人の児童館などの指導スタッフが参加した。このほか、「全国児童館おりかみ作品巡回展」を 14 か所て開催。延べ 56,594 人が訪れ、子どもたちが作った作品を鑑賞した。

「子どもとその家族を対象とした活動の実践」は、指導者研修会とセットで実施している。それぞれの地域の状況にあわせ、誰でも指導がてきえるようにアレンジするなどプログラムを工夫している。また、研修会も、活動の実践 (プログラム) の前後とちらでも設定できるようにするなど、それぞれの地域の事情にあわせて柔軟に対応した。

〈動くこどもの城〉への問い合わせや依頼には、さまざまなものがある。なかにはイベントのアトラクションとしての派遣を希望するケースもあるが、〈動くこどもの城〉の主旨を説明し、地域



〈動くこどもの城〉人形遊びのワークショップ (熊本県)

のネットワークを生かし、研修会の開催をとおして児童館自身の存在を高める方向への転換をはかるよう理解を求めた。

「全国児童館おりかみ作品巡回展」は、公募で集まった児童館単位で作った作品を〔こどもの城〕で展示した後、全国を巡回して展示するもの。本年度は、「宇宙」をテーマに 28 館から力作が集まった。それぞれの作品には、子どもたちの思いが込められ、その思いが作品の個性を生み出していた。巡回展では、多くの人が行き交う公的なスペースを使って展示して児童館活動をアピールしたり、地域の

児童館の作品を加えて展示するなど、これを契機にさまざまな取り組みが行われ、児童館活動の活性化に生かされている。

〈動くこどもの城〉は、児童館を中心とした児童健全育成施設を対象としている。実際には子育て支援も視野に入れて、児童館のネットワークを生かして、放課後児童クラブ、子育て支援センター、保育所などさまざまな施設から参加できるように働きかけ、地域全体の活性化をはかるように努めた。〈動くこどもの城〉が、児童の健全育成や子育て支援にかかわるさまざまな人の役に立つように、派遣先施設だけの支援にとどまるのではなく、できるだけ広汎な職種の人が参加するように働きかけている。さらに、地域にまだ子育て支援のネットワークが形成されていない場合には、その契機となるような事業展開を心かけた。今後も地域全体の子どもの育ちをサポートする事業として機能するように、さまざまな施設に働きかけていきたい。

また、本年度は、国の両立支援施策を受けて、放課後児童クラブへの働きかけに力を入れた。その結果、〈動くこどもの城〉47か所の派遣中42か所（89%）に放課後児童クラブからの参加があり、放課後児童クラブの充実に一定の効果をあげることができた。

放課後児童クラブからの参加が増えていること、フォローアップ調査の結果などから、放課後児童クラブ職員を対象とした研修プログラムの要望が高いことが分かったので、放課後児童クラブ事業に焦点をあてた研修プログラムを、平成24年度から実施することになっている。

東日本大震災から1年が経過し、被災地域から直接〈動くこどもの城〉の派遣要請があり、要請に応じて積極的に派遣した。健康への影響不安から、子どもたちが外出や外遊びを控えている福島県二本松市では、市内4か所で室内で楽しめる運動遊びプログラムを紹介、相馬市では室内でできる音楽遊びのプログラムを紹介した。

本年度はまた、これまでの〈動くこどもの城〉事業を検証する「フォローアップ事業」も実施した。平成19～21年度に〈動くこどもの城〉を派遣した全国141か所に調査票を送付し、派遣後のプログラムの定着度や事業活性化の状況について調査。97か所から回答を得た。97%が実施プログラムが役に立った、71%か定着したという評価がある一方で、定着しないという回答も3割近くあり、課題として受け止めていきたい。

DVDやテキストなど、〈動くこどもの城〉の教材の充実にも努めた。研修中もしくはその前後に研修効果を高める目的で配布するものとして制作したものだが、〈動くこどもの城〉とは別に教材として使用したいなど、児童館などの健全育成関係者から要望があった場合は、可能な範囲で対応してきた。本年度は中央児童厚生施設事業のなかで「児童館の活動に活用できる 遊びのプログラム」を作成し、地域で活用できるように全国の健全育成関係者に配布した。配布後は早速、地域の研修会に活用したいとの問い合わせもあった。



〈動くこどもの城〉レクリエーションゲーム大会の演出プラン（愛媛県）

### ■■■ 中央児童厚生施設事業 ■■■

国が推進する両立支援施策に対応して、「放課後児童クラブボランティア養成講座」を24か所（656人参加）で、「保育所ボランティア養成講座」を23か所（697人参加）で実施した。このほか、「野外活動ボランティア養成講座」を6か所で実施し、110人か参加した。

「放課後児童クラブボランティア養成講座」「保育所ボランティア養成講座」は、それぞれのボランティア希望者が重複していることが多く、また実技プログラムにも興味を持っている点が多いことを考慮して、多くの会場で、〈動くこどもの城〉と関連づけて開催した。両講習会の参加者の合計は1,353人。児童福祉施設でのボランティア活動の概要と児童福祉施設についての基礎知識を講習し、ボランティア活動参加への意欲を高めることができた。

また、平成24年1月26日に「放課後児童クラブボランティア養成講座」、26日に「保育所ホラ

ンティア養成講座」を、報告にある 47 か所のほかに〔こどもの城〕で開催し、講習内容の研究と参加者の要望の把握に努めた。

ボランティア養成講座の開催をとおして、実際にボランティアの受け入れを行っている施設が少ないことかわかった。施設や職員側のボランティアの受け入れに対する意識を向上させ、児童福祉ボランティア活動の普及を促進するために、平成 24 年度には施設および職員向けにボランティアの受け入れについてのプログラムの準備することになっている。

「児童館の活動に活用できる 遊びのプロクラム」は、〔こどもの城〕の活動実践をもとにした遊びのプロクラム集で、5,000 部を作成し、全国の全児童館と行政の健全育成主管課に配布した。研修会などで活用したいのと、追加の送付を希望する声か多数あった。印刷部数に限りがあるため、要望のすべてに応えることはできなかったが、現場での使い勝手を考えて、コピーが容易な体裁にしたので、配布部数以上の波及効果が期待できる。

このプロクラム集の制作と配布によって、派遣事業による支援が届かない人たちにも直接、〔こどもの城〕での活動成果を伝えることができたのではないかと考える。次年度はさらに別の分野のプロクラム紹介を実施し、健全育成関係者の期待に応えたい。

### ■■■■ 啓発活動事業 ■■■■

児童館、放課後児童クラブなどの職員やボランティア、都道府県市町村などの行政関係者、地域で子育て支援にかかわる人、子どもを持つ親に、啓発活動紙「こどもの城ニュース」を配布し、児童健全育成事業の意義や効果を広く周知・普及をはかっている。

〔こどもの城〕の活動の情報（行事予定や講座の紹介、特別期間の活動催し案内など）や、子育て支援・児童の健全育成にかんする活動を紹介するとともに、その意義や効果について解説し、児童の健全育成の具体的な事例紹介として、全国の児童館活動活性化の一助となっている。〔こどもの城〕での実践例を基にした紹介であるだけに、具体性も高く実践活動に携わる児童厚生員からの支持も高い。

また、全国の児童館の優れた活動も紹介していて、児童館同士の交流を促進する役割も果たしている。

### □□□ まとめ □□□

〔こどもの城〕の〈こどもエリア〉では、年間 40 万人以上の来館児・者を対象に、さまざまな先駆的プログラムを提供してきた。子どもやその保護者を取り巻く環境は、時代、時代で変化すると同時に、福祉ニーズも変化し、多様化している。〔こどもの城〕のスタッフは、日常的な来館児・者への対応から、それを鋭敏に感じ取り、プログラムに反映させていく。過去 26 年間で開発してきたプログラムは 612 タイトル、3,488 プロクラムにおよぶ。

これらのプログラムは、さまざまな角度から検討を加え、全国の地域児童館で実施できる児童健全育成のための〈遊びのプロクラム〉へと発展させている。この間に積み上げられたノウハウも整理して、〈動くこどもの城〉や専門職向けの講習会・研修会の開催、講師派遣などのかたちで全国へ発信した。これまでに〈動くこどもの城〉は 576 件実施し、約 36 万人が参加した。専門職向けの講習会・研修会は 328 コース、2 万人を超える参加者があった。講師派遣も約 3 千件で、15 万人の参加者があった。

〈センター機能〉の一つとして、地域児童館の現場に即応した児童の健全育成プログラムの提供などが重要になってくる。全国の児童館の活性化をはかるためにも、〔こどもの城〕の活動をとおして蓄積してきたノウハウを発信していかなければならない。

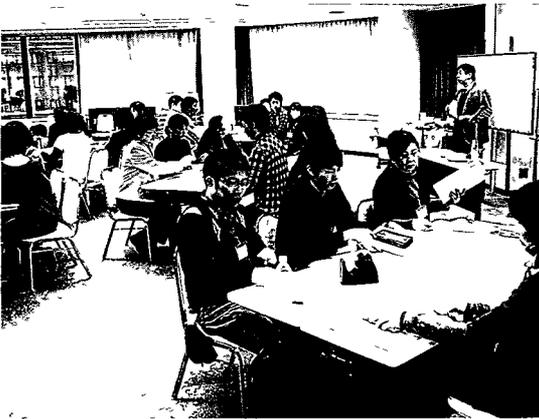
児童健全育成の〈センター機能〉を担う〔こどもの城〕は、その社会的な存在意義を改めて確認すると同時に、一層の努力をしていく必要がある。

# 平成 23 年度活動一覧表

## □□□ 講座・クラブなど □□□

### ■ ■ ■ 専門指導者向け講習会など ■ ■ ■

名 称	対象・定員	受講数	日 時	内 容
平成 23 年度 こ と も の 城 児 童 厚 生 員 等 実 技 指 導 講 習 会	第 1 回 遊びの専門技術 ～オハケやしきを10 倍楽しくする方法～	(人) 児童館職 員ほか (50)	(人) 49  68・9  10 00 ～ 16 30	【講義】オハケの気持ちを考える～日本の物の怪～(講師 国立歴史民俗博物館教授 常光徹さん) / しょうずなオハケの演出法～みんなをおとくすしかけのテクニク～(講師 劇団ブーク文芸演出部 岡本和彦さん、同舞台部 川尻麻美夏さん) / オハケやしきを科学する～恐怖を感じるメカニズム～(講師 日本科学未来館科学コミュニケーター 坂巻たみさん)。 【実習】オハケやしきのつくり方～大道具 小道具など、身近なものを利用して～(講師 劇団ブーク舞台部 柴崎喜彦さん、川尻麻美夏さん)。受講料 11,000 円。
	第 2 回 つくって演じる 人形劇 ～簡単な人形作りか ら劇の演じ方まで～	" (30)	18  8 21  10 00 ～ 17 00	ウレタンを使ってミトン型の表情人形(手を入れて口をバクバクさせる)を作成。後半は「おおきなかぶ」をモチーフに、6 クループに分かれて操演の実習。作った人形を使うこと、起承転結があるストーリーにすることなどの条件のもと、グループごとに相談 練習をして発表。講師が講評した。講師 鹿島佳子さん(人形劇 木くつ木)。受講料 6,500 円。
	第 3 回 おrikamiに つよくなる ～初心者向け指 導者講習会～	" (50)	48  11 12  10 00 ～ 17 00	子どもたちに教えやすいように、きれいに折るポイントや、子どもへの伝え方、折り図の見方なども含めて、初心者でもわかるように、一つずついねいに指導。季節の装飾への生かし方などについてもアトハイスも受けた。講師 青木明子さん(日本折紙協会)。受講料 3,500 円
	第 4 回 今のことも 徹底研究! ～青少年の今 日的課題～	" (50)	49  H24 1 18～20  10 00 ～ 16 30	【講義】思春期の心をとらえる働きかけ～ユースサービスの実践をとおして～(講師 京都市山科青少年活動センター 大場孝弘さん) / 中高生世代の気になる行動について考える～多感な思春期世代にとう寄り添うか～(講師 品川区八潮児童センター 豊倉厚さん) / 中高生世代からも若者へつなげるアプローチ～地域に広がる児童館活動をめざして～(講師 たちかわ若者サポートステーション 古賀和香子さん)。 【事例発表】今、地域で中高生世代か動いている!～各地の先駆的实践例から学ぶ中高生世代への取り組み～(事例報告 台東区王姫児童館 青柳陸明さん、八王子市児童青少年課 米村勇さん)。 【分科会】テーマ別に考える中高生世代への取り組み(中高生世代かクツとくるプログラム/みんなて考える中高生活動一問一答～児童館かてきる、地域かてきる、中高生へのアプローチ～/中高生世代を支える「スタッフのチカラ」)。受講料 14,000 円。



こどもの城児童厚生員等実技指導講習会  
今のことも徹底研究!～青少年の今日的課題～

こどもの城児童厚生員等実技指導講習会  
つくって演じる人形劇～簡単な人形作りから劇の演じ方まで



□□□ 〈動くこどもの城〉(派遣プログラム) ほか □□□

■■■ 〈動くこどもの城〉プログラム一覧 ■■■

名 称	内 容
-----	-----

■子どもとその家族を対象とした活動の実践■

乳幼児とその家族を対象とした活動の実践	お母さんと赤ちゃんの すくすくスキンシップ	赤ちゃんが自然に健康に成長していることは、母親でも意外と意識しないもの。音楽や楽しい遊具を使い、赤ちゃんのできる簡単な体操をとおして、表情や動きの新しい発見をする。
	親子ふれあい体操“1・2・3”	1 2 歳または、2 3 歳の幼児と親を対象とした運動プログラム。親子で楽しく体を動かしながらふれあい、子どもの成長を感じながら、コミュニケーションを楽しむ。
	親子いっしょに うきうき！おんかくあそび！	音楽にあわせて体を動かしたり、親子で手遊び 歌遊びなど。子どもの成長に応じた「親子のふれあい」「家族では得難い集団での遊び」を紹介。
	親子で遊ぶパペットラント	身近にあるものを人形に見立てて遊ぶ、「親子のふれあい」プログラム。対象年齢別に、1 歳 6 か月～3 歳向けの「ふれあい遊び」と、3 歳以上向けの「劇遊び」がある。
	ほかほか広場 乳幼児と親のための交流広場	“ふれあい広場”の実践を紹介。①「広場」の持ち方と相談（小児保健部ほか）②「広場」で遊ぼう（音楽事業部 保育研究開発部ほか）③身近なもので遊ぼう（プレイ事業部ほか）
	身近な道具で スポーツあそび	身の回りにある道具（新聞紙 棒 ひもなど）を使い、人数や場所の広さあわせて変えていく発展型プログラム。発想を変えることによって、さまざまな運動遊び、スポーツへと展開。
	「おにこっこ」で 楽しく体力づくり	基本的な体力の低下が危ふまれている現代。体力のなかでも「敏捷性」「バランス」を養うための陣取りゲームなどのスポーツ遊びを多彩に展開。
	カトカトコンサート 「おんかくかスキ！」	歌遊びや手遊びの要素が盛り込んだコンサート。演じる 見る 聞く 楽しむ行為が一体となり音楽の楽しさをより一層体験できる参加型のプログラム。
	竹の響き 「アングルンコンサート」	アングルンは竹で作られたインドネシアの民族楽器。「竹のハントヘル」とも呼ばれている。素朴な音のハーモニーを楽しむ。また、子どもたちかアングルンを体験するコーナーもある。
	絵本の読み語り 「おはなしコンサート」	ピアノとパーカッションの生演奏をバックに、絵本の読み語り。小劇場向けの「心をこめた贈り物」と、小さなスペースでも上演できる「おはなしおんかくパンパカパ〜ン」がある。
幼児や学童を対象とした遊びのプログラムの展示と WS	音楽ゲームセンターで遊ぼう 「スーパースターゲッター」	オリジナルの音楽遊びプログラム。「踊る」「歌う」「聞く」「リズムをたたく」「楽器を体験する」などさまざまな音楽的要素を含んだゲームか屋台のように並ぶ。
	アニメ・ワークショップ	2 枚の簡単な絵を描いて作る「ぱたぱたアニメ」、映画発明以前の動く絵を楽しむ「視覚かん具」の制作などをとおして映画、映像の仕組みを体験。「視覚かん具」などの展示も行う。
	映像探検 写真ワークショップ	写真の“写る仕組み”を体験するプログラム。「カメラ オフスクラ」や、レンズを使わないカメラ「ピンホールカメラ」を使ったワークショップ。写真の仕組みや歴史を探る展示も。
	こどもの城映画劇場	子ども向けに作られた、国内外の芸術的な短編アニメーション作品の上映。基本的に、こどもの城フィルム コレクション「武藤行雄記念文庫」の収蔵作品から数本を選んで上映。
	科学あそびにチャレンジ 音のふしぎ	音か作る不思議な世界を体験。糸電話の工作、録音した声を逆再生して正しく聞こえる“言葉”作り、音の皮形（図形）を描いて音にするプログラムなど、幅広く紹介。
	みんなて遊ぶ パペット・ラント	人形作りと人形遊び。紙コップや封筒など身近な素材で人形を作成。作った人形でお話したり、こっこ遊びを繰り広げたりと、イメージの世界を楽しむ、人形遊びのプログラム。
	レクリエーションゲーム大会 「忍者マスター決定戦」	こっこ遊びの要素を取り入れて、レクリエーションゲームをよりおもしろく演出しようというプログラム。忍者の世界をテーマに、さまざまなゲームをとおして交流をはくくむ。
	やってみよう！ パソコン遊びのプログラム	パソコンで楽しく遊ぶコーナーを一定期間設置。「きれいなクラフィックス遊び」「パソコンクラフト」など、〔こどもの城〕で実施したプログラムから、いくつかを選択して実施。
	造形ワークショップ展	〔こどもの城〕造形スタジオのプログラムを、視覚的に分かりやすく、展示パネルの形式にまとめて展示。そのなかからいくつかのプログラムを子どもたちやその家族を対象に実施。
	お父さんの少年時代	昭和 30～40 年代の〈遊び〉の展示。めんこ、へいこま、たこ、日光写真などの遊び道具の展示をきっかけにして、親子のコミュニケーションをはかり、昔遊びのエッセンスを体験。

名 称		内 容
<b>■児童厚生員やボランティアなどを対象とした研修会■</b>		
0歳からの子育て支援研修	つくって遊ぼう	紙 布 木など身近な素材を使った、子育て広場や子育てサークルで活用できる造形プログラムの研修。子どもと造形活動を行う時の素材 道具の使い方や、環境設定などを学ぶ。
	乳幼児の食生活	乳幼児の食生活（授乳 離乳食など）について、親の悩みはつきない。食生活の基本的な考え方などを、子育ての実情をふまえて、管理栄養士が説明。
	乳幼児の健康管理と 応急処置	乳幼児の成長をふまえ、けかの応急処置をはじめ、事故の予防や日常生活の健康管理などを看護師が説明。
	乳幼児の発達と 大人のかかわり	0～2歳の子ともは、遊び、言葉、自己主張など、目覚ましい発達をとげ、親が接し方に悩む時期でもある。この時期の発達の特徴や大人のかかわり方などについて臨床心理士が説明。
	不思議な映像実験室	《映像の時代》ともいえる現代に生きる子どもたちにとって、豊かな映像にふれることは欠かせない。映像の基本的な原理について、遊びを通して理解できるプログラムを紹介。
遊びの実技研修	手作り楽器の ワークショップ	からくたを生き返らせて、音が出るようにする。金属の缶やペットボトルとか、音の道具に早変わり。そして制作終了後には、全員で作った楽器で音をたして遊ぶ。
	打楽器で遊ぶ ワークショップ	ブラジルのサンバを中心に、アフリカの太鼓 タムタム、和太鼓、スプーンなど、身の回りにあるものや手作り楽器なども活用してリズム遊び。元気にアンサンブルを楽しむ。
	想像遊びのワークショップ	さまざまな絵本をモチーフにして、想像遊び、見立て遊び、言葉遊びを楽しむワークショップ。簡単なカードの制作をとおして協同作者とのコミュニケーションをはかる。
	人形遊びのワークショップ	紙コップ、タオル、靴下など身近な素材を使って人形を制作し、遊びにつなげていくための講習会。人形を使った表現遊びをするためのノウハウを学ぶ。
	パソコン遊びの ワークショップ	パソコンを使った遊びのプログラムをいくつか体験しながら、活動テーマの設定、ソフトやデータの準備など、子どもたちにパソコン遊びを提供するまでの具体的な方法を紹介する。
ボランティア意識の啓蒙	レクリエーションゲーム大会 の演出プラン	“こっこ遊び”の要素を取り入れることで、子どもたちかより積極的にプログラム参加する。ストーリー性のあるレクリエーションゲーム大会の演出方法を、実践例を参考に考える。
	造形ワークショップ	素材 発想 技法などで、さまざまなプログラムが生まれる。何種類かのプログラムを参加者と体験制作し、それが生まれる考え方や、発想法についても考える。
	ボランティア 1・2・3	「児童館のボランティアコーディネート 1 2 3」「児童館でのボランティア活動 1 2 3」「児童館ボランティア交流研修」から選択して実施する。
	児童館を拠点とした ネットワークづくり	さまざまな地域の事例に基づき、ネットワーク作りについて学ぶ【研修】。おもちゃの交換を中心とした“子どもの街”「とり+かえっこ」を通じたネットワーク作りの【実践】。

■全国児童館おりかみ作品巡回展■

お宝	全国児童館おりかみ作品展	各地の児童館活動のなかで制作した折り紙作品の展示。全国の児童館に参加を募り、寄せられた 26 作品を〔こどもの城〕での展示。終了後、全国で巡回展を実施。
----	--------------	--

■■■ 〈動くこどもの城〉ほかの派遣実績一覧 ■■■

開催地	開催団体	実施日時	プログラム名	研修	実践	展示	養成
新潟市	NPO 法人ヒューマン エイト 22 / にいつ子育て支援センター	平成 23 年 5 月 21 日	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	●	●		●
奈良県	奈良県児童館協議会	6 月 2 日	小児保健の基礎と実務 発達と大人のかかわりについて	●			●○
東京都	足立区立鹿浜いきいき館	6 月 29 日	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	●	●		
群馬県	群馬県児童健全育成事業団	7 月 8 日(日)、8 月 16～28 日(7プログラム)	不思議な世界であそぼう「こども妖怪サミット」	●	●	●	●○
茨城県	つくば市立大曽根児童館	7 月 22 日	「おにこっこ」で楽しく体力づくり	●	●		
東京都	台東区寿児童館	9 月 9 日(日)、10 月 20 日(7プログラム)	親子いっしょに うきうき! あんかくあそび!	●	●		●○
愛知県	一宮市社会福祉事業団	9 月 12 日	科学あそびにチャレンジ 音のふしぎ	●			
熊本県	小国町児童館	9 月 17・18 日	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	●	●		●○
埼玉県	草加市谷塚児童センター (ほか 5 館)	9 月 22 日	おりかみ研修会	●			○
長崎県	対馬市美津島町地域子育て支援センター	9 月 26 日	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	●	●		●

開催地	開催団体	実施日時	プログラム名	研修	実践	展示	養成
名古屋市	とたかわことものランド	9月29日	造形ワークショップ	●			○
和歌山県	南部学童保育所	10月1日	写真ワークショップ	●	●		○
福島県	相馬市中央児童センター	10月4日	親子いっしょに うきうき!おんかくあそび!	●	●		●
長野県	須坂市立児童センター	10月17日	親子ふれあい体操"1・2・3"	●	●		●○
福島県	会津美里町新鶴幼稚園・新鶴保育所	10月19・20日	おはなしおんかくパンパカパーン	●	●		●
静岡県	下田市教育委員会	10月24日	親子ふれあい体操"1・2・3"	●	●		○
埼玉県	北本市こともの課	10月25日	お母さんと赤ちゃんのすくすくスキンシップ	●	●		●
愛媛県	南予地区児童館連絡協議会	10月31日	手作り楽器のワークショップ	●			●○
山梨県	山梨県児童館連絡協議会	10月31日	身近な道具でスポーツあそび	●			○
茨城県	南守谷児童センター	11月1～13日	お父さんの少年時代	●	●	●	
佐賀県	基山町社会福祉協議会	11月7日	親子ふれあい体操"1・2・3"	●	●		●
岐阜県	岐阜県児童館連絡協議会	11月15日	手作り楽器のワークショップ	●			●○
宮崎県	延岡市保育会児童館部会	11月18・19日	造形ワークショップ	●	●		●○
福島県	二本松市健康増進課	11月20・21日	親子ふれあい体操"1・2・3"	●	●		
東京都	葛飾区子育て支援育成課	11月29日	児童館を拠点としたネットワークづくり	●			●
埼玉県	三郷市立南児童センター	11月30日	親子ふれあい体操"1・2・3"	●	●		●○
新潟県	新潟市北区健康福祉課	12月6日	手作り楽器のワークショップ	●			●○
福井県	福井県児童科学館	12月8日	親子いっしょに うきうき!おんかくあそび!	●	●		●○
大分県	アートプラザ	12月27日	アニメ・ワークショップ	●	●		●○
熊本県	菊池郡市児童館連合会(合志市)	平成24年1月18日	人形遊びのワークショップ	●	●		○
佐賀県	佐賀市教育委員会(春日北小放課後児童クラブ)	1月26日	手作り楽器のワークショップ	●			●○
愛媛県	松山市南部児童センター	2月18・19日	レクリエーションゲーム大会の演出プラン	●	●		○
香川県	香川県児童・青少年健全育成事業団	3月17～31日	不思議な世界であそぼう「ことも妖怪サミット」	●	●	●	●○
神戸市	神戸市総合児童センター	平成23年4月1～5日	全国児童館おりかみ作品巡回展 22年度版			●	
福岡県	宗像ユリックス(宗像市総合公園管理公社)	4月29日～5月8日	〃			●	
鹿児島県	キッスランド児童館(南さつま市)	5月16日～27日	〃			●	
島根県	三成児童館(奥出雲町)	6月6～12日	〃			●	
愛媛県	えひめこともの城	6月4～12日	〃			●	
三重県	明照児童館(伊勢市)	6月18～24日	〃			●	
岩手県	洋野町種市放課後児童クラブとリーむキャンパス	7月4～11日	〃			●	
札幌市	札幌市青少年女性活動協会	12月10～17日	全国児童館おりかみ作品巡回展 23年度版			●	
栃木県	とちぎ未来づくり財団	12月23日～平成24年1月22日	〃			●	
埼玉県	ふしみ野市立児童センター	1月27日～1月31日	〃			●	
茨城県	北守谷児童センター	2月4～19日	〃			●	
京都市	京都市久我の杜児童館	3月2～13日	〃			●	
愛媛県	伯方児童館(今治市)	3月2～11日	〃			●	
群馬県	群馬県児童健全育成事業団	3月24～31日	〃			●	
仙台市	仙台市貝か森児童館	9月10日	フォローアップ研修会				●○
〃	仙台市虹の丘児童センター	9月17日	〃				●○
〃	仙台市南吉成児童館	10月15日	〃				●○
神戸市	神戸市総合児童センター	10月16日	〃				○
神奈川県	辻堂児童館	11月5日	〃				●○

注)「養成」欄の「○」は「放課後児童クラブボランティア養成講座」を実施したところ。  
 「●」は「保育所ボランティア養成講座」を実施したところ。

## 東日本大震災支援活動ほか (平成 24 年 11 月 1 日現在)

### ■発生当日の活動 (来館児・者／一般の帰宅困難者への対応) ■

東日本大震災が発生した平成 23 年 3 月 11 日は、平日で乳幼児連れの親子の来館が多く、鉄道や道路の混乱を考慮して、来館児・者の安全を確保するため、閉館後もプレイホールおよび A スタジオ他を開放し、翌朝まで仮眠対応・給食などの救援活動を行った。約 100 人の親子が 1 泊した。一般の帰宅困難者には、エントランスホールを開放し、トイレ・休憩場所の提供をすると同時に、大型のテレビを配置、テレビ放送をとおして情報提供を行った。

### ■発生直後の〔こどもの城〕の被災地支援活動■

#### 【子ども活動エリア】

余震等の影響から、3 月 12～18 日は臨時休館した。19 日より活動を再開したが、交通機関が完全に復旧していないことなどを考慮して、閉館時刻を 16 時とした。また、電力事情の悪化からパソコンルーム・ビデオライブラリー・コンピュータプレイは休止。春休み特別期間となる 25 日からは閉館を 16 時 30 分に繰り下げ、余震の発生など万が一の事態に備えて 10 階のパソコンルームを 3 階のコンピュータプレイの場所に移動し、再開した。計画停電の実施などに配慮しながら、春休み特別期間後の 4 月 9 日から通常の開館時間で活動を再開。東京でも多くの子どもが地震によるショックを受けており、遊ぶことをとおして一日も早く立ち直り、一緒に元気を取り戻すことを願っての再開だった。

#### 【「みんなでケンキに！」こいのほりかいっぱい】

◎鯉のほりの 100 匹掲揚 (4 月 1 日～5 月 29 日／寄贈 日本鯉のほり協会)

鯉のほりを春休み特別期間からこどもの樹がある正面広場に掲揚。青山通りを通る人へも「みんなてケンキに！」のメッセージを発信。

◎鯉のほり掲揚セレモニーの開催 (4 月 17 日 11 時 30 分～12 時／正面広場)

毎年、児童福祉週間に先立ち厚生労働省で実施している「鯉のほり掲揚式」を、復興支援の願いを込めて〔こどもの城〕で実施した。首都圏に避難している家族、55 人を招待して集いを実施、終了後も〔こどもの城〕の活動を楽しんでもらった。主催は、労働厚生省・財とも未来財団・財団児童育成協会こどもの城。厚生労働省副大臣、大相撲力士白鵬関、日本鯉のほり協会会長、こども未来財団理事長ほか出席。

◎県外避難家族などの招待 (4 月 17 日～5 月 29 日)

遊びをとおした支援活動。期間中の入館料・プール利用料は、被災者は無料とした。

#### 【避難所を訪問 (遊びをとおした子ども支援)】

一時避難所となった「福島県・国立那須甲子青少年自然の家」に、職員 1 人とボランティア 3 人を 4 月 2・3 日に派遣し、〈あそび〉の提供をとおして支援活動を実施した。

#### 【こどもの城児童合唱団によるチャリティコンサートなど】

東日本大震災チャリティコンサート「こどもたちからのサウンドメッセージ～たかさんの一歩～」を 4 月 10 日に青山劇場で開催。応援メッセージを発信するとともに、義援金の協力を呼びかけた。義援金と収益の一部、307,000 円を岩手県釜石市の児童館に寄贈したほか、合唱団メンバーの家庭へ子どもの衣料品などの提供を呼びかけ、集まった物資を被災地へ届けた。

#### 【義援金箱の設置】

3 月 19 日～8 月 31 日に、こども活動エリア入口・劇場入口に義援金箱を設置。合計 77,980 円を被災 3 県の自治体に届けた。さらに、9 月の秋まつりでも義援金を集めた。

#### 【被災地への子どもたちのあそび道具等を提供 (岩手こどもの森と連携)】

職員・ボランティアなどが集めた遊び道具や文具などを、計 4 回、被災地へ届けた。

### ■継続した被災地支援■

#### 【メッセージの発信 (地域へ、そして全国へ向けて)】

◎こいのほりかいっぱい わすれない！みんなてケンキに (3 月 24 日～5 月 20 日)

100 匹の鯉のほりを全国に先駆け、春休み特別期間開始から正面広場に掲揚 (柱巻きメッセージも掲示)。早い時期からの掲揚で、「わすれない！みんなてケンキに」のメッセージを発信。

◎鯉のほり掲揚セレモニーの実施 (平成 24 年 4 月 8 日 11 時 30 分～12 時)

「こいのほりかいっぱい わすれない！みんなてケンキに」のスタートイベントを兼ねて実施。こいのほり 100 匹を完成する掲揚や季節にちなんだ歌を楽しんだ。

◎「児童館こいのほりがいっぱい」プロジェクト (4 月 21 日～5 月 20 日)

鯉のほりを元気の象徴としてとらえ、全国の児童館などへ協力を呼びかけた。早い時期から

鯉のぼりを掲揚することで、全国から被災地に向けた思いを発信。参加施設へは、趣旨の掲出と統一ロゴの使用を依頼し、日本中がつかっていることを強調した。また、児童館などへの積極的な来館を呼びかけるため、避難している人の入館料・参加費などの減免への協力を依頼した。児童館・こどもの国など全国 275 施設が参加、主催は(財)児童育成協会こどもの城・(財)児童健全育成推進財団・(社)こどもの国協会。

〈活動の呼びかけ内容〉①鯉のぼりの掲揚＝掲揚できない児童館でも掲示板や窓などに掲示するなど、可能な活動を展開。②鯉のぼり関連プログラムの実施＝鯉のぼり作りやゲーム、こどもの日の集いなどの関連事業の実施。③共通活動の紹介＝〔こどもの城〕の造形プログラム「かふってコイ」を紹介し、全国共通の活動として各館で取り組んでもらう。

#### 【スタッフの被災地支援のための現地派遣】

現状・ニーズを把握し、今後の支援活動を考えることを目的に、放射線被害のある福島県郡山市にある屋内型遊び場のニコニコひろは館と PEP Kids Koriyama への継続した支援活動を計画。23 年度に関係団体などと調整を進め、24 年度事業として年間に 12 回の支援のための派遣を予定している。

#### 【ピロティ活用の復興支援～かんはろう東北！酪農キャンペーン】

人通りが多い正面広場とピロティを活用、東北の現状紹介や観光誘致などのキャンペーンを 6 月 30 日（13 時～16 時）に実施した。東北の牛乳・チーズの試食・試飲、牧草のプールや牛乳パック工作コーナー、東北の酪農の今を伝えるパネルや酪農家の生活を伝えるパネル展示のコーナーなどを設けた。東北酪農青年婦人会議、全国酪農業協同組合連合会仙台支所。

### ■動くこどもの城の児童館巡回事業を活用した被災地の子ども支援■

#### 【平成 23 年度事業】

- ・岩手県種市放課後児童クラブ おりがみ作品巡回展（7 月 4～11 日）
- ・宮城県仙台市内児童館（3 館）児童館を拠点としたネットワークづくりとボランティア（9 月 10、17 日、10 月 15 日）
- ・福島県会津美里町構造改造センター おはなしおんかくパンパカパーン（10 月 20 日）
- ・福島県相馬市中央児童センター 親子いっしょに うきうき！おんかくあそび（10 月 24 日）
- ・福島県二本松市保健福祉センター 親子ふれあい体操 1・2・3（11 月 20・21 日）

#### 【平成 24 年度事業】

平成 24 年度も引き続き支援活動を実施する予定。

### ■東日本大震災中央子ども支援センターと連携した子ども支援■

#### 【東日本大震災中央子ども支援センター協議会への参加】

平成 24 年 2 月から東日本大震災中央支援センター協議会に加盟した。事務局は恩賜財団母子愛育会日本子ども総合研究所に設置されている。同協議会には児童関係団体などが幅広く参加している。

#### 【「プレイ！プレイ！！プレイ！！」の事業実施計画】

同センターからの働きかけにより、子どもを持つ首都圏への県外避難者への支援活動として、〔こどもの城〕11 階に専用の集いの会場を用意し、夏休み特別期間中に連続 5 日間開放した。親子で自由参加できる集いとして、こども活動エリアを自由に利用するとともに、子育てや生活相談などを実施。避難家族は近隣で孤立している現状があり、ゆきわたりにくい避難者向け情報やそのほかの生活情報を提供する場を設けた。気軽に参加できる状況を用意することで、親子がリラックスしてリフレッシュすると同時に、各方面の専門職が集まり、必要な情報を幅広く提供、相談できる活動を行った。

日時／平成 24 年 8 月 20～24 日（各日 11 時～17 時）

場所／こどもの城 11 階研修室・会議室（こどもの城活動エリアへの招待を含む）

実施内容／福島県の県内情報、就職に関する情報、子育てに関する情報、学習に関する情報、居住地域の子育て情報など（保健師、就労紹介、県職員、弁護士、臨床心理士、ソーシャルワーカーなどのスタッフ）の他、手品・ダンス・マッサージなどの公演者もボランティアで協力。協賛企業から T シャツなどの寄付があり、来場者へ配布した。

公益財団法人 児童育成協会



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-1  
TEL 03-3797-5666 (代表) FAX 03-3797-5676  
<http://www.kodomonoshiro.jp/>